

暫定版

CL5708I/CL5716I

日本語版ユーザーマニュアル



本ドキュメントについて

本書は ATEN ジャパン株式会社において、CL5708I/CL5716I 取り扱いの便宜を図るため、英語版ユーザーマニュアルをローカライズしたドキュメントです。

製品情報、仕様はソフトウェア・ハードウェアを含め、予告無く改変されることがあり、本日本語版ユーザーマニュアルの内容は、必ずしも最新の内容でない場合があります。また製品の不要輻射仕様、各種安全規格、含有物質についての表示も便宜的に翻訳して記載していますが、本書はその内容について保証するものではありません。

製品をお使いになるときは、英語版ユーザーマニュアルにも目を通し、その取扱方法に従い、正しく運用を行ってください。詳細な製品仕様については英語版ユーザーマニュアルの他、製品をお買い上げになった販売店または弊社テクニカルサポート窓口までお問い合わせください。

ATEN ジャパン株式会社

技術部

TEL :03-5615-5811

MAIL :support@atenjapan.jp

2017 年 9 月 5 日

ユーザーの皆様へ

本マニュアルに記載された全ての情報、ドキュメンテーション、および製品仕様は、製造元である ATEN International により、予告無く改変されることがあります。製造元 ATEN International は、製品および本ドキュメントに関して、品質・機能・商品性および特定の目的に対する適合性について、法定上の、明示的または黙示的であるかを問わず、いかなる保証もいたしません。

弊社製品は一般的なコンピュータのメインフレームおよびインターフェースの操作・運用・管理を目的として設計・製造されております。高度な動作信頼性と安全性が求められる用途、例えば軍事使用、大規模輸送システムや交通インフラの制御、原子力発電所、セキュリティシステム、放送システム、医療システム等における可用性への要求を必ずしも満たすものではございません。

キーボード、マウス、モニター、コンピュータ等、弊社製品に接続されるクライアントデバイスは、それぞれベンダの独自技術によって開発・製造されております。そのため、これらの異なるデバイスを接続した結果、予期できない機器同士の相性問題が発生する可能性があります。また、機器の併用により、それぞれオリジナルで持つ機能を全て発揮できない可能性があります。異なる環境・異なる機器の組み合わせにより、機能面での使用制限が必要になる可能性があります。

本製品および付属のソフトウェア、ドキュメントの使用によって発生した装置の破損・データの損失等の損害に関して、直接的・間接的・特殊な事例・付帯的または必然的であるかを問わず、弊社の損害賠償責任は本製品の代金相当額を超えないものとします。

製品をお使いになる際には、製品仕様に沿った適切な環境、特に電源仕様についてはご注意のうえ、正しくお使いください。

ATEN ジャパン製品保証規定

弊社の規定する標準製品保証は、定められた期間内に発生した製品の不具合に対して、すべてを無条件で保証するものではありません。製品保証を受けるためには、この『製品保証規定』およびユーザーマニュアルをお読みにになり、記載された使用法および使用上の各種注意をお守りください。

また製品保証期間内であっても、次に挙げる例に該当する場合は製品保証の適用外となり、有償による修理対応といたしますのでご注意ください。

- ◆ 使用上の誤りによるもの
- ◆ 製品ご購入後の輸送中に発生した事故等によるもの
- ◆ ユーザーの手による修理または故意の改造が加えられたもの
- ◆ 購入日の証明ができず、製品に貼付されている銘板のシリアルナンバーも確認できないもの
- ◆ 車両、船舶、鉄道、航空機などに搭載されたもの
- ◆ 火災、地震、水害、落雷、その他天変地異、公害、戦争、テロリズム等の予期しない災害によって故障、破損したもの
- ◆ 日本国外で使用されたもの
- ◆ 日本国外で購入されたもの

【製品保証手順】

弊社の製品保証規定に従いユーザーが保証を申請する場合は、大変お手数ですが、以下の手順に従って弊社宛に連絡を行ってください。

(1) 不具合の確認

製品に不具合の疑いが発見された場合は、購入した販売店または弊社サポート窓口にご連絡の上、製品の状態を確認してください。この際、不具合の確認のため動作検証のご協力をお願いすることがあります。

(2) 本規定に基づく製品保証のご依頼

(1)に従い確認した結果、製品に不具合が認められた場合は、本規定に基づき製品保証対応を行います。製品保証対応のご依頼をされる場合は、RMA 申請フォームの必要項目にご記入の上、『お客様の製品購入日が証明できる書類』を用意して、購入した販売店までご連絡ください。販売店が不明な場合は、弊社までお問い合わせください。

(3) 製品の発送

不具合製品の発送は宅配便などの送付状の控えが残る方法で送付してください。

暫定版

【製品保証期間】

製品保証期間は通常製品/液晶ディスプレイ搭載製品で異なります。詳細は下記をご覧ください。

①通常製品	製品納品日～30 日	初期不良、新品交換※1
	31 日～3 年間	無償修理
	3 年以上	有償修理※2
②液晶ディスプレイ搭載製品	製品納品日～30 日	初期不良、新品交換※1
	31 日～2 年間	無償修理
	2 年以上	有償修理※2

※1…製品購入日から30日以内に確認された不具合は初期不良とし、新品交換を行います。初期不良の場合の送料は往復弊社にて負担いたします。

※2…有償修理の金額は別途製品を購入された販売店までお問い合わせください。

※ケーブル類、その他レールキット等のアクセサリ類は初期不良の際の新品交換のみ、承ります。

※EOL（生産終了）が確定した製品については、初期不良であっても無償修理対応とさせていただきます。また EOL 製品の修理に関して、上記無償修理期間中であっても、部材調達の都合等により修理不可になる可能性がございます。そのような場合には、機能同等品による良品交換のご対応となる可能性がございます。また、EOL 製品の型番や、修理可否、後継機種については、随時情報更新を行っておりますので、弊社 Web ページにて最新情報をご確認ください。

※製品保証期間の延長や故障時の代替品などの保証オプションについては、弊社 Web ページをご確認ください。

【補足】

- ・本規定は ATEN 製品に限り適用します。
- ・ケーブル類は初期不良対応に準じます。
- ・初期不良による新品交換の場合は、ATEN より発送した代替品の到着後、5 営業日以内に不具合品を弊社宛に返却してください。返却の予定期日が守られない場合は弊社から督促を行います。それにも係わらず不具合品が返却されない場合は、代替機相当金を販売代理店経由でご請求いたします。
- ・ラベルの汚損や剥がれなどにより製品のシリアルナンバーが確認できない場合は、すべて有償修理とさせていただきます。

暫定版

【免責事項】

1. 弊社製品は映像関連システムやコンピューターのメインフレームおよびインターフェースの操作・運用・管理を目的として設計・製造されております。しかし、使用環境等によってはその機能が制限されることがあります。弊社では、ご購入前に弊社製品をお試しいただける「評価機貸出サービス」を、無償でご提供しております。評価機貸出サービスに関するお問い合わせは、弊社代理店または弊社 Web サイト(<http://www.aten.com/jp/ja/>)内の「ご購入前のお問い合わせ」フォームをご利用ください。
2. キーボード、マウス、モニター、コンピューター等、弊社製品に接続されるクライアントデバイスは、それぞれベンダの独自技術によって開発・製造されております。そのため、これらの異なるデバイスを接続した結果、予想できない機器同士の相性問題が発生する可能性があります。また、機器の併用により、それぞれオリジナルで持つ機能を全て発揮できない可能性があります。異なる環境・異なる機器の組み合わせにより、機能面での使用制限が必要になる可能性があります。
3. 他社製品のKVMスイッチ、キーボード・マウスコンバーター、キーボード・マウスエミュレーター、KVM エクステンダー等との組み合わせはサポート対象外となりますが、お客様で自己検証の上であれば、使用を制限するものではありません。
4. 製品に対しての保証は、日本国内で使用されている場合のみ対象とさせていただきます。
5. 製品やサービスについてご不明な点がある場合は、弊社技術部門までお問い合わせください。

製品についてのお問い合わせ

製品の仕様や使い方についてのお問い合わせは、下記窓口または製品をお買い上げになった販売店までご連絡ください。

購入前のお問い合わせ	ATEN ジャパン株式会社 営業部 TEL:03-5615-5810 MAIL:sales@atenjapan.jp
購入後のお問い合わせ	ATEN ジャパン株式会社 技術部 TEL :03-5615-5811 MAIL :support@atenjapan.jp

目次

ユーザーの皆様へ	i
ATEN ジャパン製品保証規定	ii
製品についてのお問い合わせ	v
EMC 情報	9
RoHS.....	9
安全にお使い頂くために.....	10
全般	10
ラックマウント	12
同梱品.....	13
本マニュアルについて.....	14
マニュアル表記について.....	16
用語	17
第1章 はじめに.....	18
概要.....	18
特長.....	20
ハードウェア	20
管理	21
使いやすいインターフェース.....	21
高度なセキュリティ.....	22
バーチャルリモートデスクトップ	22
システム要件.....	23
リモートユーザー用のコンピューター	23
セカンドコンソール.....	23
サーバー	24
ケーブル	25
OS.....	26
製品各部名称	27
フロントパネル	27
リアパネル.....	30
第2章 セットアップ方法.....	31
概要.....	31
セットアップの前に.....	31

暫定版

ラックマウントキットを使った取付方法	32
イーザーセットアップラックマウントキットを使った取付方法	34
デバイスの接地.....	38
単体使用.....	39
単体使用接続図	40
ケーブル接続図.....	41
デイジーチェーン接続時のセットアップ	42
第 3 章 基本操作.....	45
コンソールを開く	45
コンソールを閉じる.....	46
操作上の注意事項	47
製品の電源 OFF と再起動	48
LCD の OSD 設定	49
LCD ボタン	49
LCD の調整値設定	50
ホットプラグ	51
ステーション位置の変更	51
KVM ポートのホットプラグ	51
コンソールポートのホットプラグ	51
ポートの選択	52
手動によるポート選択	52
ポート ID の割り当て	52
USB 周辺機器.....	53
第 4 章 OSD 操作.....	54
OSD 概要.....	54
製造番号	54
OSD へのログイン	54
OSD ホットキー	55
OSD メイン画面.....	55
OSD メイン画面の項目	56
OSD ナビゲーション	56
OSD 機能.....	57
F1:GOTO	57
F2:LIST	58
F3:SET	58
F4:ADM.....	61

F5:SKP	66
F6:BRC	67
F7:SCAN	68
F8:LOUT	69
第 5 章 キーボードによるポート操作	70
ホットキーによるポート操作	70
ホットキーモードの起動	71
ローカルコンソール	71
リモートセッション	72
アクティブポートの選択	73
オートスキャンモード	74
オートスキャンモードの起動	74
スキップモード	75
コンピューターのキーボード/マウスのリセット	76
ホットキーによるビープ音の切替	76
クイックホットキーの切替	77
OSD ホットキーの切替	77
ポート OS の変更	78
デフォルト値のリストア	78
ホットキー一覧表	79
第 6 章 ログイン	81
概要	81
ブラウザからのログイン	82
Windows クライアントからのログイン	83
接続画面	84
Windows クライアント AP を使った接続方法	85
ファイルメニュー	87
Java クライアントからのログイン	88
接続画面	89
Java クライアント AP を使った接続方法	90
第 7 章 ユーザーインターフェース	91
概要	91
Web ブラウザメイン画面	91
画面内の構成要素	92
タブメニュー	93
クライアントアプリケーションのメイン画面	95

コントロールパネル	97
Windows クライアントコントロールパネル.....	97
コントロールパネルの機能.....	99
マクロ.....	102
ビデオ設定	110
メッセージボード.....	115
ズーム.....	118
オンスクリーンキーボード	119
マウスポインタータイプ	121
マウスダイナシクモード	122
コントロールパネルの環境設定	124
Java コントロールパネル.....	127
第 8 章 ポートアクセス.....	128
概要.....	128
Web ブラウザインターフェース	128
アプリケーション GUI	128
サイドバー	130
ポート選択ツリー	130
スキャン.....	131
アレイモード.....	131
フィルター	132
サイドバーユーティリティ	134
ポートの名前設定.....	135
KVM デバイス・ポート - 接続画面.....	137
デバイスレベル	137
ポートレベル.....	139
お気に入り.....	140
ユーザー設定.....	143
セッション	146
アクセス	147
ポートレベルでのブラウザ GUI インターフェース.....	147
ポートレベルでのアプリケーション GUI インターフェース	149
変更内容の保存	150
ポート設定.....	151
デバイスレベル	151
ポートレベル.....	152

第9章 ユーザー管理.....	155
概要.....	155
Web ブラウザインターフェース	155
GUI インターフェース	155
ユーザー	157
ユーザーの作成.....	157
ユーザーアカウントの編集.....	161
ユーザーアカウントの削除.....	162
デバイスの割り当て.....	163
ユーザーメニューを使ってデバイスの操作権限を割り当てる場合.....	163
第10章 デバイス管理	166
KVM デバイス	166
デバイス情報.....	166
操作モード.....	167
ネットワーク	168
ANMS	172
セキュリティ	176
日付/時刻	189
第11章 ログ	191
概要.....	191
ブラウザ GUI	191
アプリケーション GUI.....	191
ログ情報.....	192
フィルター	192
第12章 メンテナンス.....	196
概要.....	196
ブラウザ GUI	196
アプリケーション GUI.....	196
ファームウェアのアップグレード.....	197
バックアップ/復元	199
バックアップ	199
リストア	200
ホストへの Ping コマンド	201
システム操作.....	202
ポートネームのクリア	202
デフォルト設定に戻す	202

終了時にリセット.....	202
第 13 章 ダウンロード.....	204
概要.....	204
第 14 章 ポート操作	205
概要.....	205
ポートへの接続.....	207
ポートツールバー	208
ツールバーアイコン	209
ツールバーホットキーによるポート切替	210
ポートアクセstabの再呼び出し	212
GUI ホットキー一覧表	212
パネルアレイモード.....	213
パネルアレイツールバー	214
第 15 章 ログサーバー	215
インストール	215
ログサーバーの起動	216
メニューバー	217
設定	217
イベント	218
オプション	221
ヘルプ	221
ログサーバーのメイン画面	222
概要	222
リストパネル.....	223
イベントパネル	223
第 16 章 キーボードエミュレーション	224
Mac キーボード.....	224
Sun キーボード	225
第 17 章 ファームウェアアップグレード ユーティリティ.....	226
はじめに.....	226
ファームウェアアップグレードパッケージのダウンロード	226
アップグレード作業の下準備.....	227
アップグレードの開始	228
アップグレード成功	230
アップグレード失敗	230
ファームウェアアップグレードリカバリー	231

暫定版

付録.....	232
製品仕様.....	232
CL5708I	232
CL5716I	237
スイッチ台数と操作可能コンピューター台数の関連表.....	241
互換性のある 8 ポート KVM スイッチを CL5708I に接続した場合	241
互換性のある 16 ポート KVM スイッチを CL5708I に接続した場合	241
互換性のある 8 ポート KVM スイッチを CL5716I に接続した場合	242
互換性のある 16 ポート KVM スイッチを CL5716I に接続した場合	242
対応 KVM スイッチ	243
トラブルシューティング	244
概要	244
全般	244
マウスに関するトラブルシューティング	247
Web ブラウザに関するトラブルシューティング	249
Windows クライアントに関するトラブルシューティング	250
Java クライアントに関するトラブルシューティング	252
Sun に関するトラブルシューティング	253
Mac に関するトラブルシューティング	254
ログサーバーに関するトラブルシューティング	254
パネルアレイモードに関するトラブルシューティング	255
IP アドレスの設定	257
ローカルコンソール	257
IP インストーラー	257
ブラウザ	259
IPv6	260
リンクローカルアドレス	260
ステートレス自動設定	261
ポートの転送	262
その他のマウス同期方法.....	263
Windows	264
Sun/Linux.....	266
その他のビデオ解像度の設定.....	267
信頼された証明書	268
概要	268
証明書のインストール.....	269

暫定版

証明書のインストール完了	270
自己署名(プライベート)証明書	273
例.....	273
ファイルのインポート	274
ログイン情報の消去	275
OSD の工場出荷時における初期設定一覧	276
ホットキーモード/OSD 専用起動キー	276
SPHD コネクタについて	277

EMC 情報

FCC(連邦通信委員会)電波干渉声明

本製品は、FCC(米国連邦通信委員会)規則の Part15 に準拠したデジタル装置 Class A の制限事項を満たして設計され、検査されています。この制限事項は、商業目的の使用において、有害な障害が発生しないよう、基準に沿った保護を提供する為のものです。この操作マニュアルに従わずに使用した場合、本製品から発生するラジオ周波数により、他の通信機器に影響を与える可能性があります。また、本製品を一般住宅地域で使用した場合、有害な電波障害を引き起こす可能性もあります。その際には、ユーザーご自身の負担で、その障害を取り除いてください。

本製品は、FCC(米国連邦通信委員会)規則の Part15 のデジタル装置 Class A の規定に準拠しています。動作は次の 2 つの条件を前提としています。(1)本製品による有害な干渉が発生しない。(2)本製品は、予想外の動作を引き起こす可能性のある干渉を含め、受信した干渉をすべて受け入れる。

FCC による注意:本コンプライアンスに対する責任者による明確な承認を得ていない変更または改良を行った場合は、ユーザーの本装置を操作する権利を無効とします。

警告:本製品は CISPR 32 の Class A に準拠した製品です。本製品をご家庭で使用した場合、電波干渉を引き起こす可能性があります。

RoHS

本製品は『電気・電子機器に含まれる特定有害物質の使用制限に関する欧州議会及び理事会指令』、通称 RoHS 指令に準拠しております。



安全にお使い頂くために

全般

- ◆ 本製品は、屋内での使用に限ります。
- ◆ 製品に同梱されるドキュメントは全てお読みください。またドキュメント類は全て保存してください。また、弊社 Web サイトに掲載のオンラインユーザーマニュアルもご確認ください。
- ◆ 製品に関する注意・説明に従って取り扱ってください。
- ◆ 落下による事故・製品の破損を防ぐため、設置場所は不安定な面(台車、簡易的なスタンドやテーブル等)を避けるようにしてください。
- ◆ 製品が水に濡れるおそれのあるような場所で使用しないでください。
- ◆ 製品は熱源の近く、またはその熱源の上などで使用しないでください。
- ◆ 製品のケースには必要に応じて通気口が設けられています。通気口のある製品は、安定した運用を行うため、また製品の過熱を防ぐために、開口部を塞いだり覆ったりしないでください。
- ◆ 製品をベッドやソファ、ラグなどの柔らかいものの上に置かないでください。開口部が塞がれ、適切な通気が確保できずに製品が過熱するおそれがあります。
- ◆ 製品にいかなる液体もかからないようにしてください。
- ◆ 電源プラグを電源コンセントから抜く場合は、乾いた雑巾でプラグ周りのホコリを掃除してください。液体やスプレー式のクリーナーは使用しないでください。
- ◆ 電気回路が過負荷状態に陥らないようにしてください。電気機器を回路に接続する前に、電源の上限を把握しておき、これを超えないように注意してください。回路の電気仕様を常に見直して、危険な条件を生じさせていないかどうか、また、すでに危険な条件がそろっていないかどうかを確認してください。電気回路の過負荷は火災や機器破損の原因となります。
- ◆ 製品はラベルに記載されたタイプの電源に接続して運用してください。電源タイプについて不明な場合は、購入された販売店もしくは電気事業者にお問い合わせください。
- ◆ お使いの装置への損傷を避けるためにも、すべての装置を適切に接地するようにしてください。
- ◆ 製品付属の電源ケーブルは安全のために 3 ピンタイプのプラグを使用しています。電源コンセントの形状が異なりプラグを接続できない場合には電気事業者に問い合わせ適切に処置してください。アース極を無理に使用できない状態にしないでください。使用される国/地域の電源形状に従ってください。
- ◆ 電源コードやケーブルの上に物を置かないでください。人が通行するような場所を避けて電源コードを設置してください。
- ◆ 電源の延長コードや電源タップを使用する場合は、合計容量とコードまたはタップの仕様が適合していることを確認してください。電源コンセントにつながれている製品全ての合計アンペア

暫定版

数は 15 アンペアを超えないようにしてください。

- ◆ 突然の供給電力不安定や電力過剰・電力不足からお使いのシステムを守るために、サージサプレッサー、ラインコンディショナー、または無停電電源装置(UPS)をご使用ください。
- ◆ システムケーブルや電源ケーブルは丁寧に取り扱いってください。これらのケーブル類の上には何も置かないようにしてください。
- ◆ 危険な電源ポイントへの接触やショートによって、発火したり感電したりするおそれがありますので、キャビネットの空きスロット等に押し込まないようにしてください。
- ◆ 装置をご自身で修理せず、ご不明な点がございましたら技術サポートまでご相談ください。
- ◆ 下記の現象が発生した場合、コンセントからはずして技術サポートに修理を依頼してください。
 - 電源コードが破損した。
 - 装置の上に液体をこぼした。
 - 装置が雨や水にぬれた。
 - 装置を誤って落下させた、ないしはキャビネットが破損した。
 - 装置の動作に異変が見られる。(修理が必要です)
 - 製品マニュアルに従って操作しているにもかかわらず、正常に動作しない。
- ◆ 修理が必要となる故障が発生するおそれがありますので、製品マニュアルに従って操作してください。
- ◆ 「UPGRADE」と書かれた RJ-11 コネクターを公衆通信網に接続しないようにしてください。

ラックマウント

- ◆ ラックでの作業を始める前に、スタビライザーがラックに固定され床に接していること、また、ラック全体が安定した場所に置かれていることを確認してください。作業する前に、シングルラックにフロントとサイドのスタビライザーを取り付けるか、結合された複数のラックにフロントスタビライザーを取り付けてください。
- ◆ ラックにて LCD KVM ドロワーより上のマウント場所にケーブルマネジメントなどの前面に突出している物を取り付ける場合、LCD KVM ドロワーの液晶部分が干渉して、使用に適さない角度までしか開かない可能性があります。そのため、ご使用前に十分な空間や間隔が確保できているかご確認ください。
- ◆ ラックには下から上に向かって、一番重いアイテムから順番に取り付けてください。
- ◆ デバイスを拡張する前にラックが水平で安定していることを確認してください。
- ◆ デバイスレールのリリース用ラッチを押しながらデバイスをスライドさせてラックに出し入れする際にはスライドレールに指を挟まないようにご注意ください。
- ◆ デバイスがラックに挿入されたら、慎重にレールをロックする位置までスライドしてください。
- ◆ ラックに供給する AC 電源の分岐回路が過剰供給にならないようご注意ください。ラック全体の電源負荷は分岐回路の 80% を越えないように設定する必要があります。
- ◆ ラックにマウントされたデバイスは、電源タップも含め、すべて正しく接地されていることを確認してください。
- ◆ ラックへの通気を十分に確保してください。
- ◆ 本製品で定められている保管温度を超えないように、ラックが設置されている場所の室温を調節してください。
- ◆ ラックに設置されているデバイスが動作している際に、デバイスを踏んだりデバイスによじ登ったりしないでください。
- ◆ **注意:** ラックにマウントされた LCD KVM ドロワーを棚や作業スペースとして使用しないでください。



同梱品

CL5708I/CL5716I 製品パッケージには下記のアイテムが同梱されています。

- ◆ CL5708I/CL5716I 8/16 ポート PS/2-USB VGA LCD IP-KVM ドロワー (デジタイゼーションポート搭載、USB デバイス対応) ×1
- ◆ 2L-5202P(1.8m) ケーブル ×1
- ◆ 2L-5202U(1.8m) ケーブル ×1
- ◆ コンソールケーブル(VGA, USB, PS/2、27 cm) ×1
- ◆ 電源ケーブル(1.8m) ×1
- ◆ ファームウェアアップグレードケーブル ×1
- ◆ イージーセットアップラックマウントキット(ショート or ロング) ×1
- ◆ クイックスタートガイド* ×1

上記のアイテムがそろっているかご確認ください。万が一、欠品または破損品があった場合はお買い上げになった販売店までご連絡ください。

本ユーザーマニュアルをよくお読みいただき、正しい使用法により、本製品および接続する機器を安全にお使いください。

* 本マニュアルの公開後に、製品仕様が追加される場合があります。最新版は弊社 Web サイトにアクセスしてご確認ください。

本マニュアルについて

このユーザーマニュアルは、CL5708I/CL5716I に関する情報や使用法について説明しており、取り付け・セットアップ方法、操作方法のすべてを提供します。本マニュアルは下記のとおり構成されています。

- 第1章 はじめに:**CL5708I/CL5716I を紹介します。特長、機能概要、および製品各部名称について説明します。
- 第2章 セットアップ:**基本的なハードウェアセットアップの手順から、32 台のスイッチをデジイチチェーン接続する方法まで、CL5708I/CL5716I をセットアップする方法について説明します。
- 第3章 基本操作:**CL5708I/CL5716I の機能概要および操作方法について説明します。
- 第4章 OSD 操作:**CL5708I/CL5716I の OSD (オンスクリーンディスプレイ) の詳細内容、および操作方法について説明します。
- 第5章 キーボードによるポート操作:**CL5708I/CL5716I のホットキー操作に関する機能概要、および操作手順について説明しています。
- 第6章 ログイン:**CL5708I/CL5716I に対して各種アクセス手段でログインする方法について説明します。本製品にアクセスする方法には、ローカルコンソール、インターネットブラウザ、スタンドアロン版の Windows/Java アプリケーションプログラムがあります。
- 第7章 ユーザーインターフェース:**製品の GUI メニューの各項目について説明します。
- 第8章 ポートアクセス:**「Port Access」(ポートアクセス) タブの詳細と、ポート操作に関する項目の設定方法について説明します。
- 第9章 ユーザー管理:**アドミニストレーター/スーパーアドミニストレーター向け操作である、ユーザーの作成・変更・削除の方法、また、これらのユーザーに対する属性の設定方法について説明します。
- 第10章 デバイス管理:**スーパーアドミニストレーター向け操作である、デバイスの環境設定の

暫定版

方法について説明します。

第11章 ログ: イベントログ情報の参照、消去、エクスポートの方法について説明します。また、製品で発生したイベントを通知するための設定方法についても説明します。

第12章 メンテナンス: 製品のファームウェアアップグレードの方法について説明します。

第13章 ダウンロード: スタンドアロンタイプアプリケーションである、Windows クライアント、Java クライアント、ログサーバーのダウンロード方法について説明します。

第14章 ポート操作: 製品に接続されているデバイスへのアクセスおよび操作の詳細方法について説明します。

第15章 ログサーバー: ログサーバーのインストールおよび設定方法について説明します。

第16章 キーボードエミュレーション: PC 互換キーボードから Mac キーボードや Sun キーボードをエミュレーションする方法について対応表を用いて説明します。

第17章 ファームウェアアップグレードユーティリティ: お使いの CL5708I/CL5716I のファームウェアを最新のバージョンにアップグレードする方法について説明します。

付録 製品の仕様および関連する技術情報や操作方法について説明します。

マニュアル表記について

[]

入力するキーを示します。例えば[Enter]はエンターキーを押します。複数のキーを同時に押す場合は、[Ctrl] + [Alt]のように表記してあります。

1.

番号が付けられている場合は、番号に従って操作を行ってください。

◆

◆印は情報を示しますが、作業の手順を意味するものではありません。

→

矢印は操作の手順を示します。例えば Start → Run はスタートメニューを開き、Run を選択することを意味します。



重要な情報を示しています。

※本マニュアルに記載されている商品名・会社名等は、各社の商標ならびに登録商標です。

用語

本マニュアルでは、ユーザーおよび IP-KVM ドロワーに接続されたデバイスに関して「ローカル」と「リモート」という用語を使って表現しています。ユーザーおよびサーバーは状況に応じて「ローカル」と表現されることもあれば、「リモート」と表現されることもあります。

◆ IP-KVM ドロワー側から見た場合

- リモートユーザー - 「スイッチから離れた」場所からネットワーク経由で製品にログインしているユーザーを、「リモート」ユーザーと呼びます。
- ローカルコンソール - 製品に直接接続された、キーボード、マウス、モニターのことを指します。
- サーバー - KVM ケーブルを介して製品に接続されているコンピューターのことを指します。

◆ ユーザー側から見た場合

- ローカルクライアントユーザー - 「離れた」場所にある KVM スイッチを自身のコンピューターから操作している人を「ローカルクライアントユーザー」と呼びます。
- リモートサーバー - ローカルクライアントユーザーから見たリモートサーバーのことを指します。というのは、これらのサーバーは製品にローカル接続されているものの、ユーザーからは離れた場所にあるからです。

本マニュアルでは、システム構成全体について説明をする場合は、基本的には IP-KVM ドロワー側の観点に立って説明します。この場合、ユーザーがリモート側と見なされます。また、ユーザーがネットワーク経由でブラウザ、ビューワー、またアプリケーションを使って行う操作について説明する場合は、ユーザー側の観点に立って説明します。この場合、製品およびその配下にあるサーバーがリモート側と見なされます。

第1章 はじめに

概要

CL5708I/CL5716I は、単体で最大 8/16 台のコンピューターへのリモートアクセス機能と 19 インチ LCD モニターを搭載した IP-KVM ドロワーです。CL5708I/CL5716I は、17/19 インチ LED バックライト LCD モニターとキーボード、タッチパッドを 1U サイズの筐体に一体化させたデザインのため、ラックのスペースを有効活用できます。また、本体リアパネルには、別途、キーボード、モニター、マウスを接続できるセカンドコンソールポートを搭載していますので、これらのポートにコンソール用のデバイスを接続すると、最大 20m 離れた場所から製品を操作することができます。さらに便利な特長として、本製品は外付け USB マウスに対応しています。

CL5708I/CL5716I は製品に接続して使用するコンピューターに対して、PS/2 と USB の両方のインターフェースをサポートしています。また、製品本体に接続された USB 周辺機器を、製品配下にあるコンピューターで共有して使用することもできます。本製品は、単体で 8/16 台のサーバーを操作できます。さらに最大 15 台の対応 KVM スイッチをデイジーチェーン接続することで、最大 128/256 台のサーバーを本製品から操作できます（本製品とデイジーチェーン接続可能な ATEN KVM スイッチについては付録 p.243 を参照）。

CL5708I/CL5716I は、KVM 部分とスイッチ部分を分離することのできるモジュール式设计を採用しているため、保守や修理がしやすいのが特長です。

本シリーズの製品は下表のモデルから構成されています。

型番	LCD パネル	KVM ポート
CL5708IM	17 インチ	8
CL5716IM	17 インチ	16
CL5708IN	19 インチ	8
CL5716IN	19 インチ	16

CL5708I/CL5716I への投資は、ファームウェアアップグレードユーティリティによって保護されています。ファームウェアアップデートファイルは、利用可能になると弊社 Web サイトに公開さ

暫定版

れるため、このユーティリティを使ってアップグレードを実行すれば、お使いの製品を常に最新の状態に保つことができます。

セットアップに必要な作業は、必要なケーブルを適切に接続するだけです。簡単で時間もかかりません。キーボードの入力信号はそのまま製品に送られますので、ソフトウェアの複雑なセットアップも不要。互換性の問題に悩まされることもありません。

CL5708I/CL5716I 配下に接続されているコンピューターには、キーボードを使ったホットキー、フロントパネルのプッシュボタン、または、キーボード/マウス操作に対応した OSD メニューを使ってアクセスすることができます。また、便利なオートスキャン機能を使用すれば、これらのコンピューターすべてを 1 台ずつ自動的に切り替えてシステムの状態を監視することができます。

CL5708I/CL5716I は、セットアップ時間の短縮と費用の削減の点で、優れた効果を発揮する製品です。本製品の導入によって、次のメリットが得られます。

- 1) コンピューターごとにキーボード、モニター、マウスを購入する費用の削減
- 2) 追加コンポーネントの占有スペースの縮小
- 3) 標準的な KVM スイッチの導入時に見られるキーボード、モニター、マウスの占有スペースの削減
- 4) 光熱費の削減
- 5) コンピューターのセットアップ作業時に発生する不自由さの解消や無駄な労力の削減

特長

ハードウェア

- ◆ LED ライト搭載 - 手元が暗い場合でもキーボードやタッチパッドの操作が可能
- ◆ Slideaway™17/19 インチ LCD 一体型 8/16 ポート KVM ドロワー
- ◆ 省スペーステクノロジー - 最大 2 箇所のコンソール(1 バス)から単体で最大 8/16 台のサーバーが操作可能
- ◆ デイジーチェーン接続対応 - KVM スイッチの追加増設は最大 15 台まで、接続可能コンピューターは、CL5708I は最大 128 台、CL2716I は最大 256 台まで対応※1
- ◆ デイジーチェーン接続対応スイッチ - CS1708A、CS1716A、ACS1216A
- ◆ セカンドコンソールポート - 外付コンソール(VGA モニター、USB または PS/2 キーボード・マウス)からもサーバー操作が可能
- ◆ 解像度 - ローカルコンソール: 最大 1,280×1,024@75Hz、DDC2B、リモートコンソールセッション: 最大 1,920×1,200@60Hz、24-bit 色深度
- ◆ デュアルインターフェース - コンピューターおよびコンソールは、PS/2、USB の両インターフェースに対応
- ◆ ドロワーに接続されている各コンピューターで共有可能な USB ハブポートを搭載※2
- ◆ デイジーチェーン接続の構成におけるステーション位置を自動認識 - 手動による DIP スイッチの設定が不要。ステーション位置は製品フロントパネルで LED 表示
- ◆ ホットプラグ対応 - スイッチの電源を切ることなくコンピューターの追加や取り外しが可能
- ◆ PS/2、USB キーボード・マウスエミュレーション機能 - 接続されているコンピューターは、スイッチがどのポートを選択していてもエラーを回避して起動
- ◆ Windows、Mac、SPARC(Oracle 社 SUN)用マルチメディア USB キーボード対応
- ◆ PS/2、USB インターフェースを自動判別
- ◆ 外付け USB マウス用ポート搭載
- ◆ ビデオダイナシンク(ディスプレイエミュレーション) - コンソールモニターの EDID を保存し、解像度を最適化
- ◆ 19 インチシステムラック 1U サイズでのラックマウントが可能
- ◆ LCD モジュール部分は、見やすいように最大 115° まで回転可能
- ◆ ステーション/ポート選択ボタンを便利な場所に配置。2 箇所ある 7 セグメント LED 表示で、目的のコンピューターに簡単切替
- ◆ ホットキーモードや OSD 起動は、専用キーで呼び出しが簡単
- ◆ ツリー構造の OSD でコンピューターの検出・管理が簡単

暫定版

- ◆ コンソールロック機能 - 未使用時にはコンソールドロワーを内側にロック
- ◆ OADG 109A/JIS 準拠 105 キーボード搭載
- ◆ コンピューター切替時におけるキーボードの状態を保存

管理

- ◆ ポート選択方法 - プッシュボタン、ホットキー、多言語対応 OSD
- ◆ 最大 32 ユーザーの同時ログイン対応
- ◆ 多言語対応 Web UI は、ツリー構造のローカルおよびリモート OSD 機能に対応
- ◆ ネットワークの環境に合わせて、ビデオ出力の画質設定を変更可能
- ◆ オートスキャン機能搭載 - ユーザーが選択したサーバーのみを対象に監視
- ◆ ブロードキャスト機能 - 選択したサーバーに対してインストールやシャットダウン等のコマンドを一斉送信
- ◆ 製品にデジタイゼーション接続されている KVM スイッチ(CS1708A/CS1716A)にも同時にファームウェアの更新を実行
- ◆ 統合管理ソフトウェア CC2000 対応
- ◆ バックアップ/リストア機能 - 本製品の設定やユーザー設定情報をバックアップ/リストアが可能
- ◆ イベントログ対応
- ◆ IPv6 対応

使いやすいインターフェース

- ◆ 多言語対応ブラウザベースおよび AP GUI、ローカルコンソール用メニュー形式の OSD で、ユーザーのトレーニング時間を短縮し、生産性の向上を実現
- ◆ マルチプラットフォーム対応 - Windows、Linux、Mac、Oracle 社 SPARC(Sun)
- ◆ マルチブラウザ対応 - IE、Firefox、Safari、Opera
- ◆ パネルアレイモード - 画面を格子状に分割し、製品配下のサーバーのビデオ出力を一画面に同時表示
- ◆ Windows クライアントおよび OS を問わずに使用可能な Java クライアントソフトウェア対応
- ◆ ビープ音はホットキーや OSD で設定の変更が可能
- ◆ 対応キーボード言語 - 日本語、英語(US/UK)、フランス語、ドイツ語(ドイツ/スイス)、ギリシャ語、ハンガリー語、イタリア語、韓国語、ロシア語、スペイン語、スウェーデン語、中国語(繁体字)
- ◆ 新規ステーションが追加されると OSD のポート一覧が自動で展開
- ◆ 解像度の変更に合わせて OSD 画面を自動調整

高度なセキュリティ

- ◆ キーボード・マウス・ビデオ信号は、セキュアなデータ通信を実現する RC4 128 bit 暗号化を使用
- ◆ ブラウザログイン時の入力情報を TLS 1.2 データ暗号化および RSA 2048 bit 証明書で保護
- ◆ 2レベルユーザーアクセス制御 - 各ユーザーにポート別アクセス権限の設定が可能。ユーザーアカウントは最大 64 名分まで作成可能
- ◆ 外部認証対応 - RADIUS、LDAP、LDAPS、MS Active Directory
- ◆ IP アドレス/MAC アドレスによるフィルタリング機能
- ◆ ローカルおよびリモートアクセスの認証および記録が可能
- ◆ セキュリティ - アドミニストレーター/ユーザーのパスワード認証でセキュリティ保護を強化。アドミニストレーターのアクセス権限は、マスター/スレーブのステーション間で同期
- ◆ ログアウトには手動操作とタイムアウトの 2 種類の方法を提供

バーチャルリモートデスクトップ

- ◆ リモートデスクトップウィンドウはリサイズ可能
- ◆ リモートユーザーのコミュニケーションに活用できるメッセージボード搭載 - 必要に応じて KVM 機能を共有せずに独占的に操作可能
- ◆ マウスダイナシンク機能 (マウスの同期)
- ◆ 多言語対応オンスクリーンキーボード
- ◆ BIOS レベルでのアクセスが可能

-
- 注意:**
1. デイジーチェーン接続の機器構成の場合、CL5708I/CL5716I を 1 台目の KVM スイッチとしてセットアップし、他の KVM スイッチをこの製品の配下にデイジーチェーン接続するようにしてください。
 2. 製品に接続された USB デバイスへのアクセスは、製品とコンピューターの間に USB タイプの KVM ケーブルを使用したときに限りご利用いただけます。PS/2 タイプの KVM ケーブルを使用した場合はこの機能はご利用いただけません。また、USB デバイスは、CL5708I/CL5716I に直接接続されているコンピューターからはアクセス可能ですが、子機となるスイッチからアクセスすることはできませんのでご注意ください。
-

システム要件

リモートユーザー用のコンピューター

リモートユーザー用のコンピューター(別名 クライアントコンピューター)は、ユーザーが遠隔地からインターネット経由で製品にログインする際に使用するコンピューターを指します(p.17「用語」参照)。このコンピューターには、次のハードウェア環境が必要です。

- ◆ プロセッサが Pentium III 1GHz 以上で、解像度が 1,024×768 に設定されているコンピューターの使用を推奨します。
- ◆ IE8 以降の Web ブラウザ
- ◆ TLS 1.2 データ暗号化通信に対応している Web ブラウザをお使いください。
- ◆ ネットワーク転送速度が 512kbps 以上の環境を推奨します。
- ◆ Web ブラウザで動作する Windows クライアント Active X ビューワーの動作環境には、Direct X 8 がインストールされ、セットアップ後の空きメモリが 150MB 以上あることを確認してください。
- ◆ Web ブラウザで動作する Java クライアントビューワーの動作環境には、Oracle Java Runtime Environment(JRE)がインストールされ、セットアップ後の空きメモリが 205MB 以上あることを確認してください。
- ◆ アプリケーション版 Windows クライアントの動作環境には、Direct X 8 がインストールされ、セットアップ後の空きメモリが 90MB 以上であることを確認してください。
- ◆ アプリケーション版 Java クライアントの動作環境には、Oracle Java Runtime Environment(JRE)がインストールされ、セットアップ後の空きメモリが 145MB 以上であることを確認してください。
- ◆ ログサーバーの動作環境には、Microsoft Jet OLEDB 4.0 以上のドライバーがインストールされていることを確認してください。

セカンドコンソール

セカンドコンソールには、次のハードウェア環境が必要です。

- ◆ セットアップするコンピューターの最大解像度に対応した、VGA、SVGA またはマルチスキャンモニター
- ◆ PS/2 または USB に対応したキーボードとマウス各 1 台

サーバー

CL5708I/CL5716I の KVM ポートに接続する各コンピューターには、次のハードウェア環境が必要です。

- ◆ D-sub15 ピンの VGA、SVGA またはマルチスキャンモニター対応ポート

注意: 本製品の LCD モニターの最大解像度は 1,280×1,024@75Hz です。接続するコンピューターの解像度が、この最大解像度を超えないようにしてください。

- ◆ PS/2 マウスおよびキーボードポート(6 ピン ミニ DIN ポート)または USB ポート
- ◆ Sun USB システムにダイレクトに対応させる場合、またはレガシーSun を使用する場合は、
ATEN 製 Sun コンソールコンバーターCV130A

ケーブル

規格外のケーブルを使用すると、接続機器の破損や、機器性能の低下を招くおそれがあります。理想的な状態でデータ転送を行い、システムのレイアウトを簡素化させるために、専用 KVM ケーブルを使用するようにしてください。ケーブルの長さは下記の表の通り各種取り揃えております。お求めの際には販売店までご連絡ください。

製品画像	機能	型番(長さ)
	デ이지ーチェーン専用ケーブル	2L-1700 (0.6m)
	スイッチ側 DB-25 オス	2L-1701 (1.8m)
		2L-1703 (3m)
	コンピューター側 DB-25 メス	2L-1705 (5 m)
		2L-1715 (15 m)
	PS/2 KVM ケーブル	2L-5201P(1.2m)
	スイッチ側 SPHD ×1	2L-5202P(1.8m)
	キーボード用ミニ DIN6 ピン オス	2L-5203P(3m)
	コンピューター側 マウス用ミニ DIN6 ピン オス	2L-5206P(6m)
	モニター用 D-sub15 ピン オス	2L-5210P(10m)
	USB KVM ケーブル	
	スイッチ側 SPHD ×1	2L-5201U(1.2m)
		2L-5202U(1.8m)
	キーボード/マウス用 USB タイプ A	2L-5203U(3m)
	コンピューター側 オス	2L-5205U(5m)
	モニター用 D-sub15 ピン オス	

暫定版

OS

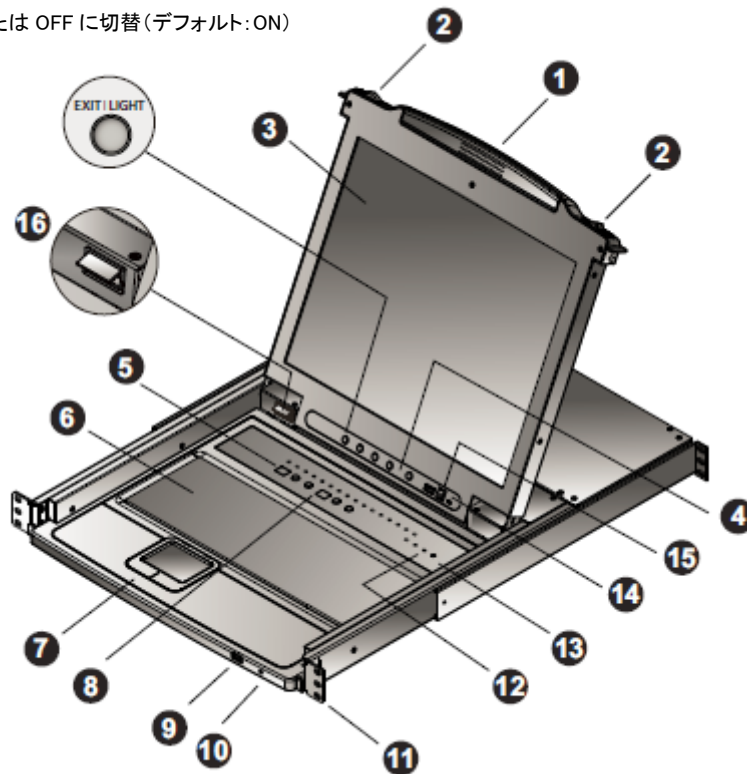
本製品の対応 OS は下表のとおりです。

OS		バージョン
Windows		2000 以降
Linux	Red Hat	7.1 以降
	SuSE	9.0 以降
	Mandriva (Mandrake)	9.0 以降
UNIX	AIX	4.3 以降
	FreeBSD	4.2 以降
	Sun	Solaris 8 以降
Novell	Netware	5.0 以降
Mac		OS 9 以降
DOS		6.22

製品各部名称

フロントパネル

Exit/Light ボタンを2秒間押すとLEDライトを
ON または OFF に切替(デフォルト:ON)



注意: 本章では CL5716I を例にとつて説明します。CL5708I は、KVM ポートが 8 ポートであるという点を除き、CL5716I と同じです。

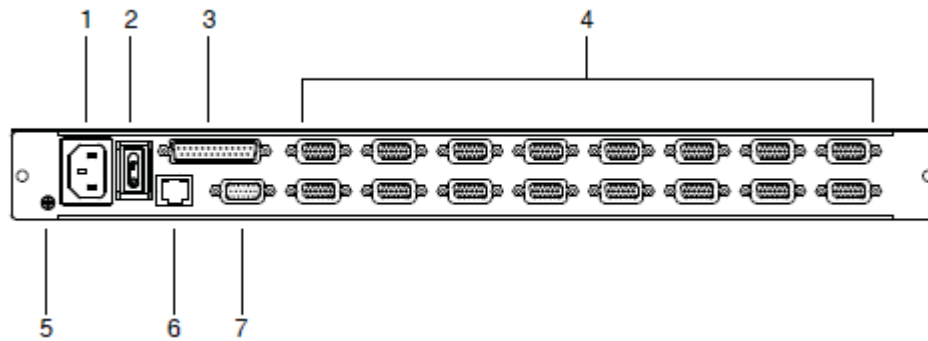
暫定版

No.	名称	説明
1	ハンドル	LCD モジュールを引き出したり、中へ収納したりする際に使用します(本表における項目 2 を参照)。
2	スライドリリース	コンソール部分をスライドさせて手前に引き出すには、これらのタブを内側にスライドさせてロックを解除する必要があります。コンソールの出し入れの詳細については、p.45 を参照してください。
3	LCD ディスプレイ	LCD モニターを使用するには LCD モジュールを引き出し、カバーを開けてください。
4	LCD コントロール	LCD ディスプレイを ON/OFF にするスイッチ、および LCD ディスプレイの位置と画像の設定を行うボタンが配置されています。詳細は p.49 を参照してください。
5	ポート LED	オンライン LED が点灯している場合、この LED に対応したポートに接続されたコンピューターの電源が ON で、稼働中であることを表しています。
6	キーボード	標準 105 キーを搭載したキーボードです。
7	タッチパッド	標準マウスタッチパッドです。
8	ステーション/ポートスイッチ	UP ボタンや DOWN ボタンを押すと、そのボタンに対応したポートに接続されたコンピューターの KVM を選択します。詳細は p.52「手動によるポート切替」を参照してください。
9	外付けマウスポート	外付け USB マウスを使用する場合は、マウスをこのポートに接続します。
10	電源 LED	製品本体に電源が供給されている場合、このランプが点灯します。
11	ラックマウントタブ	製品本体の四隅にあるラックマウント用のブラケットです。システムラックにマウントする際、この部分でネジ止めを行います。
12	ロック LED ランプ	Num Lock、Caps Lock、Scroll Lock の各キーの状態を表します。
13	リセットスイッチ	ロック LED ランプの右側に配置されているスイッチです。このスイッチはピンホール型になっておりますので、システムリセットを行う場合は、ペンなどの先が細いものを使ってこのボタンを押してください。

(表は次のページに続きます)

No.	名称	説明
14	ファームウェア アップグレード セクション	◆ ファームウェアアップグレードポート: 管理用のコンピューターとこの RJ-11 ポートをファームウェアアップグレード用のケーブルで接続し、ファームウェアの更新データを転送します。 ◆ ファームウェアアップグレードスイッチ: 通常操作時には、このスイッチを「NORMAL」の位置に合わせて使用します (ファームウェアアップグレードの詳細については p.226 参照)。
15	USB ポート	USB1.1 に対応したデバイス (フラッシュメモリ、CD-ROM ドライブなど) を複数のコンピューターで共有する場合は、このデバイスをこのポートに接続します。
16	LED ライト	手元が暗い場合でもキーボードやタッチパッドの操作を可能にする LED ライトです。「Exit/Light」(終了/点灯) ボタンを 2 秒間長押しすると、LED ライトを ON または OFF にします (デフォルトでは ON に設定)。

リアパネル



No.	名称	説明
1	電源ソケット	標準的な 3 極 AC 電源ソケットです。AC 電源からの電源コードを接続します。
2	電源スイッチ	製品本体の電源 ON/OFF を行う標準的なロッカースイッチです。
3	デイジーチェーンポート	他の KVM スイッチとデイジーチェーン接続する場合、このポートに専用ケーブルを接続します。
4	KVM ポート	コンピューターとつながっているケーブルを接続するポートです。 注意:これらの 15 ピンコネクタは、本製品に対応した KVM ケーブルのみ接続することが可能です (p.25「ケーブル」参照)。誤って D-sub15 ピンのケーブルなどを接続しないようにしてください。
5	接地ターミナル	接地線をここに接続し、製品本体を接地します。
6	LAN ポート	イーサネットケーブルで、製品本体をネットワーク (10/100Mbps) に接続します。
7	セカンド コンソールポート	この部分は、作業が柔軟にかつ効率よく行えるように設けられたものです。セカンドコンソールとしてキーボード、モニター、マウスを使用する場合は、この部分に接続してください。

第2章 セットアップ方法

概要

PS/2、USB のどちらのインターフェースに対応したコンピューターでも接続できるように、本製品はコンピューターとの接続に専用の KVM ケーブルを使用します。

この KVM ケーブルは、製品に接続するコンピューターごとにご用意いただく必要があります。対応ケーブルに関する詳細は p.25 に掲載されています。お使いの環境に適したケーブルをお求め際には販売店までお問い合わせください。

セットアップの前に

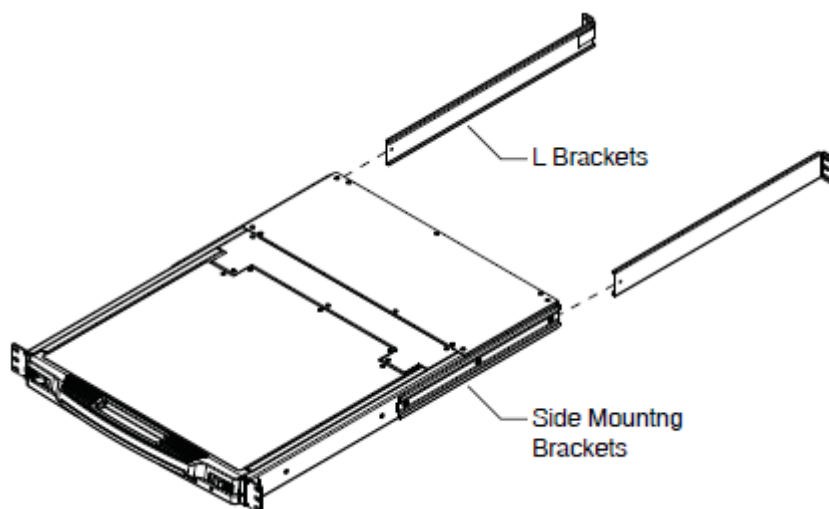


1. 機器の設置に際し重要な情報を p.10 に記載しています。作業の前に、必ず目を通してください。
2. 今から接続する装置すべての電源が OFF になっていることを確認してください。コンピューターにキーボード起動機能がついている場合は、ここから電源ケーブルも抜いてください。

-
- 注意:**
1. 製品のラックへの取付作業は本製品を保持する作業者とネジ止めする作業者と
いうように 2 人以上で行うようにしてください。
 2. ラックマウントキットにはネジやケージナットは同梱されていません。追加でネジや
ケージナットが必要な場合は、ラック販売店にお問い合わせください。
 3. 適切なエアフローを確保するために製品の両側に少なくとも 5cm 程度、ケーブル
取り回しのスペースを確保するために製品リア側に少なくとも 13cm 程度の余裕を
設けて設置してください。
 4. 日本国内向けモデルには、イージーセットアップラックマウントキットが同梱されて
おり、イージーセットアップラックマウントキットでの取付を推奨しています。イー
ジーセットアップラックマウントキットの取付方法は p.34 をご参照ください。
-

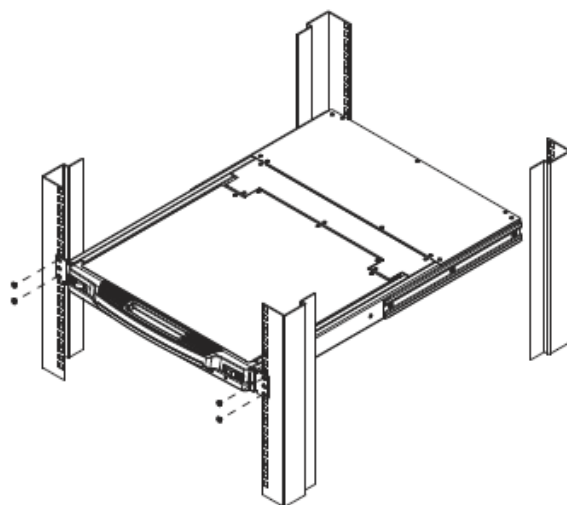
ラックマウントキットを使った取付方法

CL5708I/CL5716I にはラックマウントキットが取り付けられています。このラックマウントキットを使用して製品本体の取付ができるラックの奥行きは 42～77cm です。



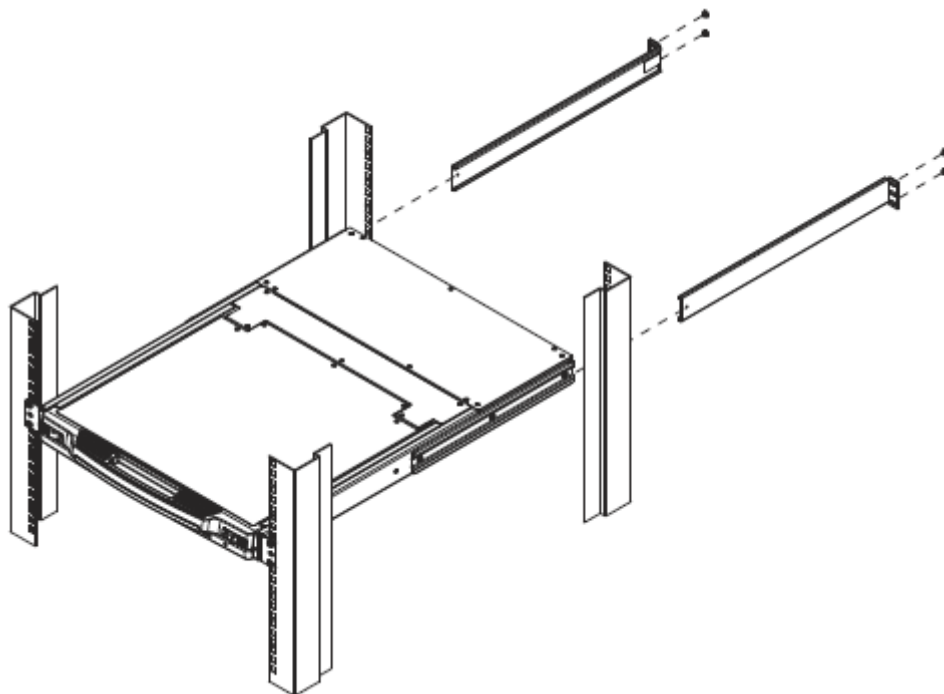
ラックへの取付は以下の手順で行ってください。

1. 1 人が CL5708I/CL5716I をラックの定位置まで持ち上げて保持し、もう 1 人がラックにフロントブラケットをゆるくネジ止めしてください。



暫定版

- 最初の作業員が CL5708I/CL5716I を定位置に保持したまま、もう 1 人の作業員は L 型レールを本製品のリア側からブラケットがラックに接触するまで差し込んでください。その後、ラックに L 型レールをネジ止めしてください。



- L 型レールが固定されたらフロントブラケットもしっかりとネジ止めしてください。

イージーセットアップラックマウントキットを使った取付方法

イージーセットアップラックマウントキットは、標準キットに比べて非常に簡単に製品のマウント作業ができるように設計されたものです。対応ラックの仕様は下記をご参照ください。

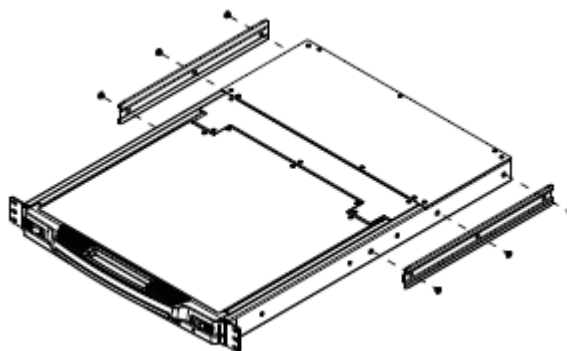
LCD サイズ	ポート数	ご注文用型番	
		ショートレール (型番:2X-011G) 対応ラック奥行: 42cm - 70cm	ロングレール (型番:2X-012G) 対応ラック奥行: 68cm - 105cm
17 インチ LCD モデル	8	CL5708IMJJS	CL5708IMJJL
	16	CL5716IMJJS	CL5716IMJJL
19 インチ LCD モデル	8	CL5708INJJS	CL5708INJJL
	16	CL5716INJJS	CL5716INJJL

注意: ラックマウントキットの対応奥行き表示は、ラック取付支柱間の距離を表しています。実際のラックマウント作業の際には、ラック内寸に対するドロワー本体の奥行きやケーブル取り回しを考慮する必要がありますのでご注意ください。

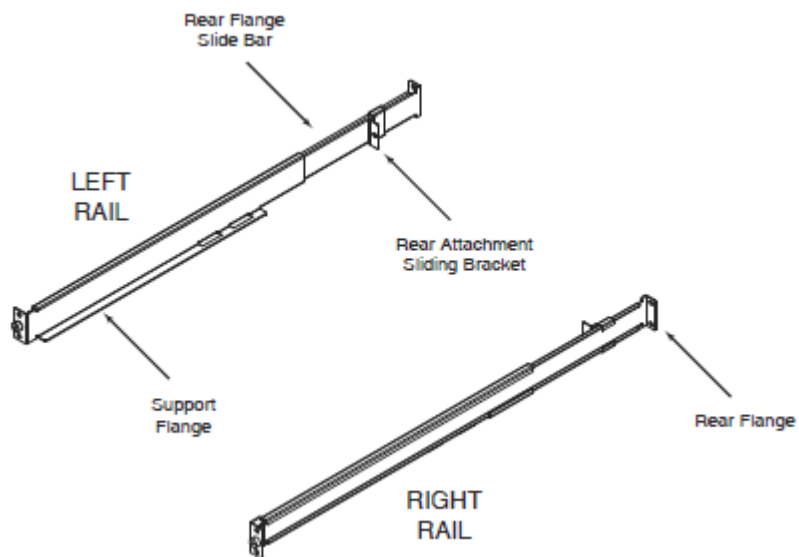
ロングレールキットのラックマウントキットを取り付けるには、同梱のショートレールをロングレールに交換し、p.32「ラックマウントキットを使った取付方法」に記載の作業手順に沿ってCL5708I/CL5716Iを取り付けるだけです。

イージーセットアップラックマウントキットを使用してのマウント作業は下記の手順に従ってください(ショート/ロング共通)。

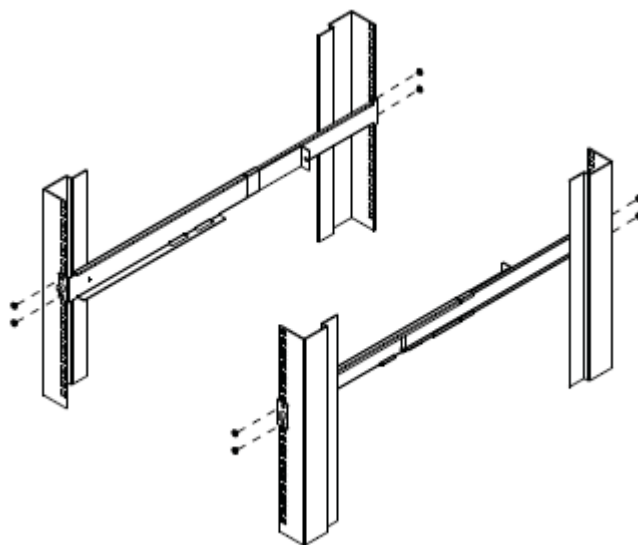
1. CL5708I/CL5716I の両側から標準 L 型レール(図では表示されていません)とサイドマウントレールを外してください。



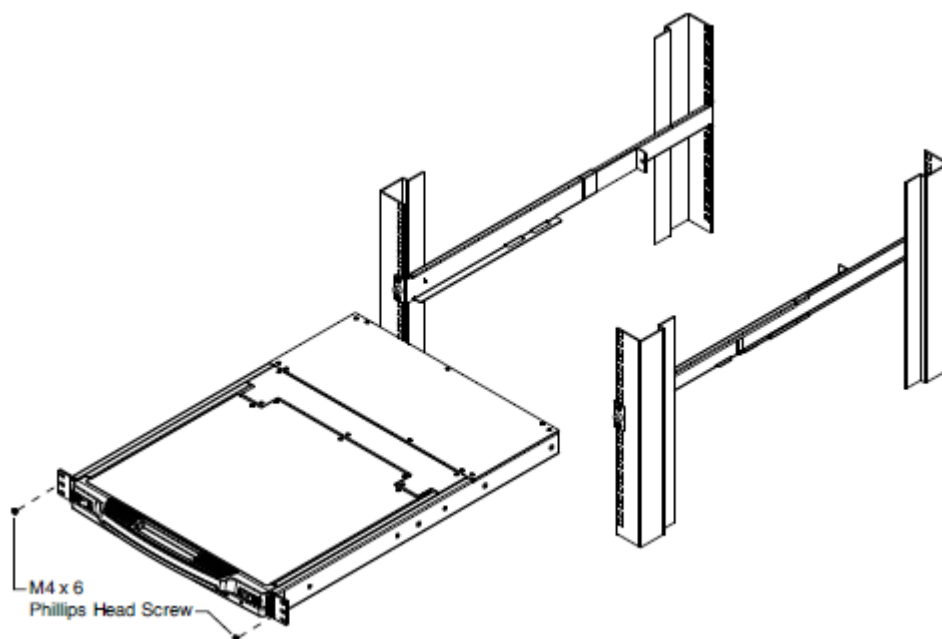
2. ラックの内側に左右のイーजीラックマウントキットのレールを取り付けてください。CL5708I/CL5716I を支えるフランジが中に入っています。ラックとレールを取り付けるビスやケージナットは本製品に同梱しておりませんので、別途ラックメーカーよりご購入ください。



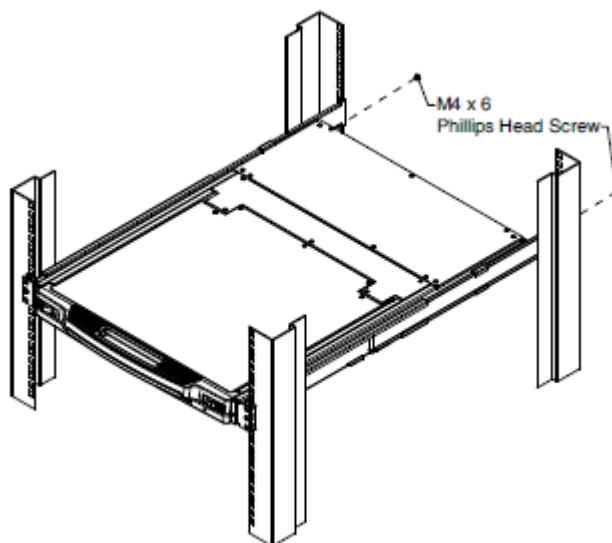
- a) まず、フロントフランジをラックにネジ止めしてください。
b) レールのスライドバーをリアフランジがラックに接触するまでスライドさせた後、リアフランジをラックにネジ止めしてください。



3. サポートフランジの上に CL5708I/CL5716I をスライドさせてください。本製品に同梱されているネジを使用して本製品のフロントパネルとラックのフロント部分を軽くネジ止めしてください。



4. リアアタッチメントスライディングブラケットをスライドバーが CL5708I/CL5716I のリア部分に接触するまでスライドさせた後、本製品に同梱されているネジを使用してスライドバーを本製品のリア部分にしっかりと最後までネジ止めしてください。

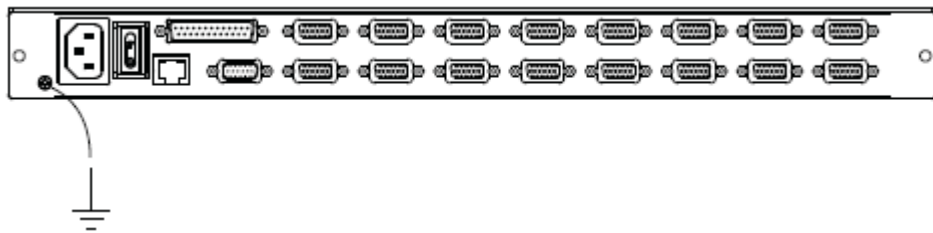


5. CL5708I/CL5716I を何回かスライドさせて出し入れして、本製品が正しい位置に設置され、スムーズに出し入れができ、収納時にロックできることを確認してください(出し入れ方法については、p.45「コンソールを開く」を参照)。
6. CL5708I/CL5716I が正しい位置に設置され、操作も正しく行えることが確定したら、手順 3 で軽くネジ止めしたフロント部分のネジを全てしっかりとネジ止めしてください。

デバイスの接地

お使いの機器への損傷を防ぐためには、使用するすべてのデバイスを適切に接地する必要があります。

接地線の一端を接地ターミナルに、もう一端を適切な接地物にそれぞれ接続して製品本体を接地してください。



単体使用

CL5708I/CL5716I を 1 台で使用する場合は、別の機器とデイジーチェーン接続する必要はありません。p.40 の接続図(図中の番号は手順の番号に対応)を参考にして、以下の手順でセットアップを行ってください。

1. 接地線の片側を接地ターミナルに接続し、接地線の反対側を適切な接地物に接続して、CL5708I/CL5716I を接地してください。

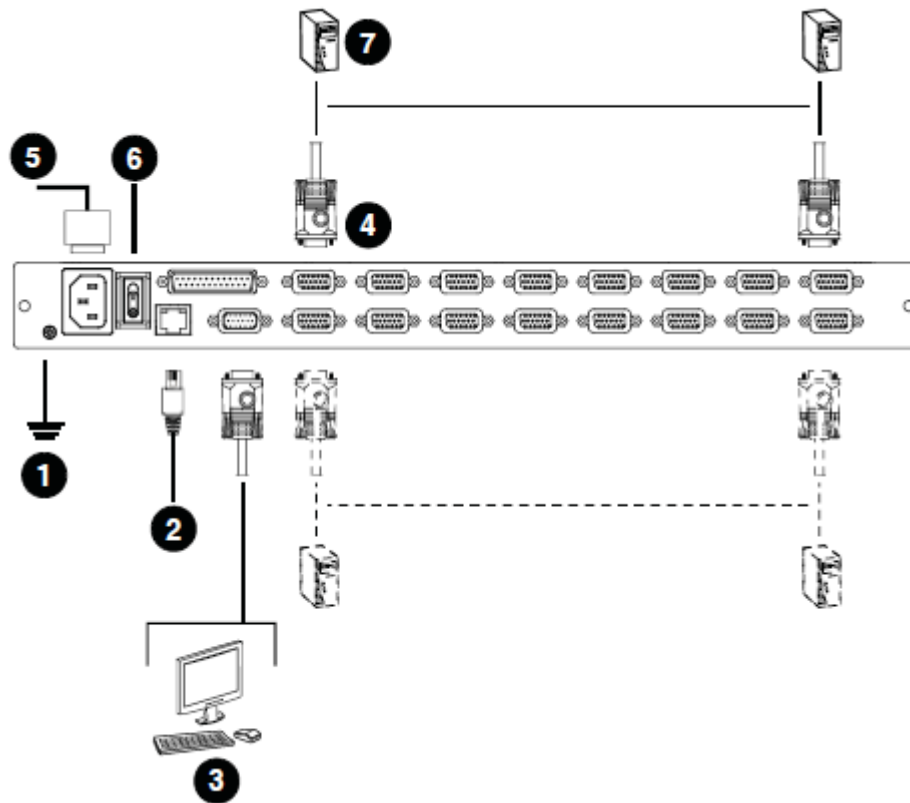
注意: この手順は省略しないでください。適切な接地をすることで電圧変化や静電気による機器の破損防止に一定の効果があります。

2. イーサネットケーブルを CL5708I/CL5716I の LAN ポートに接続してください。
3. (オプション)セカンドコンソールを使用する場合は、キーボード、モニター、およびマウスを本製品のリアパネルにあるコンソールポートに接続してください。接続方法については p.41「ケーブル接続図」をご参照ください。
4. KVM ケーブルを使って、製品リアパネルの KVM ポートと、コンピューターのキーボード、モニター、マウスの各ポートを接続してください。接続方法については p.41 の「ケーブル接続図」をご参照ください。

注意: 製品本体と各コンピューターの距離はそれぞれ 10m を超えないようにセットアップしてください。

5. 製品本体に電源ケーブルを接続し、そのケーブルを電源に接続してください。
6. CL5708I/CL5716I 本体に電源を入れてください。
7. 製品本体に電源が入ったことを確認したら、各コンピューターの電源を入れてください。詳細については、p.48「製品の電源 OFF と再起動」をご参照ください。

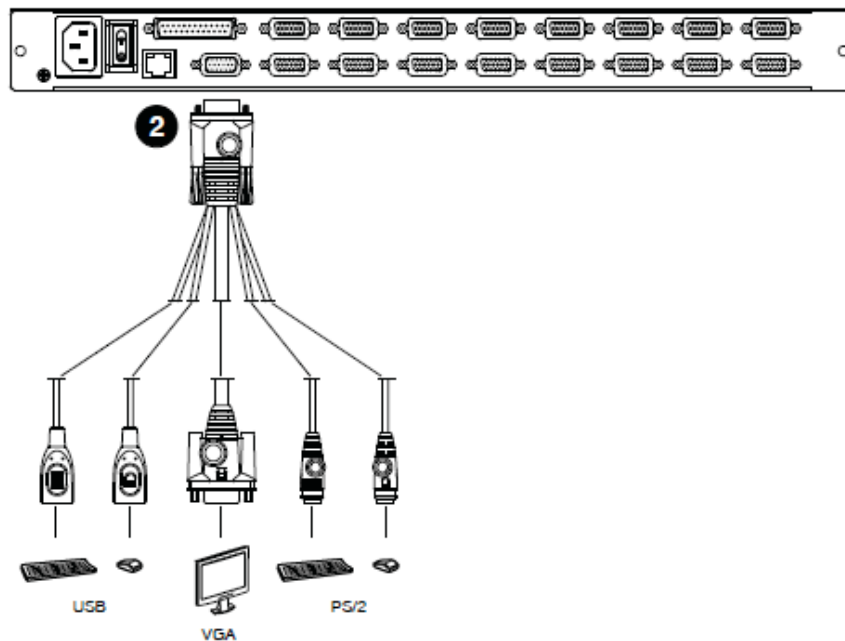
単体使用接続図



ケーブル接続図

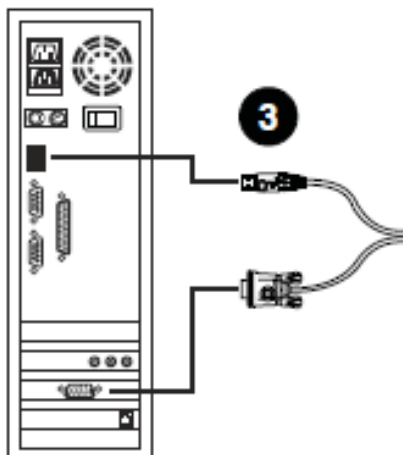
セカンドコンソールポートにコンソールケーブルを接続する場合や、コンピューターに KVM ケーブルを接続する場合は、以下の図を参考にしながらセットアップを行ってください。

コンソールケーブル接続図

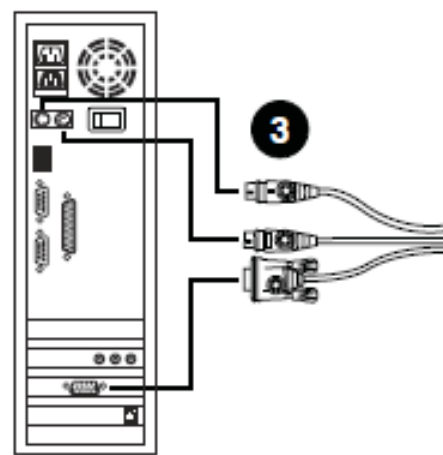


KVM ケーブル接続図

USB 対応 KVM ケーブル



PS/2 対応 KVM ケーブル



デジチェーン接続時のセットアップ

操作したいコンピューターの台数が CL5708I/CL5716I のポート数を超える場合でも、対応 KVM スイッチを最大 15 台 CL5708I/CL5716I にデジチェーン接続することで対応が可能です(対応 KVM スイッチの型番については p.243 を参照)。この場合、最大で 128/256 台のコンピューターを 1 組のコンソールから操作することができます。コンソール接続数と KVM スイッチの必要台数の関連表は p.241 の「スイッチ台数と操作可能コンピューター台数の関連表」をご参照ください。

製品本体を他の KVM スイッチとデジチェーン接続する場合は、まず、使用するすべてのデバイスの電源が OFF になっていることをご確認ください。準備が整ったら、p.40 の接続図を参考にしながら、以下の手順で作業を行ってください。

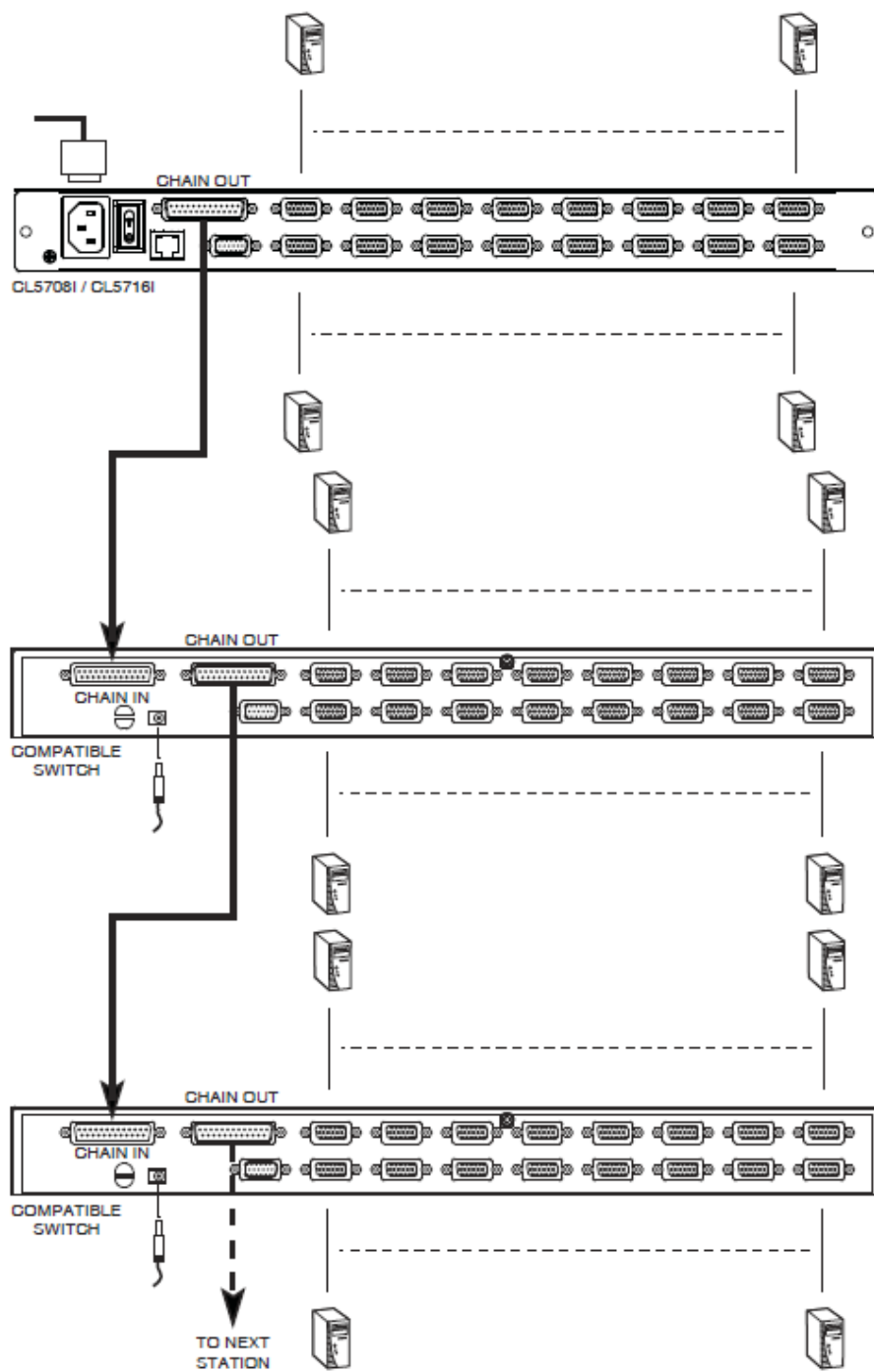
1. デジチェーン専用ケーブル(p.25 参照)を使って、親機の「Chain Out」ポートと子機の「Chain In」ポートを接続してください(1台目の「Chain Out」ポートと2台目の「Chain In」ポートを接続し、2台目の「Chain Out」ポートと3台目の「Chain In」ポートを接続するといった要領で作業を行います)。
2. KVM ケーブルを使って、製品リアパネルの KVM ポートと、コンピューターのキーボード、モニター、マウスの各ポートを接続してください(p.41「ケーブル接続図」参照)。

注意: 製品本体と各コンピューターの距離はそれぞれ 10m を超えないようにセットアップしてください。

3. 他のスイッチもデジチェーン接続する場合は、上記 1～2 の手順を繰り返してください。
4. 下記の手順で、電源を入れてください。
 - a) 1台目のステーション(CL5708I/CL5716I)に電源を入れます。
 - b) CL5708I/CL5716I にデジチェーン接続された KVM スイッチに順に電源を入れてください(2台目のステーションに電源を入れた後で、3台目のステーションに電源を入れるといったように、ステーション順に電源を入れてください)。各機器のステーション ID が認識され、フロントパネルに LED 表示されたことを確認してから、次のステーションに電源を入れるようにしてください。
 - c) すべてのステーションのステーション ID が確定したら、KVM スイッチに接続されたコンピューターの電源を入れます。

-
- 注意:**
1. ステーション間の距離はそれぞれ 15m を超えないようにセットアップしてください。
 2. デイジーチェーン接続で使用する KVM スイッチの台数にかかわらず、1 台目のステーションから最後のステーションまでの距離が 100m を超えないようにセットアップしてください。
-

接続図 (デジチェーン接続時)

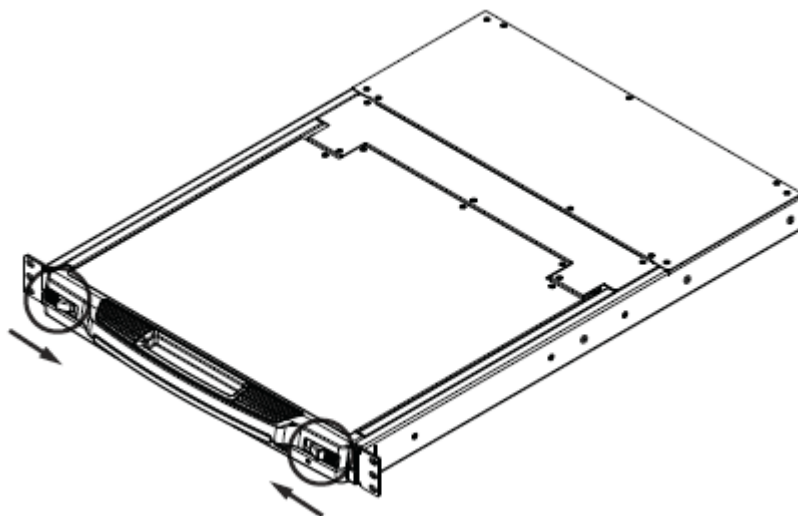


第3章 基本操作

コンソールを開く

本製品のコンソールは上部カバーの下に位置しています。コンソールを使用する場合は、製品を手前に引き出して、上部カバーを開けてください。

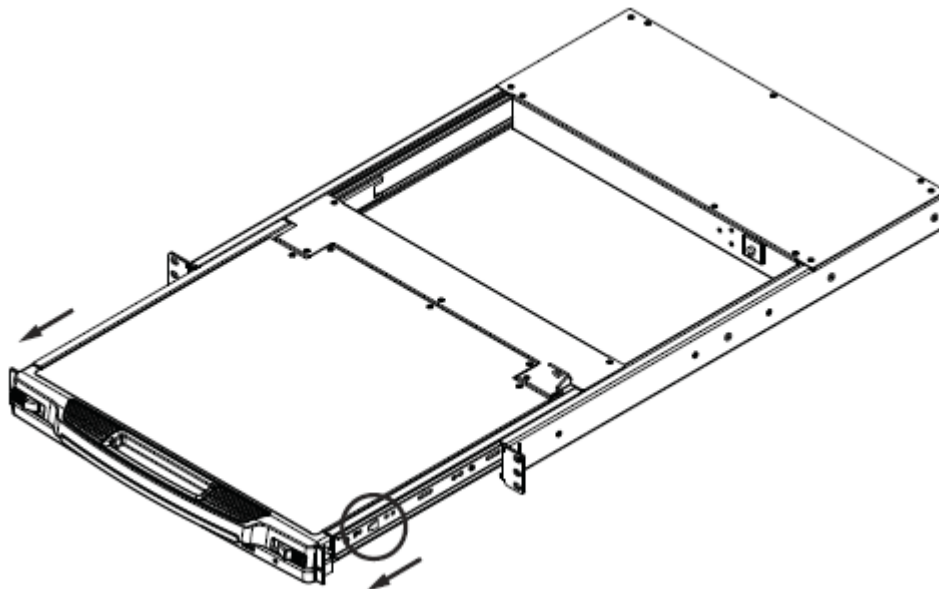
注意： コンソールが誤ってスライドするのを防ぐために、安全措置としてコンソールは内側にロックされています。このコンソールを引き出してお使いになる場合は、下図で示されているフロントパネルのリリースキャッチを内側にスライドさせてロックを解除する必要があります。



コンソールを閉じる

作業が終了し、コンソールパネルをスライドさせて元の位置に戻す場合は、上部カバーを手前に倒して、以下の手順で操作してください。

1. 製品本体の両側面にある安全用キャッチを手前にスライドさせロックを解除したら、製品本体を奥にスライドさせてください。
2. キャッチを内側にスライドさせてロックを解除し、パネルを手前に少し引いた後、製品本体を奥にスライドさせてください。

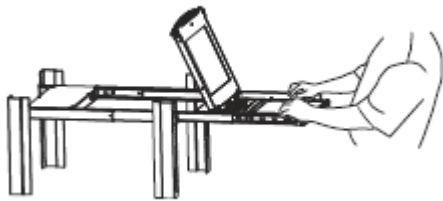


注意： 上記のような方法でコンソールを収納するのは、製品をスライドする際に指を挟んでケガをする危険性をできる限り少なくするためです。操作方法をよく読んでから、実際の作業を行うようにしてください。

操作上の注意事項

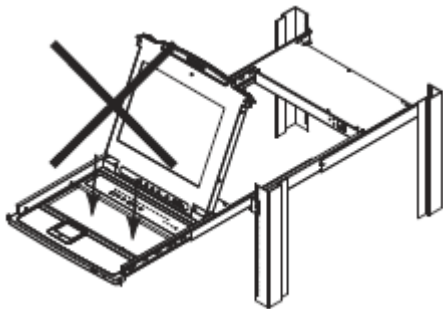


キーボードモジュールの最大積載重量は 30kg です。キーボードモジュールが破損するのを防ぐために、下記の注意書きに従って製品本体を取り扱ってください。



正しい使用方法

手を軽くキーボードモジュールに置いて作業する。



間違った使用方法

- ◆ キーボードモジュールに**体重**をかけないでください。
- ◆ キーボードモジュールに**重いもの**を載せないでください。

製品の電源 OFF と再起動

製品本体の電源を切る必要がある場合は、以下の手順で電源を切ってから再起動するようにしてください。

1. 製品に取り付けられているコンピューターをすべてシャットダウンしてください。

注意: キーボード起動機能をご利用のコンピューターがある場合は、シャットダウンした後で、そのコンピューターの電源コードを抜いておく必要があります。電源コードが接続されたままでは、コンピューターに電源が供給され続けてしまいます。

2. CL5708I/CL5716I の電源を切ってください。
3. 10 秒ほど待機した後で、CL5708I/CL5716I に電源を入れてください。
4. CL5708I/CL5716I が起動してステーション ID を認識したら、コンピューターに電源を入れてください。

注意: 複数のステーションをシャットダウンした場合は、最上位のステーションから順番に電源を入れていってください。

LCD の OSD 設定

LCD ボタン

LCD の OSD によって、ディスプレイの設定を行うことができます。設定には下表にある4つのボタンを使用します。

ボタン名称	機能
MENU	◆ LCD の OSD メニュー機能を操作していない場合にこのボタンを押すと OSD メインメニューが表示されます。 ◆ ナビゲーションボタン(▶ ▲ または ◀ ▼)で LCD の OSD メニュー項目の選択をしている際にこのボタンを押すと、各値の調整画面が表示されます。
	このボタンで右または上にあるメニューを選択します。また、画面調整時に使用すると、調整値を増やすことができます。
	このボタンで左または下にあるメニューを選択します。また、画面調整時に使用すると、調整値を減らすことができます。
EXIT	◆ LCD の OSD メニュー機能を使用していない場合にこのボタンを押すと、OSD 側で最適な LCD の設定を自動検出し、設定を行います。 ◆ LCD の OSD メニュー機能を使用している場合にこのボタンを押すと、現在のメニューから前のメニューに戻ります。設定が完了した場合は、このボタンで調整メニューを終了します。 ◆ メインメニューを操作している場合にこのボタンを押すと LCD の OSD メニュー機能を終了します。 ◆ このボタンを 2 秒間押したままにすると、キーボード用の照明を ON または OFF にします(デフォルトでは ON に設定されています)。

LCD の調整値設定

下表は LCD OSD の調整値設定について説明しています。

設定	説明
Brightness (明るさ)	スクリーンイメージのバックグラウンドの黒色レベルを調整します。
Contrast (コントラスト)	スクリーンイメージのフォアグラウンドの白色レベルを調整します。
Phase (フェーズ)	画面にチラツキ、ノイズが出ている場合には、LCD のフェーズ設定が正しくない可能性があります。この問題を解決するにはこれでフェーズを調整してください。
Clock (クロック)	画面縦方向の波 (モアレ) が生じている場合には、LCD のクロック設定が正しくない可能性があります。モアレを取り除くには、これでクロックを調整してください。
H-Position (水平位置)	LCD パネル内の表示部分の横方向の位置を設定します (表示画面を左右の方向に動かして調整します)。
V-Position (垂直位置)	LCD パネル内の表示部分の縦方向の位置を設定します (表示画面を上下の方向に動かして調整します)。
Color Temperature (色温度)	表示画面の色味を調整します。赤みの度合いやカラーバランスを調整することができます。「Adjust Color」メニューを選択すると、サブメニューでさらに細かく RGB 値を調整することができます。
Language (言語)	OSD メニューに表示される言語を選択します。
OSD Duration (OSD 表示時間)	OSD 画面が LCD の画面上に表示される時間の設定を行います。設定時間に何も入力しないと OSD 画面は終了します。
Reset (リセット)	メインメニューとサブメニューでの設定値 (言語は除く) を工場出荷時のデフォルト設定値にリセットします。

注意: LCD の設定は、「EXIT」ボタンを押すことで LCD モニターを最適な状態に自動調整することも可能です。詳細については p.49「EXIT」の項目をご参照ください。

ホットプラグ

CL5708I/CL5716I はホットプラグ対応製品です。ケーブルをポートにつなぎかえるだけで、CL5708I/CL5716I をシャットダウンすることなくキーボードやマウスなどの付け外しをすることが可能ですが、ホットプラグ機能が正しく動作するように下記の手順に従ってお使いください。

ステーション位置の変更

ステーション位置はケーブルを付け替えることで簡単に変更できます。変更後は、OSD メニューに新しい設定を反映させるために OSD のステーション ID をリセットしなければなりません。詳細については p.63 の「RESET STATION IDS」の欄をご参照ください。

KVM ポートのホットプラグ

製品に接続されているコンピューターはKVM ケーブルを付け替えるだけで簡単に追加したり取り外したりすることができます。KVM ポートを変更した後、OSD メニューに新しいポートの情報設定を反映させるためには、手動で OSD を再設定する必要があります。詳細に関しては、p.58 の「F3: SET」および p.61 の「F4: ADM」の項にあるポート設定の内容をご参照ください。

注意: お使いのコンピューターの OS がホットプラグに対応していない場合、CL5708I/CL5716I のホットプラグ機能が正しく動作しない場合がございます。

コンソールポートのホットプラグ

CL5708I/CL5716I に接続されているキーボード、モニター、マウスもホットプラグすることが可能です。マウスをホットプラグする際には以下の注意事項に従って作業してください。

- ◆ マウスのリセットなどの理由で同一マウスを使用する場合に限り、製品に対してマウスケーブルの抜き差しが可能です。
- ◆ 異なるマウスを使用する場合は、機器に接続されているコンピューターおよびステーションをすべてシャットダウンし、10 秒間程度お待ちください。その後は、p.42 の手順 5 にある起動手順に従って CL5708I/CL5716I を再起動してください。

ポートの選択

CL5708I/CL5716Iに接続されているコンピューターへの接続には、手動、OSD、ホットキーの3つの操作方法をご用意しております。手動によるポート切替の方法は下記のセクションで説明します。OSD の操作方法については第 4 章で、また、キーボードを使ったポート操作方法については第 5 章でそれぞれ詳しく説明しますので、そちらをご参照ください。

手動によるポート選択

ポートを切り替える場合は、キーボードモジュールにある **UP/DOWN** のポートID/ステーションID 選択ボタン (p.28 参照) を使用します。ボタンを押し続けると、前または後ろのステーションやポートに順次切り替えていきます。

ポート ID の割り当て

CL5708I/CL5716I の KVM ポートにはそれぞれ固有のポートID が割り振られます。ポートID は、そのポートのステーションナンバーとポートナンバーから構成されています。

- ◆ ステーションナンバーは、デジチェーン接続の構成におけるスイッチの位置を表す 2 桁の番号です。この番号は、製品フロントパネルのステーション ID LED に表示されます。
- ◆ ポートナンバーはコンピューターが接続しているポートを表す 2 桁の番号です。この番号は、製品フロントパネルのポート ID LED に表示されます。
- ◆ ステーションナンバーはポートナンバーの前に表示されます。
- ◆ ステーションナンバー、ポートナンバーが 1 桁の場合は先頭に 0 詰めされ、01～09 のように表記されます。

例えば、12 台目のステーションの 6 番ポートに割り当てられているコンピューターのポート ID は **12-06** となります。

USB 周辺機器

製品フロントパネルに搭載されている USB ポートには、USB に対応した周辺機器（フラッシュメモリ、CD-ROM ドライブ、プリンタなど）を接続してお使いいただけます。この USB デバイスは、製品に接続されたコンピューター間で共有して、一度につき 1 台のコンピューターから選択して操作することが可能です。ただし、このポートに接続された USB デバイスは、CL5708I/CL5716I に接続されているコンピューターからはアクセス可能ですが、デイジーチェーンで拡張された子機となる KVM スイッチからアクセスすることはできないという制限がありますのでご注意ください。

CL5708I/CL5716I でポート切替を行うと、このポートに接続されている USB デバイスは操作中のポートで自動的に認識されます。例えば、ポート1のコンピューターからポート2のコンピューターに切り替えた場合、その USB デバイスはポート1からは自動的に取り外され、ポート2に接続します。

第4章 OSD 操作

OSD 概要

オンスクリーンディスプレイ(OSD)は、マウスやキーボードの操作が可能なメニューです。このメニューを使うことで CL5708I/CL5716I 本体の諸設定および接続コンピューターの管理を行うことができます。これらの操作はすべて OSD メインメニューから実行します。

製造番号

「MFG 番号」(製造番号)は、ATEN の工場や技術サポートのスタッフが製品を識別する際に使用する内部的なシリアル番号です。この番号が製品保証に影響することはありません。お使いの製品に関して購入後のサービスが必要な場合には、製品と型番を識別するために、ATEN の営業または技術サポートのスタッフに、この MFG 番号をお伝えください。

OSD へのログイン

OSD では、ログインユーザーのユーザー権限(アドミニストレーター/ユーザー)に応じたメニューが表示されます。OSD のメイン画面が表示される前にログイン画面が表示されます。OSD の初回使用時、またはパスワード機能が未設定の場合は、デフォルトのアカウント(ユーザーネーム: **Administrator**、パスワード: **Password**)を使ってログインしてください。そうすると、OSD のメイン画面がアドミニストレーターモードで表示されます。このモードでログインすると、ユーザーには、アドミニストレーター権限が与えられ、アドミニストレーターとユーザーのすべての機能が利用可能になるため、自由にセットアップを行うことができます。しかしながら、パスワード機能が設定されると、OSD にアクセスするには、適切なアドミニストレーター/ユーザーのパスワードを入力しなくてはなりません。

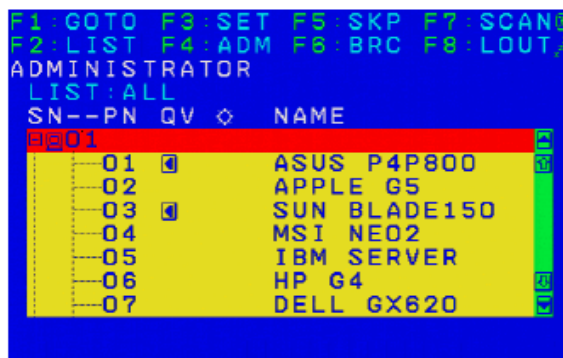
OSD ホットキー

CL5708I/CL5716I で選択したポートを表示している際に、LCD ディスプレイやセカンドコンソールのモニター上で OSD メニューを起動したい場合は、[Scroll Lock]キーを 2 回押すことで OSD メニューを呼び出すことができます。

注意: OSD 表示のホットキーはデフォルトの[Scroll Lock]キーから[Ctrl]キーに変更できます(詳細は p.59「OSD HOTKEY」参照)。**[Ctrl]キーの 2 度押しの際は、2 回とも同一 [Ctrl]キーを使用するようにしてください(左側を 2 回、もしくは右側を 2 回)。**

OSD メイン画面

OSD メニューを起動すると、下図のような画面が表示されます。



- 注意:**
1. 上図は、アドミニストレーターとして OSD メニューにログインした場合の例です。F4 および F6 の各メニューはアドミニストレーターに限定された機能ですので、一般ユーザーとしてログインした場合は、これらのメニューが表示されません。
 2. OSD メニューにアクセスすると、前回アクセスしたメニューが選択された状態で表示されます。
 3. ポート一覧には、現在ログインしているユーザーがアクセスできるポートだけが表示されます(詳細は p.147「アクセス」参照)。
 4. ポート一覧が折りたたまれている場合は、操作対象となるステーションナンバーをクリックするか、そのステーションまでハイライトバーを移動させて右カーソルキーを押してツリーを展開させてください。ポート一覧を折りたたむ場合もこれと同様に、目的のステーションナンバーをクリックするか、そのステーションまでハイライトバーを移動させて左カーソルキーを押してください。

OSD メイン画面の項目

項目	説明
SN-PN	ポート ID が「ステーションナンバー - ポートナンバー」の形式で表示されます。ハイライトバーを移動し[Enter]キーを押すと、画面がそのポートに接続されたコンピューターに切り替わります。
QV	クイックビューポート (p.63「SET QUICK VIEW PORTS」参照)として選択されているコンピューターには、この列に矢印が表示されます。
	ポートに接続されたコンピューターに電源が入っている場合、その列にこのような太陽マークが表示されます。
Name	ポートに名前がつけられている場合はこの列に表示されます(p.62「EDIT PORT NAMES」参照)。

OSD ナビゲーション

- ◆ OSD 画面を閉じる場合は、OSD 画面の右上に位置する×印をクリックするか、[Esc]キーを押してください。
- ◆ ログアウトする場合は、メイン画面の上に位置する「F8」をクリックするか、キーボードで[F8]キーを押してください。
- ◆ リスト表示を 1 行ずつ上下へ移動する場合は、三角の印(▲▼)をクリックするか、キーボードの上下のカーソルキーを押してください。画面に表示しきれないアイテムがある場合、メイン画面はスクロールされます。
- ◆ リスト表示を 1 ページずつ上下へ移動する場合は、画面の上下の矢印(↑↓)をクリックするか、キーボードの[Page Up]キーまたは[Page Down]キーを押してください。画面に表示しきれないアイテムがある場合、メイン画面はスクロールされます。
- ◆ ポートを切り替える場合は、選択先のポートをダブルクリックするか、ハイライトバーを移動させ[Enter]キーを押してください。
- ◆ これらの実行後は、自動的にメニューは 1 段階上の状態に戻ります。

OSD 機能

KVM スイッチの諸設定および接続されたコンピューターの管理を行う OSD 機能について説明します。OSD の各機能によって、任意のポートへの直接切替、指定したポートのみを対象にしたスキャン、指定したリストのみを対象にした表示、クイックビューポートの設定、ポートネームの設定、OSD の設定などができます。

OSD の各機能にアクセスするには以下の手順で操作してください。

1. メイン画面の上部にあるファンクションの文字を直接クリックするか、キーボードのファンクションキーを押してください。
2. サブメニューが表示されますので、目的のサブメニューを選択しダブルクリックするか、キーボードでそのメニューにハイライトバーを移動させ、**[Enter]**キーを押してください。
3. **[Esc]**キーを押すと、1 段階上のメニューに戻ります。

F1:GOTO

この機能を利用すると、ポートネーム、もしくはポート ID を入力することで、直接ポートを切り替えることが可能です。

- ◆ ポートネームを使用する場合、**[1]**キーを押した後、ポートネームを入力して**[Enter]**キーを押してください。
- ◆ ポートIDを使用する場合、**[2]**キーを押した後、ポートIDを入力して**[Enter]**キーを押してください。

注意: この機能では、ポートネームの一部もしくはポート ID を入力することが可能です。このとき、現在のリスト表示の設定(p.58「F2:LIST」参照)にかかわらず、該当するポートのうち、ユーザーが参照権限を持つもの(p.147「アクセス」参照)がすべて画面にリスト表示されます。

選択をしないで OSD 画面メインメニューに戻るには、**[Esc]**キーを押してください。

F2:LIST

このメニューでは、OSD メイン画面で表示するポートの範囲を指定できます。OSD メニューの多くは、メイン画面で一覧表示されているポートのみを対象にして機能します。サブメニューの設定項目の詳細は下表をご参照ください。

設定	内容
ALL	現在の機器構成におけるアクセス可能なポートをすべて一覧表示します。
QUICK VIEW	クイックビューポート(p.63 参照)として選択されたポートを一覧表示します。
POWERED ON (電源 ON)	接続されているコンピューターの電源がオンになっているポートを一覧表示します。
QUICK VIEW + POWERED ON (QUICK VIEW + 電源 ON)	クイックビューポート(p.63 参照)として選択され、かつ接続されているコンピューターの電源がオンになっているポートを一覧表示します。

選択したいポートを OSD 画面上でダブルクリックするか、メニューのハイライトバーを移動して [Enter] キーを押してください。アイコンが表示され、現在選択している設定が表示されます。

F3:SET

このメニューでは、アドミニストレーター権限および各ユーザー権限でログインした際の環境設定を行います。ユーザーの各プロフィールは OSD によって保存され、そのユーザーのログイン時に設定内容が反映されます。

設定を変更する場合は以下の手順で作業してください。

- 「F3:SET」の項目をダブルクリックするか、ハイライトバーをこの項目へ移動させ、[Enter] キーを押してください。
- 手順 1 の操作でアイテムを選択すると、サブメニューが表示されます。変更したい項目を選択するには、その項目をダブルクリックするか、ハイライトバーをその項目まで移動させて [Enter] キーを押してください。現在選択されている項目がアイコン表示されます。設定項目についての説明は下表をご参照ください。

暫定版

設定	機能
OSD HOTKEY (OSD ホットキー)	OSD メインメニューを呼び出すホットキーを設定します。 [Scroll Lock] [Scroll Lock] または [Ctrl] [Ctrl] [Ctrl]キーの入力は、動作中のコンピューターの他のプログラムと競合する可能性があるため、デフォルトでは[Scroll Lock]キー 2 度押しに設定されています。
PORT ID DISPLAY POSITION (PORT ID 表示ポジション)	画面上のポート ID 表示位置を設定します。デフォルトでは画面の左上ですが、任意の位置にポート ID を表示することができます。 マウス、カーソルキー、または、[Page Up]、[Page Down]、[Home]、[End]の各キー、または[Num Lock]をオフにしたテンキーの[5]キーを使ってポート ID の表示位置を決めた後、ダブルクリックするか [Enter] キーを押して位置を確定してください。設定が完了すると、「F3:SET」のサブメニュー画面に戻ります。
PORT ID DISPLAY DURATION (PORT ID 表示時間)	ポート切替が行われた後、画面にポート ID を表示する時間を設定します。 3 SECONDS: 3 秒間 ALWAYS OFF: ポート ID を常に非表示 デフォルトでは 3 秒間に設定されています。
PORT ID DISPLAY MODE (PORT ID 表示モード)	ポート ID 表示方法を選択します。選択できる設定項目は以下のとおりです。 PORT NUMBER + PORT NAME: ポートナンバーとポートネーム PORT NUMBER: ポート番号のみ PORT NAME: ポートネームのみ デフォルトでは、ポートナンバーとポートネーム (PORT NUMBER + PORT NAME) に設定されています。
SCAN DURATION (スキャン間隔)	オートスキャンモード (p.68 参照) で、各ポートに接続されたコンピューターの画面を表示する時間を設定します。1～255 秒までの数値を入力し、 [Enter] キーを押してください。デフォルトでは 5 秒間に設定されています。0 秒で設定するとスキャン機能を無効にします。

(表は次のページに続きます)

暫定版

設定	機能
SCAN-SKIP MODE (スキャン/ スキップモード)	スキップモード (p.66 参照) およびオートスキャンモード (p.68 参照) で、アクセスするコンピューターを選択します。選択できる設定項目は以下のとおりです。 ALL - アクセスできるすべてのポート (p.147 参照) QUICK VIEW - アクセス可能かつクイックビューポートとして設定されたポート (p.63 参照) のみ POWERED ON (電源 ON) - アクセス可能かつ接続されているコンピューターの電源がオンになっているポートのみ QUICK VIEW + POWERED ON (QUICK VIEW + 電源 ON) - アクセス可能でクイックビューポートとして設定され、かつ接続されているコンピューターの電源がオンになっているポートのみ デフォルトでは ALL に設定されています。 注意: クイックビューの設定はアドミニストレーターに限定されている機能ですので、これらの項目はアドミニストレーターでログインした場合にのみ表示されます (p.63 参照)。
SCREEN BLANKER	この機能で設定された時間、コンソールからの入力がない場合、画面はブランクになります。1～30 分の時間を入力してから、[Enter] キーを押します。0 分で設定するとこの機能を使用不可にします。 デフォルトでは 0 (無効) に設定されています。
HOTKEY COMMAND MODE (ホットキーモード)	ホットキー操作がコンピューターで動作中のプログラムと競合がある場合などに、ホットキーコマンドの使用可能/不可を切り替えます。 デフォルトでは ON に設定されています。
HOTKEY (ホットキー)	ホットキーモードを開始するキー (p.70 参照) を選択できます。[Num Lock] + [-] または [Ctrl] + [F12] のいずれかを選択してください。 デフォルトでは [Num Lock] + [-] に設定されています。

(表は次のページに続きます)

暫定版

設定	機能
OSD LANGUAGE (OSD 言語)	OSD メニューの表示言語を設定します。選択できる設定項目は以下のとおりです。 ENGLISH: 英語 DEUTSCH: ドイツ語 日本語 簡中: 中国語 (簡体字) 繁中: 中国語 (繁体字) デフォルトでは ENGLISH に設定されています。
TOUCHPAD (タッチパッド)	タッチパッド機能を有効/無効にします。

F4:ADM

F4 ADM はアドミニストレーターののみが使用できる機能です。この機能により、アドミニストレータは OSD の操作全体を設定・管理できます。設定を変更するには、画面で「F4:ADM」をダブルクリックするか、[↑][↓] 上下の矢印キーを使ってハイライトバーを設定したい項目まで移動させ、[Enter] キーを押してください。

項目を選択すると、F4 機能のサブメニューが表示されます。操作したいメニューをダブルクリックするか、ハイライトバーをそこまで移動させた後、[Enter] キーを押してください。選択する前に、アイコンが表示されます。設定方法は下表をご参照ください。

設定	機能
SET IP ADDRESS (IP アドレスの設定)	この機能を使うと、CL5708I/CL5716I の IP アドレスの設定方法を下記から選択することができます。 ◆ DHCP を有効にして IP アドレスを動的に割り当てる。 ◆ DHCP を無効にして、固定 IP アドレスを割り当てる。この場合、IP アドレス、ネットマスク、ゲートウェイの値を、それぞれ手入力で該当欄に設定します。 注意: デフォルトでは DHCP が無効になっています。

(表は次のページに続きます)

暫定版

設定	機能
SET LOGOUT TIMEOUT (タイムアウトの設定)	ここで設定された時間、コンソールからの入力がない場合、そのユーザーはシステムによって自動的にログアウトさせられます。ログアウトした後でコンソールを使用する場合は、再度ログインしなければなりません。 この機能はユーザーがコンピューターにアクセスする必要がなくなったのにログアウトをするのを忘れた場合、他のユーザーがそのコンピューターにアクセスできるようにするものです。タイムアウトの値を設定するには、1～180 分までの数値を入力し、[Enter]キーを押してください。0 分で設定するとこの機能を無効にします。 デフォルトは 0(無効)に設定されています。
EDIT PORT NAMES (ポートネームの設定)	製品に接続されているコンピューターを容易に識別できるよう、各ポートに名前をつけることができます。アドミニストレーターはこの機能でポートネームの設定、編集、削除をそれぞれ行うことができます。 ポートネームを編集するには以下の手順で作業してください。 1. 編集したいポートをクリックするか、[↑][↓]上下のカーソルキーを使ってハイライトバーを設定したいポートまで移動させ、[Enter]キーを押します。 2. 新しいポートネームを入力するか、以前のポートネームを訂正または削除してください。ポートネームは、最大 12 文字で入力してください。ポートネームとして使用できる文字は、下記のとおりです。 ◆ 半角英字(a～z) ◆ 半角数字(0～9) ◆ 半角記号(* () + : - , ? . /)および半角スペース なお、大文字、小文字は区別されません OSD ではポートネームはすべて大文字で表示されます。 3. ポートネームの編集を終えたら、[Enter]キーを押してその変更内容を適用してください。変更を途中で止める際には、[Esc]キーを押してください。
RESTORE DEFAULT VALUES (RESTORE)	この機能は、保存済みのポートネーム一覧、ユーザーネーム、パスワードを除いた、OSD メニューのすべての項目を工場出荷時のデフォルト値に戻します (p.276 参照)。

(表は次のページに続きます)

暫定版

設定	機能
CLEAR THE NAME LIST (ネームリストのクリア)	ポートネームの一覧を消去します。
ACTIVATE BEEPER (ビープ音の設定)	ビープ音の設定を行います。 Y (ON)または、 N (OFF)を選んでください。 Y を選ぶと、ポートが変更された時、オートスキャン機能(p.68 参照)が有効になっている時、OSD メニューで無効な入力された時に、それぞれビープ音が鳴ります。 デフォルトでは Y (ON)に設定されています。
SET QUICK VIEW PORTS (QUICK VIEW PORT の設定)	クイックビューポートとして表示するポートを選択します。この機能はアドミニストレータのみが利用できます。 ◆ クイックビューポートとして、ポートを選択/解除するには、そのポートをダブルクリックするか、[↑][↓]上下のカーソルキーでハイライトバーをそのポートに移動させて、 スペースキー を押してください。 ◆ ポートがクイックビューポートとして選択された場合、メイン画面のリストの「QV」項目にアイコンが表示されます。 ◆ LIST メニュー (p.58「F2:LIST」参照)でクイックビューオプションが選択されている場合、ここで選択されたポートだけがリストに表示されます。 ◆ オートスキャン (p.60 参照)でクイックビューオプションが選択されている場合、ここで選択されたポートだけがオートスキャンされます。 デフォルトではどのポートもクイックビューポートとして選択されていません。
RESET STATION IDS (STATION ID RESET)	デイジーチェーン接続されているステーションの位置を物理的に変更しただけでは、OSD の設定に新しい内容が反映されません。その場合は、この機能を用いて CL5708I/CL5716I に接続されているステーションをスキャンしなおし、OSD を物理的な設定に更新します。 注意: この機能ではステーションナンバーの情報のみ更新されます。ポートネームを除いたすべてのアドミニストレータの設定(アクセスポート、クイックビューポートなど)は、この変更が影響するすべてのコンピューターに対して手動で更新する必要があります。

(表は次のページに続きます)

暫定版

設定	機能
SET OPERATING SYSTEM (OS の設定)	CL5708I/CL5716I に接続されているコンピューターの OS の種類を設定します。デフォルトでは WIN(PC 互換機)に設定されています。 OS の設定は以下の手順で行ってください。 1. 一覧から、OS を設定するポートを選択してください。 2. スペースキーを押すと、選択できる項目 (WIN、MAC、SUN、OTHER) が切り替わりますので、お使いのコンピューターに適したものを選択してください。 3. 選択し終わったら[Esc]キーを押して操作を完了してください。手順 2 で選択された内容がそのポートに反映されます。
FIRMWARE UPGRADE (ファームウェアアップグレード)	製品のファームウェアをアップグレードする場合(p.226 参照)は、この項目であらかじめファームウェアアップグレードモードにしておいてください。 このメニューを起動すると、現在お使いのファームウェアのバージョン情報が表示されます。ファームウェアアップグレードモードを有効にする場合は[Y]を、ファームウェアアップグレードモードを有効にせずメニューを終了する場合は[N]をそれぞれ押してください。
KEYBOARD LANGUAGE (KEYBOARD 言語)	各ポートに接続されたコンピューターで使用するキーボードの言語の設定を行います。このキーボード言語を設定する場合は、そのポートをダブルクリックするか、上下のカーソルキー([↑][↓])でハイライトバーをそのポートに移動させて、[Enter]キーを押してください。以下の言語の選択が可能です。 AUTO : 自動 ENGLISH(US) : 英語(アメリカ) ENGLISH(UK) : 英語(イギリス) FRENCH : フランス GERMAN(GER.) : ドイツ語(ドイツ) GERMAN(SWISS) : ドイツ語(スイス) GREEK : ギリシャ語 HUNGARIAN : ハンガリー語 ITALIAN : イタリア語 JAPANESE : 日本語 KOREAN : 韓国語 RUSSIAN : ロシア語 SPANISH : スペイン語 SWEDISH : スウェーデン語 TRADITIONAL CHINESE : 中国語(繁体字) デフォルトでは AUTO (自動)に設定されています。

(表は次のページに続きます)

暫定版

設定	機能
SET CONSOLE MODE (コンソールモード の設定)	この項目では、有効にするコンソールを選択します。 MODE 0 - メイン(LCD)/セカンド(両方のコンソールを有効にする) MODE 1 - メインコンソール(LCD)のみ MODE 2 - セカンドコンソールのみ スペースキーを押すと、設定内容を切り替えます。デフォルトでは0に設定されています。

F5:SKP

この機能によって、現在表示しているポートから、前後の利用可能なコンピューターのポートに簡単にスキップすることができます。

スキップモード切替が利用できるコンピューターの選択は、「F3:SET」機能におけるスキャン/スキップモードで行うことができます。(p.60 参照)スキップモードでは以下のキーで操作を行います。

- ← 現在のポートから、リスト内の1つ前のポートにスキップします。
- 現在のポートから、リスト内の1つ後のポートにスキップします。
- ↑ 現在のポートから、リスト内の1つ前のステーションにある最後のポートにスキップします。
- ↓ 現在のポートから、リスト内の1つ後のステーションにある最初のポートにスキップします。

注意: スキップする際は、スキャン/スキップモードで選択できる前後のコンピューターにしかスキップできません (p.60 参照)。

- ◆ ポートがスキャン/スキップモードで選択されている場合、選択されたポートのポートIDの前に三角の印が表示されます。
- ◆ スキップモードが有効な場合、コンソールの通常機能は使用できません。コンソールから操作を行う場合は、スキップモードを終了する必要があります。
- ◆ スキップモードを終了する際には、**スペースキー**または**[Esc]**キーを押してください。

F6:BRC

ブロードキャストモードはアドミニストレーターのみが使用できる機能です。画面の **F6** の項目をクリックするか、**[F6]**キーを押すと、ブロードキャストモード(BRC)を起動します。この機能を使用すると、コンソールで入力したコマンドを、CL5708I/CL5716I 上の利用可能なポートに同時に実行することができます。

これは、システム全体のシャットダウンやソフトウェアのインストール/アップデート作業など、複数のコンピュータで同じ操作を繰り返し行う必要があるユーザーには特に便利な機能です。

- ◆ BRC モードが有効な場合、現在選択中のポートID の前にスピーカーマークが表示されます。
- ◆ BRC モードが有効な場合、マウスの通常機能は使用できません。マウスを使用したい場合は BRC モードを終了する必要があります。
- ◆ BRC モードを終了するには、OSD メニューを OSD 起動用ホットキーで起動し、**F6** のフィールドをクリックするか、**[F6]**キーを押してください。

F7:SCAN

画面の **F7** の項目をクリックするか、**[F7]**キーを押すと、オートスキャンモードを起動します。この機能を利用すると、手動でポート切替を行うことなく、稼動中のコンピューターを一定の間隔で自動的に切り替えて、監視することができます。

- ◆ オートスキャン時に表示するコンピューターは、スキャンモード設定の「**F3:SET**」(p.58 参照)のメニューで選択します。
- ◆ 各ポートを表示する時間間隔の設定は、「**F3:SET**」の「SCAN DURATION」(p.59 参照)で行います。任意の場所でスキャンを停止したい場合は**スペースキー**を押してください。
- ◆ KVM スイッチが選択したポートが、コンピューターが接続されていないポート、もしくは電源の入っていないコンピューターが接続されているポートである場合、モニターには何も表示されず、マウスまたはキーボードの入力に対しても何も反応しません。この場合、「SCAN DURATION」で設定された時間の経過後、オートスキャンは次のポートに切り替わります。
- ◆ オートスキャンモード中にアクセスされているポートは、画面上のポート ID の前に[S]マークが表示されています。
- ◆ オートスキャン中、通常のキーボード/マウス操作は無効になります。入力のある場合は、**スペースキー**を押してオートスキャンモードを解除してください。
- ◆ 任意のポート表示で一時停止したい場合は、キーボードで**[P]**キーを押すか、もしくはマウスを左クリックしてください。詳細については p.74 をご参照ください。
- ◆ オートスキャンモードの解除は**スペースキー**か**[Esc]**キーを押してください。

F8:LOUT

画面の **F8** の項目をクリックするか、**[F8]**キーを押すと OSD メニューからログアウトし、コンソール画面はブランクになります。これは OSD メインメニューを表示している間に**[Esc]**キーを押し、OSD を閉じる操作とは異なります。**[Esc]**キーを押した場合は、ログアウトせず OSD メニューを閉じただけですので、OSD ホットキーを押せば再度 OSD メニューにアクセスできるのに対し、この機能を使うと OSD からログアウトしますので、再度アクセスする場合は、ログインからやり直さなければなりません。

-
- 注意:**
1. OSD からログアウト後に再び OSD を表示すると、OSD メインメニュー以外はブランク画面が表示されますので、操作を続けたい場合はユーザーネームとパスワードを入力する必要があります。
 2. ログアウト後に再び KVM スイッチへログインして OSD を表示し、メニューからポートを選択しない状態で**[Esc]**キーで OSD を閉じると、ポートが選択されていない状態になり、画面には「Null Port」(無効ポート)メッセージが表示されます。このとき OSD 起動ホットキーによって OSD 画面を表示することができます。
-

第5章 キーボードによるポート操作

ホットキーによるポート操作

ホットキーを使うと、特定のポートにキーボードから直接切り替えることができます。
CL5708I/CL5716I が提供しているホットキーの機能には以下のような特長があります。

- ◆ アクティブポートの選択
- ◆ オートスキャンモードによる切替操作
- ◆ スキップモードによる切替操作
- ◆ コンピューターのキーボードおよびマウスのリセット

また、ホットキーモードでは、以下の設定を行うことも可能です。

- ◆ ビープ音の設定
- ◆ クイックホットキーの設定
- ◆ OSD ホットキーの設定
- ◆ ポート OS の設定
- ◆ OSD デフォルト値のリストア

ホットキーモードの起動

ホットキー操作を行うには、まず、ホットキーモードを起動する必要があります。¹ ローカルコンソールからのホットキーモードの起動用に 2 種類のホットキーを、また、リモートセッション (Windows クライアント/Java クライアント) からのホットキー起動用に 2 種類の代替ホットキーを、それぞれ提供していますが、一度に使用できるのは 1 種類だけです。

ローカルコンソール

ローカルコンソールからのポートアクセス時にホットキーモードを起動するには、次の操作を行ってください。

[Num Lock]キーと[-]キーの組み合わせ

1. [Num Lock]キーを押したままにしてください。
2. [-]キーを押して離してください。
3. [Num Lock]キーを離してください。

以降、このキー操作は [Num Lock] + [-] と表記します。

[Ctrl]キーと[F12]キーの組み合わせ

1. [Ctrl]キーを押したままにしてください。
2. [F12]キーを押して離してください。
3. [Ctrl]キーを離してください。

以降、このキー操作は [Ctrl] + [F12] と表記します。

ホットキーモードが有効になっている場合、CL5708I/CL5716I には以下の動作が見られます。

- ◆ モニターには、青い背景に白い文字で「HOTKEY:」と書かれたコマンドプロンプトが表示されます。ホットキーを入力すると、このプロンプトにその内容が表示されます。
- ◆ 通常のキーボード、マウスの各入力は一時的にサスペンドされ、ホットキーとして割り当てられているキー入力(後続のセクションで説明)のみが可能です。

[Esc]キーを押すとホットキーモードを終了します。

¹ OSD メニューの「HOTKEY COMMAND MODE」の項目が有効で、かつ、入力されたホットキーが正しいことを確認してください(詳細は p.49 参照)。

リモートセッション

リモートから Windows クライアントや Java クライアントを使ってポートにアクセスする場合は、次の操作でホットキーモードを起動してください。

[Scroll Lock]キー

1. [Scroll Lock]キーを 2 回連続して押してください。

[Ctrl]キー

1. [Ctrl]キーを 2 回連続して押してください。

ホットキーモードが有効になっている場合、CL5708I/CL5716I には以下の動作が見られます。

- ◆ ツールバーが画面の左上に表示されます (p.208「ポートツールバー」参照)。
- ◆ 通常のキーボード、マウスの各入力はサスペンドされ、ホットキーとして割り当てられているキー入力(後続のセクションで説明)のみが可能です。

[Esc]キーを押すとホットキーモードを終了します。

アクティブポートの選択

各ポートには固有のポート ID が割り当てられます (p.52 参照)。ホットキーでこのポート ID を指定することで、CL5708I/CL5716I に接続されているコンピューターに直接アクセスすることができます。ホットキーを使ってポートを切り替える場合は、以下の手順で操作してください。

1. **[Num Lock] + [-]**、または、**[Ctrl] + [F12]**のどちらかでホットキーモードを起動してください。
2. ポート ID を入力してください。
入力したポート ID は画面上に表示されます。入力を誤った場合は**[Backspace]**キーを使って消してください。
3. **[Enter]**キーを押してください。
[Enter]キーを押すと、先ほど指定したポートID のコンピューターが選択され、ホットキーモードが自動的に終了します。

注意: ホットキーモードで無効な値が入力されると、ポートは選択されません。ホットキーのコマンドラインは、有効な値が入力されるかホットキーモードが終了されるまで画面上で表示されたままになります。

オートスキャンモード

オートスキャンモードでは、「SCAN/SKIP MODE」でアクセスポートとして指定されたすべてのポートを自動で監視できるように、これらのポートを順番に一定の時間間隔で切り替えます。詳細については p.60 の「SCAN/SKIP MODE」をご参照ください。

オートスキャンモードの起動

オートスキャンを起動する場合は、以下の手順で操作してください。

1. [Num Lock] + [-]、または、[Ctrl] + [F12]のどちらかでホットキーモードを起動してください。
2. [A]キーを押してから[Enter]キーを押してください。この操作によってホットキーモードは自動的に終了し、オートスキャンモードを開始します。

- ◆ オートスキャンモードの実行中に、キーボードから[P]キーを押すか、マウスの左クリックをすると、特定のコンピュータでスキャンを一時停止することができます。オートスキャンの一時停止中には、コマンドラインに「Auto Scan : Paused」という文字が表示されます。オートスキャンを一旦終了すると、スキャンを再開した際に最初のポートからスキャンを始めるのに対し、一時停止機能を利用すると、再開した際には前回、一時停止したポートからスキャンを続行します。このため、オートスキャンを停止した後でスキャンを再開する必要がある場合は、後者の機能を利用したほうが便利です。オートスキャンを再開する場合は、任意のキーを押すか、マウスで左クリックをしてください。スキャンが停止していた位置から再開します。
- ◆ オートスキャンモードの実行中は、オートスキャンで有効なキー入力とマウス入力を除いた操作がサスペンドされます。通常のキー入力やマウス操作を行いたい場合は、オートスキャンを終了する必要があります。

3. オートスキャンモードを終了する場合は、[Esc]キーまたはスペースキーを押してください。オートスキャンモードを終了するとオートスキャンは終了します。

スキップモード

この機能を利用すると、コンピューターを手動で切り替えて監視することができます。この機能はオートスキャンモードとは異なり、スキャンインターバルがありませんので、選択したポートを時間の制限にしばられることなく、好きなだけポートを選択しておくことができます。スキップモードを起動する場合は、以下の手順で操作してください。

1. [Num Lock] + [-]、または、[Ctrl] + [F12]のどちらかでホットキーモードを起動してください。
2. 切替対象となるポートに応じて、カーソルキーを押してください。
 - ◆ カーソルキーを押すと、ホットキーモードを自動的に終了し、その操作を行ったときに表示していたポートからスキップモードを開始します。各カーソルキーの機能は以下のとおりです。

←	現在のポートから、前のアクセス可能なポートにスキップします(アクセスポートに関する詳細は p.60「SCAN/SKIP MODE」を参照)。
→	現在のポートから、次のアクセス可能なポートにスキップします。
↑	現在のポートから、前のステーションにある最後にアクセス可能なポートにスキップします。
↓	現在のポートから、次のステーションにある最初にアクセス可能なポートにスキップします。

- ◆ スキップモードの実行中は、カーソルキーを押すだけでポートのスキップを行うことができますので、操作のたびに[Num Lock] + [-]などでホットキーモードを起動する必要はありません。
 - ◆ スキップモードの実行中は、スキップモードの機能として割り当てられているキー入力を除いたキーボードおよびマウスの操作がサスペンドされます。コンソールを通常使用した場合はスキップモードを終了する必要があります。
3. スキップモードを終了する場合は、[Esc]キーまたはスペースキーを押してください。

コンピューターのキーボード/マウスのリセット

製品に接続されたコンピューターの操作中にキーボードまたはマウスが機能しなくなった場合は、キーボードとマウスのリセットを行うことができます。この機能を使うと、そのコンピューターで実際にキーボードとマウスを抜き差しした時と同じ効果を得られます。キーボードとマウスのリセットを行う場合は、以下の手順で操作してください。

1. [Num Lock] + [-]、または、[Ctrl] + [F12]のどちらかでホットキーモードを起動してください。
2. [F5]キーを押してください。

[F5]キーを押すと、自動的にホットキーモードを開始し、そのポートに接続されているコンピューターでキーボードとマウスが再びお使いいただけるようになります。上記の手順でリセットを行っても問題が解決しない場合は、コンソールキーボードとマウスのリセットを実行してください。方法の詳細は p.28 に記載されておりますので、そちらをご参照ください。

ホットキーによるビープ音の切替

ビープ音 (p.62 参照) はホットキーを使って有効または無効にすることが可能です。ビープ音の設定を変更する場合は、以下の手順で操作してください。

1. [Num Lock] + [-]、または、[Ctrl] + [F12]のどちらかでホットキーモードを起動してください。
2. [B]キーを押してください。

[B]キーを押すと、ビープ音が有効または無効に切り替わり、画面上に 1 秒間、「Beeper On」または「Beeper Off」の文字が表示された後、ホットキーモードを自動的に終了します。

クイックホットキーの切替

クイックホットキー (p.60「HOTKEY」参照) は、[Num Lock] + [-]、または、[Ctrl] + [F12] に切り替えることができます。クイックホットキーを変更する場合は、以下の手順で操作してください。

1. [Num Lock] + [-]、または、[Ctrl] + [F12] のどちらかでホットキーモードを起動してください。
2. [H] キーを押してください。

[H] キーを押すと、コマンドラインに「HOTKEY HAS BEEN CHANGED」というメッセージが 1 秒間表示され、ホットキーモードは自動的に終了します。

OSD ホットキーの切替

OSD ホットキー (p.59「OSD HOTKEY」参照) は、[Scroll Lock] キー 2 度押し、または [Ctrl] キー 2 度押しに切り替えることができます。OSD ホットキーを変更する場合は、以下の手順で操作してください。

1. [Num Lock] + [-]、または、[Ctrl] + [F12] のどちらかでホットキーモードを起動してください。
2. [T] キーを押してください。

[T] キーを押すと、コマンドラインに「HOTKEY HAS BEEN CHANGED」というメッセージが 1 秒間表示され、ホットキーモードは自動的に終了します。

ポート OS の変更

ポートに接続されているコンピューターの OS と一致するように CL5708I/CL5716I 側でポート OS を設定することができます。ポート OS を変更する場合は、以下の手順で操作してください。

1. [Num Lock] + [-], または、[Ctrl] + [F12] のどちらかでホットキーモードを起動してください。
2. 下表から設定変更の対象となるポートに適した OS を選択し、該当するファンクションキーを押してください。

ファンクションキー	説明
F1	ポート OS を Windows に設定します。
F2	ポート OS を Mac に設定します。
F3	ポート OS を Sun に設定します。

ファンクションキーを押すと、ホットキーモードは自動的に終了します。

デフォルト値のリストア

これはアドミニストレーターに限定された機能で、工場出荷時におけるデフォルト値を CL5708I/CL5716I にリストアします (p.62「RESTORE DEFAULT VALUES」参照)。デフォルト値をリストアする場合は、以下の手順で操作してください。

1. [Num Lock] + [-], または、[Ctrl] + [F12] のどちらかでホットキーモードを起動してください。
2. [R] キーを押してください。
3. [Enter] キーを押してください。

[Enter] キーを押すと、コマンドラインに「RESET TO DEFAULT SETTING」というメッセージが 3 秒間表示され、ホットキーモードが自動的に終了します。

ホットキー一覧表

[Num Lock] + [-] または [Ctrl] + [F12]	[A] [Enter] または [Q] [Enter]	オートスキャンモードを実行します。 オートスキャンモードを実行中にキーボードの[P]キーを押すかマウスで左クリックをすると、オートスキャンを一時停止します。 オートスキャンが一時停止している際に任意のキーを押すか、マウスでもう一度左クリックをすると、オートスキャンを再開します。
	[B]	ビープ音を ON または OFF に切り替えます。
	[Esc] または スペースキー	ホットキーモードを終了します。
	[F1]	ポート OS を Windows に設定します。
	[F2]	ポート OS を Mac に設定します。
	[F3]	ポート OS を Sun に設定します。
	[F5]	現在選択しているポートのキーボードとマウスのリセットを行います。
	[H]	クイックホットキーを[Ctrl] + [F12]または[Num Lock] + [-]に変更します。
	[R] [Enter]	工場出荷時にデフォルト値を CL5708I/CL5716I にリストアします (p.62 「 RESTORE DEFAULT VALUE」参照)。(アドミニストレーター限定機能)

(表は次のページに続きます)

暫定版

[Num Lock] + [-] または [Ctrl] + [F12]	[ステーションナンバー] [ポートナンバー] [Enter]	指定したステーションの指定したポートに切り替えます。 例:01-04 [Enter] →スイッチ 01 のポート 04 に切替 ステーションナンバーとポートナンバーの間には必ず「-」(半角ハイフン)を入れてください。 注意: ポート ID の付番方法に関する詳細は p.52 をご参照ください。
	[T]	OSD ホットキーを[Ctrl]キー2 度押し、または[Scroll Lock]キー2 度押しに変更します。
	[←]	スキップモードを起動し、一つ前のアクセス可能なポートに切り替えます。
	[→]	スキップモードを起動し、一つ後ろのアクセス可能なポートに切り替えます。
	[↑]	スキップモードを起動し、前のステーションにある最後にアクセス可能なポートに切り替えます。
	[↓]	スキップモードを起動し、次のステーションにある最初にアクセス可能なポートに切り替えます。

第6章 ログイン

概要

CL5708I/CL5716I へのアクセスは、リモートアクセスするクライアントコンピュータ上から、Web ブラウザ、Windows アプリケーション、Java アプリケーションを使って行うことができます。

上記のどの方法でも、製品にアクセスする際には有効なユーザーネームとパスワードが必要です。無効なアカウントでログインした場合、画面上には「Invalid Username or Password」(ユーザーネームまたはパスワードが正しくありません)または「Login Failed」(ログイン失敗)のエラーメッセージが表示されます。このような場合は、ユーザーネームとパスワードを正しく入力し、再ログインしてください。

注意: ログインに連続して失敗した回数が、スーパーアドミニストレーターによって設定されたログイン再試行可能回数を超えると、タイムアウト機能が作動します。その場合は、次のログインまで、ある一定の時間待機しなければなりません。詳細については p.176 「ログイン失敗」をご参照ください。

ブラウザからのログイン

製品には、各種プラットフォームの Web ブラウザからアクセスすることができます。製品にアクセスする場合は、以下の手順で操作してください。

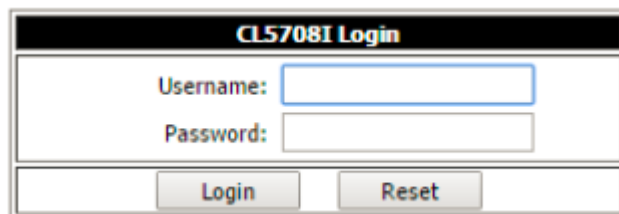
1. Web ブラウザを起動し、アクセス対象となる製品の IP アドレスを URL バーに入力して[Enter] キーを押してください。

注意: 例えば、IP アドレスが「192.168.0.100」に設定されている場合は、URL バーに下記のようにアドレスを入力してアクセスします。

192.168.0.100

お使いの環境における IP アドレスがご不明な場合は、本製品の管理者までお問い合わせください。

2. セキュリティ証明書に関する警告メッセージが表示される場合がありますが、本製品の証明書は信頼できるものですので、これを受け入れてください(詳細は p.268「信頼された証明書」参照)。同様のメッセージが再表示された場合も、同じように受け入れてください。
証明書を受け入れると、以下のようなログイン画面が表示されます。

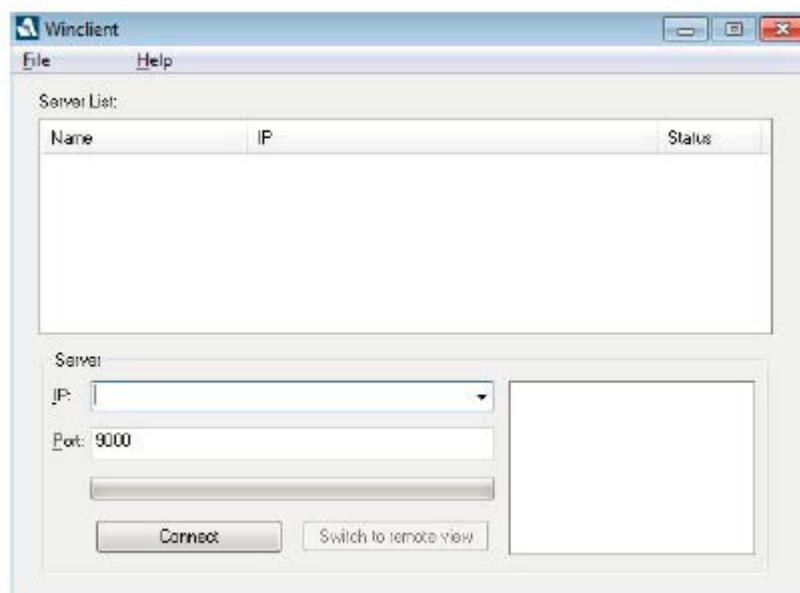
The image shows a login interface for a device labeled 'CL5708I'. At the top, there is a black header with the text 'CL5708I Login' in yellow. Below the header, there are two input fields: 'Username:' and 'Password:'. The 'Username:' field is currently selected with a blue border. Below these fields are two buttons: 'Login' and 'Reset'.

3. 製品で(アドミニストレーターによって設定された)有効なユーザーネームとパスワードを入力し、「Login」(ログイン)ボタンをクリックしてログインしてください。Web ブラウザのメイン画面に関する詳細は、p.91 をご参照ください。

Windows クライアントからのログイン

Web ブラウザによる製品へのアクセスが許可されていない環境で、Windows をお使いのユーザーは Windows クライアントアプリケーションを使うことで製品に直接リモートアクセスすることができます(ただし、このアプリケーションは初回のみ Web ブラウザからダウンロードする必要があります。詳細は p.204 をご参照ください)。

この方法で製品に接続する場合は、お使いのコンピュータで事前にダウンロードしておいたアプリケーション版 Windows クライアントのフォルダーに移動し、プログラムのアイコン(WinClient.exe)をダブルクリックしてください。この操作で以下のような Windows クライアント接続画面が起動します。



接続画面

接続画面に表示される項目の内容は下表のとおりです。

項目	説明
メニューバー	メニューバーには「File」(ファイル)、「Help」(ヘルプ)の 2 つのメニューを提供しています。 ◆ 「File」(ファイル)メニューでは、ユーザーが作成した作業ファイルを新規作成したり、保存したり、開いたりすることができます(p.87 参照)。 ◆ 「Help」(ヘルプ)メニューでは、Windows クライアントのバージョンを確認することができます。
Server List (サーバーリスト)	Windows クライアントを起動すると、そのツールがインストールされているコンピューターと同じネットワークセグメントにある製品を自動検出し、リストに表示します。製品にアクセスする場合は、対象となるデバイスをダブルクリックしてください(p.85 参照)。 注意: 1. 「Enable Device List」(デバイス一覧を有効にする)の設定が有効になっていないデバイスは一覧に表示されません。詳細については、p.184「動作モード」の内容をご確認ください。 2. 「Access Port」(アクセスポート)の「Program」(プログラム)の設定が、このダイアログボックスの「Server」(サーバー)の「Port」(ポート)に設定された番号と一致しているユニットのみ、このリストに表示されます (p.169 参照)。
Server (サーバー)	製品にリモートアクセスする際にこの欄を使用します。IP のリストボックスを開いて、対象となるアドレスを選択してください。このリストボックスに目的のデバイスがない場合は、対象デバイスの IP アドレスをこのリストに、また、ポート番号を「Port」(ポート)欄にそれぞれ入力してアクセスすることもできます。(ポート番号が不明な場合は、お使いの製品の管理者にご確認ください。) ◆ IP アドレスとポート番号を入力したら、「Connect」(接続)ボタンをクリックしてください(p.85 参照)。 ◆ 製品での操作が終了し、セッションを切断する場合は「Disconnect」(切断)ボタンをクリックしてください。

(表は次のページに続きます)

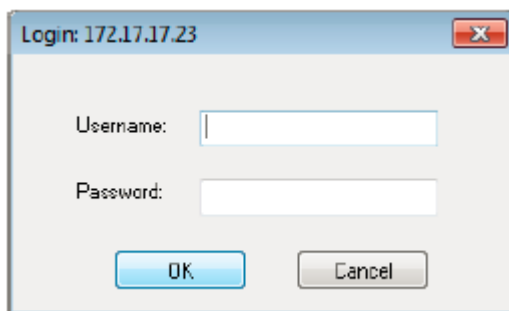
暫定版

項目	説明
メッセージパネル	サーバーパネルの右側にあるパネルで、製品との接続に関するステータスメッセージが表示されます。
Switch to Remote View (リモートビューに切替)	製品との接続が確立(p.85 参照)して初めて、このボタンが有効になります。このボタンをクリックすると、Windows クライアントのメイン画面に切り替わります。Windows クライアントのメイン画面の詳細については p.95 をご参照ください。

Windows クライアント AP を使った接続方法

Windows クライアント AP を使って製品に接続する場合は、下記の手順で操作してください。

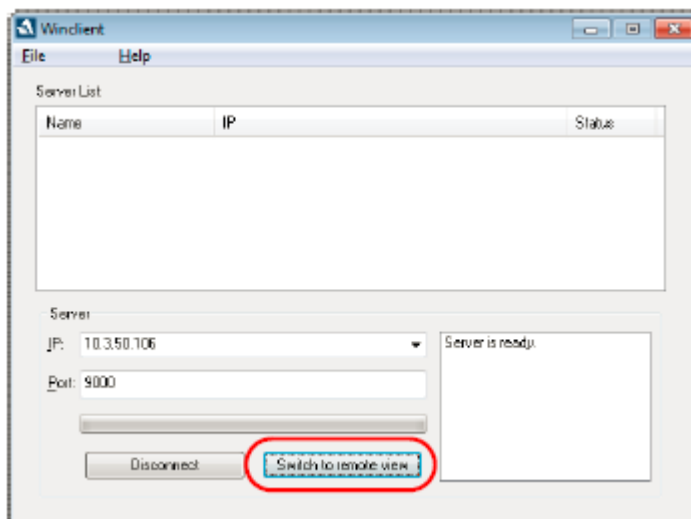
- 「Server List」(サーバーリスト)から接続対象となるデバイスを選択し、**ダブルクリック**してください。
－ または －
「Server」(サーバー)の「IP」欄にデバイスの IP アドレスを、「Port」(ポート)欄にポート番号をそれぞれ入力してください。
- 「**Connect**」(接続)ボタンをクリックしてください。ボタンをクリックすると、下図のようなログインダイアログが表示されます。

A screenshot of a Windows-style login dialog box. The title bar is blue and contains the text "Login: 172.17.17.23" and a red close button. The main area is light gray and contains two labels: "Username:" and "Password:". Each label is followed by a white text input field. At the bottom, there are two buttons: a blue "OK" button and a gray "Cancel" button.

- 有効なユーザーネームとパスワードをダイアログに入力して、「OK」ボタンをクリックしてください。

暫定版

4. 認証に成功すると、「Switch to Remote View」(リモートビューに切替)ボタンがアクティブになります。このボタンをクリックして製品に接続してください。接続されると GUI メイン画面が表示されます。この GUI メイン画面の詳細については p.92 をご参照ください。



ファイルメニュー

「File」(ファイル)メニューでは、ユーザーが作成した作業ファイルの新規作成を行ったり、また、そのファイルを保存したり開いたりすることができます。この作業ファイルはクライアントセッションで定義された全情報から構成されており、「Server List」(サーバーリスト)と「Server IP」(サーバーIP)の項目やホットキーの設定が保存されています。

ユーザーがクライアントプログラムを起動すると、現在の作業ファイルに書き込まれている値を読み込みます。なお、現在の作業ファイルには、前回プログラムが終了した際に有効だった値が保存されています。

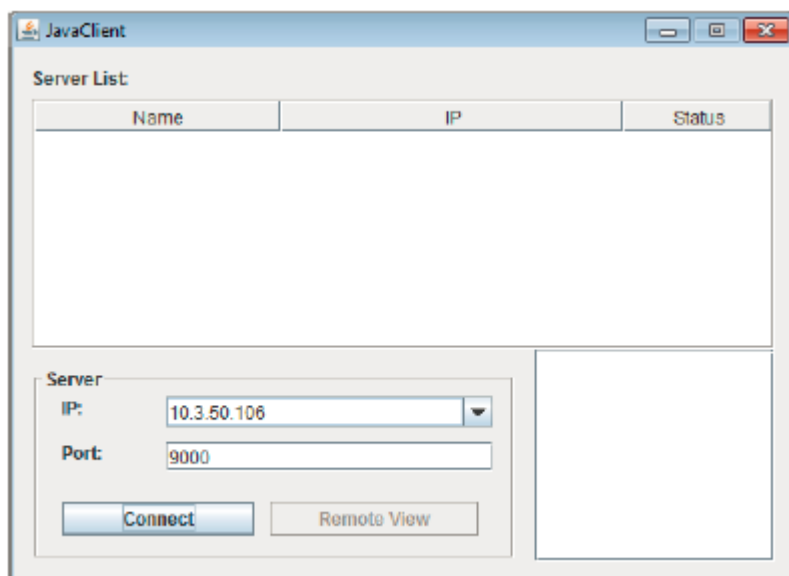
「File」(ファイル)メニューのサブメニューは下表のとおりです。

メニュー	説明
New (新規作成)	ファイルの新規作成を行います。このファイルに現在の値を保存しておくことで、後でその値を呼び出して使用することができます。
Open (開く)	過去に保存された作業ファイルを開き、その値を読み込みます。
Save (保存)	現在有効な値を使用中の作業ファイルに保存します。
Exit (終了)	Windows クライアントプログラムを終了します。

Java クライアントからのログイン

Web ブラウザによる製品へのアクセスが許可されていない環境で、Windows 以外の OS をお使いのユーザーは、Java クライアントアプリケーションを使うことで製品に直接リモートアクセスすることができます(ただし、このアプリケーションは初回のみ Web ブラウザからダウンロードする必要があります。詳細は p.204 をご参照ください)。

この方法で製品に接続する場合は、事前にお使いのコンピューターにダウンロードしておいたアプリケーション版 Java クライアントのフォルダーに移動し、プログラムのアイコン (JavaClient.jar) をダブルクリックしてください。この操作で下図のような Java クライアント接続画面が起動します。



接続画面

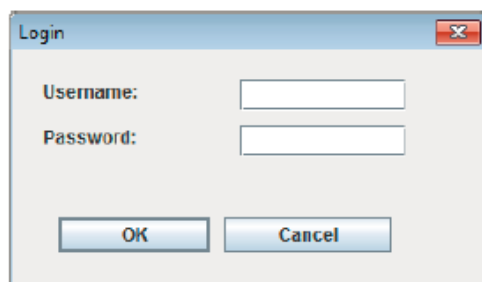
接続画面に表示される項目の内容は下表のとおりです。

項目	説明
Server List (サーバーリスト)	Java クライアントを起動すると、そのツールがインストールされているコンピュータと同じネットワークセグメントにある製品を自動検出し、リストに表示します。製品にアクセスする場合は、対象となるデバイスをダブルクリックしてください(p.85 参照)。 注意: 「Enable Device List」(デバイス一覧を有効にする)の設定が有効になっていないデバイスは一覧に表示されません。詳細については、p.184「動作モード」の内容をご確認ください。 「Access Port」(アクセスポート)の「Program」(プログラム)の設定が、このダイアログボックスの「Server」(サーバー)の「Port」(ポート)に設定された番号と一致しているユニットのみ、このリストに表示されます(p.169 参照)。
Server (サーバー)	製品にリモートアクセスする際にこの欄を使用します。IP のリストボックスを開いて、対象となるアドレスを選択してください。IP アドレスのリストボックスに目的のデバイスがない場合は、対象デバイスの IP アドレスをこのリストに、ポート番号を「Port」(ポート)欄にそれぞれ入力してアクセスすることもできます。(ポート番号が不明な場合は、お使いの製品の管理者にご確認ください。) ◆ IP アドレスとポート番号を入力したら、「Connect」(接続)ボタンをクリックしてください(p.85 参照)。 ◆ 製品での操作が終了し、セッションを切断する場合は「Disconnect」(切断)ボタンをクリックしてください。
メッセージパネル	サーバーパネルの右側にあるパネルで、製品との接続に関するステータスメッセージが表示されます。
Switch to Remote View (リモートビューに切替)	製品との接続が確立(p.85 参照)して初めて、このボタンが有効になります。このボタンをクリックすると、アプリケーション GUI のメイン画面に切り替わります。GUI のメイン画面の詳細については p.95 をご参照ください。

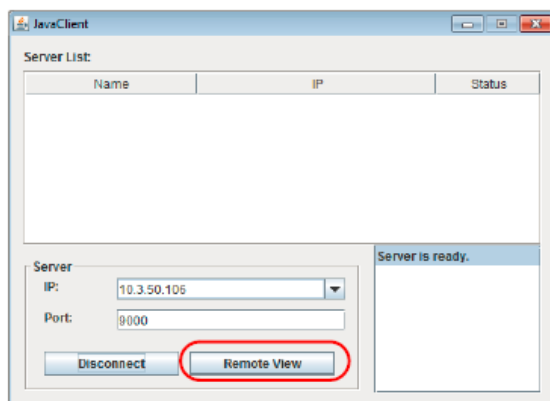
Java クライアント AP を使った接続方法

Java クライアント AP を使って製品に接続する場合は、下記の手順で操作してください。

1. 「Server List」(サーバーリスト)から接続対象となるデバイスを選択し、**ダブルクリック**してください。
- または -
「Server」(サーバー)の「IP」欄にデバイスの IP アドレスを、「Port」(ポート)欄にポート番号をそれぞれ入力してください。
2. 「**Connect**」(接続)ボタンをクリックしてください。ボタンをクリックすると、下図のようなログインダイアログが表示されます。



3. 有効なユーザーネームとパスワードをダイアログに入力して、「OK」ボタンをクリックしてください。
4. 認証に成功すると、「Switch to Remote View」(リモートビューに切替)ボタンがアクティブになります。このボタンをクリックして製品に接続してください。接続されると GUI メイン画面が表示されます。この GUI メイン画面の詳細については p.92 をご参照ください。



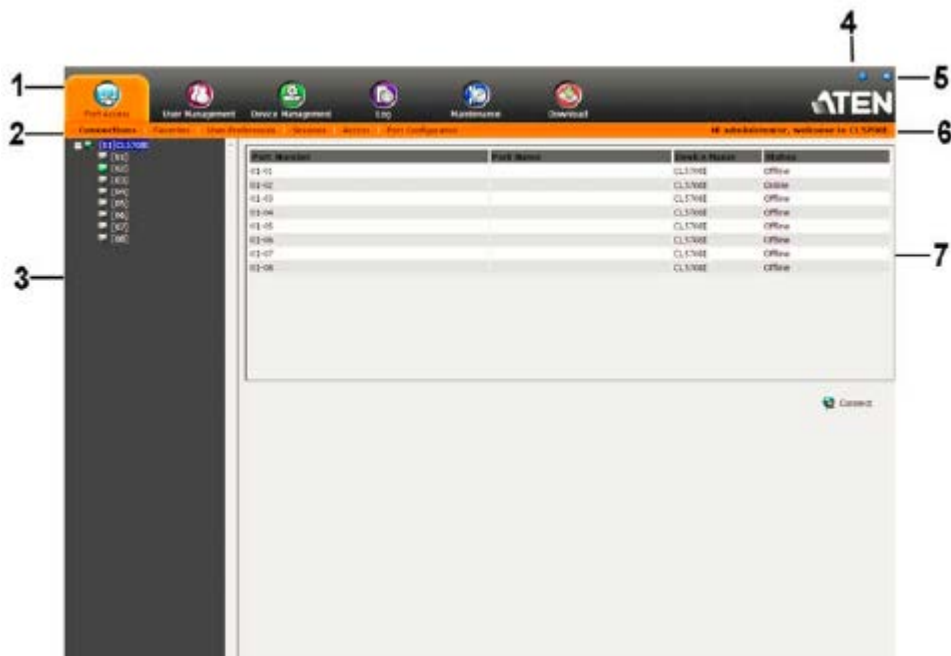
第7章 ユーザーインターフェース

概要

製品へのログインに成功すると、メインメニューの画面が表示されます。製品へのアクセス方法によって画面の表示は若干異なりますが、基本機能は共通です。各インターフェースは次のセクションで説明しています。

Web ブラウザメイン画面

マルチプラットフォーム環境から操作できるように、製品へのアクセスは標準的な Web ブラウザを使って行います。ユーザーのログイン認証 (p.82 参照) が完了すると、Web ブラウザのメイン画面の「Port Access」(ポートアクセス)メニューが初期表示されます。



注意: 上図はスーパーアドミニストレーターでログインした場合の表示画面です。ユーザーの種類や権限によっては、表示されないメニューもあります。

画面内の構成要素

Web メニューの項目は下表のとおりです。

No.	アイテム	説明
1	タブ	操作のメインカテゴリーがメニュー別にタブ表示されます。表示タブはユーザーアカウントが作成された際にユーザータイプやユーザーに与えられた権限によって決まります。
2	メニューバー	タブで選択された操作に関連するサブカテゴリーが表示されます。この部分に表示される項目はユーザーアカウントが作成された際にユーザータイプやユーザーに与えられた権限によって決まります。
3	サイドバー	操作中のタブやメニューバーに対応したポートリストがこの部分に表示されます。サイドバーのノードをクリックすると、その詳細画面が表示されます。 サイドバーの下にある「Filter」(フィルター) ボタンを使うと、ツリーに表示されるポートの範囲を変更することができます。フィルター機能については p.132 をご参照ください。
4	About (バージョン情報)	製品に現在インストールされているファームウェアのバージョンに関する詳細が表示されます。
5	ログアウト	現在のセッションからログアウトします。
6	ウェルカムメッセージ	この機能が有効になっている場合 (p.145 参照)、ウェルカムメッセージがこの部分に表示されます。
7	詳細表示パネル	メインの作業領域です。選択されたメニューやサイドバーのノードに応じたメニューが表示されます。

タブメニュー

ページ上部のタブバーに表示されるアイコンの数およびタイプは、ユーザータイプ(スーパーアドミニストレーター、アドミニストレーター、ユーザー)や、ユーザーに付与された操作権限によって決定します。各アイコンが表す機能は下表のとおりです。

アイコン	機能
	Port Access (ポートアクセス) ：製品に接続されているデバイスへのアクセスや操作を行います。このメニューはすべてのユーザーがアクセス可能です。
	User Management (アカウント) ：ユーザーやグループの作成・管理を行います。また、デバイスをユーザーやグループに割り当てることもできます。本メニューの詳細については p.155 をご参照ください。なお、これは、スーパーアドミニストレーターと、ユーザー管理権限のあるアドミニストレーターやユーザーのみアクセス可能なメニューです。
	Device Management (設定) ：製品の操作に関する項目の設定・管理を行います。なお、これはスーパーアドミニストレーター、およびデバイス管理権限のあるアドミニストレーターやユーザーのみがアクセス可能なメニューです。
	Log (ログ) ：ログファイルの内容を表示します。このメニューの詳細については p.191 をご参照ください。
	Maintenance (ファームウェア) ：製品のファームウェアアップグレード、設定およびアカウント情報のバックアップ・リストア、ping コマンドによるネットワークデバイス診断、デフォルト値のリストアを行います。詳細については p.220 をご参照ください。なお、これはスーパーアドミニストレーター(およびメンテナンス権限のあるアドミニストレーターとユーザー)がアクセス可能なメニューです。
	Download (ダウンロード) ：権限のあるユーザーはこのメニューから Windows クライアント、Java クライアント、ログサーバーをそれぞれダウンロードすることができます。なお、これはすべてのユーザーがアクセス可能なメニューですが、ダウンロードできるのは操作権限のあるアプリケーションのみです。

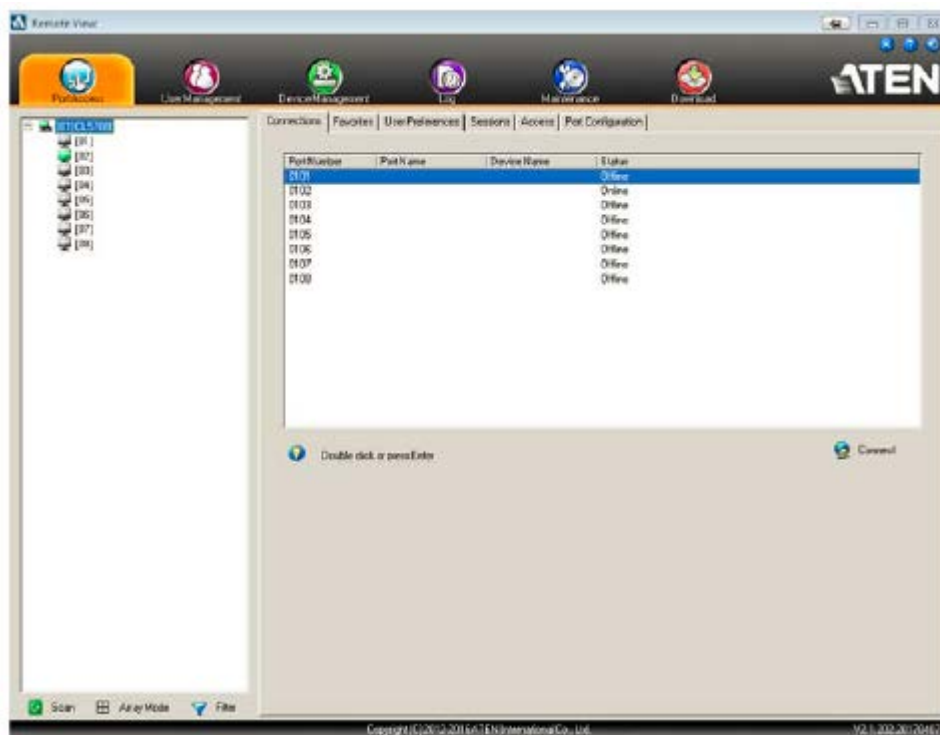
暫定版

これ以外に、画面右上には、以下のアイコンが表示されます。各アイコンが表す機能は下表のとおりです。

アイコン	機能
	現在、製品にインストールされているファームウェアのバージョン情報を表示します。
	現在のセッションからログアウトします。

クライアントアプリケーションのメイン画面

アプリケーション版の Windows クライアントや Java クライアントから製品にアクセスした場合、ログイン(p.81 参照)すると下図のようなメイン画面が表示されます。



アプリケーション版のメイン画面は Web ブラウザのメイン画面と基本的に同様ですが、以下の点が異なりますので、ご注意ください。

1. アプリケーション版ではタブの下のメニューバーがありません。Web ブラウザ版のメニューバーに表示されているものはアプリケーション版ではタブメニューとして表示されます。なお、このタブメニューは上部のタブに対応したメニューに切り替わります。
2. アプリケーション版では、「Filter」(フィルター)ボタンの他に、「Scan」(スキャン)、「Array Mode」(アレイモード)の各ボタンがサイドバー下部に表示されます。これらの機能については第 8 章「ポートアクセス」をご参照ください。

暫定版

- アプリケーション版では、画面の上部または下部の中央にマウスカーソルを移動させると、コントロールパネルが表示されます。デフォルトでは画面上部の中央に表示されます。
- アプリケーション版では画面右上に「閉じる」ボタン  があります。このアイコンをクリックすると、GUI メイン画面を終了し、最後に選択したポートを表示します。
- アプリケーション版では以下のホットキーを使用することができます。

キー	アクション
Ctrl + P	「Port Access」(ポートアクセス)タブを開きます。
Ctrl + U	「User Management」(アカウント) タブを開きます。
Ctrl + C	「Device Management」(設定) タブを開きます。
Ctrl + L	「Log」(ログ) タブを開きます。
Ctrl + M	「Maintenance」(ファームウェア) タブを開きます。
Ctrl + D	「Download」(ダウンロード) タブを開きます。
F1	「About」(バージョン情報)を参照します。
F2	選択されたポートのポート名前を編集します。
F4	サイドバー(左)パネルを選択します。
F5	メイン(右)パネルを選択します。
F7	GUI を終了します。
F8	ログアウトします。

コントロールパネル

Windows クライアントコントロールパネル

Windows クライアントのコントロールパネルは、Web ブラウザ版、アプリケーション版ともに、すべてのユーザーインターフェースのコントロールパネルの機能を網羅していますので、本セクションでは Windows クライアントのコントロールパネルについて説明します。Java クライアントのコントロールパネルは、Windows クライアントのコントロールパネルに比べて機能が少ないですが、使用方法は同じですので、このセクションを参考にしてください。

Windows クライアントのコントロールパネルは画面上部または下部（通常は画面上部）の中央に隠れていますが、この部分にマウスカーソルを移動させると下図のようなメニューが表示されます。このコントロールパネルは、上段のアイコン、下段のテキストバー(2 行)から構成されています。

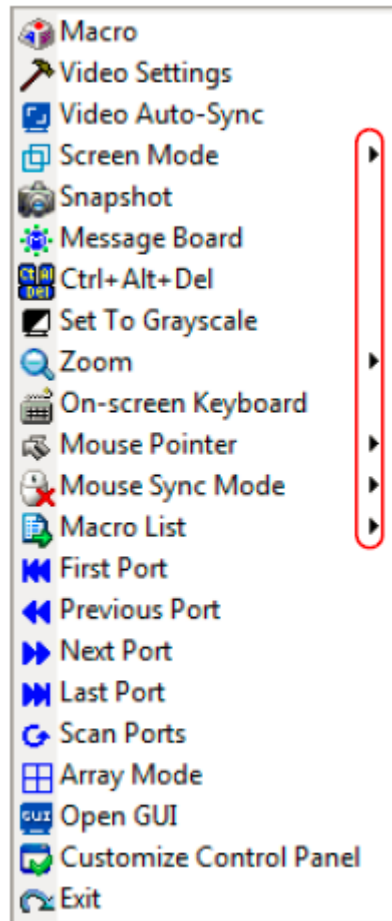


注意: 上図は全メニューが表示された場合のコントロールパネルの外観です。表示するアイコンはカスタマイズが可能です。詳細については p.124「コントロールパネルの環境設定」をご参照ください。

- ◆ デフォルトでは、上部テキスト行の左側にはリモートディスプレイの解像度が表示されますが、マウスをアイコンバーのアイコンの上に移動させると、そのアイコンの機能がこの部分に表示されます。また、メッセージボードが立ち上がっていないときに、他のユーザーからメッセージを受け取ると、メッセージがこの部分に表示されます。
- ◆ 最下段のテキストバーの左端には現在アクセス中のデバイスの IP アドレスが表示されます。
- ◆ 最下段中央の部分では、スラッシュの前にはユーザーが使用中のバス番号が、後ろにはそのバスを使用中のユーザー数がそれぞれ表示されます（詳細は p.126「バス情報」を参照）。例えば、上図における「C1/2」という表示は、1 番のバスには 2 人のユーザーが接続していることを表しています。

暫定版

- ◆ テキスト行でマウスを右クリックすると、ツールバーの内容がメニュー形式で表示されます。また、「Screen Mode」(スクリーンモード)、「Zoom」(ズーム)、「Mouse Pointer」(マウスポインター)、「Mouse Sync Mode」(マウス同期モード)、「Macro List」(マクロ一覧、マクロ一覧はユーザーマクロの作成後に表示)の各メニューからはサブメニューが選択できます。これらの機能については後続のセクションで説明します。



- ◆ コントロールパネルを画面上の別の場所に移動させたい場合は、テキストバーの部分をマウスでクリックし、ドラッグしてください。

コントロールパネルの機能

コントロールパネルの各機能は下表のとおりです。

アイコン	機能
	このアイコンをクリックすると、コントロールパネルを常に前面に表示します。もう一度このアイコンをクリックすると、通常の状態に戻します。
	マクロダイアログ (p.102 参照) を起動します。
	ビデオオプションダイアログを起動します。また、右クリックでクイックオートシンク (p.110「ビデオ設定」参照) を実行します。
	ビデオとマウスの自動同期を実行します。これは、「Video Options」(ビデオオプション) ダイアログ (p.110 参照) の「Auto-sync」(自動同期) ボタンと同じ機能を提供します。
	画面表示をフルスクリーンモードまたはウィンドウモードに切り替えます。
	リモート画面のスナップショット(画面キャプチャ)を取得します。スナップショットの設定項目に関する詳細は p.126「スナップショット」をご参照ください。
	メッセージボード (p.115 参照) を起動します。
	[Ctrl] + [Alt] + [Delete]の信号をリモートコンピューターに送信します。
	画面表示をカラーまたはモノクロに変更します。
	リモート画面をズーム表示します。 注意: この機能はウィンドウモード(フルスクリーンモードが OFF)の場合にのみご利用いただけます。詳細については p.118「ズーム」をご参照ください。
	オンスクリーンキーボード (p.119 参照) を起動します。
	マウスポインターの種類を選択します。 注意: このアイコンは選択されたマウスポインターの種類に応じて変わります (p.121「マウスポインタータイプ」参照)。

(表は次のページに続きます)

暫定版

アイコン	機能
	マウス同期を自動または手動で行います。 ◆ 「Automatic」(自動)を選択すると、アイコンに緑色のチェックマークが表示されます。 ◆ 「Manual」(手動)を選択すると、アイコンに赤色の×マークが表示されます。 この機能に関する詳細については、p.122「マウスダイナシンクモード」をご参照ください。
	ユーザーマクロのドロップダウンリストを表示します。マクロへのアクセスやマクロの実行は、「Macro」(マクロ)ダイアログを使うよりもこの機能を使った方が簡単です。「Macro」(マクロ)ダイアログについては表の上部にあるマクロの項目、または p.102 のマクロに関する記載をご参照ください。
	ポートにアクセスしている際にクリックすると、「Port Access」(ポートアクセス)タブを呼び出すことなく、現在の機器構成における、最初にアクセス可能なポートに移動します。
	ポートにアクセスしている際にクリックすると、「Port Access」(ポートアクセス)タブを呼び出すことなく、一つ前のアクセス可能なポートに移動します。
	ポートにアクセスしている際にクリックすると、「Port Access」(ポートアクセス)タブを呼び出すことなく、次のアクセス可能なポートに移動します。
	ポートにアクセスしている際にクリックすると、「Port Access」(ポートアクセス)タブを呼び出すことなく、現在の機器構成における、最後にアクセス可能なポートに移動します。
	ポートにアクセスしている際にクリックすると、オートスキャンモードを開始します。製品は、オートスキャンの対象となるポートをポート選択とフィルター機能 (p.132 参照) の条件に従って自動的に切り替えます。これによって、コンピューターを手動で切り替えることなく、連続的にポートの状態をモニタリングすることができます。
	ポートにアクセスしている際にクリックすると、パネルアレイモードを起動します (p.213 参照)。
	ポートにアクセスしている際に GUI メニューを呼び出します。
	コントロールパネルの環境設定ダイアログを起動します。コントロールパネルの環境設定に関する詳細は、p.124 をご参照ください。

(表は次のページに続きます)

アイコン	機能
	リモートビューを終了します。 ◆ Web ブラウザから操作している場合は、Web ブラウザのメイン画面に戻ります。 ◆ アプリケーション版 Windows クライアントのセッションから終了した場合は、現在のセッションからログアウトし、Windows クライアントのログインダイアログ (p.83 参照)に戻ります。 ◆ アプリケーション版 Java クライアントのセッションから終了すると、現在のセッションからログアウトし、Java クライアントのログインダイアログ (p.88 参照)に戻ります。
	このアイコンは、リモートコンピューターの [Num Lock]、[Caps Lock]、[Scroll Lock] 各キーの状態を表します。 ◆ キーが有効になっていると、そのキーの LED が明るいグリーンに点灯し、錠前が閉じたアイコンが表示されます。 ◆ キーが無効になっていると、そのキーの LED は暗いグリーンに点灯し、錠前が開いたアイコンが表示されます。 ロックキーを有効または無効にする場合は、対象のアイコンをクリックして表示を切り替えてください。 注意:これらのアイコンはローカルキーボードのアイコンと同期します。アイコンをクリックすると、お使いのキーボード上にある当該 LED もこのアイコンに合わせて ON または OFF に切り替わります。キーボードの当該キーを押した時も同様に、このアイコンの表示が切り替わります。



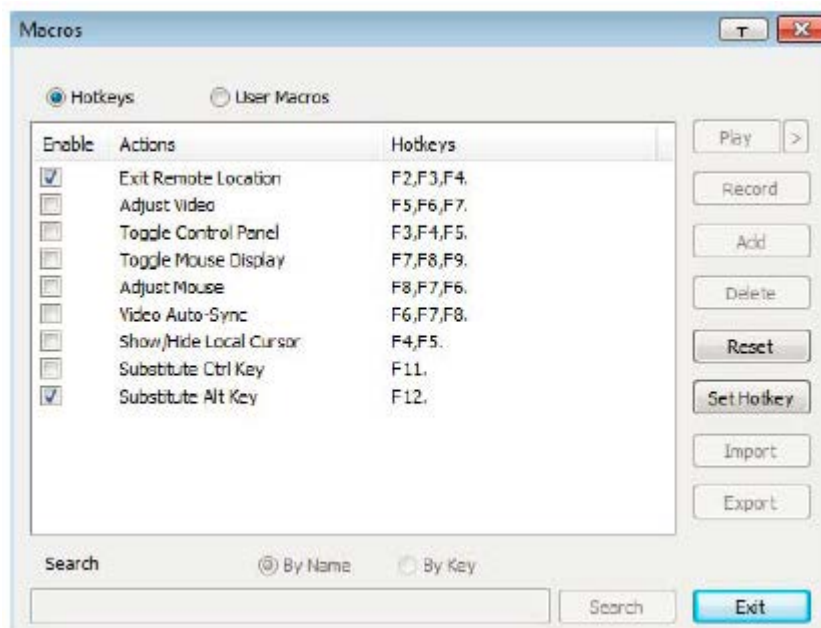
マクロ

この機能を使うと、「Macros」(マクロ)ダイアログが起動し、ホットキーとユーザーマクロの管理を行うことが可能です。これらの機能の詳細については以下のセクションで説明します。

ホットキー

リモートサーバーへの様々な操作はホットキーを使って実行することができます。ホットキーセットアップユーティリティー(このアイコンをクリックして起動)を使えば、ホットキーがどの操作を実行するかを設定することができます。

右パネルには実行時のホットキーが表示されます。操作名の左にあるチェックボックスを操作するとホットキーを有効または無効に切り替えることができます。



暫定版

デフォルトのホットキーでは不都合が生じる場合は、デフォルトの設定を変更することができます。変更手順は以下のとおりです。

1. 変更の対象となるアクションの行を選択し、「**Set Hotkey**」(ホットキーの設定)ボタンをクリックしてください。
2. 新しいホットキーを入力してください(キーは一つずつ押してください)。キーを押すと、そのキーの名前が「Hotkeys」(ホットキー)の欄に表示されます。
 - ◆ キーを入力する順番が同じでなければ、同じキーの組み合わせを複数のアクションに割り当てることができます。
 - ◆ ホットキーの設定をキャンセルする場合は「**Cancel**」(キャンセル)ボタンを、また、アクションの「ホットキー」欄をクリアする場合は「**Clear**」(クリア)ボタンをそれぞれクリックしてください。
3. キーの入力が終わったら、「**Save**」(保存)ボタンを押してください。

すべてのホットキーの設定をデフォルト値にリセットする場合は「**Reset**」(リセット)ボタンをクリックしてください。

ホットキーが実行できる操作は以下のとおりです。

アクション	説明
Exit Remote Location (リモートロケーションの終了)	製品との接続を終了しクライアントコンピューター操作に戻ります。これはコントロールパネルの「Exit」(終了)アイコンをクリックする操作に相当します。デフォルトでは「F2,F3,F4」に設定されています。
Adjust Video (ビデオの調整)	「Video Settings」(ビデオ設定)ダイアログを起動します。これはコントロールパネルの「Video Settings」(ビデオ設定)アイコンをクリックする操作に相当します。デフォルトでは「F5,F6,F7」に設定されています。
Toggle Control Panel (コントロールパネルの切替)	コントロールパネルを OFF または ON に切り替えます。デフォルトでは「F3,F4,F5」に設定されています。

(表は次のページに続きます)

暫定版

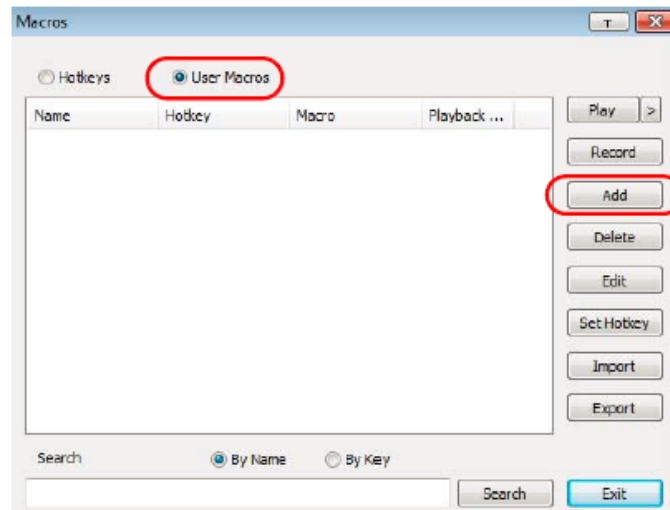
アクション	説明
Toggle Mouse Display (マウス表示の切替)	ローカル、リモートの 2 つのマウスポインターが表示されて操作しづらい場合は、この機能を使用してマウスポインターを最小化することができます。この機能はトグル式になっておりますので、同じホットキーを再度入力するとマウスポインターを元の状態に戻します。これはコントロールパネルの「Mouse Pointer」(マウスポインター)アイコンをクリックし、「Dot」(ドット)ポインターを選択する操作に相当します。デフォルトでは「F7,F8,F9」に設定されています。 注意: Java コントロールパネルにはこの機能はありません。
Adjust Mouse (マウスの調整)	ローカルとリモートのマウスを同期します。デフォルトでは「F8,F7,F6」に設定されています。
Video Auto-Sync (ビデオの自動同期)	ビデオを自動同期します。これはコントロールパネルの「Video Autosync」(ビデオの自動同期)アイコンをクリックする操作に相当します。デフォルトでは「F6,F7,F8」に設定されています。
Show/Hide Local Cursor (ローカルカーソルの表示/非表示)	ローカルマウスのポインター表示を OFF または ON に切り替えます。Windows/Java クライアントアプリケーションでローカルカーソルを非表示にし、マウスポインターとキーボードの使用をロックし、さらにコントロールパネルを非表示にします。これはコントロールパネルの「Mouse Pointer」(マウスポインター)アイコンをクリックし、「Single」(シングル)ポインターを選択する操作に相当します。デフォルトでは「F4,F5」に設定されています。
Substitute Ctrl Key (代替 Ctrl キー)	ローカルコンピューターが[Ctrl]キーの組み合わせをキャプチャし、ホットキーがリモートシステムに送信されない場合は、[Ctrl]キーの代わりとして使用するファンクションキーを指定することでリモートシステムに送られるようになります。例えば、[F11]キーを[Ctrl]キーの代わりに使用する場合、[F11 + 5]キーを入力すると、リモートシステムでは[Ctrl + 5]キーが押されたこととなります。デフォルトではこの代替キーが[F11]キーに設定されています。
Substitute Alt Key (代替 Alt キー)	製品との接続中は基本的にはキーボードの入力は製品側に送られますが、[Alt + Tab]と[Ctrl + Alt + Delete]は例外となります。リモートシステムに対して[Alt + Tab]と[Ctrl + Alt + Delete]の機能を実行したい場合には、任意のファンクションキーを[Alt]キーの代わりに設定することができます。 例えば、[F12]を使用すると、上記のキー入力は[F12 + Tab]、[Ctrl + F12 + Delete]で実現できます。デフォルトではこの代替キーが[F12]に設定されています。

暫定版

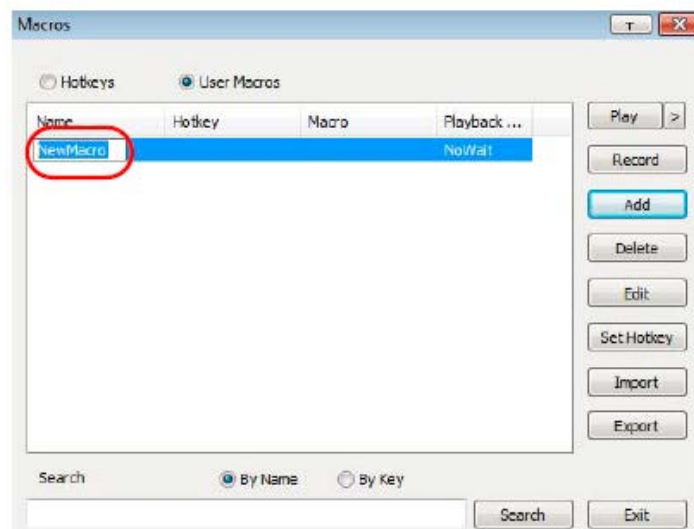
ユーザーマクロ

「User Macros」(ユーザーマクロ)は、特定のアクションをリモートサーバー側で実行する場合に使用します。マクロを作成する場合は、下記の手順に従って操作してください。

1. 「User Macros」(ユーザーマクロ)ラジオボタンを選択し、「Add」(追加)ボタンをクリックしてください。



2. 新しいマクロはデフォルトで「NewMacro」という名前で作成されますので、必要であればダイアログでこの名前を変更してください。



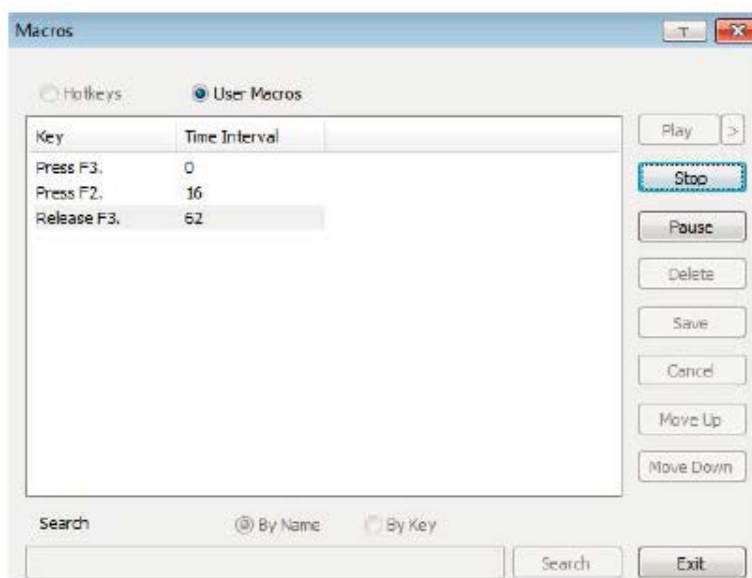
3. 「Record」(記録)ボタンをクリックしてください。

このボタンをクリックするとダイアログボックスが終了し、下図のような小さいパネルが画面左上に表示されます。



4. マクロキーを押してください。

- ◆ マクロの記録を中断する場合は、「Pause」(一時停止)ボタンをクリックしてください。中断していた記録を再開する場合は、もう一度「Pause」(一時停止)ボタンを押してください。
- ◆ 「Show」(表示)ボタンをクリックするとダイアログが立ち上がり、作成したキー入力と、それぞれに要した時間が一覧に表示されます。



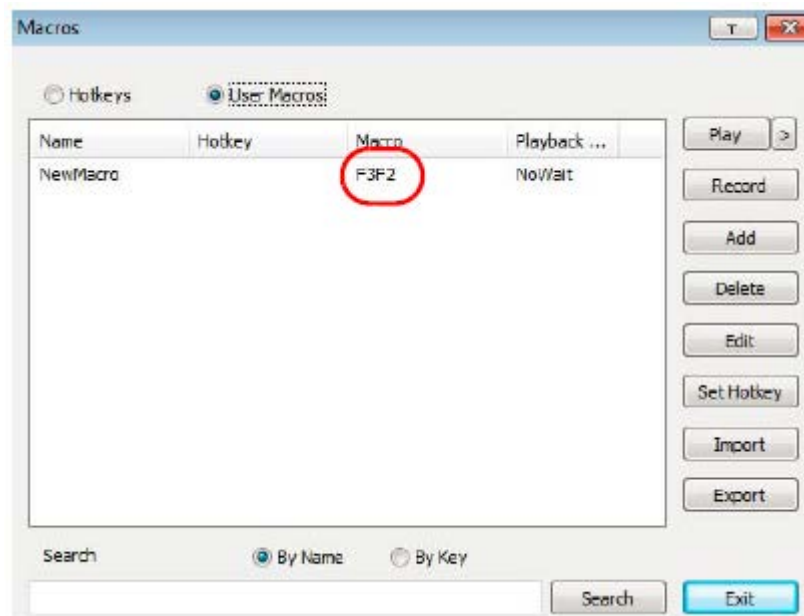
- ◆ 「Cancel」(キャンセル)ボタンをクリックすると、キー入力を取り消します。
- ◆ 入力が完了したら「Stop」(停止)ボタンをクリックしてください。これは手順5で説明している、「Done」(実行)ボタンをクリックする操作に相当します。
- ◆ マクロを記録する場合は、リモート画面を選択しておいてください。マクロダイアログを選択した状態では記録できません。

注意:

1. 大文字・小文字は区別されません。[A]と[a]は同様に処理されます。
2. マクロとして記録できるのは直接入力時のキーのみです。日本語入力が有効になっている場合の文字は使用することができません。例えば、キーボードが日本語で[A]キーを押した場合、日本語入力が ON になっている場合の[あ]の文字は記録されません。

暫定版

5. 「Show」(表示)ダイアログを立ち上げていない場合は、マクロの記録を終了する際に「Done」(終了)ボタンをクリックしてください。この時、「Macros」(マクロ)ダイアログに戻ると、リストには先ほど入力されたユーザーマクロキーが表示されます。



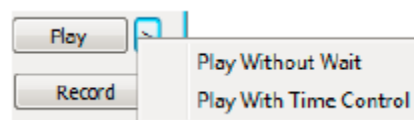
6. 入力キーを変更したい場合は、対象となるマクロを選択し「Edit」(編集)ボタンをクリックしてください。このボタンをクリックすると、「Show」(表示)ボタンを押した時と同様のダイアログが表示され、入力キーの種類や順番を変更することができます。
7. 他のマクロを作成する場合は、上記の手順で操作を行ってください。

暫定版

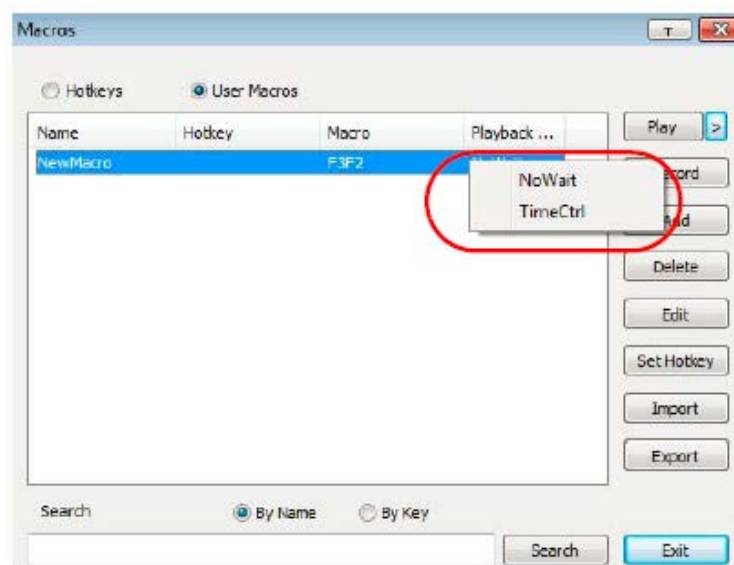
作成したマクロは、下記のいずれかの方法で実行することができます。

1. アクションに割り当てられたホットキーを使用する(ホットキーを割り当てている場合)。
2. コントロールパネルのマクロリストを開き、対象となるマクロをクリックする(p.100 参照)。
3. このダイアログを開いて、「Play」(再生)ボタンをクリックする。

このダイアログボックスからマクロを実行する場合、マクロの実行方法を指定することができます。



- ◆ 「Play Without Wait」(すぐに再生)を選択した場合、マクロは入力キーを遅延時間なしで実行します。
- ◆ 「Play With Time Control」(時間制御ありで再生)を選択した場合、マクロを記録した際のキー入力と、その時のキー入力時間の間隔を再現しながら実行します。オプションを選択する場合は「Play」(再生)ボタンの隣にあるボタンをクリックしてください。
- ◆ 一覧を開かずに「Play」(再生)ボタンをクリックすると、マクロはデフォルトの方法で実行されます。デフォルトで選択されている値(「NoWait」(待機なし)か「TimeCtrl」(時間制御))は、「Playback」(再生)列に表示されます。



この値を変更する場合は、現在の設定値(上図では「NoWait」(待機なし))をクリックした際に表示されるメニューから変更したい内容を選択してください。

-
- 注意:**
1. 検索機能に関する情報は次のセクションをご参照ください。
 2. ユーザーマクロは、各ユーザーのローカルクライアントコンピューターに保存されるため、マクロの数、マクロ名の長さ、実行ホットキーの構成についての制限はありません。
-

検索

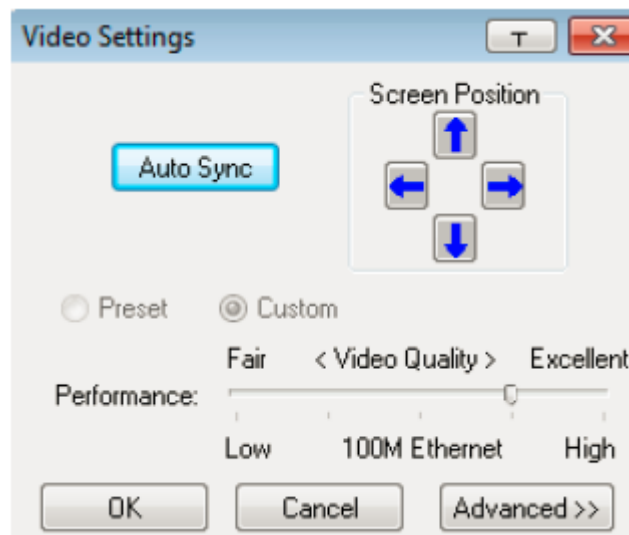
ダイアログの下部にある「Search」(検索)ボタンを使うと、上部の大きいパネルに表示されるマクロ一覧から実行したり編集したりするマクロを絞り込むことができます。絞り込み条件を名前にするかキーにするかをラジオボタンで選択し、検索に使用する文字列をテキストボックスに入力して「**Search**」(検索)ボタンをクリックしてください。この文字列に合致するアイテムが上部パネルに表示されます。



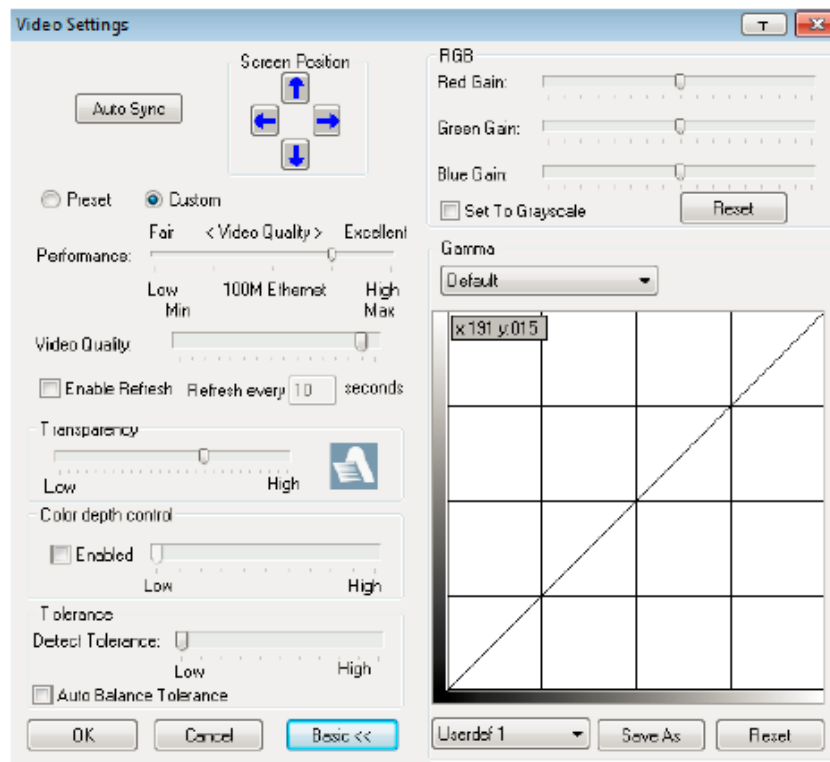
ビデオ設定

コントロールパネル上のこのアイコンをクリックすると、「Basic Video Settings」(基本ビデオ設定)ダイアログが起動します。このダイアログでのオプションを使うことによって、お使いのモニター上に表示されるリモート画面の位置を調整したり、自動同期やパフォーマンスを設定したりすることができます。「Advanced」(詳細)のボタンをクリックすると、「Advanced Video Settings」(詳細ビデオ設定)ダイアログが開き、下記に示すように、RGB、ガンマ、画質、再描画、透明度、色深度コントロールといった詳細なオプションを設定することができます。

基本ビデオ設定



詳細ビデオ設定



このダイアログの項目の内容は以下のとおりです。

オプション	機能
Screen Position (画面位置)	矢印ボタンをクリックすることでサーバーのウィンドウの水平位置と垂直位置を調整します。
Auto-Sync (自動同期)	クリックすると、リモート画面の垂直、水平各方向のオフセット値を検出し、ローカル側の画面に自動的に同期します。 注意: - ローカルとリモートのマウスポインターが同期を失った場合、大半のケースではこの機能を使用することで再び同期します。 - この機能は明るい画面で実行すると最大の効果を発揮します。 - 満足のいく調整結果が得られなかった場合は、「Screen Position」(画面位置)の方向ボタンでリモート画面の位置を手動で調整してください。

(表は次のページに続きます)

暫定版

オプション	機能
RGB	スライドバーをドラッグして RGB(赤、緑、青)の値を調整します。RGB の値の増加に伴って、イメージの RGB 要素も増加します。 「Set to Grayscale」(グレースケールに設定する)の項目を有効にすると、リモート画面をグレースケールで表示します。 「Reset」(リセット) ボタンをクリックすると、RGB 設定をデフォルト値に戻します。
Gamma (ガンマ)	ビデオ表示のガンマレベルを調節します。この機能については次のセクション(ガンマ調整)で詳しく説明します。
Performance (パフォーマンス)	クライアントコンピューターが使用するインターネット接続タイプを選択します。製品はここで選択した項目によって、「Video Quality」(ビデオ画質)の項目を自動的に調整し、ビデオの表示画質を最適化します。 ネットワークの状態は変化しますので、プリセットの選択項目では不都合が生じる場合があるかもしれません。その際は、「Advanced」(詳細)を選択し、「Video Quality」(ビデオ画質)のスライドバーを使ってお使いの環境に適した値に調節してください。
Video Quality (ビデオ画質)	スライドバーをドラッグしてビデオ画質を調整します。値が大きくなるにつれて、画像はより鮮明に、また、ネットワークに転送されるビデオデータの量はより大きくなります。ネットワークのバンド幅によっては、高い値を設定すると逆にレスポンス時間に影響を与える可能性があります。

(表は次のページに続きます)

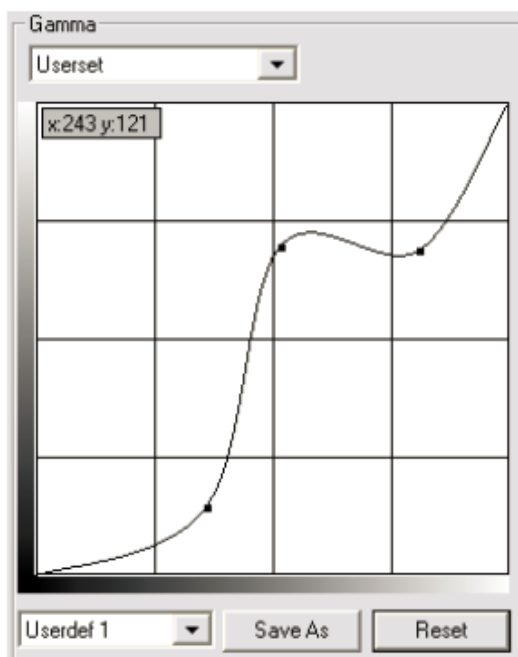
暫定版

オプション	機能
Enable Refresh (リフレッシュを有効にする)	本製品は、1～99 秒毎に画面を再描画し、ブロックノイズなどの歪みを除去します。「Enable Refresh」(リフレッシュを有効にする)の項目にチェックを入れて、再描画の時間間隔を 1～99 の整数で入力してください。そうすると、製品はここで設定された時間間隔で、画面を再描画します。この機能はデフォルトでは無効になっていますので、有効にしたい場合は「Enable Refresh」(リフレッシュを有効にする)の隣にあるチェックボックスをクリックしてチェックを入れてください。 注意: 1. マウスの動作が止まると、製品はインターバル時間の計測を開始します。 2. この機能を有効にするとネットワーク上に送信されるビデオデータの量が増加します。また、設定するインターバル時間の値が小さくなるにしたがって、ビデオデータの転送頻度が高くなります。この値を小さくしすぎると処理全体のレスポンスに影響を与える可能性がありますので、ご注意ください。
Transparency (透明度)	GUI ホットキー(例:[Scroll Lock] [Scroll Lock])を使用した際に表示されるツールバーの透明度を調節します。お好みの透明度になるようにバーをスライドして調整してください。
Color Depth Control (色深度調整)	色情報の値を調整し、ビデオ画面の色深度を調節します。
Detect Tolerance (検出許容値)	ビデオ画質に関連する設定項目です。この項目の値を変更することでピクセル変化の検出を行ったり、変化を無視したりすることができます。設定値を高くすると、データ転送量が少なくなり、表示画質が低くなります。また、設定値を低くすると高い表示画質を提供することができますが、設定値が低すぎるとデータの転送量が増えすぎて、逆にネットワークのパフォーマンスに悪影響を及ぼす場合があります。 「Auto Balance Tolerance」(自動バランス許容値)の項目にチェックを入れると、製品はピクセルの変化に伴って、許容値の設定を自動的に検出して調整します。
Preset/Custom (プリセット/カスタム)	このボタンを使用すると、ビデオ設定値を保存したり、デフォルトのビデオ設定値に戻したりすることができます。

ガンマ調整

リモート表示画面のガンマレベルを調整する必要がある場合は、「Video Settings」(ビデオ設定)ダイアログの「Gamma」(ガンマ)機能を使用してください。

- ◆ 「Advanced」(詳細)設定では、10 種類の既定値と 4 種類のユーザー定義値を選択することができます。リストボックスをドロップダウンして、最適な値を選択してください。
- ◆ さらに細かい設定を行う場合は、「Advanced」(詳細)ボタンをクリックしてください。クリックすると以下のようなダイアログが表示されます。



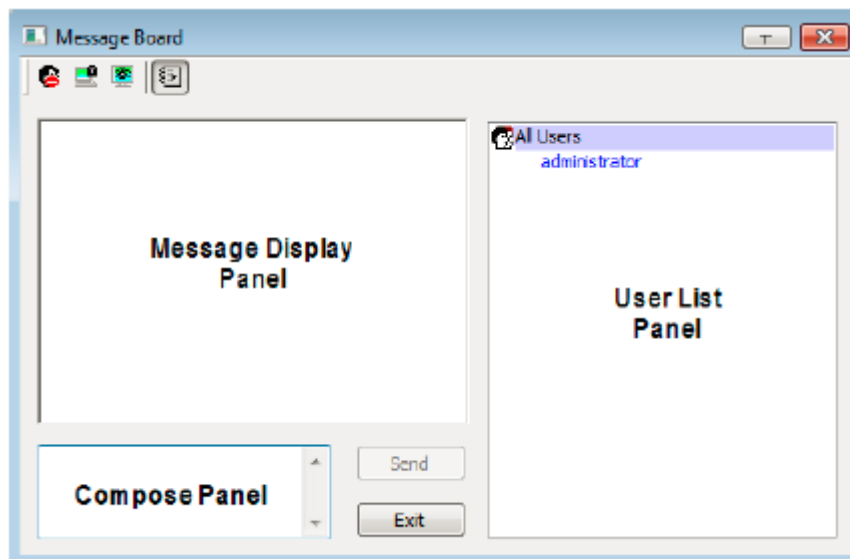
- ◆ 画面出力の値を調節する場合は、斜線の部分をクリックしドラッグしてください(複数箇所操作することが可能)。
- ◆ 上記の方法で変更した値をユーザー定義の設定として保存する場合は「**Save As**」(名前を付けて保存)をクリックしてください。ユーザー定義の値は最大 4 種類まで保存することができます。設定された値はリストボックスから選択することができます。
- ◆ 変更内容を破棄し、ガンマラインを元の状態に戻す場合は「**Reset**」(リセット)ボタンをクリックしてください。
- ◆ 変更内容を保存し、ダイアログを終了する場合は「**OK**」ボタンをクリックしてください。
- ◆ 変更内容を破棄し、ダイアログを終了する場合は「**Cancel**」(キャンセル)ボタンをクリックしてください。

注意: 最適な値で設定するために、リモート画面を見ながら設定値の変更を行ってください。



メッセージボード

本製品はマルチユーザーログインに対応していますが、複数ユーザーによる同時アクセスは、アクセスの競合を招くおそれがあります。このため、この問題の回避策として、メッセージボード機能を提供しています。これによって、ログインユーザーは相互にコミュニケーションを取ることができます。



暫定版

ボタンバー

ボタンバーにあるボタンは各機能の ON/OFF を交互に切り替えるトグルボタンです。各ボタンの機能は下表のとおりです。

ボタン	アクション
	チャット機能を有効/無効にします。チャット機能が無効になると、メッセージボードに送信されたメッセージは表示されなくなり、ボタンは網がけされた状態になります。また、この機能を無効にしているユーザーは、ユーザーリストパネルでユーザーネームの隣にチャット無効のアイコンが表示されます。
	キーボード、ビデオ、マウスの占有/開放を行います。ポートが占有モードに設定されていると、このボタンを使ってキーボード、ビデオ、マウスの各操作を占有することができます。あるユーザーがこれらを占有すると、他のユーザーは画面の参照やキーボードとマウスの操作ができなくなり、ボタンは網がけされた状態になります。また、操作を占有しているユーザーは、ユーザーリストパネルでユーザーネームの隣に、このアイコンが表示されます。
	キーボードとマウスの占有/開放を行います。ポートが占有モードに設定されていると、このボタンを使ってキーボードとマウスの操作を占有することができます。あるユーザーがこれらを占有すると、他のユーザーは画面の参照はできますが、キーボードとマウスの操作ができなくなり、ボタンは網がけされた状態になります。また、操作を占有しているユーザーは、ユーザーリストパネルでユーザーネームの隣に、このアイコンが表示されます。
	ユーザーリストを表示/非表示にします。ユーザーリストを非表示にすると、ユーザーリストパネルが閉じた状態になります。また、ユーザーリストが開いている場合、このボタンは網がけされた状態になります。

メッセージ表示パネル

ユーザーがメッセージボードに送信したメッセージやシステムメッセージはパネルに表示されますが、チャット機能を無効にしている場合は、メッセージが送信されてもメッセージボード上には何も表示されません。

メッセージ編集パネル

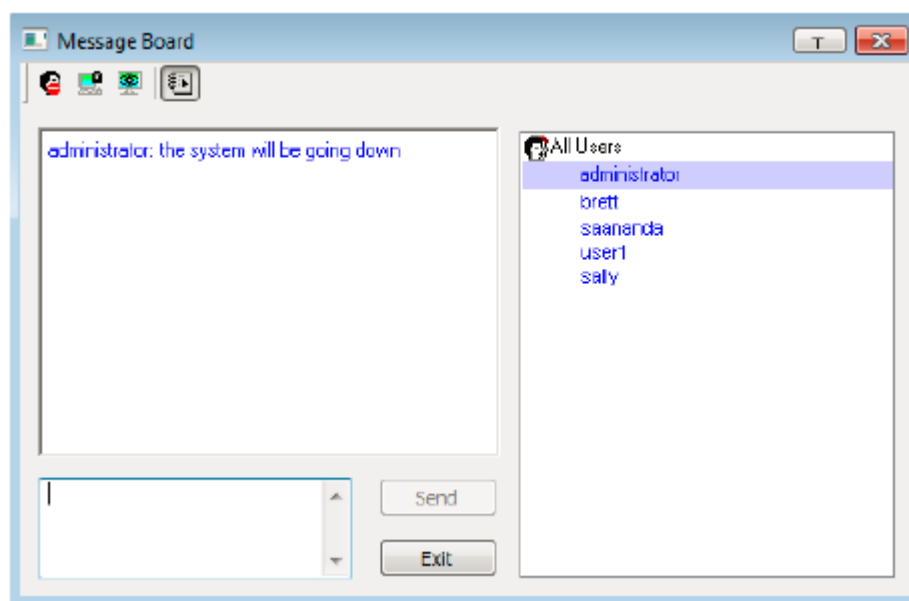
メッセージボードに送信したいメッセージをこのパネルで編集してください。「Send」(送信)ボタンをクリック、または[Enter]キーを押すとメッセージがメッセージボードに送信されます。

暫定版

ユーザーリストパネル

現在ログイン中のユーザーのユーザーネームはこのパネルに表示されます。

- ◆ 自身の名前は青色で、その他のユーザーの名前は黒色でそれぞれ表示されます。
- ◆ デフォルトの設定では、メッセージはすべてのユーザー宛に送信されます。特定のユーザー宛にメッセージを送信したい場合は、宛先となるユーザーを選択してからメッセージを送信してください。
- ◆ 一旦、ユーザーの名前が選択された状態で再び全員宛にメッセージを送信したい場合は、「All Users」(すべてのユーザー)を選択してからメッセージを送信してください。
- ◆ ユーザーがチャット機能を無効にしている場合、機能を無効にしていることを示すアイコンがそのユーザーの名前の前に表示されます。
- ◆ ユーザーがキーボード/ビデオ/マウス、またはキーボード/マウスを占有している場合、デバイスを占有していることを示すアイコンがそのユーザーの名前の前に表示されます。





ズーム

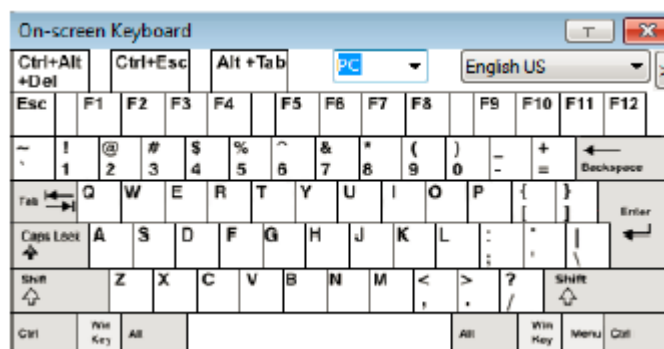
リモートビューのウィンドウをズーム表示します。製品が提供している表示倍率は下表のとおりです。

設定	説明
100%	リモートビューのウィンドウを 100%の倍率で表示します。
75%	リモートビューのウィンドウを 75%の倍率で表示します。
50%	リモートビューのウィンドウを 50%の倍率で表示します。
25%	リモートビューのウィンドウを 25%の倍率で表示します。
1:1	リモートビューのウィンドウを 100%の倍率で表示します。これは、この表の一番上にある 100%の倍率の設定とは異なり、リモートビューウィンドウがリサイズされても、表示サイズは変更されません。表示されていない部分を操作したい場合は、マウスをウィンドウの端に移動させスクロールを使用してください。



オンスクリーンキーボード

本製品は、各言語の標準的なキーボードレイアウトが利用できるオンスクリーンキーボード機能を提供しています。上のアイコンをクリックすると、オンスクリーンキーボードが起動します。



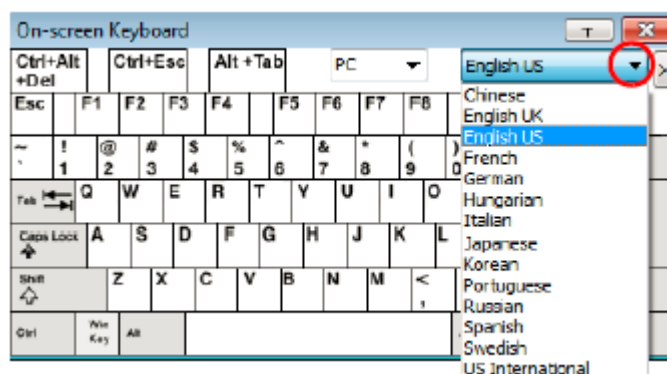
オンスクリーンキーボードを利用するメリットの一つとして、リモート側とローカル側のキーボード言語が異なる場合でも、片方のキーボードの設定を変更することなく操作ができるという点が挙げられます。ユーザーはオンスクリーンキーボードを起動し、アクセス中のポートに接続されているコンピュータで使用されている言語を選択するだけでオンスクリーンキーボードの利用が可能です。

注意： オンスクリーンキーボードの操作はマウスで行ってください。

言語の変更

言語を変更する場合は、以下の手順で操作してください。

1. 現在選択されている言語の隣にある三角ボタンをクリックし、リストを展開してください。



2. 新しい言語をリストから選択してください。

暫定版

プラットフォームの選択

このオンスクリーンディスプレイは、PC の他に Sun プラットフォームにも対応しています。プラットフォームを選択する場合は、下記の手順に従って操作してください。

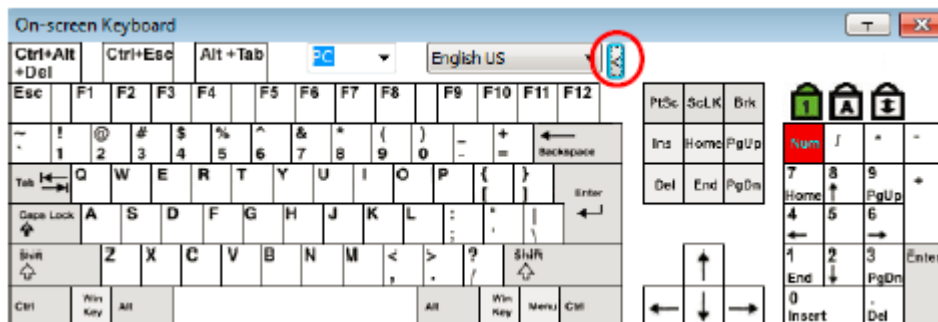
1. 下図に示すプラットフォームリストの隣にある矢印ボタンをクリックして、リストを展開してください。



2. お使いの環境に適したプラットフォームをリストから選択してください。

拡張キーボード

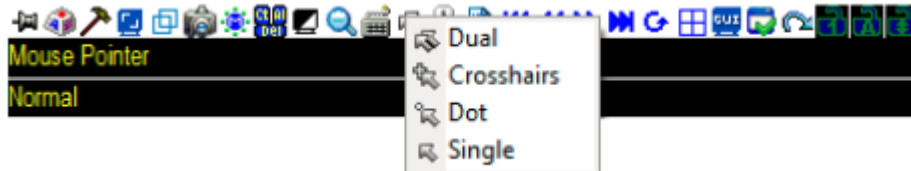
拡張したオンスクリーンキーボードを表示または非表示にする場合は、言語選択リストの右隣にある矢印ボタンをクリックしてください。





マウスポインタータイプ

本製品は、リモート画面で使用するマウスカーソルのポインターを数種類提供しています。ポインターを変更する場合は、アイコンをクリックして、リストからポインターを選択してください。



-
- 注意:**
1. ポートがアクセスされていない場合は、デュアルと十字のみのポインターが Windows ビューワーでご利用いただけます。ポートにアクセスすると、上図の 4 種類のポインターがご利用いただけます。
 2. ドットポインターは、Java クライアントビューワーや Java クライアントではご利用になれません。
 3. シングルポインターを選択すると、マウスポインターは「Toggle Mouse Display(マウス表示の切替)」のホットキーを実行した時と同じ状態になります(p.103 参照)。
 4. コントロールパネルに表示されるマウスポインターのアイコンは、現在使用しているポインターの種類に応じて変わります。
-



マウスダイナシンクモード

ローカル/リモートのマウスのポインターは自動または手動で同期させることができます。

マウスの自動同期(ダイナシンク)

マウスダイナシンク機能を使用すると、リモート/ローカルマウスのポインターを自動的に同期しますので、定期的にマウスの再同期を行う手間が軽減されます。

注意: この機能は、使用 OS が Windows または Mac(G4 以降)で、使用しているコンピューターモジュールの属性 OS(attribute OS)の値が Win または Mac に設定されている場合にのみご利用いただけます(p.152 参照)。
これ以外の環境の場合は、手動でマウスの同期を行ってください(詳細は次のセクションで説明します)。

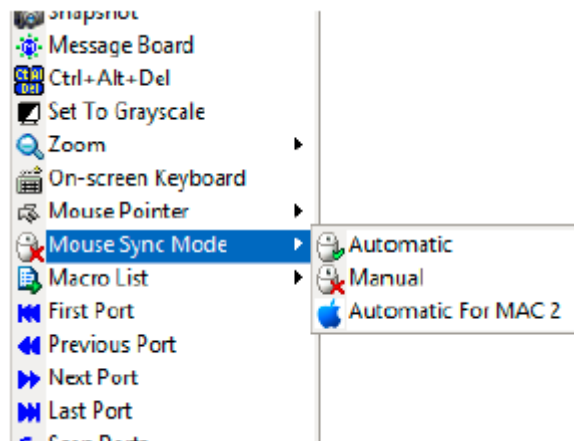
マウスの同期モードを表すツールバーのアイコンは、下表のとおりです。

アイコン	機能
	マウスダイナシンク機能が利用できないことを表します。この場合は、手動でマウスを同期させてください。デフォルトでは、この設定になっています。
	マウスダイナシンク機能が利用可能かつ 有効 になっていることを表します。マウスダイナシンク機能が利用可能である場合は、これがデフォルト設定になっています(上記の注意書きを参照)。
	マウスダイナシンク機能が利用可能であるものの、 無効 であることを表します。

マウスダイナシンクが利用可能である場合、このアイコンをクリックするとマウスダイナシンクを有効または無効に切り替えます。マウスダイナシンクを無効に選択した場合は、次のセクションの手動同期を行う必要があります。

Mac 環境の場合

- ◆ Mac(10.4.11 以降)をお使いの場合、マウスダイナシンク機能が有効であれば、別の方法でダイナシンク機能の設定を行うことができます。デフォルト設定の同期方法では満足の結果が得られなかった場合は、「Mac 2」の設定をお試しください。「Mac 2」の項目を選択する場合は、コントロールパネルのテキスト部分を右クリックし、「Mouse Sync Mode」(マウスシンクモード) → 「Automatic for Mac 2」(Mac2 用に自動同期)を選択してください。



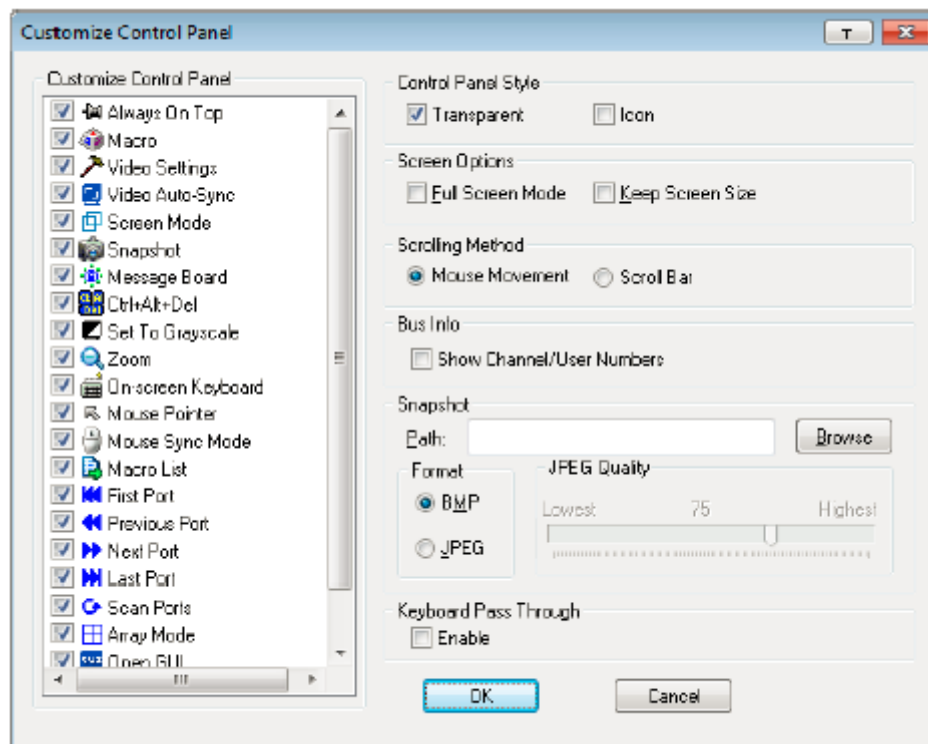
手動設定によるマウス同期

ローカルとリモートのマウスポインターが同期を失った場合、いくつかの方法で再同期することができます。

1. コントロールパネルの「Video Settings」(ビデオ設定)のアイコンをクリックして、ビデオとマウスのマウス同期を実行してください(p.110 参照)。
2. 「Video Settings」(ビデオ設定)の「Auto Sync」(自動同期)ボタン(p.110 参照)を使って自動同期を実行してください。
3. 「Adjust Mouse」(マウス調整)ホットキーを使ってマウス調整機能(p.104 参照)を起動してください。
4. 画面の四隅にマウスポインターを動かしてください(動かす順序は問いません)。
5. 画面上のコントロールパネルをドラッグして、別の位置に移動させてください。
6. 製品に接続されているコンピューターのうち、マウスの同期に問題のあるものを対象に、マウスポインターのオプション(速度、精度)の設定を行ってください。手順の詳細については p.263 「その他のマウス同期の設定方法」をご参照ください。

コントロールパネルの環境設定

コントロールパネルのアイコンをクリックすると、コントロールパネルに表示するアイコンや、コントロールパネルの外観の設定を行うことができます。



暫定版

ダイアログは主に 6 箇所に分かれています。各部分の詳細は以下のとおりです。

アイテム	説明
Customize Control Panel (コントロールパネルの カスタマイズ)	コントロールパネルで表示するアイコンを選択することができます。表示したいアイコンにはチェックを入れ、非表示にしたいアイコンからはチェックを外してください。
Control Panel Style (コントロールパネルの スタイル)	◆ 「Transparent」(透明)の項目にチェックを入れると、コントロールパネルは半透明になります。半透明にすることで、コントロールパネルの下にあるオブジェクトを確認することができます。 ◆ 「Icon」(アイコン)の項目にチェックを入れると、通常はアイコンとして表示されます。マウスをアイコンの上に移動させると、パネル全体が表示されます。
Screen Options (画面オプション)	◆ 「Full Screen Mode」(フルスクリーンモード)の項目にチェックが入っている場合、リモート画面はお使いのモニターにフルサイズで表示されます。 ◆ 「Full Screen Mode」(フルスクリーンモード)の項目にチェックが入っていない場合、リモート側の画面はウィンドウ形式で表示されます。リモート画面の解像度が大きくてウィンドウに表示されない部分がある場合は、操作したい部分の近くにあるウィンドウ枠にマウスポインターを動かしてください。画面がスクロールします。 ◆ 「Keep Screen Size」(スクリーンサイズを保持)の項目にチェックが入っている場合、リモート側の画面はリサイズされません。 ➤ リモート側の画面の解像度がローカルモニターの画面の解像度よりも小さい場合、リモート側のデスクトップ画面はウィンドウの状態画面の中央に表示されます。 ➤ リモート側の画面の解像度がローカルモニターの画面の解像度よりも大きい場合、リモート側のデスクトップ画面はモニターの中央部に表示されます。画面に表示されていない部分を操作する場合は、その部分の近くにあるウィンドウ枠にマウスポインターを動かしてください。画面がスクロールします。 ◆ 「Keep Screen Size」(スクリーンサイズを保持)の項目にチェックが入っていない場合、リモート側のデスクトップ画面はローカルモニターの解像度に合わせてリサイズされます。

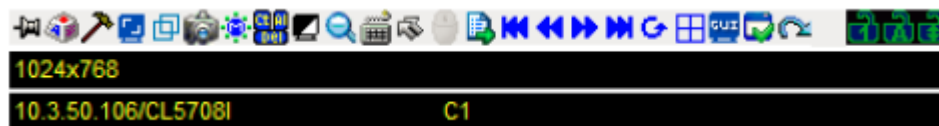
(表は次のページに続きます)

暫定版

アイテム	説明
Scrolling Method (スクロール方法)	リモート画面のサイズがお使いのモニターの解像度を超える場合、画面に表示しきれない領域をスクロールする方法を選択することができます。 ◆ 「Mouse Movement」(マウス動作)を選択すると、マウスポインターをウィンドウ枠に動かした時に画面がスクロールします。 ◆ 「Scroll Bars」(スクロールバー)を選択すると、表示しきれない領域にアクセスできるスクロールバーがウィンドウ枠に表示されます。
Bus Info (バス情報)	この項目にチェックが入っている場合は、コントロールパネルのテキストバー下段に、現在使用しているバスの番号と、そのバスを使用しているユーザー数の合計が左から順に表示されます(表示例は p.97 のコントロールパネルの図を参照)。 例:C1/3 → 1 番のバスに 3 人のユーザーが接続
Snapshot (スナップショット)	この部分は、製品の画面キャプチャに関連する設定項目です(スナップショットの説明については p.99 参照)。 ◆ 「Path」(パス)では、キャプチャされた画面が自動的に保存されるフォルダーのパスを設定します。パスを指定する場合は、テキストボックスの隣にある「Browse」(参照)ボタンをクリックし、フォルダーの選択ダイアログから適当なフォルダーを選択して「OK」ボタンをクリックしてください。ここでパスを指定していない場合は、スナップショットはリモートアクセスに使用しているコンピューターのデスクトップ上に保存されます。 ◆ キャプチャした画面のイメージの保存形式(BMP または JPEG)をラジオボタンで選択してください。 ◆ JPEG を選択した場合は、キャプチャした画像の画質をスライドバーで調整することができます。画質を上げるとより鮮明な画像になりますが、ファイルサイズが大きくなります。
Keyboard Pass Through (キーボードパススルー)	この項目が有効になっていると、[Alt + Tab]のキー入力のリモートデバイスに送られて実行されます。この項目が有効になっていないと、[Alt + Tab]のキー操作はローカルクライアントコンピューター上で実行されてしまいます。

Java コントロールパネル

Java クライアントビューワーと Java クライアントコントロールパネルは基本的に Windows クライアントのコントロールパネルと同じです。



主な相違点は以下のとおりです。

- ◆ 「Macros」(マクロ)ダイアログでは、「Toggle Mouse Display」(マウス表示の切替)の機能はご利用になれません。
- ◆ 「Dot」(ドット)のマウスポインターはご利用になれません。
- ◆ メッセージボードでは、ユーザーリストを表示/非表示にする「Show/Hide」(表示/非表示)ボタンはありませんが、ユーザーリストとメインパネルの間にあるバーの上部にある三角ボタンをクリックすることで同じ機能が使用できます。
- ◆ コントロールパネルの「Lock LED」(ロック LED)アイコンはお使いのキーボードに同期するわけではありませんので、最初に接続した際に表示が実際の状況と異なることがあるかもしれません。このような場合には LED アイコンをクリックして正しく表示するようにしてください。
- ◆ スナップショットのフォーマットは BMP の代わりに PNG がご利用いただけます。

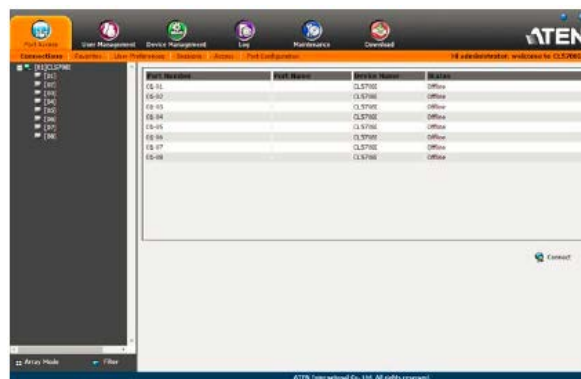


第8章 ポートアクセス

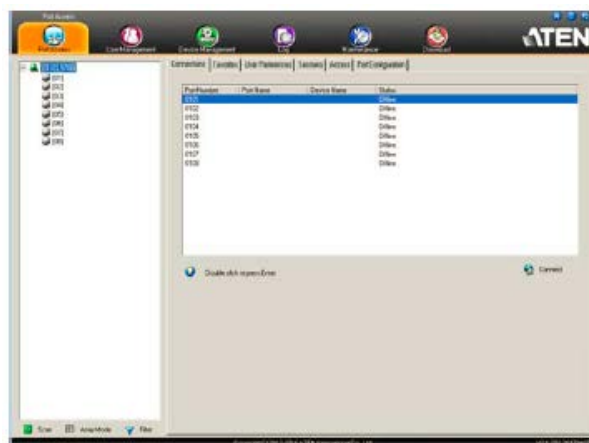
概要

製品にログインすると、「Port Access」(ポートアクセス)タブの「Connections」(通信)メニューの画面が初期表示されます。

Web ブラウザインターフェース



アプリケーション GUI



暫定版

ページは大きく数箇所に分かれており、ユーザーがアクセスを許可されたポートがすべて左側のサイドバーに一覧表示されます。

サイドバーでポートを選択してから、メニューバー(ブラウザ GUI の場合)またはタブバー(アプリケーション GUI の場合)で項目をクリックすると、そのアイテムに関連した情報や設定内容が画面に表示されます。

サイドバー

すべての KVM スイッチとそのポートは、画面左側のサイドバーにツリー形式で一覧表示されます。



ポート選択ツリー

サイドバーのポート選択ツリーには下記の特長があります。

- ◆ ユーザーは自身がアクセス権限を持っている KVM スイッチやポートだけを参照することができます。
- ◆ ポートおよび子機となる KVM スイッチは親機となる KVM スイッチの下に表示されます。ツリーを展開し、子機のポートにアクセスする場合は KVM スイッチの前に表示されている「+」をクリックしてください。また、ツリーを折りたたんで子機側のポートを非表示にする場合は「-」をクリックしてください。
- ◆ 各ポートの ID はポートアイコンの隣にあるカッコの中に表示されます。ポートにそれぞれ固有の名前をつけると識別に便利です(p.135「ポートへの名前設定」参照)。
- ◆ オンラインの KVM スイッチやポートには、モニターがグリーンになったアイコンが表示されます。

モニターがグレーのアイコンは、そのデバイスがオフラインであることを表しています。

- ◆ ポートにアクセスする場合は、対象となるポートのアイコンをダブルクリックしてください。ポートの操作方法に関する詳細は第 14 章で説明します。



スキャン

「スキャン」は、アプリケーション版 GUI サイドバーの下部にあるメニューで、サイドバー (p.132 参照) に表示されている全ポートを一定の時間間隔で切替表示を行う機能(オートスキャン)を提供します。この機能により、ユーザーはポート切替を行うことなく自動的にコンピューターの状態を監視することができます(p.210「オートスキャン」参照)。

注意: Web ブラウザで製品にアクセスした場合、このアイコンは表示されません。Web ブラウザのインターフェースでオートスキャン機能を利用する場合は、リモート画面を表示した後で、ツールバーを起動してください。詳細に関しては p.208 をご参照ください。



アレイモード

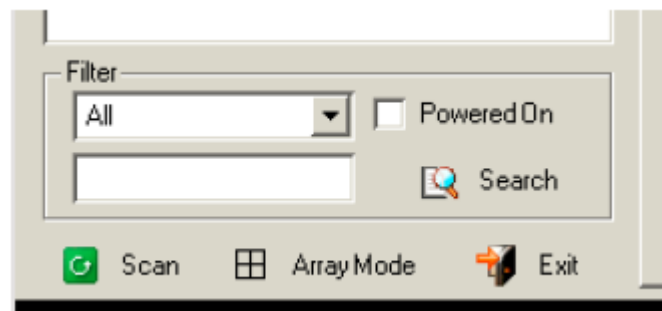
「アレイモード」は、アプリケーション版 GUI サイドバーの下部にあるメニューで、画面を分割して、複数のコンピューターの画面を同時に出力します(パネルアレイモード機能)。出力対象となるのは、サイドバーのツリー (p.132 参照) に表示されているオンラインのポートです。それ以外のポートはブランクで表示されます。詳細に関しては p.213 をご参照ください。

注意: Web ブラウザで製品にアクセスした場合、このアイコンは表示されません。Web ブラウザのインターフェースでパネルアレイモード機能を利用する場合は、リモート画面を表示したあと、ツールバーを起動してください。詳細に関しては p.208 をご参照ください。



フィルター

このセクションでは、サイドバーに表示されるポートの数や種類、また、オートスキャンやパネルアレイモードが起動した場合にスキャンの対象とするポートを操作することができます(上記の「スキャン」および「アレイモード」参照)。「フィルター」アイコンをクリックすると、サイドバーの下部は下図のように展開されます。



各項目の詳細は下表のとおりです。

項目	説明
All (すべて)	デフォルトの表示形式です。フィルターオプションが選択されていない場合は、そのユーザーがアクセス可能である全ポートがサイドバーのツリーに表示されます。 お気に入り設定されている場合(p.140 参照)、リストボックスを展開してお気に入りだけを選択することもできます。お気に入りを選択すると、お気に入りとして選択されたアイテムだけがツリーに表示されます。
Powered On (電源オン)	この項目を有効にする(チェックをつける)と、コンピューターに電源が入っているポートのみがツリーに表示されます。

(表は次のページに続きます)

暫定版

項目	説明
Search (検索)	検索したい文字列を入力して「Search」(検索)ボタンをクリックすると、ポートネームがその文字列に一致するポートだけがツリーに表示されます。ワイルドカード(1 文字の場合は?、複数の文字の場合は*)や、「or」キーワードの使用が可能ですので、複数のポートを表示することができます。以下、検索例です。 1. 「Web*」という文字列を入力して検索した場合、「Web Server 1」というコンピューターと「Web Server 2」というコンピューターがリストに表示されます。 2. 「W*1 or M*2」という文字列を入力して検索した場合、「Web Server 1」というコンピューターと「Mail Server 2」というコンピューターがリストに表示されます。
Exit (終了)	このアイコンをクリックするとフィルターダイアログを終了します。

サイドバーユーティリティー

アプリケーション版の「Port Access」(ポートアクセス)の「Connections」(接続)タブには、サイドバーツリーを操作する便利な方法があります。サイドバーでアイテムを右クリックすると、サブメニューリストがポップアップ表示されます。



注意: 上図のスクリーンショットは、あくまでも表示の一例です。ポップアップに表示されるアイテムは、ログインしている場所(リモートまたはローカルコンソール)や、ログインユーザーのタイプや、選択されているデバイスの種類(KVM スイッチまたはポート)によって変わります。

設定項目の詳細は下表のとおりです。

アイテム	ユーザータイプ	説明
Expand (展開) / Collapse (閉じる)	Administrator User	◆ デバイスのポートがネストしている(表示されていない)場合、メニューリストには「Expand」(展開)が表示されます。ツリーを開いてポートを表示する場合は「Expand」(展開)をクリックしてください。 ◆ デバイスのポートが表示されている場合、メニューリストには「Collapse」(閉じる)が表示されます。ポートを非表示にする場合は「Collapse」(閉じる)をクリックしてください。 注意: - この項目はKVMスイッチ、またはその先に子機のKVM スイッチが接続しているポートの場合にのみ表示されます。 - これはツリービューのアイコンの隣にある「+」または「-」を操作した場合と同じ機能を提供します。
コピー	Administrator User	この項目はポートを選択している時にのみ表示されます。この項目を選択すると、コピーしたポートを「お気に入り」タブに貼り付けることができます。詳細については p.140「お気に入りへの追加」をご参照ください。

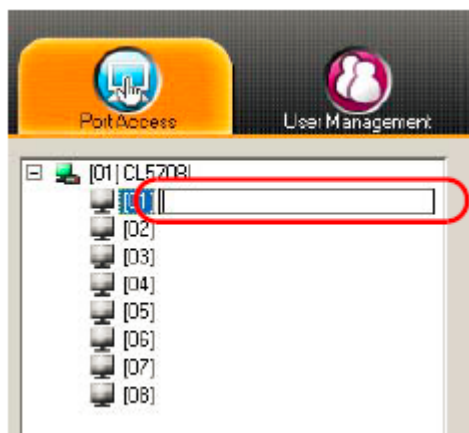
ポートの名前設定

デバイスの識別を容易にするために、アドミニストレーターおよびポート設定権限を持つユーザーはポートにそれぞれ名前を設定することができます。この機能は、特に大規模なサーバーシステムを管理する際に便利です。ポートの名前を新規作成・編集・削除する場合は下記の手順に従って操作してください。

1. 名前を編集したいアイテムを一度クリックし、しばらくしてからもう一度そのポートをクリックしてください。

-
- 注意:**
1. この操作はいわゆるダブルクリックとは異なり、シングルクリックを 2 回に分けて行います。ポートをダブルクリックすると、そのポートに表示を切り替えます。
 2. アプリケーション版の Windows クライアントや Java クライアントでは、名前を編集したいポートを右クリックし、ポップアップメニューから「Rename」(リネーム)を選択するか、ポートを選択して[F2]キーを押してください。
-

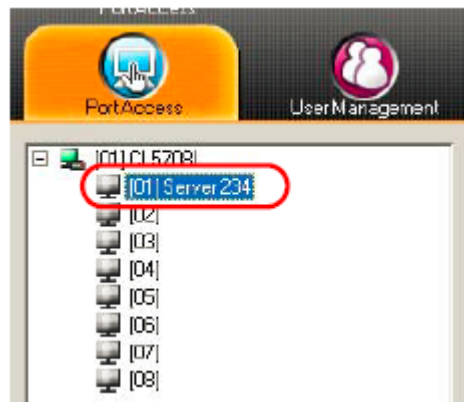
1～2 秒経過すると、ポートネームが入力できるテキストボックスが表示されます。



2. アイテムの名前を入力するか、または既存の名前を変更または削除してください。
- ◆ 英語(US)キーボードで提供されている文字であれば、どのような組み合わせの文字列でも設定することができます。この場合、最大で 20 バイトまで入力できます。
 - ◆ また、英語以外の文字でも設定することができます。2 バイトエンコーディングを使用している言語であれば、最大で 9 文字まで入力できます。

暫定版

3. 名前の編集が終わったら、[Enter]キーを押すか、テキストボックスの外側の任意の場所をクリックして操作を終了してください。



KVM デバイス・ポート - 接続画面

「Port Access」(ポートアクセス)タブの「Connections」(通信)メニューを操作している際に、左側のツリーで KVM スイッチが選択されている場合には中央に「Connections」(通信)メニューの内容が、また、ポートが選択されている場合はポート接続の設定オプションがそれぞれ表示されます。

デバイスレベル

KVM スイッチがサイドバーで選択されていると、ユーザーがアクセス権限や参照権限を持っているデバイスのポート一覧が「Connections」(通信)メニューのページに表示されます。



暫定版

各デバイスの以下の属性が一覧に表示されます。

- ◆ ポート番号 - KVM スイッチ上のポートナンバーです。
- ◆ ポート名 - ポートに名前が設定されている場合は、この欄に表示されます。
- ◆ デバイス名 - デバイスに名前が設定されている場合は、この欄に表示されます。
- ◆ ステータス - KVM スイッチの現在のステータス(オンラインまたはオフライン)です。

注意: Web ブラウザのメニューでは、表のタイトルの各項目をクリックすると、その項目で昇順または降順に並べ替えます。

メインパネルからポートにアクセスする場合は、対象となるポートの行をダブルクリックするか、その行を選択してから画面下部にある「**Connect**」(接続)ボタンをクリックしてください。

ポートレベル

サイドバーのツリーでポートが選択されると、「Connections」(通信)メニューはポートの接続と設定オプションを表示する画面に切り替わります。



画面は、主に下記の部分から構成されています。

ステータス

ポートのオンライン状況など、ポートの現在のステータスに関する情報が表示されます。

製品に組み込まれている Windows ビューワー(Windows Internet Explorer を使用の場合)、または Java ビューワー(その他の Web ブラウザを使用の場合)を使って、ポートに接続されているコンピュータの画面を参照したい場合は、「**Connect**」(接続)ボタンをクリックしてください。

関連リンク

現在選択されているポートに関連付けられたポートを表示します。関連付けは、「Port Access」(ポートアクセス)タブ→「Port Configuration」(ポート設定)メニュー→「Associated Links」(関連付けリンク)タブで設定することができます(詳細は p.154 参照)。

お気に入り

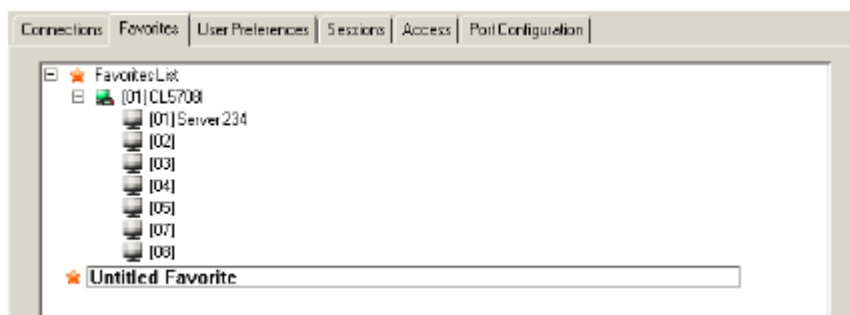
「Favorites」(お気に入り)メニューは、Web ブラウザのブックマークのように、頻繁にアクセスするポートを一覧に登録します。この機能を利用することで、ポートをツリーから探すことなく、簡単にポートを選択することができます。この機能は特に、大規模なシステムで便利にお使いいただけます。



お気に入りへの追加

ポートをお気に入りに追加する場合は、以下の手順で操作してください。

1. メインパネルで右クリックし、「Add Favorite」(お気に入りの追加)をクリックしてください。
 - または -
 - メインパネル下部にある「Add」(追加)ボタンをクリックしてください。
- 「Untitled Favorite」(無題のお気に入り)という名前で新規作成されます。

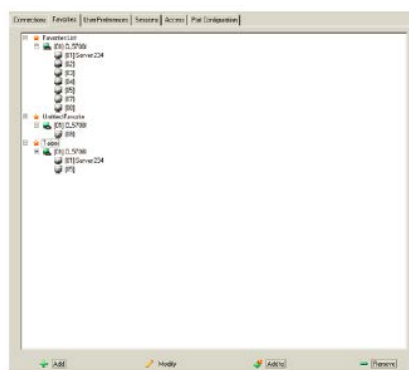


2. これは複数のポートをまとめて管理するコンテナのような役割を果たします。アイテムのテキスト部分をクリックし、デフォルトで命名された「Untitled Favorite」の文字列を消して、適当な名前を入力したら、メインパネルの任意の場所をクリックしてください。
3. ポートを登録する場合は、
左側のポート選択リストからお気に入りに登録したいポートをドラッグし、先ほど作成したコンテナの上でドロップしてください。
- または -
登録したいポートを右クリックした後、メニューから「Copy」(コピー)を選択し、登録先のコンテナの上で再び右クリックして、メニューから「Paste」(貼り付け)を選択してください。
- または -
メインパネルでコンテナを、また、サイドバーからポートをそれぞれ選択したら、メインパネル下部にある「Add」(追加)ボタンをクリックしてください。

そのポートが属している KVM スイッチがコンテナに登録され、選択されたポートがスイッチの下に追加されます。

注意: 手順 1～3 では 1 ポートずつお気に入りに追加する方法を紹介しましたが、複数のポートを同時に追加することもできます。複数のポートを追加する場合は、[Shift]キーまたは[Ctrl]キーを使って複数のポートを選択し、それらのポートをドラッグするか、コピー&ペーストしてください。

4. 他にもお気に入りに登録したいポートがある場合は、手順 3 の操作を繰り返してください。



注意: お気に入りの項目はサイドバーツリーの検索の条件としても使用することができます。詳細に関しては p.132 「フィルター」をご参照ください。

お気に入りの編集

- ◆ お気に入りを編集する場合は、右クリックで表示されるリストから操作メニューを選択してください。
- ◆ お気に入りの名前を編集する場合は、
名前を一度クリックし、少し間を開けてから再度クリックしてください。お気に入りの名前の表示欄がテキストボックスに変わると、名前を編集することができます。方法はポートネームの編集と同様です(p.135 参照)。
- または -
対象となるお気に入りをメインパネルから選択し、画面下部にある「**Modify**」(変更)ボタンをクリックしてください。

ユーザー設定

「User Preferences」(ユーザー設定)メニューでは、ユーザー個別の作業環境の設定を行うことができます。製品は、ユーザープロフィールをユーザー別に内部に保存し、ログインユーザーのユーザーネームに基づいて作業環境を構築します。



個人の作業環境で設定可能な項目は下表のとおりです。

項目	機能
Language (言語)	メニューの表示言語を選択することができます。
OSD Hotkey (OSD ホットキー)	クライアントアプリケーションで GUI を起動するホットキーを選択することができます。デフォルトでは、[Scroll Lock]キー2 度押しに設定されています。これを変更する場合は、ドロップダウンリストからアイテムを選択してください。

(表は次のページに続きます)

暫定版

項目	機能
ID Display (ID 表示)	ポート ID の表示形式を選択することができます。表示方法は、ポートナンバーのみ(PORT NUMBER)、ポートネームのみ(PORT NAME)、ポートナンバーとポートネーム(PORT NUMBER + PORT NAME)のいずれかを選択することができます。デフォルトでは、ポートナンバーとポートネーム(PORT NUMBER + PORT NAME)に設定されています。
ID Duration (ID 表示間隔)	ポート切替後のポート ID の表示時間を設定することができます。表示時間は 1～255 秒の整数値を入力してください。デフォルトでは 3 秒に設定されています。なお、0 を設定すると、ポート ID を常に画面上に表示します。
Scan Duration (スキャン インターバル)	オートスキャンモード(p.210 参照)における、各ポートの表示時間を設定することができます。表示時間は 1～255 秒の整数値を入力してください。デフォルトでは 5 秒に設定されています。なお、0 を設定すると、スキャン機能を無効にします。
Screen Blanker (スクリーン ブランカー)	コンソールからの入力がないまま、この項目で設定された時間が経過すると、画面はブランク表示になります。ブランクまでの時間は 1～30 分の整数値を入力してください。なお、0 を設定するとこの機能を無効にします。デフォルトでは 0(無効)に設定されています。 注意:この項目は、ローカル/リモートの両方から設定することができますが、この機能が適用されるのはローカルコンソールのみです。
Logout Timeout (ログアウト タイムアウト)	ユーザーからの入力がないまま、この項目で設定された時間が経過すると、ユーザーは自動的にログアウトさせられます。この場合、製品にアクセスするには再ログインが必要です。
Toolbar (ツールバー)	ポートにアクセスする際にポートツールバーを有効にするかどうかを選択します (p.208 「ポートツールバー」参照)。 ツールバー機能は GUI コントロールパネル(p.97 参照)でも利用できるため、ここでは無効にすることもできます。

(表は次のページに続きます)

暫定版

項目	機能
Viewer* (ビューアー*)	リモートコンピュータへのアクセス時に使用するビューワーを選択することができます。 ◆ Auto Detect (自動検出) - ユーザーが使用している Web ブラウザに適したビューワーを自動選択します。Windows の Internet Explorer を使用している場合は Windows クライアントを、その他の Web ブラウザ(例:Firefox)を使用している場合は Java クライアントを使用します。 ◆ Java Client (Java クライアント) - ユーザーが使用している Web ブラウザの種類にかかわらず、Java クライアントを起動します。
Welcome Message* (歓迎メッセージ*)	サブメニューバーに表示されるウェルカムメッセージを表示または非表示にします。デフォルトでは非表示になっています。
Save (保存)	「User Preferences」(ユーザー設定)メニューで変更した内容を保存する場合は、このアイコンをクリックしてください。
Changing a Password (パスワードの変更)	◆ ブラウザ GUI でパスワードを変更する場合は、既存のパスワードと新しいパスワードをそれぞれ該当するテキストボックスに入力し、このアイコンをクリックして変更内容を反映させてください。 ◆ アプリケーション GUI では、このアイコンをクリックした後で表示されるダイアログで既存のパスワードと新しいパスワードをそれぞれ該当するテキストボックスに入力し、「Save」(保存)ボタンをクリックして変更内容を反映させてください。

* Web ブラウザのメニューでのみご利用いただけます。

セッション

「Session」(セッション)メニューでは、アドミニストレーター、またはユーザー管理権限のあるユーザーが、KVM スイッチにログイン中のユーザーや、これらのユーザーのセッション情報を確認することができます。



- 注意:**
1. 一般ユーザーはこのメニューを利用することはできません。
 2. 一般ユーザーのセッション情報を確認することができるのは、ユーザー管理権限のあるユーザーだけです。
 3. 「Category」(カテゴリ)列には、現在ログインしているユーザーのユーザータイプが表示されます。「SA」はスーパーアドミニストレーターを、「Admin」はアドミニストレーターを、そして「Normal User」はユーザーをそれぞれ表しています。

一覧のタイトルは文字通りの意味を表します。「IP」列にはログインユーザーの IP アドレスが、「Device」(デバイス)列にはユーザーがアクセスしているデバイスが、そして、「Port」(ポート)列にはユーザーがアクセスしているポートが、それぞれ表示されます。また、「Bus ID」(バス ID)にはユーザーが現在使用しているバス(バス 0 はローカルコンソール)が表示されます。

- 注意:**
1. 表のタイトルの各項目をクリックすると、その項目で昇順または降順に並べ替えます。
 2. バス ID はコントロールパネルでも表示されます(p.97 参照)。

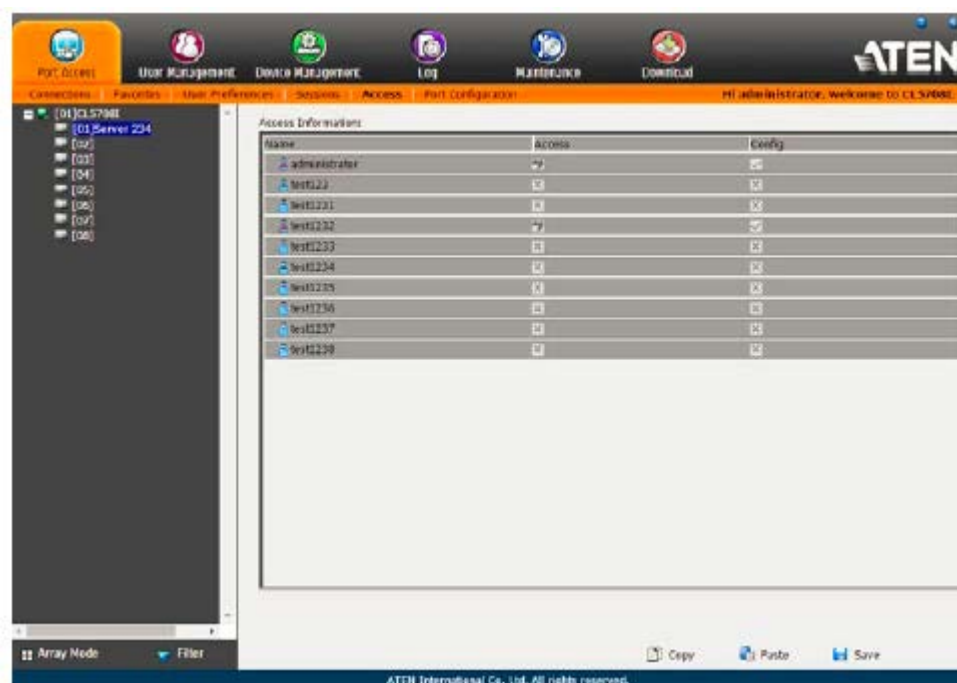
アドミニストレーターは、この画面で選択したユーザーを強制的にログアウトさせることもできます。対象となるユーザーを選択し、メインパネル下部にある「End Session」(セッションの強制終了)ボタンをクリックしてください。

アクセス

アドミニストレーターはこのメニューでポートに対するユーザーアクセスや設定権限を定義することができます。「Access」(アクセス)メニューは、ユーザー管理権限のあるユーザーにしか表示されませんので、この権限のないユーザーは利用することができません。

ポートレベルでのブラウザ GUI インターフェース

ポートがサイドバーで選択されると、メインパネルは下図のように表示されます。



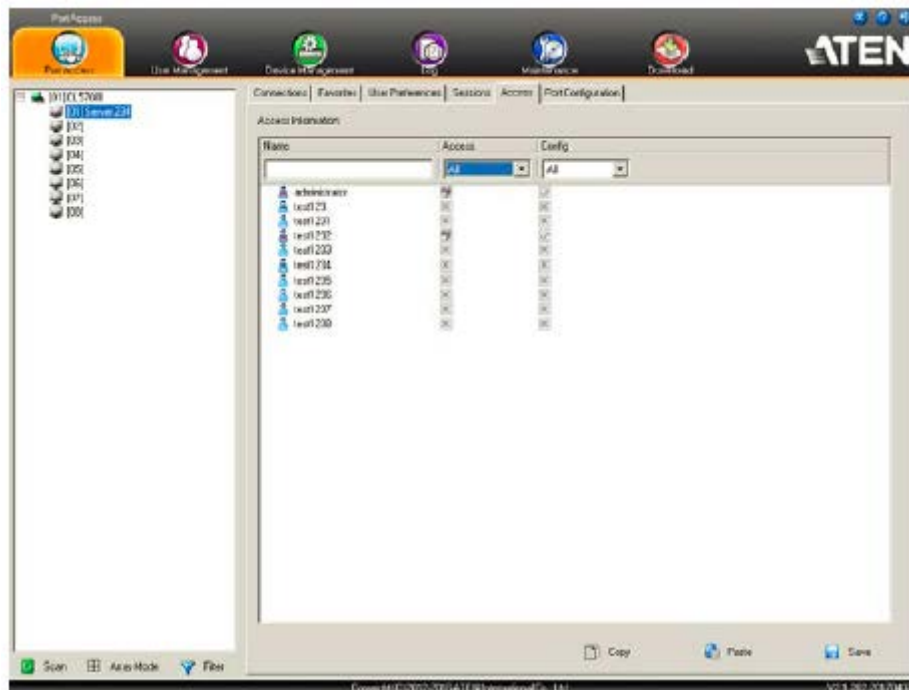
暫定版

ポートアクセスに関する設定項目は下表のとおりです。

項目	機能		
Name (名前)	現在操作しているユーザーがアクセスできるポートがこの列に表示されます。		
Access (アクセス)	デバイスへのアクセス権限を設定します。これらの設定内容を切り替える場合は、設定を行いたいユーザーの行にあるこのアイコンをクリックしてください。各アイコンが表す意味は下記の通りです。		
		Full Access (フルアクセス)	ユーザーはリモート画面を参照することができます。また、ユーザー自身が使用しているキーボードとモニターを使ってリモートサーバーを操作することができます。
		View Only (参照のみ)	ユーザーはリモート画面を参照することができますが、操作をすることはできません。
		No Access (アクセス不可)	このポートへのアクセス権限はなく、ポートはユーザーのメイン画面にも表示されません。
Config (設定)	ポート設定の変更権限を設定します。チェックマーク(✓)はユーザーが権限を持っていることを、また×マークはユーザーが権限を持っていないことをそれぞれ表します。		

ポートレベルでのアプリケーション GUI インターフェース

ポートがサイドバーで選択されると、メインパネルは下図のように表示されます。



この画面は基本的にはブラウザ GUI の画面 (p.147 参照) と同様ですが、アプリケーション GUI のみ画面上部にフィルター機能を設けております。このフィルター機能を使うことによって、表示するユーザーやグループの範囲を広げたり、制限をかけたりすることができます。この機能の詳細は下表のとおりです。

フィルター	説明
Name (名前)	ユーザーやグループの名前にフィルターを掛ける場合は、名前の文字列(すべて、または一部)やワイルドカード(*)を入力して[Enter]キーを押してください。この条件に合致したユーザーやグループのみがリストに表示されます。

(表は次のページに続きます)

暫定版

フィルター		説明
Access (アクセス)	All (すべて)	ユーザーとグループがすべてリストに表示されます。
	Full Access (フルアクセス)	フルアクセス権限を持っているユーザーとグループのみがリストに表示されます。
	View Only (参照のみ)	参照のみの権限を持っているユーザーとグループのみがリストに表示されます。
	No Access (アクセス不可)	アクセス不可に設定されているユーザーとグループのみがリストに表示されます。
Config (設定)	All (すべて)	ユーザーとグループがすべてリストに表示されます。
	Permitted (許可)	設定権限を持っているユーザーとグループのみがリストに表示されます。
	Restricted (制限)	設定権限が制限されているユーザーとグループのみがリストに表示されます。

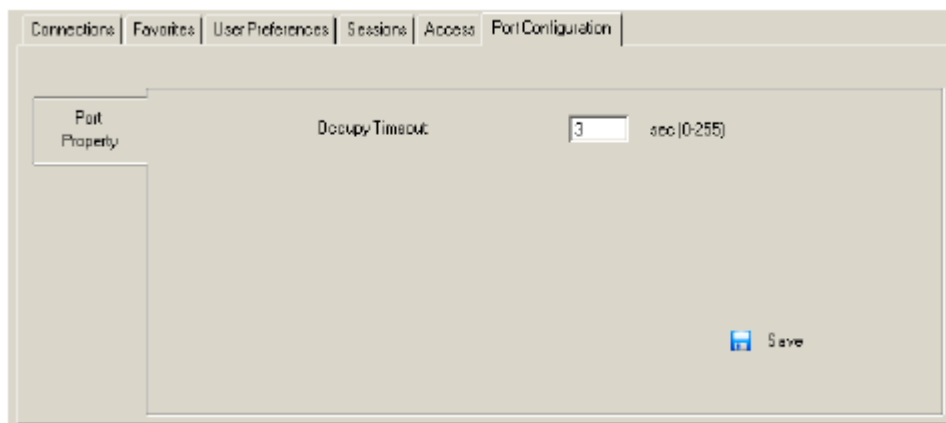
変更内容の保存

「Access」(アクセス)メニューで変更した項目の内容を反映させる場合は、画面右下の「**Save**」(保存)アイコンをクリックしてください。

ポート設定

デバイスレベル

デバイスがサイドバーで選択されている場合、「Port Configuration」(ポート設定)メニューでは、「Port Properties」(ポートプロパティ)タブの「Occupy Timeout」(タイムアウト)の設定が利用可能です。



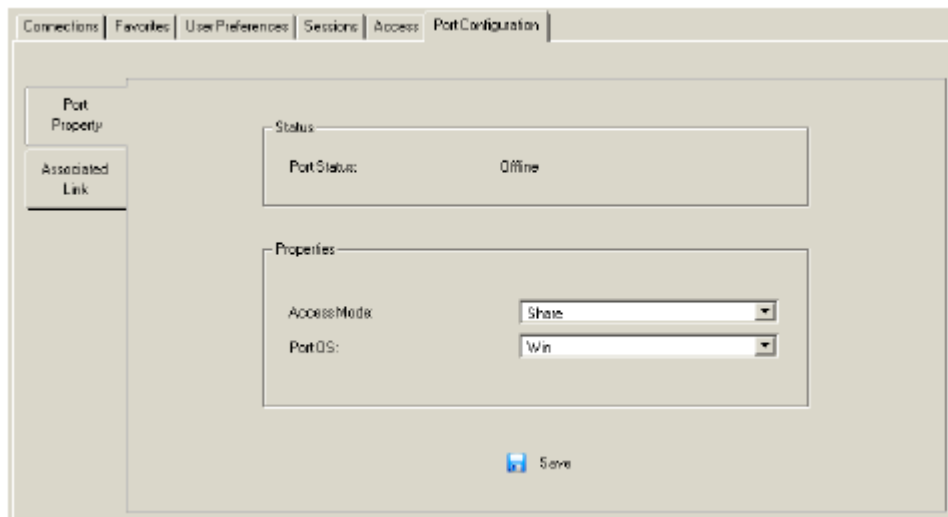
この「Occupy Timeout」(タイムアウト)の項目では、アクセスモード(p.153 参照)が「Occupy」(占有)に設定されたポートでユーザーが操作できる時間のしきい値を設定します。ポートでユーザーが何も操作しないまま、ここで設定された時間が経過すると、ユーザーはタイムアウトし、ポートは開放されます。この場合、ポートが開放された後で最初にキーボードやマウスの入力があったユーザーがポートを占有することができます。

この項目には0～255の値を設定することができます。デフォルトでは3秒に設定されています。0を設定すると、入力がなくなるとすぐにポートが開放されます。

ポートレベル

ポートプロパティ

ポートがサイドバーで選択されると、「Port Properties」(ポートプロパティ)タブは下図のように表示されます。



- ◆ 「Status」(ステータス)パネルには、ポートのオンライン状況が表示されます。
- ◆ 「Properties」(プロパティ)パネルでは、選択されたポートのプロパティを設定することができます。ポートプロパティの設定項目に関する説明は次ページに記載されておりますので、詳細はこちらをご覧ください。

暫定版

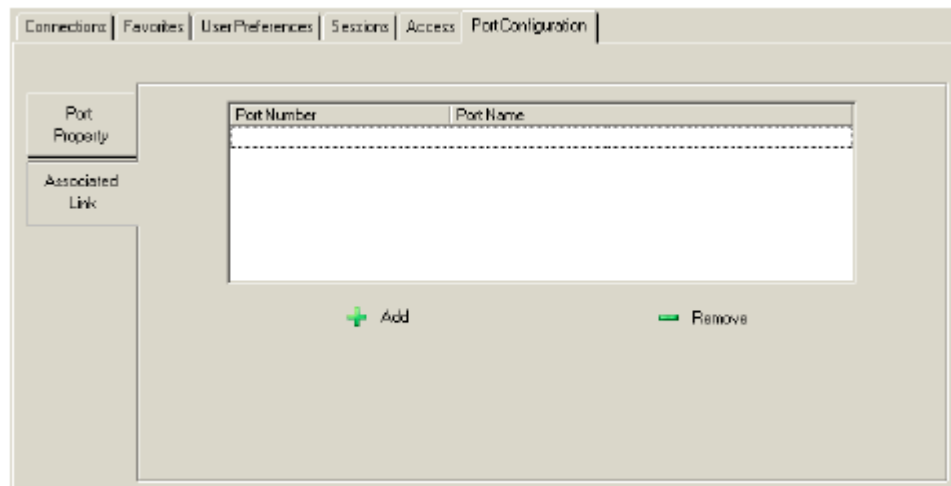
各設定項目の詳細に関しては下表をご参照ください。

項目	説明
Access Mode (アクセスモード)	複数ユーザーでログインした場合のポートのアクセス方法について定義します。設定できるアクセス方法は以下のとおりです。 Exclusive (排他) : ポートに最初に切り替えたユーザーは、そのポートに対して排他的にアクセスすることができます。他のユーザーはこのポートを参照することができません。また、このモードに設定されている場合、タイムアウト機能は適用されません。 Occupy (占有) : ポートに最初に切り替えたユーザーは、そのポートに対して排他的にアクセスすることができますが、他のユーザーもそのポートを参照することができます。ポートを操作しているユーザーからの入力がないまま、「Timeout」(タイムアウト)の項目に設定された時間が経過すると、マウスやキーボードの入力があつた別のユーザーにそのポートの操作権限が移動します。 Share (共有) : 複数のユーザーで同時にポートを共有することができます。ユーザーからの入力はキューに格納され、古いものから順に実行されます。このような場合、ユーザーはメッセージボード機能を使って共有ポートのキーボード/マウス、またはキーボード/モニター/マウスの操作を行うことが可能です(p.115 参照)。
Port OS (ポート OS)	ポートに接続されているコンピューターで使用されている OS を設定します。設定できる項目は、Win、Mac1、Sun、Mac2 です。デフォルトでは Win に設定されています。

設定変更が完了したら、「**Save**」(保存)ボタンをクリックしてください。

関連付けリンク

「Associated Links」(関連付けリンク)タブでは、現在選択されているポートに、同じ KVM スイッチの他のポートを関連付けることができます。



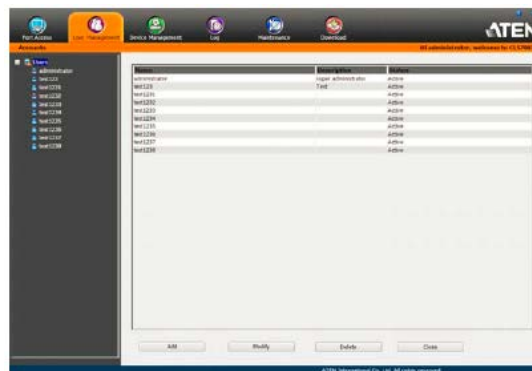
- ◆ 現在選択されているポートに別のポートを関連付ける場合は、「Add」(追加)ボタンをクリックしてください。ダイアログが表示されたら、関連付けを行うポートのポート番号を入力し、「OK」ボタンをクリックしてください。追加すると、このポート番号とポート名がメインパネルに表示されます。
- ◆ ポートの関連付けを削除する場合は、対象のアイテムをメインパネルから選択し、「Remove」(削除)ボタンをクリックしてください。

第9章 ユーザー管理

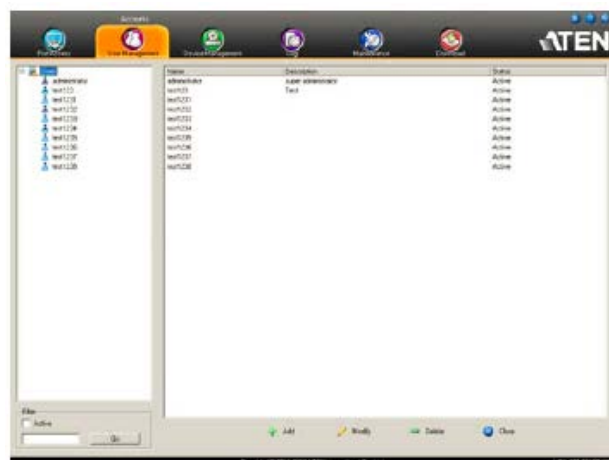
概要

「User Management」(ユーザー管理)タブをクリックすると、サイドバーから「Users」(ユーザー)が選択された状態で表示されます。

Web ブラウザインターフェース



GUI インターフェース



この画面は、左側のサイドバーと右側のメインパネルの 2 つの部分から構成されています。

- ◆ ユーザーは画面左側のパネルに表示されます。右側の大きいパネルには、各ユーザーの詳細情報が表示されます。
- ◆ ブラウザ GUI では、表示される情報の並び順は、メインパネルの列をクリックして変更することができます。
- ◆ アプリケーション GUI では、サイドバーの下にある「フィルター」セクションで一覧を操作します。



- 「Active」(アクティブ)の項目にチェックを入れると、アカウントが非アクティブなユーザーを除外することができます。
- ユーザーネームが特定の文字列に一致したユーザーを検索したい場合は、検索文字列を「検索」ボタンの左隣にあるテキストボックスに入力し、「Go」(検索)ボタンをクリックしてください。条件に一致したユーザーだけが表示されます。
ここでは、ワイルドカード(1文字の場合は?, 複数の文字の場合は*)や、「or」キーワードを使うことができます。

例 1: 「h*ds」という文字列を指定した場合、「hands」と「hoods」がヒットします。

例 2: 「h?nd」という文字列を指定した場合、「hand」と「hind」がヒットしますが、「hard」はヒットしません。

例 3: 「h*ds or h*ks」という文字列を指定した場合、「hands」と「hooks」がヒットします。

- ◆ メインパネルの下側にあるボタンは、ユーザーを管理する際に使用します。詳細は次のセクションで説明します。

ユーザー

本製品では、以下の 3 種類のユーザータイプを提供しています。

ユーザータイプ	役割
スーパーアドミニストレーター	ポート/デバイスへのアクセスおよび管理、ユーザーの管理、システム設定全般、個人の作業環境の設定が可能です。
アドミニストレーター	権限のあるポート/デバイスへのアクセスおよび管理、ユーザーの管理、個人の作業環境の設定が可能です。
ユーザー	権限のあるポート/デバイスへのアクセス、権限のあるポート/デバイスへの管理、個人の作業環境の設定が可能です。 注意: このタイプのユーザーでも権限が与えられている場合は、他のユーザーの管理を行うことができます。

ユーザーの作成

ユーザーを作成する場合は、以下の手順で操作してください。

1. (ブラウザ GUI の場合) メニューバーから「Accounts」(アカウント)を選択してください。
- または -
(アプリケーション GUI の場合) サイドバーから「Users」(ユーザー)を選択してください。
2. メインパネル下部にある「Add」(追加)ボタンをクリックしてください。下図のような画面が表示されます。

The screenshot shows a web-based user management interface. At the top, there are tabs for 'User' and 'Devices'. The 'User' tab is active. Below the tabs, there's a 'User Information' section with input fields for 'Username:', 'Password:', 'Confirm Password:', and 'Description:'. Below this is a 'Role' section with three radio buttons: 'Super Administrator', 'Administrator', and 'User' (which is selected). Below the role section is a 'Permissions' section with a grid of checkboxes: 'Device Management', 'Port Configuration', 'User Management', 'Maintenance', 'System Log', 'View only', 'Windows Client', 'Java Client', and 'Force to Grayscale'. Below the permissions section is a 'Status' section with several checkboxes: 'Disable account', 'Account never expires' (selected), 'Account expires on' (with a date input field), 'User must change password at next login', 'User cannot change password', 'Password never expires' (selected), and 'Password expires after' (with a '0' in the input field and 'days' label). At the bottom right of the form, there is a 'Save' button.

暫定版

3. 必要な項目を入力してください。各項目の詳細は下表のとおりです。

項目	説明
Username (ユーザーネーム)	「Account Policy」(アカウントポリシー)の設定に応じて、1～16 文字で設定してください(p.182 参照)。
Password (パスワード)	「Account Policy」(アカウントポリシー)の設定に応じて、0～16 文字で設定してください(p.182 参照)。
Confirm Password (パスワード確認)	パスワードの誤設定を防ぐために、パスワードを再入力してください。ここにはパスワードの欄に入力された文字列と同じものを入力してください。
Description (記述)	ユーザーに関する付加情報があれば、この欄に入力してください。
Role (ロール)	スーパーアドミニストレーター、アドミニストレーター、ユーザーのカテゴリの中から選択することができます。システム上、作成可能なユーザー数の範囲内であれば、各カテゴリとも作成するアカウントの数に上限はありません。 ◆ スーパーアドミニストレーターは、システム全体の設定や保守、ユーザー管理、デバイスやポートの割り当てがそれぞれ可能です。スーパーアドミニストレーターの権限(p.159 参照)は、システムによって自動的に割り当てられているため、変更することはできません。 ◆ アドミニストレーターには、参照のみとグレースケール表示以外の権限がデフォルトで与えられていますが、権限のチェックボックスにチェックを入れたり、ここからチェックを外したりすることで権限の設定を変更することができます。 ◆ ユーザーには、Windows と Java の各クライアントの操作権限がデフォルトで与えられていますが、権限のチェックボックスにチェックを入れたり、ここからチェックを外したりすることで権限の設定を変更することができます。

(表は次のページに続きます)

暫定版

項目	説明
Permissions (パーミッション) 注意: 一般ユーザーは、デバイス管理、ポート設定、メンテナンスの各権限に加え、そのユーザーが管理できるデバイスやポートに対する権限を設定してもらう必要があります。詳細については p.163 「デバイスの割り当て」をご参照ください。	◆ 「Device Management」(デバイス管理)の項目にチェックを入れると、KVM スイッチの操作全体にかかわるパラメーターの設定や制御が可能になります(p.166 参照)。 ◆ 「Port Configuration」(ポート設定)の項目にチェックを入れると、各ポートにかかわるパラメーターの設定や制御が可能になります(p.151 参照)。 ◆ 「User Management」(ユーザー管理)の項目にチェックを入れると、ユーザーアカウントの作成・変更・削除が可能になります。 ◆ 「Maintenance」(メンテナンス)の項目にチェックを入れると、「Maintenance」(メンテナンス)タブで提供されている操作がすべて利用可能になります(p.220 参照)。 ◆ 「System Log」(システムログ)の項目にチェックを入れると、システムログへのアクセスが可能になります(p.191 参照)。 ◆ 「View Only」(参照のみ)の項目にチェックを入れると、ユーザーは製品に接続されたデバイス画面の参照しかできなくなります。ポートへのアクセスや、キーボードやマウスを使ったポート操作はできません。 ◆ 「Windows Client」(Windows クライアント)の項目にチェックを入れると、Windows クライアントソフトウェアのダウンロードや、これを使った製品へのアクセスが可能になります。 ◆ 「Java Client」(Java クライアント)の項目にチェックを入れると、Java クライアントソフトウェアのダウンロードや、これを使った製品へのアクセスが可能になります。 ◆ 「Force to Grayscale」(グレースケール表示する)の項目にチェックを入れると、ユーザーが表示しているリモート画面をグレースケールに変更します。この操作によって、低帯域のネットワーク環境でのレスポンス向上を図ることができます。

(表は次のページに続きます)

項目	説明
Status (ステータス)	ユーザーアカウントとデバイスへのアクセスを管理することができます。詳細は以下のとおりです。 ◆ 「Disable Account」(アカウントを無効にする)の項目にチェックを入れると、そのユーザーアカウントの使用を停止することができます。この機能ではユーザーは物理的に削除されることがありませんので、後に必要となった場合でも簡単に設定を戻すことができます。 ◆ アカウントに有効期限を設けたくない場合は「Account never expires」(アカウントを失効させない)の項目を選択してください。また、アカウントに有効期限を設ける場合は「Account expires on」(アカウント失効日)の項目を選択し、有効期限の日付をテキストボックスに入力してください。 ◆ ユーザーが次回ログインする際にパスワードの変更を要求する場合は、「User must change password at next logon」(ユーザーは次回ログイン時にパスワードを変更する)の項目にチェックを入れてください。この項目を使うことで、初回ログインでは管理者によって発行された一時パスワードを使用し、2回目以降はユーザー自身が設定したパスワードを使うという方法で運用することができます。 ◆ パスワードを永続的にし、ユーザーに変更されないようにしたい場合は、「User cannot change password」(ユーザーによるパスワード変更不可)の項目にチェックを入れてください。 ◆ セキュリティのために、アドミニストレーターはユーザーに定期的なパスワードの変更を要求することも可能です。 ➤ パスワードに有効期限を設けない場合は、「Password never expires」(パスワードを失効させない)の項目を選択してください。これによって、ユーザーはパスワードの有効期限の制限を受けることはありません。 ➤ パスワードに有効期限を設ける場合は、「Password expires after」(パスワード有効日数)の項目を選択し、パスワードの有効日数を入力してください。ここで設定した日数が経過すると、新しいパスワードを設定しなければなりません。

4. この段階で、「Devices」(デバイス)タブにおいてユーザーにポートアクセス権限を割り当てることもできます(p.163 参照)。

注意: ポートへのアクセス権限の設定はここでは必須ではありませんので、この手順を省略して先に別のユーザーを作成しておき、後から権限設定を行うことも可能です。

5. 各項目への入力が終わったら「**Save**」(保存)ボタンをクリックしてください。
6. 操作に成功すると、メッセージボックスに「Operation Succeeded」(オペレーション成功)と表示されます。ダイアログの「**OK**」ボタンをクリックして、操作を終了してください。
7. メイン画面に戻る場合は、サイドバーの「**Users**」(ユーザー)をクリックしてください。サイドバーの一覧とメインパネルに新しいユーザーが表示されます。
 - ◆ サイドバーのユーザーリストは展開したり閉じたりすることができます。リストが展開されている場合は、「**Users**」(ユーザー)の隣にある「-」をクリックするとツリーが閉じます。また、リストが閉じている場合は「+」をクリックするとリストが展開します。
 - ◆ 首に赤い二重のバンドがついているアイコンはスーパーアドミニストレーターを、また、首に黒い一重のバンドがついているアイコンはアドミニストレーターをそれぞれ表します。
 - ◆ 大きいメインパネルにはユーザーの名前、アカウント作成時に設定された説明、アカウントの状態(有効/無効)が表示されます。

ユーザーアカウントの編集

ユーザーアカウントを編集する場合は、以下の手順で操作してください。

1. サイドバーの「**User**」(ユーザー)リストから、編集対象となるユーザーの名前をクリックしてください。
 - または -メインパネルで、編集対象となるユーザーの名前を選択してください。
2. 「**Modify**」(変更)ボタンをクリックしてください。
3. メイン画面の「**User**」(ユーザー)タブで内容を変更したら、「**Save**」(保存)ボタンをクリックしてその内容を反映させてください。

注意: 「**User**」(ユーザー)タブに関する詳細は p.157 に、また、「**Devices**」(デバイス)タブに関する詳細は p.163 にそれぞれ記載されています。

ユーザーアカウントの削除

ユーザーアカウントを削除する場合は、以下の手順で操作してください。

1. メインパネルで、削除対象となるユーザーの名前を選択してください。
2. 「Delete」(削除)ボタンをクリックしてください。
3. 「OK」ボタンをクリックしてください。

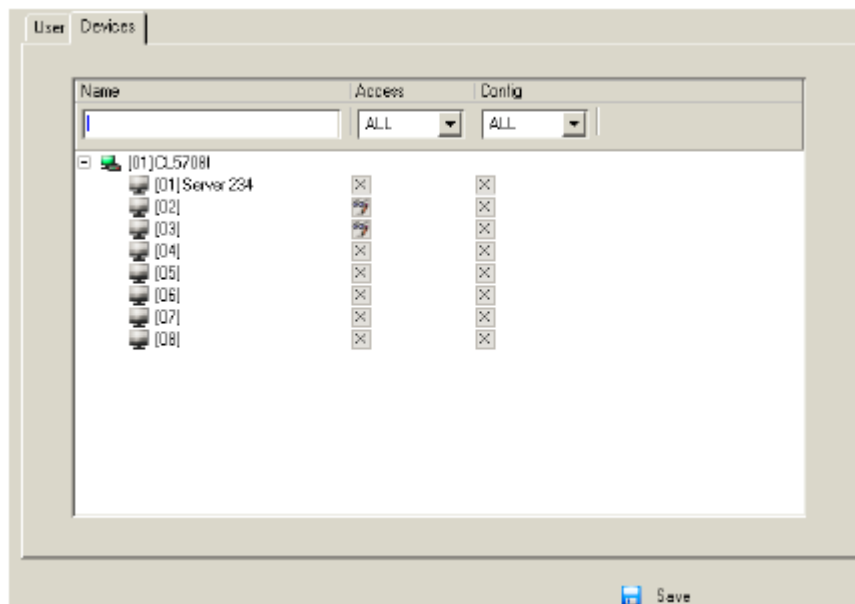
デバイスの割り当て

ユーザーが製品にログインすると、「Port Access」(ポートアクセス)タブの画面が最初に表示され、そのユーザーがアクセスを許可されたポートがすべて、画面左側のサイドバーに一覧表示されます。ポートやポートに接続されたデバイスに対するアクセス権限は、「User Management」(ユーザー管理)タブの「User」(ユーザー)からポートごとに割り当てられます。

ユーザーメニューを使ってデバイスの操作権限を割り当てる場合

「User」(ユーザー)タブを使ってデバイスの操作権限を割り当てる場合は、以下の手順で操作してください。

1. サイドバーのユーザーリストで、対象となるユーザーの名前をクリックしてください。
- または -
メインパネルで、対象となるユーザーの名前を選択してください。
2. 「**Modify**」(変更)ボタンをクリックしてください。
3. メインパネルから「Devices」(デバイス)タブを選択してください。タブを選択すると、下図のような画面が表示されます。



4. 下記を参考にしながら、各ポートの権限設定を行ってください。

項目	機能		
Name (名前)	現在操作しているユーザーがアクセスできるポートがこの列に表示されます。		
Access (アクセス)	デバイスへのアクセス権限を設定します。これらの設定内容を切り替える場合は、設定を行いたいユーザーの行にあるこのアイコンをクリックしてください。各アイコンが表す意味は下記の通りです。		
		Full Access (フルアクセス)	ユーザーはリモート画面を参照することができます。また、ユーザー自身がい使用しているキーボードとモニターを使ってリモートサーバーを操作することができます。
		View Only (参照のみ)	ユーザーはリモート画面を参照することができますが、操作をすることはできません。
		No Access (アクセス不可)	このポートへのアクセス権限はなく、ポートはユーザーのメイン画面にも表示されません。
Config (設定)	ポート設定の変更権限を設定します。これらの設定内容を切り替える場合は、設定を行いたいユーザーの行にあるこのアイコンをクリックしてください。 チェックマーク(✓)はユーザーがこの権限を持っていることを、また×マークはユーザーがこの権限を持っていないことをそれぞれ表します。		

5. 内容を設定したら、「**Save**」(保存)ボタンをクリックしてください。
6. 確認ダイアログが表示されたら、「**OK**」ボタンをクリックしてください。

注意: 各列の値は、[Shift] キーや[Ctrl]キーを押しながらマウスをクリックすることで複数のポートの属性を同時に定義することができます。選択されたポートで各列のアイコンをクリックすると、その列の設定内容を同時に切り替えます。

暫定版

フィルター

「Name」(名前)列に表示されているポートの表示範囲を絞り込むフィルターは 3 種類あります。詳細は下表のとおりです。

フィルター		説明
Name (名前)		ポートネームにフィルターを掛ける場合は、ポートネーム(すべて、または一部)を入力し、 [Enter] キーを押してください。その文字列に一致したポートが一覧に表示されます。 検索には、ワイルドカード(1 文字の場合は?、複数の文字の場合は*)や、「or」キーワードを使用することができます。 例 1:「h*ds」という文字列を指定した場合、「hands」と「hoods」がヒットします。 例 2:「h?nd」という文字列を指定した場合、「hand」と「hind」がヒットしますが、「hard」はヒットしません。 例 3:「h*ds or h*ks」という文字列を指定した場合、「hands」と「hooks」がヒットします。
	Access (アクセス)	All (すべて)
		すべてのポートが一覧に表示されます。
		Full Access (フルアクセス)
Config (設定)		フルアクセスに設定されているポートだけが一覧に表示されます。
		View Only (参照のみ)
		参照のみに設定されているポートだけが一覧に表示されます。
		No Access (アクセス不可)
Config (設定)		アクセス不可に設定されているポートだけが一覧に表示されます。
		All (すべて)
		すべてのポートが一覧に表示されます。
Config (設定)		Permitted (許可)
		設定が「許可」に設定されているポートだけが一覧に表示されます。
Config (設定)		Restricted (制限)
		設定が「制限」に設定されているポートだけが一覧に表示されます。

第 10 章 デバイス管理

KVM デバイス

デバイス情報

「Device Management」(デバイス管理)タブを開くと、サイドバーでは 1 台目にある KVM スイッチが、また、メニューバーでは、その KVM スイッチの「Device Information」(デバイス情報)が、それぞれ選択された状態で画面が表示されます。

ブラウザ GUI



アプリケーション GUI

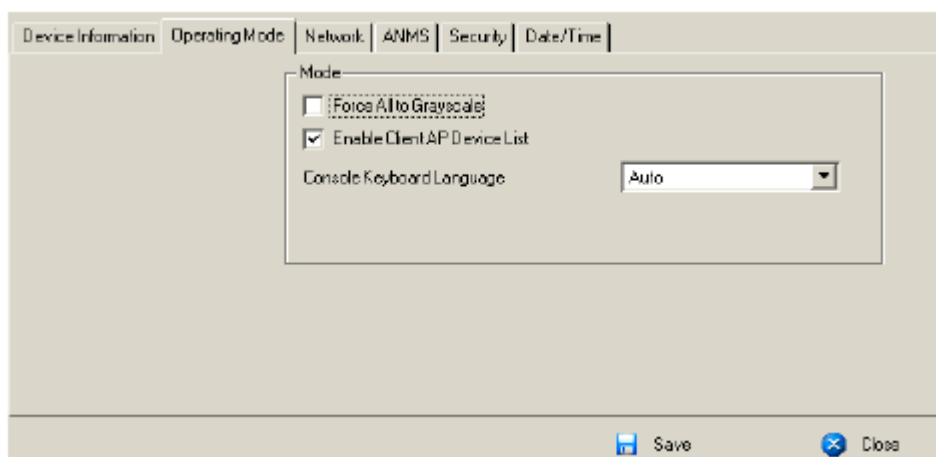


全般

「Device Information」(デバイス情報)画面の「General」(全般)セクションには、選択デバイスの名前、ファームウェアバージョン、およびネットワーク設定に関する情報がそれぞれ表示されます。

注意: アプリケーション GUI には、ブラウザ版と同じ情報が表示されます。リストの内容を確認する場合は、スクロールバーを操作してください。

操作モード



この画面では、下記のパラメーターを設定します。

- ◆ 「Force all to grayscale」(グレースケール表示する)の項目を有効にすると、KVM スイッチに接続されている全デバイスのリモート画面がモノクロで表示されます。これによって、低帯域のネットワーク環境でも I/O 転送速度を上げることができます。
- ◆ 「Enable Client AP Device List」(デバイス一覧を有効にする)の項目を有効にすると、Windows クライアントや(p.83 参照)Java クライアント(p.88 参照)の各アプリケーションを使っている時に、この KVM スイッチがサーバーリストに表示されるようになります。このオプションが無効になっていると、KVM スイッチには接続はできるものの、KVM スイッチにつけられた名前はサーバーリストには表示されません。
- ◆ 「Console Keyboard Language」(コンソールキーボード言語)の項目では、ローカルコンソールで使うキーボードのキーボードマッピングを設定します。隣にあるリストから設定内容を選択してください。

ネットワーク

「Network」(ネットワーク)メニューでは、製品のネットワークに関連する項目を設定することができます。

The screenshot shows a network configuration window with the following sections:

- IP Installer:** Three radio buttons: ☐ Enabled, ☒ View Only, ☐ Disabled.
- Service Ports:** Three text input fields: Program (9000), HTTP (80), and HTTPS (443).
- IPv4 Settings:**
 - IP Address:** Two radio buttons: ☒ Obtain IP address automatically [DHCP], ☐ Set IP address manually [Fixed IP]. Below are text fields for IP Address (10.3.41.119), Subnet Mask (255.255.255.0), and Default Gateway (10.3.41.254).
 - DNS Server:** Two radio buttons: ☐ Obtain DNS server address automatically, ☒ Set DNS server address manually. Below are text fields for Preferred DNS server (0.0.0.0) and Alternate DNS server (10.3.152.0).
- IPv6 Settings:**
 - IP Address:** Two radio buttons: ☒ Obtain IPv6 address automatically [DHCP], ☐ Set IPv6 address manually [Fixed IP]. Below are text fields for IPv6 Address, Subnet Prefix Length (64), and Default Gateway.
 - DNS Server:** Two radio buttons: ☒ Obtain DNS server address automatically, ☐ Set DNS server address manually. Below are text fields for Preferred DNS server and Alternate DNS server.
- Network Transfer Rate:** A text input field with the value 99999 and a label Kbps.

At the bottom right, there are two buttons: Save and Close.

この画面における各項目については、後のセクションで説明します。

IP インストーラー

IP インストーラーは、製品に外部から IP アドレスを設定できる、Windows 用ソフトウェアです。

IP インストーラーの用途に応じて、「Enable」(有効)、「View Only」(監視のみ)、「Disable」(無効)のいずれかのラジオボタンをクリックしてください。IP インストーラーの詳細については p.169 をご参照ください。

-
- 注意:**
1. 「View Only」(参照のみ)を選択した場合、製品は IP インストーラーのデバイスリストで確認することができますが、この IP インストーラーから IP アドレスを変更することはできません。
 2. セキュリティを保護するために、IP インストーラーの使用後には、この項目を「View Only」(参照のみ)または「Disable」(無効)に設定することを強く推奨します。
-

サービスポート

セキュリティの面からシステムにファイアーウォールが導入されている場合、管理者はファイアーウォールの設定で許可されたポート番号を CL5708I/CL5716I 側でも設定する必要があります。デフォルト以外のポートを使っている場合、ユーザーはログインの際に IP アドレスの一部分として、このポート番号を入力しなくてはなりません。入力するポート番号が正しくなかったり、未入力だったりすると、製品を検索しても表示されません。各項目の内容は下表のとおりです。

項目	説明
Program (プログラム)	Windows クライアントや Java ビューワー、また、Windows/Java アプリケーションプログラムから製品に接続する際に使用するポート番号です。デフォルトでは 9000 に設定されています。
HTTP	ブラウザログインの際に使用するポート番号です。デフォルトでは 80 に設定されています。
HTTPS	SSL 通信に使用するポート番号です。デフォルトでは 443 に設定されています。

-
- 注意:**
1. 各サービスポートで有効な値は 1~65535 です。
 2. これらのポートはそれぞれ固有のポートを割り当て、項目間で値が重複しないように設定してください。
 3. ファイアーウォールが設置されている環境では、ネットワーク管理者とご相談の上、設定してください。
-

◆ IPv4 設定

➤ IP アドレス

IPv4 は IP アドレスの従来の設定方法です。製品には DHCP を使用して動的 IP アドレスを設定することも、固定 IP アドレスを設定することも可能です。

- ☆ 動的 IP アドレスを割り当てる場合は、「Obtain IP address automatically [DHCP]」(IP アドレスを自動的に取得する [DHCP]) のラジオボタンを選択してください (デフォルト設定です)。
- ☆ 固定 IP アドレスを設定する場合は、「Set IP address manually [Fixed IP]」(IP アドレスを手動で設定する [固定 IP]) のラジオボタンを選択し、お使いのネットワーク環境で有効な値を各欄に入力してください。

-
- 注意:**
1. 「Obtain IP address automatically [DHCP]」(IP アドレスを自動的に取得する [DHCP]) の項目を選択し、DHCP を使って製品の IP アドレスを自動的に取得する場合、製品は起動後に DHCP サーバーからの IP アドレスの割り当てを待機します。1 分経過しても IP アドレスが割り当てられない場合は、工場出荷時にデフォルトで設定された IP アドレス (192.168.0.60) に自動的に戻ります。
 2. 製品が、DHCP がアドレスを割り当てるネットワークに接続されていて、なおかつ IP アドレスを確認する必要がある場合は、p.257 の「IP アドレスの設定」をご参照ください。
-

➤ DNS サーバー

- ☆ DNS サーバーのアドレスを自動的に割り当てる場合は、「Obtain DNS Server address automatically」(DNS サーバアドレスの自動取得) のラジオボタンを選択してください。
- ☆ DNS サーバーのアドレスを手動で割り当てる場合は、「Set DNS server address manually」(DNS サーバアドレスの手動設定) のラジオボタンを選択し、お使いのネットワークの優先 DNS サーバーと代替 DNS サーバーの IP アドレスをそれぞれ入力してください。

-
- 注意:** 代替 DNS サーバーのアドレスは任意で設定してください。
-

◆ IPv6 設定

➤ IP アドレス

IPv6 は IP アドレス設定の新しいフォーマット(128 ビット)です(詳細については p.260「IPv6」参照)。製品には、DHCP を使用して動的 IPv6 アドレスを設定することも、固定 IPv6 アドレスを設定することも可能です。

✧ 動的 IPv6 アドレスを割り当てる場合は、「Obtain IPv6 address automatically [DHCP]」(IPv6 アドレスを自動的に取得する [DHCP])のラジオボタンを選択してください(デフォルト設定です)。

✧ 固定 IP アドレスを設定する場合は、「Set IPv6 address manually [Fixed IP]」(IPv6 アドレスを手動で設定する [固定 IP])のラジオボタンを選択し、お使いのネットワーク環境で有効な値を各欄に入力してください。

➤ DNS サーバー

✧ DNS サーバーのアドレスを自動的に割り当てる場合は、「Obtain DNS server address automatically」(DNS サーバアドレスの自動取得)のラジオボタンを選択してください。

✧ DNS サーバーのアドレスを手動で割り当てる場合は、「Set DNS server address manually」(DNS サーバアドレスの手動設定)のラジオボタンを選択し、お使いのネットワークの優先 DNS サーバーと代替 DNS サーバーの IP アドレスをそれぞれ入力してください。

注意: 代替 DNS サーバーのアドレスは任意で設定してください。

ネットワーク転送速度

製品がリモートコンピューターにデータを転送する速度を設定することで、ネットワークのトラフィック状況を最適化し、データ転送量を調節することができます。設定できる値の範囲は 4～99999KBps です。

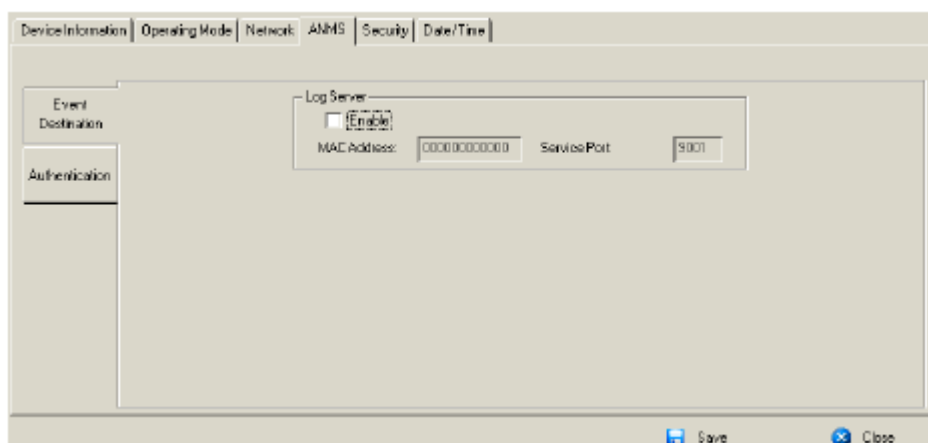
操作が完了したら

ネットワーク設定の変更を行ったら、ログアウトする前に「Maintenance」(メンテナンス)タブ→「System Operation」(システム操作)メニューの「Reset on exit」(終了時にリセット)の項目(p.202 参照)が有効になっている(チェックボックスにチェックが入っている)ことを確認してください。これによって、製品を再起動することなくネットワークの設定をデバイスに反映することができます。

ANMS

ANMS (Advanced Network Management Settings)メニューでは外部システムからのログイン認証および権限管理に関するセットアップを行います。このメニューは複数のカテゴリから構成されています。各カテゴリの内容については、後のセクションで説明します。

イベント送り先



◆ Log Server (ログサーバー)

ログインや内部ステータスメッセージなど、製品内部で発生した重要なイベントは、自動的にログファイルに記録されます。

- ログサーバーが動作しているコンピューターの MAC アドレスを「MAC address」(MAC アドレス) 欄に入力してください。
- ログサーバーが動作しているコンピューターがログデータをリッスンしているポートの番号を「Service Port」(サービスポート) 欄に入力してください。入力可能な値の範囲は 1～65535 で、デフォルトでは 9001 に設定されています。

注意: このポート番号は、「Program」(プログラム) で指定されたポートとは別のポートを使用してください(p.169「プログラム」参照)。

ログサーバーのセットアップ方法については第 15 章をご参照ください。また、ログファイルについては p.191 で説明しています。

認証

◆ RADIUS Settings (RADIUS 設定)

RADIUS サーバー経由で製品への認証を行う場合は、以下の手順で操作してください。

1. 「**Enable**」(有効にする)の項目にチェックを入れてください。
2. 優先 RADIUS サーバーまたは代替 RADIUS サーバーの IP アドレスとポート番号をそれぞれ入力してください。IP の各欄は、IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、ドメイン名のいずれかで設定してください。
3. 「Timeout」(タイムアウト)の項目に、製品が RADIUS サーバーの応答を待機する最大時間(秒)を入力してください。
4. 「Retries」(再試行)の項目に、RADIUS サーバーを使ったログインの再試行可能回数を設定してください。
5. 「Shared Secret」(共有シークレット)の項目に、RADIUS サーバーとの認証で使用する共有シークレットの文字列を 6 文字以上で入力してください。
6. RADIUS サーバーでは、以下のいずれかの方法でユーザー認証を行うことができます。
 - ユーザーエントリーを「**su/xxxx**」として設定する。
「xxxx」の部分は、製品でアカウントを作成した際にユーザーに与えられたユーザーネームに置き換えてください。

- RADIUS サーバー側と製品側で同じユーザーネームを使用する。
 - RADIUS サーバー側と製品側で同じグループネームを使用する。
 - RADIUS サーバー側と製品側で同じユーザーネーム、グループネームを使用する。
- いずれの方法においても、ユーザーのアクセス権限は、グループユーザーが製品で作成された際に割り当てられた権限になります。(p.157「ユーザーの作成」参照)

◆ LDAP/LDAPS 設定

製品にログインするユーザーの認証および権限設定を LDAP/LDAPS で行う場合は、以下の表をご参照ください。

項目	説明
Enable (有効にする)	LDAP/LDAPS による認証および権限設定を行う場合は、この項目にチェックを入れてください。
Type (タイプ)	この機能を有効にした時に、LDAPとLDAPSのどちらを使って認証を行うかをラジオボタンで選択してください。
LDAP Server/Port (LDAP サーバー/ ポート)	LDAP/LDAPS サーバーの IP アドレスやポート番号を入力してください。 ◆ 「LDAP Server」(LDAP サーバー)欄は、IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、またはドメイン名を使って設定できます。 ◆ LDAP サーバーのデフォルトポート番号は 389、LDAPS サーバーのデフォルトポート番号は 636 です。
Admin DN (アドミニストレーターDN)	この項目に入力する値は LDAP/LDAPS サーバーの管理者にご確認ください。以下、設定例です。 ou=kn8132,dc=aten,dc=com
Admin Name (アドミニストレーター名)	LDAP アドミニストレーターのユーザーネームを入力してください。
Password (パスワード)	LDAP アドミニストレーターのパスワードを入力してください。
Search DN (サーチ DN)	検索ベースの識別名を設定してください。これはユーザーネームの検索を開始する DNS 名です。
Timeout (タイムアウト)	製品が LDAP/LDAPS サーバーの応答を待機する時間(秒)を設定してください。

LDAP/LDAPS サーバーでは、下記のいずれかの方法でユーザー認証を行うことができます。

- ◆ Active Directory スキーマを使用
- ◆ スキーマを使用せず、製品上で使用されているユーザーネームだけを LDAP/LDAPS サーバー上の名前に一致させる。ユーザー権限は製品上で設定されている権限と同じ。
- ◆ スキーマを使用せず、製品上で使用されているグループだけを一致させる。ユーザー権限は、そのユーザーが属しているグループに設定されている権限と同じ。
- ◆ スキーマを使用せず、Active Directory のユーザーネームとグループを一致させる。ユーザー権限は、そのユーザーが属しているグループとユーザーに設定されている権限と同じ。

注意： LDAP に関する詳細は、弊社 Web サイトより LDAP 取扱説明書をダウンロードしてご参照ください。

CC 管理の設定

CC(Control Center)サーバー経由で製品の認証を行う場合は、「Enable」(有効にする)の項目にチェックを入れ、CC サーバーの IP アドレスと通信に使用するポートを入力してください。「CC Server IP」(CC サーバーIP)欄は、IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、ドメイン名のいずれかで設定することができます。

セキュリティ

「Security」(セキュリティ)メニューは次の主要なパネルから構成されています。これらのパネルについては、後のセクションで説明します。

ログイン失敗

セキュリティを強化するために、このセクションでは、ユーザーのログイン失敗を処理する際に適用されるポリシーを設定することができます。

The screenshot shows a window titled "Login Failures". Inside, there is a checkbox labeled "Enable". Below it, there are two labels: "Allowed:" and "Timeout:". Next to "Allowed:" is a text box containing the number "5". Next to "Timeout:" is a text box containing the number "3", followed by the text "min". At the bottom of the window, there are two checkboxes: "Lock Client PC" and "Lock Account".

これらのポリシーを設定する場合は、「Enable」(有効にする)の項目にチェックを入れてください(デフォルトではこの項目にチェックが入っています)。各項目が表す内容は下表のとおりです。

項目	説明
Allowed (許可)	リモートコンピューターからのログイン連続試行可能回数を設定します。デフォルトでは 5 回に設定されています。
Timeout (タイムアウト)	ログイン連続試行可能回数を超過してしまった場合に、次のログインまでに待機しなければならない時間を設定します。デフォルトでは 3 分に設定されています。
Lock Client PC (ロッククライアント PC)	この項目にチェックが入っていると、ログイン連続試行回数を超過してしまった場合に、そのコンピューターは自動的に締め出され、そのコンピューターからのログインは拒否されてしまいます。デフォルトではこの項目にチェックが入っています。 注意:この機能はクライアントコンピューターの IP アドレスに基づいて処理されています。IP アドレスが変更されると、このコンピューターはロックされなくなります。

(表は次のページに続きます)

暫定版

項目	説明
Lock Account (ロックアカウント)	この項目にチェックが入っていると、ログイン連続試行回数を超過してしまった場合に、そのアカウントは自動的に締め出され、そのアカウントからのログインは拒否されてしまいます。ログイン連続試行回数を超過してしまったユーザーネームとパスワードではログインすることができません。デフォルトではこの項目にチェックが入っています。

注意: このセクションの項目を設定していないと、ユーザーは無制限で何度でもログインを試行することが可能になってしまいます。セキュリティを維持するためには、この機能を有効にして、ロックアウトポリシーを設定されることを推奨します。

フィルター

The screenshot shows a 'Filter' window with the following elements:

- IP Filter Section:**
 - Checkbox: ☐ Enable IP Filter
 - Radio buttons: ☐ Include, ☒ Exclude
 - List box: Empty
 - Buttons: Add, Modify, Delete
- Login String:**
 - Text field: Empty
- MAC Filter Section:**
 - Checkbox: ☐ Enable MAC Filter
 - Radio buttons: ☐ Include, ☒ Exclude
 - List box: Empty
 - Buttons: Add, Modify, Delete

◆ IP/MAC フィルター

IP/MAC フィルター機能は、製品への接続を試みるコンピューターの IP アドレスや MAC アドレスに基づいて、このユニットへのアクセスを制御するものです。フィルターは IP、MAC 各フィルターともそれぞれ最大で 100 項目作成することができます。フィルターは設定されると、IP フィルターの場合は上部のリストボックスに、MAC フィルターの場合は下部のリストボックスにそれぞれ表示されます。

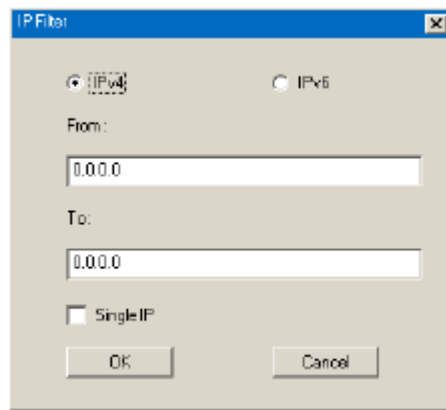
IP フィルターの機能を有効にする場合は「Enable IP Filter」(IP フィルター有効)の項目に、また、MAC フィルターの機能を有効にする場合は「Enable MAC Filter」(MAC フィルター有効)の項目にそれぞれチェックを入れてください。

- 「Include」(含む)ラジオボタンが選択されている場合は、指定のアドレスもしくは指定範囲内のアドレスからの製品へのアクセスを許可します。それ以外のアドレスからのアクセスはすべて拒否されます。
- 「Exclude」(除く)ボタンが選択されている場合は、指定のアドレスもしくは指定範囲内のアドレスからの製品へのアクセスを拒否します。それ以外のアドレスからのアクセスはすべて許可されます。

◆ フィルター項目の追加

IP アドレスのフィルター項目は以下の手順で追加してください。

1. 「Add」(追加) ボタンをクリックしてください。このボタンをクリックすると下図のようなダイアログが表示されます。



2. IPv4 アドレスと IPv6 アドレスのどちらでフィルターを掛けるかをラジオボタンで選択してください。
3. 「From」欄にフィルタリングの対象となる IP アドレスを入力してください。
 - IP アドレスが 1 つだけの場合は、「Single IP」(単独 IP) の項目にチェックを入れてください。
 - 複数の IP アドレスの範囲を指定する場合は、その範囲の始点となる IP アドレスを「From」欄に、終点となる IP アドレスを「To」欄にそれぞれ入力してください。

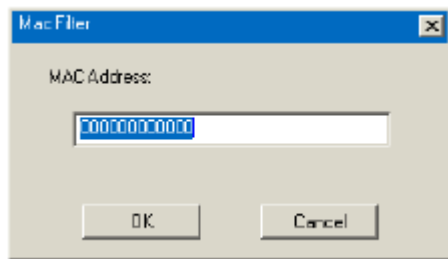
注意: アプリケーション GUI では上記の方法で操作できます。ブラウザ GUI をお使いの場合、下記の点が異なります。

1. IPv4 アドレスと IPv6 アドレスを選択できるラジオボタンは表示されず、IPv4 の「From」欄と「To」欄のみ表示されます。
 2. 「Single IP」(単独 IP) のチェックボックスは表示されません。IPv4 アドレスを 1 つだけフィルタリングする場合は、「From」欄と「To」欄に同じ IP アドレスを入力してください。
-

4. IP アドレスを入力したら、「OK」ボタンをクリックしてください。
5. 他にもフィルター項目がある場合は、上記手順の操作を繰り返して設定してください。

MAC アドレスのフィルター項目は以下の手順で追加してください。

1. 「**Add**」(追加) ボタンをクリックしてください。このボタンをクリックすると下図のようなダイアログが表示されます。



2. MAC アドレスを入力したら、「**OK**」ボタンをクリックしてください。
3. 他にもフィルター項目がある場合は、上記手順の操作を繰り返して設定してください。

◆ IP アドレスと MAC アドレスの設定が一致しない場合

あるコンピュータが IP アドレスによるフィルタリングではアクセスが許可されているにもかかわらず、MAC アドレスによるフィルタリングではアクセスが禁止されているといったように、フィルタリングの内容に矛盾がある場合、そのコンピュータからのアクセスはブロックされます。

◆ フィルターの変更

フィルターを変更する場合は、対象となる項目を IP フィルターリスト、または MAC フィルターリストのボックスから選択し、「**Modify**」(変更) ボタンをクリックしてください。フィルター追加時に表示されるダイアログと同様のダイアログが表示されますので、新しいアドレスに変更してください。

◆ フィルターの削除

フィルターを削除する場合は、対象となる項目を IP フィルターリスト、または MAC フィルターリストのボックスから選択し、「**Delete**」(削除) ボタンをクリックしてください。

ログイン文字列

スーパーアドミニストレーターは、「Login String」(ログイン文字列)の項目を使って、ユーザーが Web ブラウザでアクセスする際に IP アドレス以外に必要なログイン文字列を設定します。

例えば、製品に「192.168.0.126」という IP アドレスが、ログイン文字列に「abcdefg」という文字列がそれぞれ設定されている環境では、アドレスバーに下記の URL を入力してアクセスします。

192.168.0.126/abcdefg

-
- 注意:**
1. IP アドレスとログイン文字列の間はスラッシュ(/)で区切ってください。
 2. ログイン文字列が設定されていないと、誰でも製品の IP アドレスを指定するだけでログイン画面までアクセスできてしまいます。セキュリティレベルを維持するために、この文字列の設定を推奨します。
-

このログイン文字列は、半角文字を使用して入力してください。入力可能な文字の種類は下記の通りです。

0-9 a-z A-Z ~ ! @ \$ % & * () _ - = + [] .

また、下記の文字は使用できません。

- % ^ " ' : / ? # \ ' { } ; , < >
- 半角スペース
- アクセント付き文字や複合文字 (É Ç ñ など)

次の例は許可されないパターンです。

192.168.0.126/.

192.168.0.126/..

192.168.0.126/...

セキュリティを維持するために、この文字列を定期的に変更されることを推奨します。

暫定版

アカウントポリシー

システム管理者はこのセクションでユーザーネームやパスワードの管理ポリシーを設定することができます。

The screenshot shows a window titled "Account Policy". It contains several settings:

- Minimum Username Length:** A text box containing the value "6".
- Minimum Password Length:** A text box containing the value "6".
- Password Must Contain At Least:** Three checkboxes are shown, all of which are unchecked:
 - ☐ One Upper Case
 - ☐ One Lower Case
 - ☐ One Number
- Enforce Password History:** A checkbox that is checked, followed by a text box containing the value "3".

このセクションにおける各項目の内容は下表のとおりです。

項目	説明
Minimum Username Length (ユーザー名最小文字数)	ユーザーネームの設定に最低限入力が必要な文字数を設定します。設定できる値は 1～16 です。デフォルトでは 6 に設定されています。
Minimum Password Length (パスワード最小文字数)	パスワードの設定に最低限入力が必要な文字数を設定します。設定できる値は 0～16 です。0 を設定した場合は、パスワードの入力が不要になり、ユーザーはユーザーネームだけでログインできるようになります。デフォルトでは 6 に設定されています。
Password Must Contain At Least (パスワードには以下が必須です)	これらの項目にチェックを入れると、パスワードに含めなければならない文字の条件を追加することができます。 One Upper Case(大文字 1 文字) - 半角英字の大文字を 1 文字以上入力 One Lower Case(小文字 1 文字) - 半角英字の小文字を 1 文字以上入力 One Number(数字 1 文字) - 半角数字を 1 文字以上入力 注意:このポリシーは既存のユーザーアカウントには適用されません。有効後にユーザーを作成したり、パスワードを変更したりした場合にこのポリシーが適用されます。

(表は次のページに続きます)

項目	説明
Enforce Password History (パスワード履歴を実行する)	この項目にチェックを入れると、ユーザーが古いパスワードを繰り返して使用する回数を制限することができます。この項目を設定すると、パスワードの変更回数が、ここで指定された回数を超えるまで、ユーザーは同じパスワードを再利用することができなくなります。

暗号化

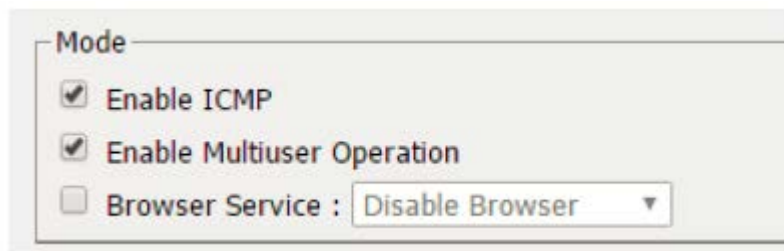
The screenshot shows a window titled 'Encryption'. Inside, there are two sections: 'Keyboard/Mouse' and 'Video'. Each section has five checkboxes for different encryption methods: DES, 3DES, AES, RC4, and Random. In the 'Keyboard/Mouse' section, the 'Random' checkbox is highlighted in red. In the 'Video' section, the 'AES' checkbox is highlighted in blue. All other checkboxes are standard grey.

本製品では、キーボード/マウスおよびビデオの各信号の暗号化の形式を個別に設定することができます。これらの信号はそれぞれ、DES、3DES、AES、RC4、ランダム of 各方式を単独または組み合わせて暗号化することができます。

暗号化機能を有効にすると、システムパフォーマンスに影響を与え、暗号化を複雑にすればするほど、暗号化がシステムにもたらす弊害も大きくなります。暗号化を有効にする場合は、以下の点を考慮して設定を行ってください。

- ◆ システムパフォーマンスに与える影響は、RC4、DES、3DES、AES の順に大きくなります。
- ◆ 暗号化の組み合わせのうち、RC4 と DES の組み合わせが最もシステムに与える影響が小さいです。

動作モード

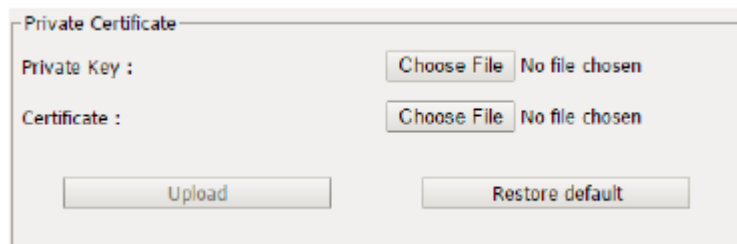


このセクションにおける各項目の内容は下表のとおりです。

項目	説明
Enable ICMP (ICMP を有効にする)	この項目が 有効 になっていると、製品は自身に発行された ping コマンドに対して応答します。この項目が無効になっていると、外部から自身に対する ping には応答しません。デフォルトではこの項目は有効になっています。
Enable Multiuser Operation (マルチユーザーオペレーションを有効にする)	この項目を有効にすると、最大 32 ユーザーが同時ログインし、リモートバスを共有することができます。この項目が有効になっていないと、一度にログインできるのは 1 ユーザーだけとなります。デフォルトでは有効に設定されています。
Browser Service (ブラウザサービス)	この項目を有効にすると、アドミニストレーターは、製品に対する Web ブラウザからのアクセスに制限をかけることができます。この項目を有効にした場合は、隣にあるリストボックスから制限レベルを選択してください。 Disable Browser (ブラウザの無効化) : ブラウザによるアクセスが禁止されます。 Disable HTTP (HTTP の無効化) : ブラウザによるアクセスは許可されますが、ユーザーは HTTPS の URL を使ってアクセスする必要があります。 Disable HTTPS (HTTPS の無効化) : ブラウザによるアクセスは許可されますが、ユーザーは HTTP の URL を使ってアクセスする必要があります。

プライベート証明書

SSL 接続でログインすると、ユーザーが意図するサイトにログインしようとしているかどうかを検証するために署名済み証明書が使われます。デフォルトの ATEN 証明書を使うのではなく、このセクションで自分のプライベート暗号キーと署名済み証明書を使うように設定することで、セキュリティを強化することができます。

A screenshot of a 'Private Certificate' configuration window. It contains two rows: 'Private Key :' and 'Certificate :'. Each row has a 'Choose File' button and a 'No file chosen' label. At the bottom, there are two buttons: 'Upload' and 'Restore default'.

プライベート証明書を発行するには、自己署名された証明書を作成する方法と、サードパーティーの証明局(CA)によって署名された証明書をインポートする方法の2つの方法があります。

◆ 自己署名済み証明書の作成

自己署名済み証明書を作成する場合は、「openssl.exe」というフリーツールをインターネットでダウンロードして使うことができます。OpenSSL を使って自身のプライベートキーと SSL 証明書を作成する方法の詳細については p.273「自己署名(プライベート)証明書」をご参照ください。

◆ CA 署名済み SSL サーバー証明書の取得

セキュリティを強化するために、サードパーティーの認証局(CA)によって署名された証明書を使うことを推奨します。サードパーティーによって署名された証明書を取得する場合は、認証局の Web サイトにアクセスし、SSL 証明書を申請してください。CA から証明書が送られてきたら、お使いのコンピューターのハードディスクドライブの適当なフォルダーに保存してください。

◆ プライベート証明書のインポート

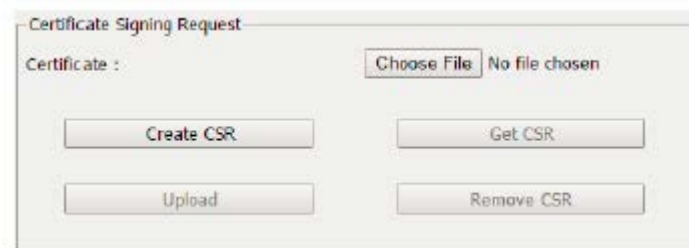
プライベート証明書をインポートする場合は、下記の手順に従って操作してください。

1. 「Private Key」(プライベートキー)の隣にある「**Choose a File**」(ファイル選択)ボタンをクリックして、ダイアログからプライベート暗号キーのファイルがあるフォルダーに移動し、このファイルを選択してください。
2. 「Certificate」(証明書)の隣にある「**Choose a File**」(ファイル選択)ボタンをクリックして、ダイアログから証明書のファイルがあるフォルダーに移動し、このファイルを選択してください。
3. 「**Upload**」(アップロード)ボタンをクリックして操作を完了してください。

-
- 注意:
1. 「Restore Default」(デフォルト設定の復元)ボタンをクリックすると、デバイスは、デフォルトの ATEN 証明書を使うようになります。
 2. プライベート暗号キーと署名済み証明書は同時にインポートしてください。
-

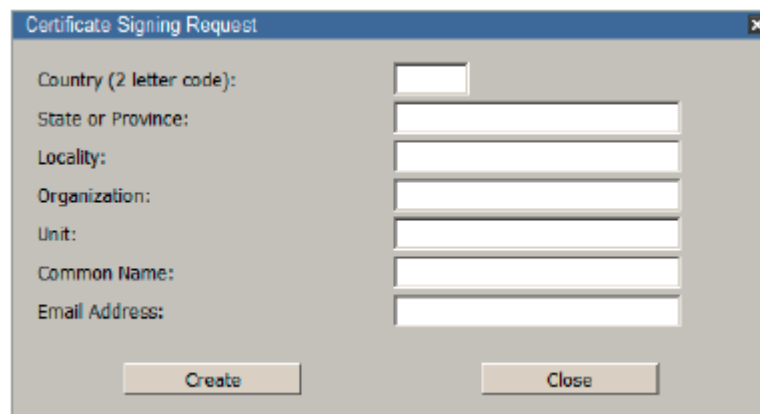
CSR 証明書署名要求

このセクションでは、CA に署名された SSL サーバー証明書の取得およびインストールを行うことができます。



操作方法は下記の通りです。

1. 「Create CSR」(証明書署名要求を生成する)ボタンをクリックしてください。このボタンをクリックすると、下図のようなダイアログが表示されます。



暫定版

2. 下表の例を参考にしながら、お使いの環境で有効な値をダイアログの項目に入力してください。

項目	例
国名(2 バイトコード)	TW
State or Province (都道府県)	Taiwan
Locality (市区町村)	Taipei
Organization (組織/会社)	Your Company, Ltd.
Unit (部署)	Techdoc Department
Common Name (コモンネーム)	mycompany.com 注意: ここには証明書を有効にしたいサイトのドメイン名を正しく入力してください。例えば、サイトのドメイン名が「www.mycompany.com」の場合、「mycompany.com」だけを設定しても、その証明書は有効になりません。
Email Address (メールアドレス)	administrator@yourcompany.com

3. 項目への入力が終わったら(全項目入力必須)、「**Create**」(生成)ボタンをクリックしてください。このボタンをクリックすると、先ほど入力した情報に基づいて作成された自己署名証明書が、製品内部に保存されます。
4. 「**Get CSR**」(CSRを取得する)ボタンをクリックし、証明書ファイル(csr.cer)を、お使いのコンピューターの適当な場所に保存してください。
このファイルは、サードパーティーCA に署名済み SSL 証明書の申請を行う際に提出するものです。

5. CA から証明書が送られてきたら、このファイルをお使いのコンピューターの適当な場所に保存してください。「**Choose a File**」(ファイル選択)ボタンでファイルを探し、「**Upload**」(アップロード)ボタンでこのファイルを製品の内部に保存してください。

注意: ファイルをアップロードすると、製品側でこのファイルをチェックし、ファイルで設定されている情報が一致するかどうかを確認します。情報が一致している場合は、ファイルが受け入れられますが、一致しない場合は却下されます。

ドメイン名の変更で新しい証明書が必要になった等の理由で証明書を削除する場合は、「**Remove CSR**」(証明書署名要求を削除する)ボタンをクリックしてください。

日付/時刻

このメニューでは、製品内部の日付や時刻に関する項目の設定を行います。

The screenshot shows a settings menu with four sections: Time Zone, Date, Time, and Network Time.

- Time Zone:** A dropdown menu is set to "(GMT-12:00) Eniwetok Kwajalein". There is an unchecked checkbox for "Daylight Savings Time".
- Date:** A dropdown menu is set to "May". To the right is "< 2017 >". Below is a calendar for May 2017. The calendar table is as follows:

Su	Mo	Tu	We	Th	Fr	Sa
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			
- Time:** Three input fields show "13 : 53 : 43". To the right is a "Set" button.
- Network Time:** An unchecked checkbox for "Enable auto adjustment". Below it, "Preferred time server" is set to "AU | ntp1.cs.mu.OZ.AU". There is an unchecked checkbox for "Preferred custom server IP" and an empty input field. Below that, "Alternate time server" is also set to "AU | ntp1.cs.mu.OZ.AU". There is an unchecked checkbox for "Alternate custom server IP" and an empty input field. At the bottom, "Adjust time every" is set to "1" days. To the right is an "Adjust Time Now" button.

項目の設定は、以下の内容に従って行ってください。

タイムゾーン

- ◆ 製品がセットアップされている場所のタイムゾーンを設定する場合は、現在の設置場所から最も近いものを「Time Zone」(タイムゾーン)のリストボックスの中から選択してください。
- ◆ 製品をお使いの地域でサマータイムが導入されている場合は、「Daylight Saving Time」(サマータイム)の項目にチェックを入れてください。

日付

- ◆ ドロップダウンリストから適切な月を選択してください。
- ◆ 前の年に移動する場合は「<」を、次の年に移動する場合は「>」をそれぞれクリックしてください。
- ◆ 表示されたカレンダーから適切な日を選択してください。
- ◆ 時刻は、24 時間制で「HH:MM:SS」のフォーマットで「時間」欄に入力してください。
- ◆ 設定内容を保存する場合は「Set」(同期) ボタンをクリックしてください。

ネットワーク時間

時刻をネットワークタイムサーバーに自動同期させる場合は、下記の手順に従って操作してください。

1. 「Enable auto adjustment」(自動調整を有効にする)の項目にチェックを入れてください。
2. 「Preferred time server」(プライマリタイムサーバー)リストから、お使いの環境に適したプライマリタイムサーバーを選択してください。
 - または -
 - 「Preferred custom server IP」(プライマリカスタムサーバーIP)の項目にチェックを入れて、使用するタイムサーバーの IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、ドメイン名のいずれかを入力してください。
3. 代替タイムサーバーを設定する場合は、「Alternate time server」(代替タイムサーバー)の項目にチェックを入れて、手順 2 の要領で代替タイムサーバーの項目を設定してください。
4. 何日おきに同期を実行するかを「Adjust time every」(次の期間毎に時間を調整する)の欄に入力してください。
5. 時刻調整をすぐに実行する場合は、「Adjust Time Now」(今すぐ時間を調整する)ボタンをクリックしてください。

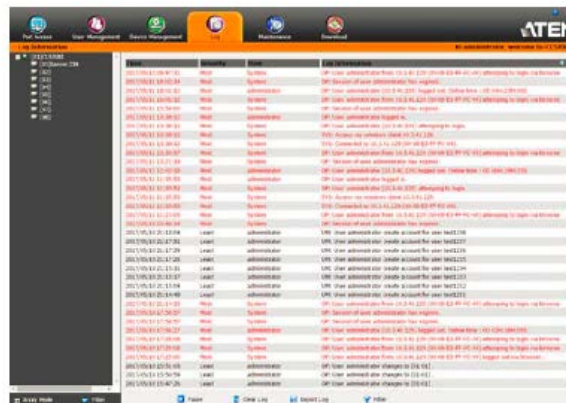
第11章

ログ

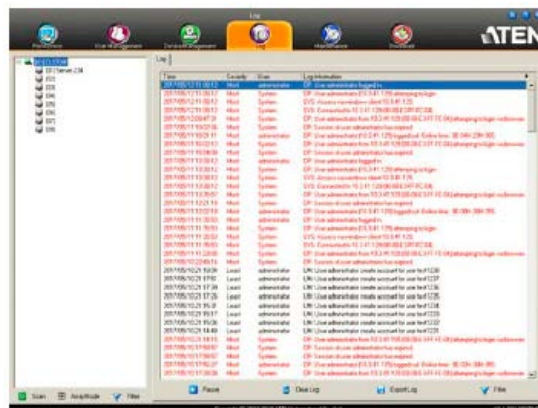
概要

発生した全イベントは、製品内部でログとして記録されます。ログの内容を確認する場合は、「Log」(ログ)タブをクリックしてください。タブをクリックすると、下図のようにデバイスのログ情報が表示されます。

ブラウザ GUI



アプリケーション GUI



ログ情報

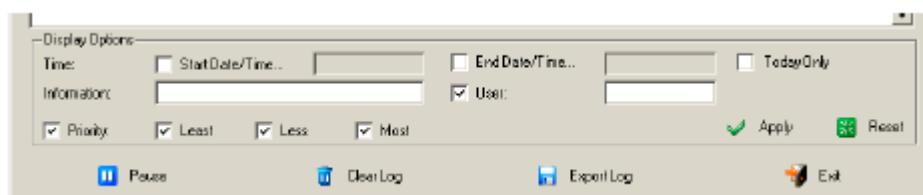
「Log Information」(ログ情報)メニューでは、製品内部で発生したイベントや、イベントの時刻、重要度、ユーザーの概要、またログ情報がそれぞれ表示されます。列の見出しをクリックすると、その項目で並べ替えを変更します。

ログファイルは、最大512件のイベントを記録します。記録されたイベントの数が512件に達すると、新しいイベントが発生した際に、一番古いイベントが切り捨てられます。512件を超える数のイベントを記録する方法については、p.215「ログサーバー」をご参照ください。画面下部にあるボタンの詳細は下表のとおりです。

項目	説明
Pause (ポーズ)	このボタンをクリックすると、新しいイベントの表示を中断します。表示が一時停止されると、ボタンの表示は「Resume」(レジューム)に切り替わります。イベントの表示を再開する場合は、この「Resume」(レジューム)ボタンをクリックしてください。
Clear Log (ログのクリア)	ログファイルの内容を消去します。
Export Log (ログのエクスポート)	ログの内容をお使いのコンピューター上にファイルとして保存します。
Filter (フィルター)	日付、特定の文字列などでイベントを検索します(次のセクションに記載)。

フィルター

この機能を使うと、表示されるログイベント情報を、発生時間、メッセージに含まれているキーワード、ユーザー名などの条件で絞り込むことができます。この機能呼び出すと、画面下部に下図のようなメニューが表示されます。



暫定版

この画面に表示される各項目の内容は下表のとおりです。

項目	説明
Time (時間)	特定の時間に発生したイベントを検索します。指定できる条件は下記の通りです。 Today Only(本日のみ): 現在の日付で発生したイベントのみ表示します。 Start Date/Time(開始日付/時刻): 特定の日時から現在の間 に発生したイベントを検索します。アプリケーション GUI の場合、 チェックボックスにチェックを入れると、カレンダーコントロールが 表示されますので、開始日時を設定してください。ここで指定された 日時から現在までの間に発生した全イベントが表示されます。 Web ブラウザインターフェースの場合、チェックボックスにチェック を入れ、テキストボックスをクリックすると、カレンダーコントロール が表示されます。日時を選択したら、カレンダーパネルの右下にある 「A」アイコンをクリックしてください。 End Date/Time(終了日付/時刻): 特定の期間に発生したイ ベントを検索します。最初に、「Start Date/Time」(開始日付/時刻、 上記参照)を選択したら、「End Date/Time」(終了日付/時刻)の隣に あるチェックボックスにチェックを入れて、終了日時を設定してくだ さい。 Web ブラウザインターフェースの場合、チェックボックスにチェック を入れ、テキストボックスをクリックすると、カレンダーコントロール が表示されます。日時を選択したら、カレンダーパネルの右下にある 「A」アイコンをクリックしてください。

(表は次のページに続きます)

暫定版

項目	説明
Information (通知)	特定のキーワードを含むイベントを検索します。キーワードはテキストボックスに入力してください。その文字列を含むイベントだけが表示されます。ここでは、ワイルドカード(1 文字の場合は?, 複数の文字の場合は*)や、「or」キーワードを使うことができます。 例 1:「h*ds」という文字列を指定した場合、「hands」と「hoods」がヒットします。 例 2:「h?nd」という文字列を指定した場合、「hand」と「hind」がヒットしますが、「hard」はヒットしません。 例 3:「h*ds or h*ks」という文字列を指定した場合、「hands」と「hooks」がヒットします。
User (ユーザー)	特定のユーザーに関連するイベントを検索します。この条件で検索する場合は、「User」(ユーザー)チェックボックスにチェックを入れ、テキストボックスに対象ユーザーのユーザーネームを入力して「Apply」(適用)ボタンをクリックしてください。この文字列を含むユーザーネームに関連したイベントのみが表示されます。 注意:このチェックボックスにチェックが入っていない状態で検索すると、検索結果の一覧に「User」(ユーザー)列が表示されなくなります。
Severity (重要度)	イベントの重要度に基づいてイベントを検索します。イベントの重要度が「Least」(少ない)の場合は青色で、「Most」(最大)の場合は赤色でそれぞれ表示されます。 この条件で検索する場合は、「Severity」(重要度)のチェックボックスにチェックを入れてから、指定したい条件のチェックボックスにチェックを入れてください(複数指定可能)。指定した重要度に一致したイベントのみが表示されます。 注意:このチェックボックスにチェックが入っていない状態で検索すると、検索結果の一覧に「Severity」(重要度)列が表示されなくなります。
Apply (適用)	指定された条件で検索を行います。

(表は次のページに続きます)

暫定版

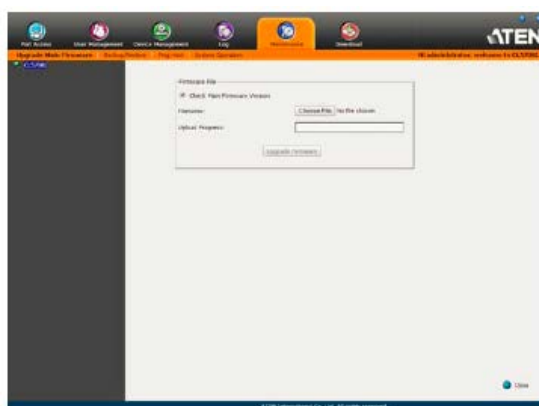
項目	説明
Reset (リセット)	検索条件をデフォルトの状態に戻します。
Exit (終了)	ログフィルター機能を終了します。

第 12 章 メンテナンス

概要

「Maintenance」(ファームウェア)タブでは、ファームウェアのアップグレード、設定内容およびアカウント情報のバックアップ・リストア、ターミナルコマンドの送出、ping ネットワーク診断やデフォルト値への復元を行います。

ブラウザ GUI



アプリケーション GUI

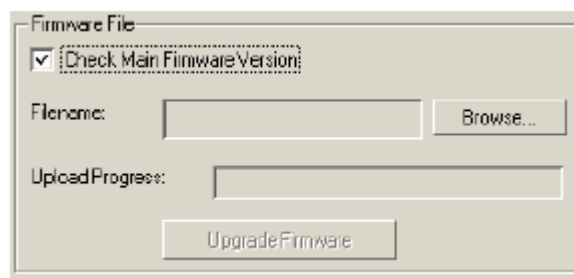


ファームウェアのアップグレード

新しいバージョンの i カードのファームウェアがリリースされると、Web サイトに公開され、ダウンロードできるようになります。弊社 Web サイト(<http://www.aten.com/jp/ja/>)を定期的にご確認いただき、最新のファームウェアにアップグレードしてください。このサイトでは、各デバイスに特化したファームウェアアップグレードパッケージが提供されています。なお、メインボードのファームウェアはファームウェアアップグレードポート経由でしかアップグレードできません(詳細については p.226「ファームウェアアップグレードユーティリティ」を参照)。

ファームウェアをアップグレードするには、下記の作業を行ってください。

1. 弊社 Web サイトから新しい i カードのファームウェアファイルをダウンロードし、お使いのコンピューターのハードディスクの適当な場所に保存してください。ダウンロードは、1) 製品ページ内の「サポートとダウンロード」メニューからアクセス、または、2) ホームページのトップページの右上に表示される(表示画面のサイズによっては画面左上に三本線のアイコンが表示されるので、それをクリックすると表示される)「サポートとダウンロード」→「ダウンロード」→「他の製品の資料をダウンロードする」に型番を入力して検索する方法で行えます。
2. 製品にログインし、「Maintenance」(メンテナンス)タブをクリックしてください。「Upgrade Main Firmware」(メインファームウェアのアップグレード)*メニューが選択された状態で表示されます。



3. 「参照…」ボタンをクリックし、手順 1 で保存したファイルをダイアログから選択してください。
4. 「Upgrade Firmware」(ファームウェアアップグレード)ボタンをクリックし、アップグレードを実行してください。
 - ◆ 「Check Main Firmware Version」(メインファームウェアバージョンを確認する)*の項目にチェックが入っていると、現在使用しているファームウェアとインストールしようとしているファームウェアファイルとの間でバージョンの比較を行います。2つのバージョンが同じ、もし

くは現在使用しているファームウェアのバージョンの方が新しい場合、メッセージが表示され、アップグレードを続行するか中止するかを選択を促されます。

- ◆ 「Check Main Firmware Version」(メインファームウェアバージョンを確認する)*の項目にチェックが入っていない場合は、バージョンの比較を行うことなくファームウェアのアップグレードを行います。
- ◆ アップグレードの進行状況は、「アップロード中」で確認することができます。
- ◆ アップグレードに成功すると、製品本体がリセットされます。

5. 製品に再度ログインし、ファームウェアのバージョン情報が更新されていることを確認してください。

注意: 本セクションにおける「メインファームウェア」という用語は、CL5708I/CL5716Iのiカードのことを指しています。メインボードのファームウェアのことではありませんので、ご注意ください。

バックアップ/復元

ブラウザのメニューバーから「Backup/Restore」(バックアップ/復元)を選択すると、製品の設定とユーザープロファイルの情報のバックアップを作成することができます。

The image shows a web interface for Backup/Restore. It is divided into two main sections: 'Backup' and 'Restore'.
The 'Backup' section contains a 'Password:' label followed by a text input field and a 'Backup' button.
The 'Restore' section contains a 'Filename:' label followed by a 'Choose File' button and the text 'No file chosen'. Below this is a 'Password:' label with a text input field. There are three radio buttons: 'Select All' (selected), 'User Account', and 'User Select'. Below the radio buttons is an 'Options' box containing two columns of checkboxes: 'Account', 'ANMS', 'Date/Time' on the left, and 'Network', 'Security', 'Operating Mode' on the right. All checkboxes are checked. At the bottom of the 'Restore' section is a 'Restore' button.

バックアップ

デバイスの設定のバックアップを作成する場合は、以下の手順で操作してください。

1. 「Password」(パスワード)の項目に、ファイルのリストアに必要となるパスワードを入力してください。

注意:

 1. パスワードの設定は任意です。パスワードを設定しない場合、ファイルはパスワードなしでリストアされます。
 2. パスワードを設定する場合、リストアの際にこのパスワードが必要になりますので、忘れないように記録しておいてください。

2. 「Backup」(バックアップ)ボタンをクリックしてください。
3. ブラウザからファイルの保存方法を問うダイアログが表示された場合は、「保存」を選択し、お使いのコンピュータのドライブの適当な場所に保存してください。

リストア

バックアップの内容をリストアする場合は、以下の手順で操作してください。

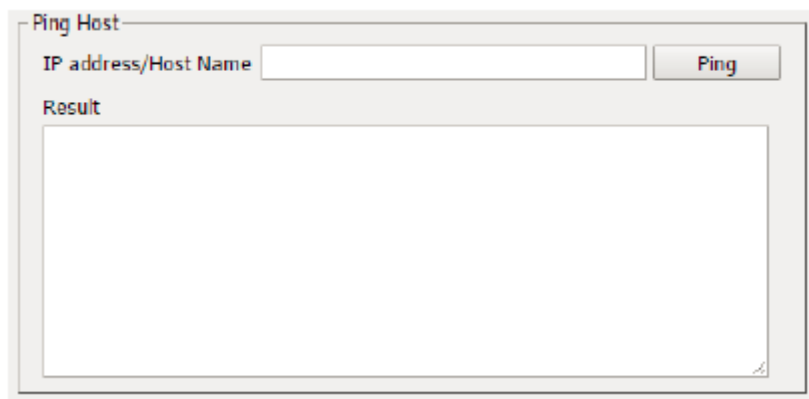
1. 「**Choose a File**」(ファイル選択) ボタンをクリックし、バックアップファイルが保存されているフォルダーを選択してください。

注意: デフォルトで設定されたファイル名を変更しても、新しい名前でそのままお使いいただけますので、元の名前に変更する必要はありません。

2. バックアップファイルの作成時にパスワードを設定している場合は、「Password」(パスワード) 欄に、そのパスワードと同じ文字列を入力してください。
3. ファイルに保存された内容のうち、リストアしたい項目にチェックを入れてください。
4. 「**Restore**」(復元) ボタンをクリックしてください。
ファイルがリストアされると、処理に成功したという内容のメッセージが表示されます。

ホストへの Ping コマンド

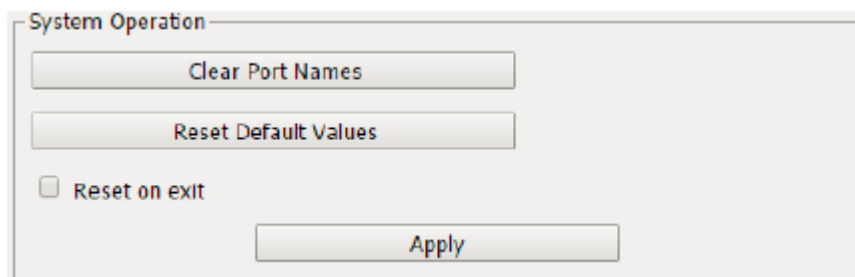
「Ping Host」(ホストに Ping する)セクションでは、IP アドレスに ping コマンドを送信して、ネットワーク上で応答があるかどうかを確認することができます。このコマンドを実行するには、「IP address/Hostname」(IP アドレス/ホストネーム)の欄に IP アドレスを入力してから、「**Ping**」をクリックしてください。



The image shows a software dialog box titled "Ping Host". Inside the dialog, there is a text input field with the placeholder text "IP address/Host Name". To the right of this field is a button labeled "Ping". Below the input field and button is a large, empty rectangular area with the label "Result" at the top left, intended for displaying the output of the ping command.

システム操作

「System Operation」(システム操作)メニューを使うと、製品上で変更された設定情報を工場出荷時におけるデフォルト設定に戻すことができます。



この画面では下記の機能が実行できます。

ポートネームのクリア

「Clear Port Names」(ポートネームのクリア)ボタンをクリックすると、そのポートに割り当てられたポートネームを削除します。

デフォルト設定に戻す

「Reset Default Values」(デフォルト設定に戻す)ボタンをクリックすると、「Device Management」(デバイス管理)タブにおける設定項目(ポートネーム以外)やネットワーク転送速度の変更を取り消し、これらのパラメーターを工場出荷時のデフォルト設定に戻します。

終了時にリセット

ログアウトする際に製品本体をリセットし、新しい設定内容を反映させる場合は、「Reset on exit」(終了時にリセット)の項目にチェックを入れて「Apply」(適用)ボタンをクリックしてください。(リセット後は、30～60 秒ほど経ってから再ログインしてください。)

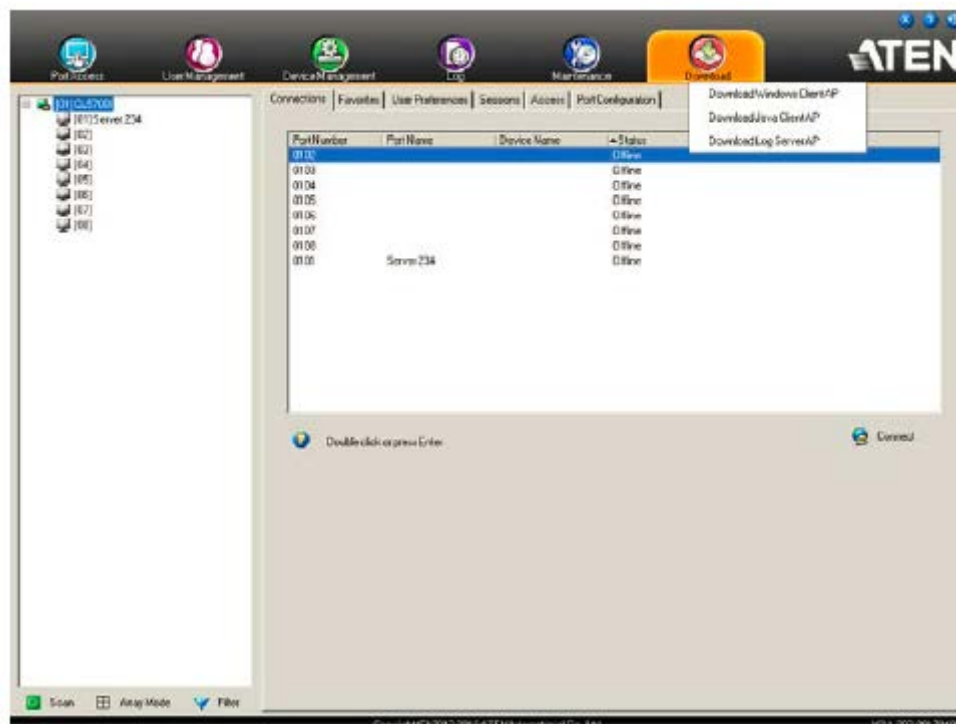
製品の IP アドレスを変更する(p.168 参照)と、チェックボックスには自動的にチェックが入り、ログアウトした際に製品本体のリセットを行います。ログアウトする前にこのチェックを外してしまうと、IP アドレスの変更が適用されず、変更前の IP アドレスが引き続き有効になります。

注意: 変更された IP アドレスは本体には適用されませんが、画面上の設定欄にはそのまま残っています。これは、次にこの画面を開いた際に、「Reset on exit」(終了時にリセット)のチェックボックスに自動的にチェックが入り、製品本体がリセットした際には、破棄されたと思っていた新しい IP アドレスの設定が製品本体で使われるためです。この問題を避けるためには、ネットワーク設定画面に戻り、この欄に表示されている IP 設定が意図するものであるかどうかを確認してください。

第 13 章 ダウンロード

概要

「Download」(ダウンロード)タブでは、アプリケーション版の Windows クライアント、Java クライアント、ログサーバーの各ツールをダウンロードすることができます。



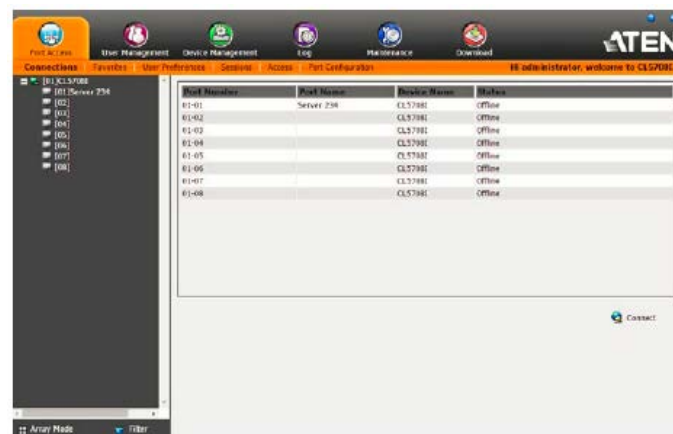
ダウンロードしたいプログラムをクリックし、お使いのハードディスクの適当な場所に保存して、そこからこのプログラムを起動してください。

第 14 章 ポート操作

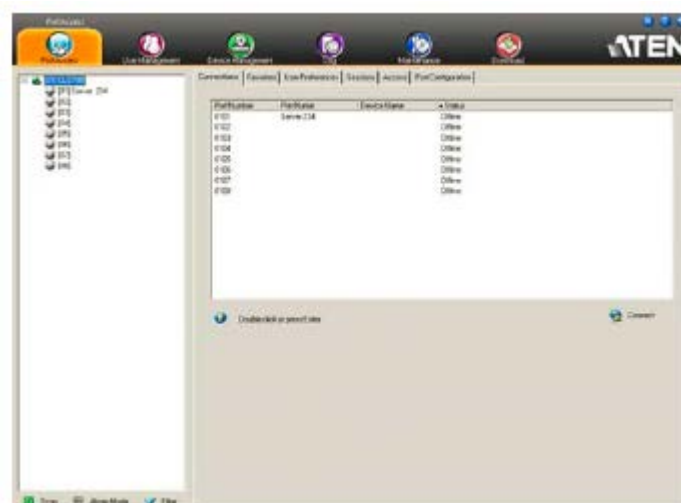
概要

ログイン(p.81 参照)に成功すると、製品のメイン画面は、「Port Access」(ポートアクセス)タブの「Connections」(接続)メニューが表示されます。

ブラウザ GUI



アプリケーション GUI



-
- 注意:**
1. アプリケーション版の Windows クライアントと Java クライアントでは、画面の上部中央にマウスカーソルを移動すると、コントロールパネルが表示されます。これに対し、Web ブラウザ版では、ポートを切り替えた後にしかコントロールパネルが表示されません。コントロールパネルに関する詳細は p.97 をご参照ください。
 2. 「Port Access」(ポートアクセス) タブの「Connections」(接続) メニューに関する詳細は、p.137「KVM デバイスとポート - 接続画面」をご参照ください。
-

ポートへの接続

ユーザーがアクセスできるポートはすべて、ページの左側にあるサイドバーに一覧表示されます。

- ◆ サイドバーでデバイスが選択されている時にポートに接続する場合は、サイドバーで対象となるポートのアイコンをダブルクリックするか、メインの中央パネルでこの行のアイテムの任意の場所をダブルクリックするか、これを選択してから画面右下にある「**Connect**」(接続) ボタンをクリックしてください。
- ◆ サイドバーでポートが選択されている時にポートに接続する場合は、ステータスパネル (p.139 参照) 右側にある「**Connect**」(接続) ボタンをクリックしてください。

ポートを切り替えると、リモートのデスクトップ画面がモニターに表示され、キーボードやマウスで操作できるようになります。



ポートツールバー

製品は、選択中のポートからポート操作ができるツールバー機能を提供しています。ツールバーを起動する場合は、GUI ホットキー([Scroll Lock]キーまたは[Ctrl]キー)を2回押してください。画面左上に下図のようなツールバーが表示されます。



「ID Display」(ID 表示、p.143 参照)の項目で選択された値に応じて、ポートナンバーやポートネームがツールバーの右に表示されます。ツールバー上の各アイコンの内容については p.209 の表をご参照ください。

ツールバーが表示されると、マウスおよびキーボードからの入力はポートに接続されたコンピューター上で無効になります。そのコンピューターでの操作を実行する場合は、「×」のアイコンをクリックしてツールバーを閉じてください。

「Port Access」(ポートアクセス)タブの「Connections」(接続)メニューに戻る場合は、このメニューのアイコン(p.209 参照)をクリックするか、もう一度 GUI ホットキーを押してください。

-
- 注意:**
1. ツールバーの透明度は設定で変更することができます(p.110 参照)。
 2. ツールバーの機能やアイコンもコントロールパネルに組み込まれています。コントロールパネル(p.124 参照)でこれらを有効にする場合は、ツールバー(p.143 参照)を無効にすることができます。ツールバーが表示されていない場合に「Port Access」(ポートアクセス)の「Connections」(接続)メニューを呼び出す場合は、GUI ホットキーを2回押してください。
-

ツールバーアイコン

ツールバーにおける各アイコンの詳細は下表のとおりです。

アイコン	機能
	「Port Access」(ポートアクセス)タブを呼び出すことなく、現在の機器構成における、最初にアクセス可能なポートに移動します。
	「Port Access」(ポートアクセス)タブを呼び出すことなく、一つ前のアクセス可能なポートに移動します。
	オートスキャンモードを開始します。製品は、オートスキャンの対象となるポートをポート選択とフィルター機能 (p.132 参照) の条件にしたがって自動的に切り替えます。これによって、コンピューターを手動で切り替えることなく継続してポートの状態をモニタリングすることができます。
	「Port Access」(ポートアクセス)タブを呼び出すことなく、次のアクセス可能なポートに移動します。
	「Port Access」(ポートアクセス)タブを呼び出すことなく、現在の機器構成における、最後にアクセス可能なポートに移動します。
	OSD に戻ります。
	ツールバーを終了します。
	パネルアレイモードを起動します (p.213 参照)。

ツールバーホットキーによるポート切替

ツールバーが表示されると、ホットキーを使ってキーボードから直接ポートを切り替えることができます。本製品のホットキーには以下の特長があります。

- ◆ ポートナンバーを入力し、[Enter]キーを押して直接切替
- ◆ オートスキャン
- ◆ スキップモードによるポート切替

オートスキャンのホットキーは[A]キーおよび [P]キーを、また、スキップモードのホットキーはカーソルキーをそれぞれ使用します。

-
- 注意:**
1. ホットキーを実行するには、ツールバーを表示しておく必要があります(p.208 参照)。
 2. ホットキーとして割り当てられているキー(例:[A]キー、[P]キーなど)をホットキー以外の目的で使用する場合は、ツールバーを閉じてください。
 3. オートスキャンモードの実行が複数ユーザーの操作に与える影響については p.213「パネルアレイモード」をご参照ください。
-

オートスキャン

スキャン機能によって、現在ログインしているユーザーがアクセスできる全ポートを、一定の時間間隔で自動的に切り替えて表示することができるので、ユーザーはポートの状況を自動的にモニタリングすることができます。また、ユーザーはサイドバーのツリーでフィルター機能を利用することでスキャン対象となるポートの数を制限することもできます。詳細は、p.137 「KVM デバイス・ポート接続画面」および p.132 「フィルター」を参照してください。

- ◆ スキャンインターバルの設定
オートスキャンで各ポートを表示する時間は「Scan Duration」(スキャンインターバル)の項目で設定することができます(p.144 参照)。
- ◆ オートスキャンの起動
オートスキャンを起動する場合は、ツールバーを表示した状態で、[A]キーを押してください。オートスキャン機能は、現在の機器構成における最初のポートから順にポート切替を行います。ポート ID の前に表示された **S** は、そのポートがオートスキャンモードでアクセスされていることを表しています。

◆ オートスキャンの一時停止

オートスキャンモードの実行中に[P]キーを押すと、特定のコンピューターを表示するためにスキャンを一時停止することができます。オートスキャンモードが一時停止されている間は、ポートIDの前に表示されている[S]マークが点滅します。

スキャンを停止して特定のコンピューターの画面を一旦表示させたい場合、オートスキャンモードを終了してしまうと次のスキャンの際には最初のポートからスキャンし直すのに対し、一時停止機能を利用した場合は次のスキャンの際にはそのポートからスキャンを再開しますので、後者の方法の方が便利です。

オートスキャンの一時停止後、スキャンを再開したい場合は、[Esc]キーとスペースキー以外の任意のキーを押してください。スキャンを中断したポートからスキャンを再開します。

◆ オートスキャンの終了

オートスキャンモードの実行中は、通常のキーボードの機能はサスペンド状態になります。キーボードを通常の方法で使いたい場合は、オートスキャンモードを終了する必要があります。オートスキャンモードを終了する場合は[Esc]キーまたはスペースキーを押してください。オートスキャンモードを終了するとオートスキャンは停止します。

スキップモード

スキップモードでは、コンピューターを手動で切り替えて表示することができます。オートスキャンモードでは一定のインターバルで自動的にポートを切り替えるのに対し、スキップモードでは時間の制限を受けることなく、特定のポートを表示させておくことができます。スキップモードで使用できるホットキーは上下左右の4種類のカーソルキーです。各キーの機能については下表のとおりです。

カーソルキー	動作
←	現在のポートから、一つ前のアクセス可能ポートに移動します。
→	現在のポートから、次のアクセス可能ポートに移動します。
↑	現在のポートから、現在の機器構成で最初にアクセス可能なポートに移動します。
↓	現在のポートから、現在の機器構成で最後にアクセス可能なポートに移動します。

ポートアクセスタブの再呼び出し

ツールバーを終了し、「Port Access」(ポートアクセス)タブに再度アクセスする場合は、以下のいずれかの方法で操作してください。

- ◆ GUI ホットキーを 1 回押す。
- ◆ ツールバーから「Port Access」(ポートアクセス)タブを呼び出すアイコン (p.209 参照) をクリックする。

ツールバーが終了すると、「Port Access」(ポートアクセス)タブが表示されます。

GUI ホットキー一覧表

下表は、ポートアクセス後の GUI ホットキーの動作についてまとめたものです。GUI ホットキーの設定方法については p.143「ユーザー設定」をご参照ください。

目的		操作
ツールバーを開く		GUI ホットキーを 2 回押す。
「Port Access」(ポートアクセス)タブを開く	ツールバーが表示されている場合	GUI ホットキーを 1 回押す。
	ツールバーが表示されていない場合	GUI ホットキーを 3 回押す。

パネルアレイモード

ツールバーのパネルアイコンをクリックすると、パネルアレイモードを起動します。このモードでは、画面が最大 42 分割され、製品に接続された各コンピューターの画面が一度に表示されます。



- ◆ 各パネルは、製品の各ポートに接続されているコンピューターの画面を表示します。左上から右方向に、そして、複数行ある場合は上から下に向かって、ポート 1、ポート 2…という順序で表示されます。
- ◆ 画面に表示されるパネルの数は、パネルアレイツールバーの「Show More Ports」(表示ポートを増やす)をクリックして増やしたり、「Show Fewer Ports」(表示ポートを減らす)をクリックして減らしたりすることができます(p.214 参照)。
- ◆ パネルアレイモードが起動すると、ポート選択とフィルター機能(p.132 参照)でオートスキャンの対象にされたポートをスキャンします。現在スキャン中のポートを表示しているパネルの枠は色が強調表示されます。
- ◆ 画面に表示されるのは、ユーザーがアクセスできるポートのみです。アクセスできないポートのパネルはブランクで表示されます。
- ◆ ポートに接続されているサーバーがオンライン状態の場合、パネルにはそのサーバーのコンソール画面が表示されます。オフラインの場合は、パネルがブランクで表示されます。
- ◆ パネルにマウスカーソルを移動させると、そのポートに関する情報(ポートネーム、オンライン状況、ポートアクセスの状況、解像度)が表示されます。
- ◆ パネルをマウスでクリックすると、「Port Access」(ポートアクセス)タブを使ってポート切替を行ったときと同様、そのポートに接続されているコンピューターにアクセスすることができます。

パネルアレイツールバー

パネルアレイツールバーを使うことによって、パネルアレイモードの機能を簡単に実行することができます。このツールバーは通常画面上部中央に表示されますが、ドラッグして画面の好きな場所に移動させることもできます。また、アイコンの上にマウスを移動させると、そのアイコンの機能の概要がツールチップで表示されます。各アイコンの機能は下表のとおりです。

アイコン	機能
	ツールバーを移動させる場合は、このアイコンをクリックしてドラッグしてください。 注意: このアイコンは Windows クライアントでのみ使用できます。Java クライアントのツールバーを移動させたい場合は、ツールバーのアイコンのない部分をクリックしてドラッグしてください。
	現在表示中のパネルでスキャンを一時停止します。
	Show More Ports : 画面に表示するパネルの数を増やします。
	Show Fewer Ports : 画面に表示するパネルの数を減らします。
	アスペクト比 4:3 に切り替えます。
	パネルアレイモードを終了します。

注意: オートスキャンモードの実行が複数ユーザーの操作に与える影響については p.255 「パネルアレイモードに関するトラブルシューティング」をご参照ください。

第 15 章

ログサーバー

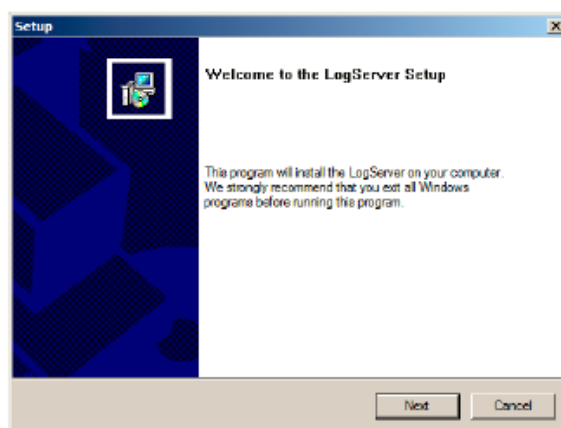
Windows ベースのログサーバーは、製品内部で発生したイベントを記録し、検索可能なデータベースにデータを書き込む管理者向けのツールです。本章ではログサーバーのインストール方法および設定方法について説明します。

インストール

1. ログサーバーとして使用するコンピュータで、Web ブラウザを使って製品にログインしてください(p.82 参照)。
2. 画面上部の「Download」(ダウンロード)タブをクリックし、ログサーバープログラムをダウンロードしてください。
3. ログサーバーをダウンロードしたフォルダーに移動し、「LogSetup.exe」のアイコンをダブルクリックしてください。この操作で**セットアップ**画面が起動します。

注意: ブラウザからファイルを実行できない場合、ファイルをディスクに保存し、ディスクからファイルを実行するようにしてください。

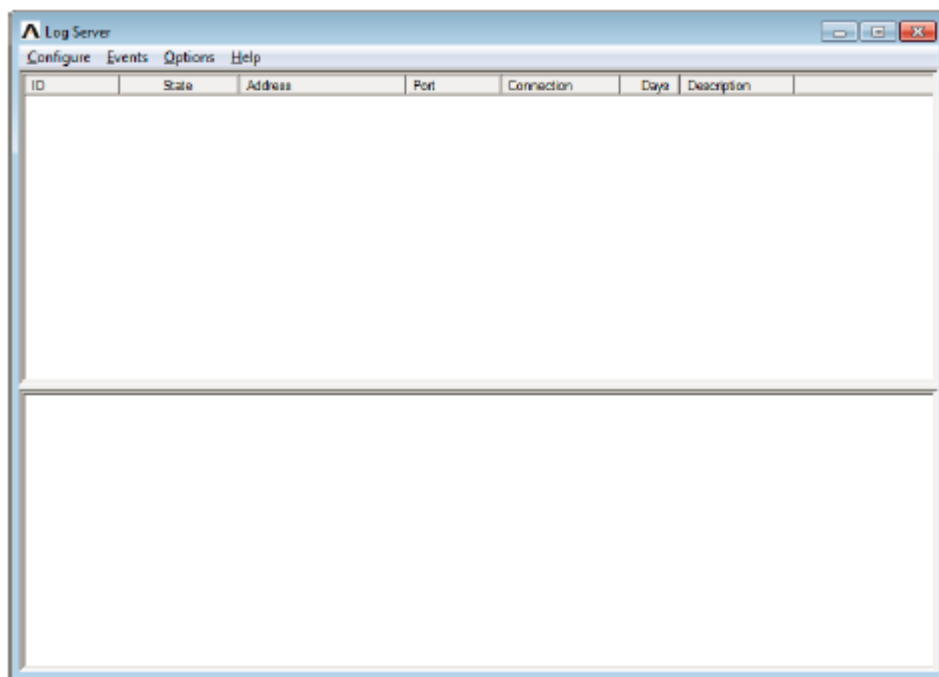
以下のようなログサーバーのインストーラーの画面が表示されます。



4. 「Next」(次へ) ボタンをクリックし、インストーラーの画面の指示に従ってインストールしてください。インストールが完了すると、ログサーバーのアイコンがお使いのコンピュータのデスクトップ上に作成されます。

ログサーバーの起動

ログサーバーを起動する場合は、ログサーバーのアイコンをダブルクリックするか、コマンドラインからログサーバーのフルパスを入力して実行してください。ログサーバーを起動すると以下のような画面が表示されます。



- 注意:**
1. ログサーバーとして使用するコンピューターの MAC アドレスは、あらかじめ製品の「ANMS」メニューで設定しておく必要があります (p.172「Log Server (ログサーバー)」参照)。
 2. ログサーバーを使用する場合、Microsoft Jet OLEDB 4.0 ドライバーがインストールされていなければなりません。プログラムが起動しない場合は、p.254「ログサーバープログラムが起動しない」をご参照ください。

この画面は以下の 3 つの部分から構成されています。

- ◆ 上部のメニューバー
- ◆ 中央の KVM スイッチ一覧表示パネル (p.222「ログサーバーのメイン画面」参照)
- ◆ 下部のイベントリストパネル

これらは以下のセクションで詳しく説明していきます。

メニューバー

メニューバーは以下の 4 項目から構成されています。

- ◆ Configure (設定)
- ◆ Events (イベント)
- ◆ Options (オプション)
- ◆ Help (ヘルプ)

これらは以下のセクションで詳しく説明していきます。

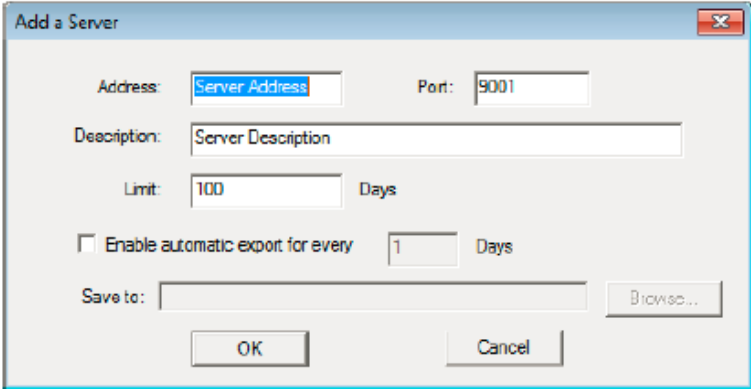
注意: メニューバーが無効になっているように見える場合は、一覧のウィンドウをクリックして手前に表示することで有効にしてください。

設定

「Configure」(設定)メニューは、「Add」(追加)、「Edit」(変更)、「Delete」(削除)の各サブメニューから構成されています。これらのサブメニューによって、リストへの新規ユニットの追加、既に一覧に追加されているユニット情報の編集、リストからのユニットの削除を行うことができます。

- ◆ 一覧にユニットを追加する場合は「**Add**」(追加)をクリックしてください。
- ◆ 一覧表示されたユニットを編集する場合は「**Edit**」(変更)を、また、削除する場合は「**Delete**」(削除)をそれぞれクリックしてください。

「Add」(追加)または「Edit」(変更)を選択すると、以下のようなダイアログが表示されます。



The image shows a dialog box titled "Add a Server". It contains the following fields and controls:

- Address:** A text field with "Server Address" entered.
- Port:** A text field with "9001" entered.
- Description:** A text field with "Server Description" entered.
- Limit:** A text field with "100" entered, followed by the label "Days".
- Enable automatic export for every:** A checkbox that is currently unchecked, followed by a text field with "1" entered and the label "Days".
- Save to:** A text field that is empty, followed by a "Browse..." button.
- Buttons:** "OK" and "Cancel" buttons at the bottom.

暫定版

ダイアログ内における各項目の詳細は下表のとおりです。

項目	説明
Address (アドレス)	ログサーバーが稼働しているコンピューターの IP アドレスまたは DNS 名(ネットワーク管理者によって DNS 名が設定されている場合)を入力します。
Port (ポート)	「Device Management」(デバイス管理)でログサーバーに割り当てられたポートナンバーを入力します (p.172「Log Server(ログサーバー)」参照)。
Description (説明)	ユニットに補足説明を設定したい場合は、ここに入力します。
Limit (期限)	ログサーバー内にイベントを保管する日数を設定します。ここで設定された日数が経過すると、メンテナンス機能で削除することができます (p.220 参照)。
Enable Automatic Export for every / Save to (次の期間ごとに 自動エクスポートする/ 次に保存する)	この項目にチェックを入れ、日数を入力すると、その日数ごとにログサーバーがログファイルにログを自動エクスポートします。「参照」をクリックして、ログファイルのエクスポート先となるフォルダーを選択してください。

項目の入力または編集が終わった場合は、「OK」ボタンをクリックして操作を終了してください。

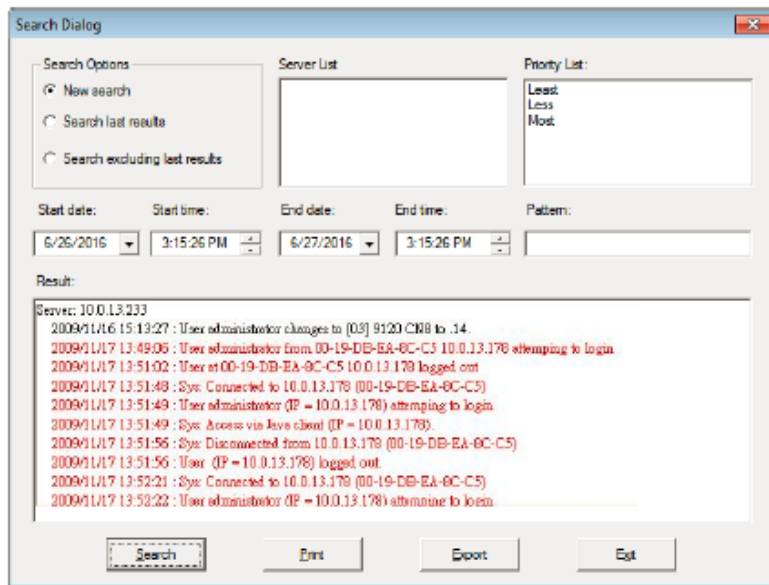
イベント

「Events」(イベント)メニューは、「Search」(検索)、「Maintenance」(メンテナンス)の各メニューから構成されています。

検索

「Search」(検索)メニューでは、特定の文字列を含むイベントを検索することができます。このメニューを開くと、以下のような画面が表示されます。

暫定版



画面の各項目の詳細は下表のとおりです。

項目	説明
Search Options (検索オプション)	検索範囲のオプションを選択するラジオボタンを提供します。
New Search (新しい検索)	この項目が選択されると、選択されたユニットに対して、データベース内の全イベントを対象に検索します。
Search last results (前回の結果から検索)	前回の検索結果を対象に二次検索を行います。
Search excluding last results (前回の結果以外から検索)	前回の検索結果 <u>以外</u> を対象に二次検索を行います。
Server List (サーバーリスト)	製品は IP アドレスに従って一覧表示されます。検索の対象となるユニットをこの一覧から選択してください。ここでは複数のユニットを選択することも可能です。ユニットが選択されていない場合は、全ユニットを対象に検索を行います。
Priority (優先度)	表示する検索結果の詳細の度合いを設定します。「Least」を選択すると概要を、「Most」を選択すると詳細をそれぞれ表示します。結果表示の色分けはそれぞれ、「Least」は黒、「Less」は青、「Most」は赤となっております。

(表は次のページに続きます)

暫定版

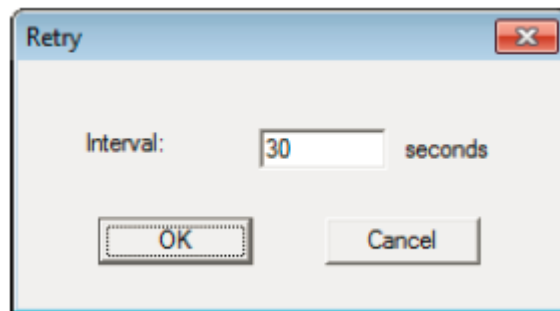
項目	説明
Start Date (開始日)	検索の対象となる期間の開始日(日付)を設定します。 YYYY/MM/DD のフォーマットで入力してください。例: 2009/11/04
Start Time (開始時刻)	検索の対象となる期間の開始日(時刻)を設定します。 HH:MM:SS のフォーマットで入力してください。
End Date (終了日)	検索の対象となる期間の終了日(日付)を設定します。 YYYY/MM/DD のフォーマットで入力してください。
End Time (終了時刻)	検索の対象となる期間の終了日(時刻)を設定します。 HH:MM:SS のフォーマットで入力してください。
Pattern (パターン)	検索したい文字列を指定します。ワイルドカード(%)を使った検索にも対応しています。例えば、「h%ds」という文字列を検索すると、「hands」と「hoods」の2件がヒットします。
Results (結果)	条件に合致するイベントが一覧表示されます。
Search (検索)	検索を開始します。
Print (印刷)	検索結果を印刷します。
Export (エクスポート)	検索結果をファイルに保存します。
Exit (終了)	ログサーバーを終了します。

メンテナンス

このメニューから、管理者は期限が切れていないレコードを削除するなど、データベースのメンテナンスを手動で行うことができます。

オプション

「Network Retry」(ネットワーク再試行)の項目では、接続に失敗した場合にログサーバーが再接続を待機しなければならない時間(秒)を設定することができます。この項目をクリックすると、以下のようなダイアログが表示されます。



秒数を入力したら、「OK」ボタンをクリックしてダイアログを終了してください。

ヘルプ

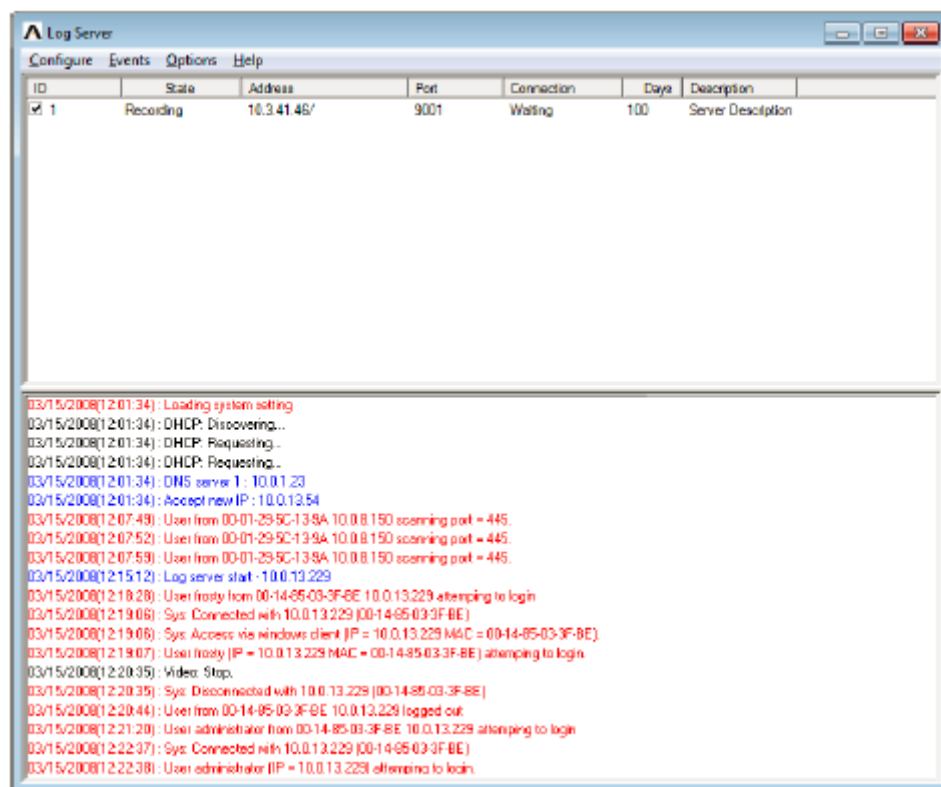
Windows のオンラインヘルプファイルを呼び出す場合は、「Help」(ヘルプ)メニューの「Contents」(コンテンツ)サブメニューをクリックしてください。ヘルプファイルには、ログサーバーのセットアップ、操作、トラブルシューティングの各方法について記載されています。

ログサーバーのメイン画面

概要

ログサーバーのメイン画面は 2 つのメインパネルに分かれています。

- ◆ 上部パネル(リストパネル)には、ログサーバーがログの記録対象としているユニットをすべて表示します(p.217「設定」参照)。
- ◆ 下部パネル(イベントパネル)には、現在選択中のユニットに関する情報が表示されます(複数のユニットがある場合、色が反転しているものが選択されたユニットであることを表しています)。
- ◆ 一覧からユニットを選択する場合は、そのユニットを選択してください。



リストパネル

リストパネルには以下の項目が表示されます。

項目	説明
ID / State (ID / 状態)	デバイスの ID 番号を表示し、ログサーバーがこのユニットのログを記録するかどうかを選択します。ID のチェックボックスにチェックが入っていると、「State」(状態)列には「Recording」(記録中)と表示され、ログが記録されます。ID のチェックボックスにチェックが入っていないと、「State」(状態)列には「Paused」(一時停止)と表示され、ログは記録されません。 注意:リスト上で選択されていないユニットであっても、チェックボックスにチェックが入っている場合、そのユニットはログサーバーのログ記録の対象となります。
Address (アドレス)	ユニットがログサーバーに登録された際に設定された IP アドレスまたは DNS 名です (p.217「設定」参照)。
Port (ポート)	ユニットに割り当てられたアクセスポートナンバーです (p.217「設定」参照)。
Connection (接続)	◆ ログサーバーがユニットに接続されている場合、この項目には「Connected」(接続済み)と表示されます。 ◆ ログサーバーが接続されていない場合、この項目には「Waiting」(待機中)と表示されます。これは、ログサーバーの MAC アドレスが正しく設定されていないことを意味しますので、「Device Management」(デバイス管理)タブの「ANMS」メニューで正しく設定してください (p.189 参照)。
Days (日数)	記録されたイベントログがデータベース内に保存される期間を日数で表示します (p.217「設定」参照)。
Description (説明)	ログサーバーへの登録時にユニットに設定された説明が表示されます (p.217「設定」参照)。

イベントパネル

下部パネルには現在選択されているユニットのイベントログが表示されます。複数のユニットをお使いの際に、ログサーバーのリストパネルでは選択されていない(色が反転していない)ものでも、「Recording」(記録中)にチェックが入っていれば、そのユニットはログサーバーのログはデータベースに記録されます。

第 16 章

キーボードエミュレーション

Mac キーボード

キーマッピングのエミュレーション機能により、PC 互換キーボード (101/104 キー) から Mac システムのキーボードのファンクションキーを使用することができます。詳細は下表をご参照ください。

PC 互換キーボード	Mac キーボード
[Shift]	Shift
[Ctrl]	Ctrl
	
[Ctrl] [1]	
[Ctrl] [2]	
[Ctrl] [3]	
[Ctrl] [4]	
[Alt]	Alt
[Print Screen]	F13
[Scroll Lock]	F14
	=
[Enter]	Return
[Back Space]	Delete
[Insert]	Help
[Ctrl] 	F15

注意: 上記の組み合わせでキーを入力する場合は、最初に使用するキー ([Ctrl] キー) を押して離してから、次のキーを押すようにしてください。

Sun キーボード

[Ctrl]キーと他のキーを組み合わせることで入力することによって、PC 互換キーボード(101/104 キー)から、Sun システムのキーボードの機能をエミュレーションすることができます。詳細は下表をご参照ください。

PC 互換キーボード	Sun キーボード
[Ctrl] [T]	Stop
[Ctrl] [F2]	Again
[Ctrl] [F3]	Props
[Ctrl] [F4]	Undo
[Ctrl] [F5]	Front
[Ctrl] [F6]	Copy
[Ctrl] [F7]	Open
[Ctrl] [F8]	Paste
[Ctrl] [F9]	Find
[Ctrl] [F10]	Cut
[Ctrl] [1]	
[Ctrl] [2]	
[Ctrl] [3]	
[Ctrl] [4]	
[Ctrl] [H]	Help
	Compose
	

注意: 上記の組み合わせでキーを使用する場合は、最初に使用するキー([Ctrl]キー)を押して離してから、次のキーを押すようにしてください。

第 17 章

ファームウェアアップグレード ユーティリティ

はじめに

本製品は本体の**メインボード**ファームウェアのアップグレードを自動的に行うために、ファームウェアアップグレードユーティリティというWindows ベースのツールを提供しております。このツールは、各製品のファームウェアアップグレードパッケージの一部として配布されているものです。

なお、本製品の i カードのファームウェアはブラウザまたはアプリケーション GUI 経由でしかアップグレードできません(詳細については p.197「ファームウェアのアップグレード」を参照)。

製品のファームウェアは新しいバージョンがリリースされると、弊社 Web サイト (<http://www.aten.com/jp/ja/>) に公開され、ダウンロードできるようになります。定期的にこのダウンロードサイトにアクセスしていただき、ファームウェアのアップグレードを行うことで、最新の機能をご利用いただけます。

ファームウェアアップグレードパッケージのダウンロード

ファームウェアアップグレードパッケージをダウンロードする場合は、以下の手順で作業してください。

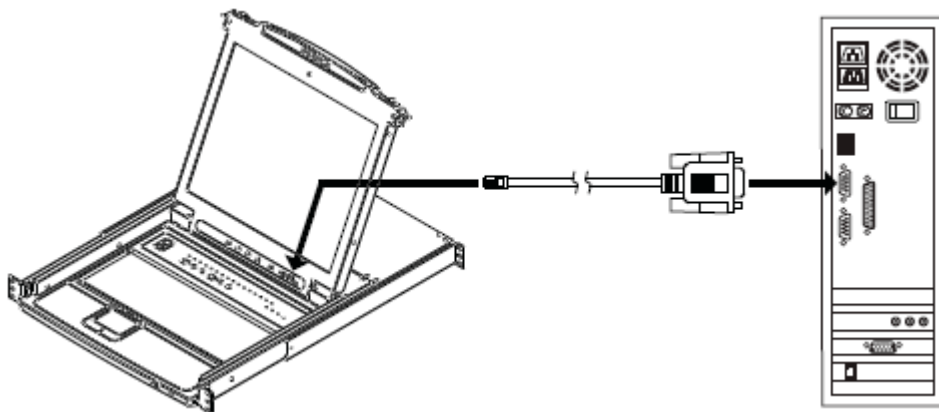
1. CL5708I/CL5716I に接続されていないコンピューターから、弊社 Web サイト (<http://www.aten.com/jp/ja/>) にアクセスし、ファームウェアアップグレードパッケージをダウンロードし、お使いのコンピューターに保存してください。ダウンロードは、1) 製品ページ内の「サポートとダウンロード」メニューからアクセス、または、2) ホームページのトップページの右上に表示される(表示画面のサイズによっては画面左上に三本線のアイコンが表示されるので、それをクリックすると表示される)「サポートとダウンロード」→「ダウンロード」→「他の製品の資料をダウンロードする」に型番を入力して検索する方法で行えます。

2. 適用対象となるアップグレードパッケージ(通常は最新版)を選択し、そのコンピューターにダウンロードしてください。

アップグレード作業の下準備

ファームウェアアップグレードを開始する前に、以下の手順で準備を行ってください。

1. 製品に同梱されているファームウェアアップグレードケーブルで、お使いのコンピューターの COM ポートと製品のファームウェアアップグレードポートを接続してください。



注意: 製品のファームウェアのアップグレードを行うと、その KVM スイッチにデ이지チェーン接続されている他の KVM スイッチにもデ이지チェーン専用ケーブルを介して同時にファームウェアを行います。

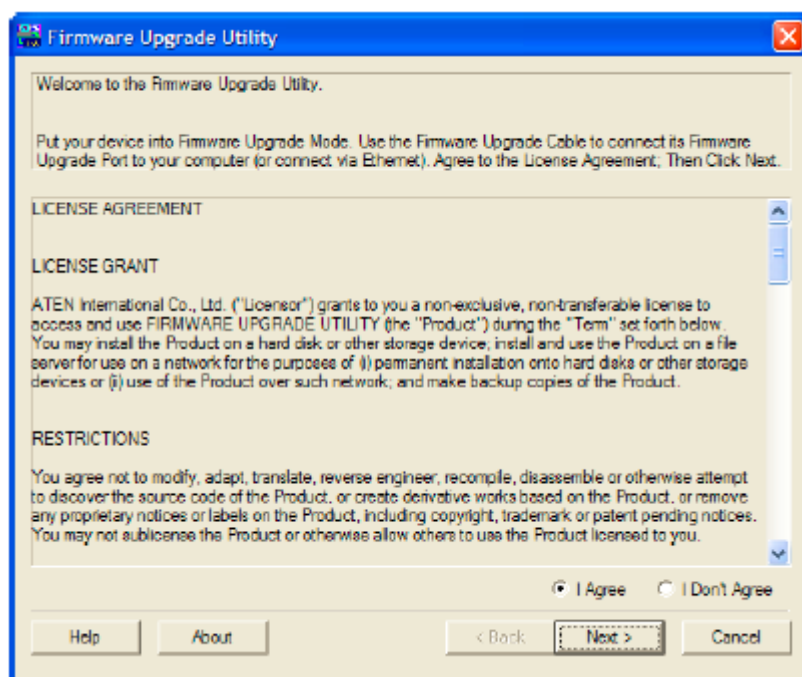
2. 製品に接続されているすべてのコンピューターの電源を切ってください(このときステーションの電源は切らないでください)。
3. コンソールから製品の OSD メニューにアドミニストレーターとしてログインし(p.54 参照)、「F4 : ADM」メニューを選択してください。
4. 「FIRMWARE UPGRADE」メニューを選択し、[Enter]キーを押してください。その後にファームウェアの更新データをダウンロードの可否を問われますので[Y]キーを押して、アップグレードモード(p.64 参照)を開始してください。

注意: ファームウェアアップグレードモードの起動中は、ポート LED ランプが点滅します。

アップグレードの開始

ファームウェアのアップグレードを実行する場合は、以下の手順で操作してください。

1. 弊社ダウンロードサイトからダウンロードしたパッケージをダブルクリックして実行してください。
以下のようなファームウェアアップグレードユーティリティの初期画面が表示されます。

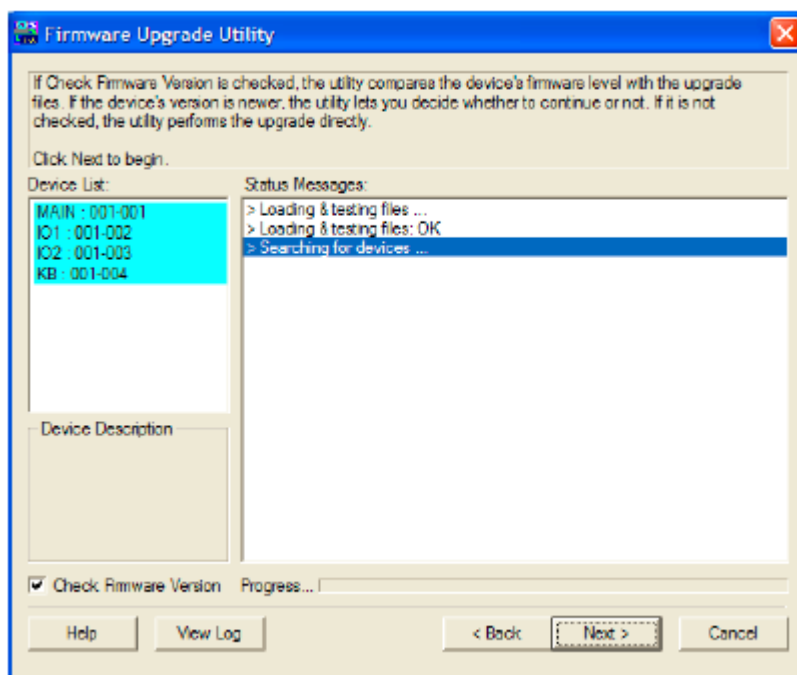


注意: 本セクションで使用されている図は参考例で、実際の画面とは異なる場合があります。ご了承ください。

2. ダイアログ内に表示されている使用許諾契約の内容をご確認いただき、「I Agree」(同意する)のラジオボタンを選択してその内容に同意してください。
3. アップグレード処理を続行する場合は「Next」ボタンをクリックしてください。

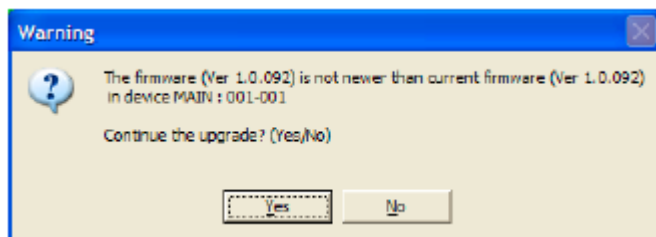
暫定版

このボタンを押すと、ファームウェアアップグレードユーティリティのメイン画面が表示されます。この画面には、現在のファームウェアアップグレードパッケージでアップグレードが可能なデバイスの一覧が表示されます。



4. アップグレードを実行する場合は「Next」ボタンをクリックしてください。

「Check Firmware Version」の項目にチェックを入れると、ユーティリティは現在デバイスにインストールされているファームウェアのバージョンと、これから適用しようとしているファームウェアのバージョンの比較を行います。このとき、デバイスに既にインストールされているバージョンの方が新しい場合、以下のようなダイアログが表示され、アップグレード作業を続けるかどうかの選択を促されます。

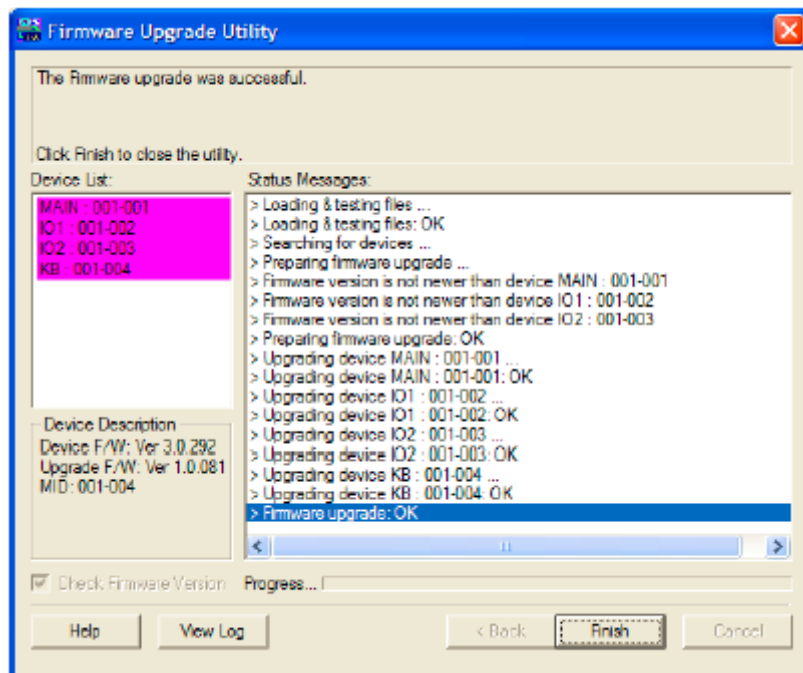


この項目にチェックが入っていないと、ユーティリティはファームウェアの比較を行わずにアップグレード処理を続行します。

なお、アップグレードの進捗状況は、画面に表示されるステータスメッセージとプログレスバーで確認することができます。

アップグレード成功

アップグレードに成功すると、以下のような画面が表示されます。



ファームウェアアップグレードユーティリティを終了する場合は「**Finish**」(終了)ボタンをクリックしてください。

アップグレード失敗

上図のような画面が表示されなかった場合、アップグレード処理に失敗した可能性があります。この場合は次のセクションの「ファームウェアアップグレードリカバリー」の内容に従って復旧作業を行ってください。

ファームウェアアップグレードリカバリー

以下のような場合、ファームウェアアップグレードのリカバリー作業が必要となります。

- ◆ ファームウェアのアップグレード作業がユーザーによって途中で中止された。
- ◆ メインボードのファームウェアのアップグレードに失敗した。
- ◆ I/O のファームウェアのアップグレードに失敗した。

ファームウェアアップグレードのリカバリーを行う場合は、以下の手順で作業してください。

1. 製品本体の電源を切ってください。他の KVM スイッチとデイジーチェーン接続されている場合は、デイジーチェーン専用ケーブルを外して、他の機器と物理的に切り離してください。
2. ファームウェアアップグレードケーブルを、製品本体のファームウェアアップグレードポートに接続してください。
3. 製品本体のファームウェアアップグレードリカバリースwitchを「**RECOVER**」の位置にスライドさせてください。
4. 製品に電源を入れなおし、アップグレード作業を最初からやり直してください。
5. ファームウェアアップグレードが成功したら、製品本体の電源を一旦切り、ファームウェアアップグレードリカバリースwitchを「**NORMAL**」の位置にスライドさせてください。
6. 製品本体を他の KVM スイッチとデイジーチェーン接続する場合は、元の位置に接続しなおしてください。
7. 製品本体に電源を入れなおしてください。

付録

製品仕様

CL5708I

Function	CL5708IM	CL5708IN
コンピューター接続数		
ダイレクト	8	8
最大	128 (デジチェーン接続)	128 (デジチェーン接続)
コンソール接続数		
ローカル	セカンドコンソール:1	セカンドコンソール:1
コンピューター側対応 インターフェース	キーボード/マウス:PS/2、USB	キーボード/マウス:PS/2、USB
セカンドコンソール側 対応インターフェース	キーボード/マウス:PS/2、USB	キーボード/マウス:PS/2、USB
ポート選択	OSD、ホットキー、プッシュボタン	OSD、ホットキー、プッシュボタン
コネクター		
KVM ポート	キーボード/マウス/モニター: SPHD メス(イエロー)×8	キーボード/マウス/モニター: SPHD メス(イエロー)×8
セカンドコンソールポ ート	キーボード/マウス/モニター: SPHD オス(イエロー)×1	キーボード/マウス/モニター: SPHD オス(イエロー)×1
デジチェーンポ ート	OUT: DB-25 ピン オス×1	OUT: DB-25 ピン オス×1
ファームウェアアップ グレード	RJ-11×1	RJ-11×1
USB ポート	USB タイプ A メス×1	USB タイプ A メス×1
電源	3 極 AC 電源ソケット×1	3 極 AC 電源ソケット×1
セカンドマウスポート	USB タイプ A メス×1	USB タイプ A メス×1
LAN ポート	RJ-45×1	RJ-45×1

(表は次のページに続きます)

暫定版

Function	CL5708IM	CL5708IN
スイッチ		
ポート選択	プッシュボタン×2	プッシュボタン×2
ステーション選択	プッシュボタン×2	プッシュボタン×2
リセット	ピンホール型スイッチ×1	ピンホール型スイッチ×1
電源	ロッカースイッチ×1	ロッカースイッチ×1
ファームウェアアップ グレード	スイッチ×1	スイッチ×1
LCD 調節	プッシュボタン×4	プッシュボタン×4
LCD ON/OFF	LED プッシュボタン(オレンジ)×1	LED プッシュボタン(オレンジ)×1
LED		
オンライン	オレンジ×8	オレンジ×8
電源	ダークグリーン×1	ダークグリーン×1
ポート ID	7 セグメントデジタル表示	7 セグメントデジタル表示
	イエロー×2	イエロー×2
ステーション ID	7 セグメントデジタル表示	7 セグメントデジタル表示
	イエロー×2	イエロー×2
Lock	Num Lock (グリーン)×1	Num Lock (グリーン)×1
	Caps Lock (グリーン)×1	Caps Lock (グリーン)×1
	Scroll Lock (グリーン)×1	Scroll Lock (グリーン)×1
10/100 Mbps	オレンジ/グリーン×1	オレンジ/グリーン×1
エミュレーション		
キーボード/マウス	PS/2、USB	PS/2、USB
スキャンインターバル	1～255 秒(ユーザー設定)	1～255 秒(ユーザー設定)

(表は次のページに続きます)

暫定版

Function	CL5708IM	CL5708IN
パネル仕様		
画面サイズ	17 インチ TFT-LCD	19 インチ TFT-LCD
ピクセルピッチ	0.264 mm×0.264 mm	0.294 mm×0.294 mm
対応色	1670 万色	1670 万色
コントラスト比	1000:1	1000:1
輝度	250 cd/m ²	250 cd/m ²
応答時間	5 ミリ秒	5 ミリ秒
視野角	170° (水平)、160° (垂直)	170° (水平)、160° (垂直)
ビデオ		
ローカル	1,280×1,024@75Hz、DDC2B	1,280×1,024@75Hz、DDC2B
リモート	1,920×1,200@60Hz	1,920×1,200@60Hz
電源仕様	AC 100～240V、50/60Hz、1A	AC 100～240V、50/60Hz、1A
	(日本仕様はPSE 対応 3P/100V 電源コードを同梱)	(日本仕様はPSE 対応 3P/100V 電源コードを同梱)
電源		
消費電力	15.2W	24W
動作環境		
動作温度	0～50℃	0～50℃
保管温度	-20～60℃	-20～60℃
湿度	0～80% RH、結露無きこと	0～80% RH、結露無きこと
ケース		
ケース材料	メタル、プラスチック	メタル、プラスチック
重量	13.49 kg (29.71 lb)	13.41 kg (29.54 lb)
サイズ(W×D×H)	480×643×44 mm	480×690×44 mm

(表は次のページに続きます)

暫定版

Function	CL5708IM	CL5708IN
同梱品	2L-5202P(1.8m)ケーブル×1	2L-5202P(1.8m)ケーブル×1
	2L-5202U(1.8m)ケーブル×1	2L-5202U(1.8m)ケーブル×1
	コンソールケーブル(VGA, USB, PS/2、27 cm)×1	コンソールケーブル(VGA, USB, PS/2、27 cm)×1
	電源ケーブル(1.8m)×1	電源ケーブル(1.8m)×1
	ファームウェアアップグレードケーブル×1	ファームウェアアップグレードケーブル×1
	イージーセットアップラックマウントキット(ショート or ロング)×1	イージーセットアップラックマウントキット(ショート or ロング)×1
	クイックスタートガイド×1	クイックスタートガイド×1
対応 ATEN 製品		
対応ケーブル	《PS/2 KVM ケーブル》	《PS/2 KVM ケーブル》
	2L-5201P(1.2m)	2L-5201P(1.2m)
	2L-5202P(1.8m)	2L-5202P(1.8m)
	2L-5203P(3m)	2L-5203P(3m)
	2L-5206P(6m)	2L-5206P(6m)
	2L-5210P(10m)	2L-5210P(10m)
	《USB KVM ケーブル》	《USB KVM ケーブル》
	2L-5201U(1.2m)	2L-5201U(1.2m)
	2L-5202U(1.8m)	2L-5202U(1.8m)
	2L-5203U(3m)	2L-5203U(3m)
	2L-5205U(5m)	2L-5205U(5m)
	* 注意: 標準で PS/2 ケーブル 2L-5202P(1.8m)×1、USB ケーブル 2L-5202U×1 が付属しています。	* 注意: 標準で PS/2 ケーブル 2L-5202P(1.8m)×1、USB ケーブル 2L-5202U×1 が付属しています。
デジチェーン対応製品	CS1708A	CS1708A
	CS1716A	CS1716A
	ACS1216A	ACS1216A

(表は次のページに続きます)

暫定版

Function	CL5708IM	CL5708IN
デ이지ーチェーン用ケーブル	2L-1700(0.6m)	2L-1700(0.6m)
	2L-1701(1.8m)	2L-1701(1.8m)
	2L-1703(3m)	2L-1703(3m)
	2L-1705(5m)	2L-1705(5m)
	2L-1715(15m)	2L-1715(15m)

CL5716I

Function	CL5716IM	CL5716IN
コンピューター接続数		
ダイレクト	16	16
最大	256 (デイジーチェーン接続)	256 (デイジーチェーン接続)
コンソール接続数		
ローカル	セカンドコンソール:1	セカンドコンソール:1
コンピューター側対応 インターフェース	キーボード/マウス:PS/2、USB	キーボード/マウス:PS/2、USB
セカンドコンソール側 対応インターフェース	キーボード/マウス:PS/2、USB	キーボード/マウス:PS/2、USB
ポート選択	OSD、ホットキー、プッシュボタン	OSD、ホットキー、プッシュボタン
コネクタ		
KVM ポート	キーボード/マウス/モニター: SPHD メス(イエロー)×16	キーボード/マウス/モニター: SPHD メス(イエロー)×16
セカンドコンソールポ ート	キーボード/マウス/モニター: SPHD オス(イエロー)×1	キーボード/マウス/モニター: SPHD オス(イエロー)×1
デイジーチェーンポー ト	OUT: DB-25 ピン オス×1	OUT: DB-25 ピン オス×1
ファームウェアアップ グレード	RJ-11×1	RJ-11×1
USB ポート	USB タイプ A メス×1	USB タイプ A メス×1
電源	3 極 AC 電源ソケット×1	3 極 AC 電源ソケット×1
セカンドマウスポート	USB タイプ A メス×1	USB タイプ A メス×1
LAN ポート	RJ-45×1	RJ-45×1

(表は次のページに続きます)

暫定版

Function	CL5716IM	CL5716IN
スイッチ		
ポート選択	プッシュボタン×2	プッシュボタン×2
ステーション選択	プッシュボタン×2	プッシュボタン×2
リセット	ピンホール型スイッチ×1	ピンホール型スイッチ×1
電源	ロッカースイッチ×1	ロッカースイッチ×1
ファームウェアアップ グレード	スイッチ×1	スイッチ×1
LCD 調節	プッシュボタン×4	プッシュボタン×4
LCD ON/OFF	LED プッシュボタン(オレンジ)×1	LED プッシュボタン(オレンジ)×1
LED		
オンライン	オレンジ×16	オレンジ×16
電源	ダークグリーン×1	ダークグリーン×1
ポート ID	7 セグメントデジタル表示	7 セグメントデジタル表示
	イエロー×2	イエロー×2
ステーション ID	7 セグメントデジタル表示	7 セグメントデジタル表示
	イエロー×2	イエロー×2
Lock	Num Lock (グリーン)×1	Num Lock (グリーン)×1
	Caps Lock (グリーン)×1	Caps Lock (グリーン)×1
	Scroll Lock (グリーン)×1	Scroll Lock (グリーン)×1
10/100 Mbps	オレンジ/グリーン×1	オレンジ/グリーン×1
エミュレーション		
キーボード/マウス	PS/2、USB	PS/2、USB
スキャンインターバル	1～255 秒(ユーザー設定)	1～255 秒(ユーザー設定)
パネル仕様		
画面サイズ	17 インチ TFT-LCD	19 インチ TFT-LCD
ピクセルピッチ	0.264 mm×0.264 mm	0.294 mm×0.294 mm
対応色	1670 万色	1670 万色
コントラスト比	1000:1	1000:1
輝度	250 cd/m ²	250 cd/m ²
応答時間	5 ミリ秒	5 ミリ秒
視野角	170° (水平)、160° (垂直)	170° (水平)、160° (垂直)

(表は次のページに続きます)

暫定版

Function	CL5716IM	CL5716IN
ビデオ		
ローカル	1,280×1,024@75Hz、DDC2B	1,280×1,024@75Hz、DDC2B
リモート	1,920×1,200@60Hz	1,920×1,200@60Hz
電源仕様	AC 100～240V、50/60Hz、1A	AC 100～240V、50/60Hz、1A
	(日本仕様はPSE 対応 3P/100V 電源コードを同梱)	(日本仕様はPSE 対応 3P/100V 電源コードを同梱)
消費電力		
消費電力	17W	26W
動作環境		
動作温度	0～50℃	0～50℃
保管温度	-20～60℃	-20～60℃
湿度	0～80% RH、結露無きこと	0～80% RH、結露無きこと
ケース		
ケース材料	メタル、プラスチック	メタル、プラスチック
重量	13.61 kg (29.98 lb)	13.67 kg (30.11 lb)
サイズ(W×D×H)	480×643×44 mm	480×690×44 mm
同梱品	2L-5202P(1.8m)ケーブル×1	2L-5202P(1.8m)ケーブル×1
	2L-5202U(1.8m)ケーブル×1	2L-5202U(1.8m)ケーブル×1
	コンソールケーブル(VGA, USB, PS/2、27 cm)×1	コンソールケーブル(VGA, USB, PS/2、27 cm)×1
	電源ケーブル(1.8m)×1	電源ケーブル(1.8m)×1
	ファームウェアアップグレードケーブル×1	ファームウェアアップグレードケーブル×1
	イーजीーセットアップラックマウントキット(ショート or ロング)×1	イーजीーセットアップラックマウントキット(ショート or ロング)×1
	クイックスタートガイド×1	クイックスタートガイド×1

(表は次のページに続きます)

暫定版

Function	CL5716IM	CL5716IN
対応 ATEN 製品		
対応ケーブル	《PS/2 KVM ケーブル》	《PS/2 KVM ケーブル》
	2L-5201P(1.2m)	2L-5201P(1.2m)
	2L-5202P(1.8m)	2L-5202P(1.8m)
	2L-5203P(3m)	2L-5203P(3m)
	2L-5206P(6m)	2L-5206P(6m)
	2L-5210P(10m)	2L-5210P(10m)
	《USB KVM ケーブル》	《USB KVM ケーブル》
	2L-5201U(1.2m)	2L-5201U(1.2m)
	2L-5202U(1.8m)	2L-5202U(1.8m)
	2L-5203U(3m)	2L-5203U(3m)
	2L-5205U(5m)	2L-5205U(5m)
	* 注意: 標準で PS/2 ケーブル 2L-5202P(1.8m) × 1、USB ケーブル 2L-5202U × 1 が付属しています。	* 注意: 標準で PS/2 ケーブル 2L-5202P(1.8m) × 1、USB ケーブル 2L-5202U × 1 が付属しています。
デジチェーン対応製品	CS1708A	CS1708A
	CS1716A	CS1716A
	ACS1216A	ACS1216A
デジチェーン用ケーブル	2L-1700(0.6m)	2L-1700(0.6m)
	2L-1701(1.8m)	2L-1701(1.8m)
	2L-1703(3m)	2L-1703(3m)
	2L-1705(5m)	2L-1705(5m)
	2L-1715(15m)	2L-1715(15m)

スイッチ台数と操作可能コンピューター台数の関連表

下表は、ユニットの使用台数と、デジチェーン接続の各構成で操作可能なコンピューターの台数との関係を表したものです。

互換性のある 8 ポート KVM スイッチを CL5708I に接続した場合

No.	コンピューターの台数	No.	コンピューターの台数
1	1-8	9	65-72
2	9-16	10	73-80
3	17-24	11	81-88
4	25-32	12	89-96
5	33-40	13	97-104
6	41-48	14	105-112
7	49-56	15	113-120
8	57-64	16	121-128

互換性のある 16 ポート KVM スイッチを CL5708I に接続した場合

No.	コンピューターの台数	No.	コンピューターの台数
1	1-8	9	121-136
2	9-24	10	137-152
3	25-40	11	153-168
4	41-56	12	169-184
5	57-72	13	185-200
6	73-88	14	201-216
7	89-104	15	217-232
8	105-120	16	233-248

互換性のある 8 ポート KVM スイッチを CL5716I に接続した場合

No.	コンピューターの台数	No.	コンピューターの台数
1	1-16	9	73-80
2	17-24	10	81-88
3	25-32	11	89-96
4	33-40	12	97-104
5	41-48	13	105-112
6	49-56	14	113-120
7	57-64	15	121-128
8	65-72	16	129-136

互換性のある 16 ポート KVM スイッチを CL5716I に接続した場合

No.	コンピューターの台数	No.	コンピューターの台数
1	1-16	9	129-144
2	17-32	10	145-160
3	33-48	11	161-176
4	49-64	12	177-192
5	65-80	13	193-208
6	81-96	14	209-224
7	97-112	15	225-240
8	113-128	16	241-256

対応 KVM スイッチ

下表は、本製品と接続してポート数を増設できる対応 KVM スイッチの一覧です。(これらの KVM スイッチは別途購入いただく必要があります。詳細については販売店までお問い合わせください。)

拡張方法	ブランド	型番	名前
デジチェーン接続	ATEN	CS1708A	8 ポート PS/2-USB VGA KVM スイッチ (デジチェーンポート搭載、USB デバイス対応)
		CS1716A	16 ポート PS/2-USB VGA KVM スイッチ (デジチェーンポート搭載、USB デバイス対応)
		ACS1216A	16 ポート PS/2 VGA KVM スイッチ (デジチェーンポート搭載)

本製品を他の KVM スイッチと接続してお使いになる場合は、以下の制限事項がありますので、ご注意ください。

- ◆ デジチェーン接続の機器構成における KVM スイッチの台数にかかわらず、本製品とデジチェーン接続の末端の KVM スイッチ間の距離が 100m を超えないようにセットアップしてください。
- ◆ 各 KVM スイッチ間の距離が 15m を超えないようにセットアップしてください。

トラブルシューティング

概要

操作上の問題は様々な理由によって起こります。問題が発生したら、まず、ケーブルが KVM スイッチおよびコンピューターの各ポートに正しく接続されていることを確認してください。

また、これらの問題は、ファームウェアのアップグレードの適用によって解決することがあります。現在お使いのバージョンが最新でない場合は、最新版のファームウェアを適用することを推奨します。詳細については p.226 の「ファームウェアアップグレードユーティリティ」をご参照ください。

全般

問題	解決法
セカンドコンソールのモニターにゴーストが発生する。	セカンドコンソールのモニターから製品本体間の距離が離れすぎている可能性があります。使用する VGA ケーブルの最大長を 20m(もしくはそれ以下)にする必要があります。短めの VGA ケーブルに交換してみてください。
「ローカル」と「リモート」の概念がよくわからない。	詳細については p.17 をご参照ください。
動作に異常が見られる。	デイジーチェーン接続された KVM スイッチに電源を入れる前に、CL5708I/CL5716I の電源を ON にしておく必要があります。
	- CL5708I/CL5716I には、デイジーチェーン接続された KVM スイッチよりも先に電源を入れるようにしてください。 - デイジーチェーン接続された KVM スイッチの電源を CL5708I/CL5716I よりも先に入れてしまった場合は、デイジーチェーン接続された KVM スイッチのリセットまたは再起動を行ってください。
	リセットスイッチを 1 回押してください(p.28 参照)。

(表は次のページに続きます)

暫定版

問題	解決法
与えられたアカウントでログインできない。	- 正しいユーザーネームとパスワードを使用していることを確認してください。 - 管理者によって、製品の操作に必要なとなる操作権限が与えられていることを確認してください。 - CL5708I/CL5716I が CC 統合管理システムの配下で管理されているかどうかを管理者に確認してください。CC 統合管理システムの管理下にある場合は、本製品側の設定で CC 管理対象の設定を無効にする(p.175 参照)か、CC サーバー側の設定で本製品を管理対象外にする(詳細は CC 統合管理システムのユーザーマニュアルを参照)ことで、問題が解決します。
正しい IP アドレスとポート番号を指定しても製品にアクセスできない。	製品がルーターの内側にセットアップされている場合は、ルーター側でポート転送(またはバーチャルサーバー)機能を使って設定する必要があります。ポート転送に関する詳細は p.262 をご参照ください。
Web ブラウザからログインした際に、「404 Object Not Found」のエラーが発生する。	ログイン文字列が設定されている場合は、Web ブラウザでアクセスする際に、製品の IP アドレスの後ろにスラッシュを続け、その後ろに正しい文字列を入力してください(p.181 参照)。
突然ネットワークの通信が遮断される。	製品とのセッションを終了し、30 秒程度待機してから再ログインしてください。
クライアントコンピューターでリモートのサーバー画面が表示されない。	サーバーの解像度を 1,280×1,024 以下に設定してください。
クライアントコンピューターでリモートのサーバー画面は表示されないが、ローカルコンソールでマウスは表示される。ただし、このマウスをクリックしても何の反応もない。	左[Alt]キーを1度押してから、右[Alt]キーを1度押してください。

(表は次のページに続きます)

問題	解決法
クライアントコンピュータの表示に歪みが見られ、自動同期を実行しても解決しない。	解像度の異なるコンピュータが接続されているポートに一旦切り替えてから、元のポートを表示し直してください。 この方法でも解決しない場合は、そのポートに接続されているコンピュータの解像度とリフレッシュレートを変更してください。変更し終わったら、新しい解像度に設定することも、元の解像度に戻すことも可能です。
現在使用しているキーボードのロックキーの状態とコントロールパネルのロックキーLED ランプの状態が一致しない。	初回接続時には、コントロールパネルのLED ランプが実際にお使いのキーボードの状態と一致していない場合があります。この問題を解決するには、お使いのキーボードの状態と合うようにコントロールパネルの LED アイコンをクリックしてください。一度同期すれば、その後はお使いのキーボードの状態に合わせて、コントロールパネルの LED ランプの表示が切り替わります。
ログインすると、Web ブラウザ上に CA ルート認証が信頼されていない、または、認証エラーのメッセージが返ってくる。	証明書の名前が信頼済み証明書リストにないことに起因します。この証明書は信頼できるものですので、これを受け入れてください。詳細については p.268 をご参照ください。
複数のユーザーで操作している際に、操作中のポートに排他(ないしは占有)の権限を持っていたにもかかわらず、「Port Access」(ポートアクセス)タブを呼び出し、占有していたポートに戻ると、別のユーザーに操作権限が移っていた。なぜこのような現象が起こるのか？	ツリーから再度選択してポートに戻ろうとした場合、製品側では、ユーザーがそのポートに初めてアクセスしようとしていると認識されてしまいますので、別のユーザーがポートの操作を待機していた場合は、そのユーザーが優先的にポートを操作することになります。正常な方法でそのポートに戻りたい場合は、「Port Access」(ポートアクセス)メニューの右上にある「Close」(閉じる)ボタンをクリックしてください。

マウスに関するトラブルシューティング

問題	解決法
マウスやキーボードの操作に対する反応がない。	コンソールポートからマウスやキーボードのコネクターを一旦外して、接続し直してください。
マウスの動きが極端に遅い。	データの転送量が多いため、接続処理が追い付けない状態になっています。画質を下げる(p.110 参照)と、ビデオデータの転送量を減らすことができます。
サーバーに接続すると、マウスポインターが 2 つ表示される。	ポインターの種類は変更することができます。詳細については p.121 をご参照ください。
マウスポインターがシングルポインターモードの場合、コントロールパネルにアクセスできない。	コントロールパネルの起動直後に、ポインターをデュアルモードに変更してください。
なぜデュアルポインターモードがあるのか？	マウスダイナシクモードでない場合、サーバーとクライアントコンピューターの各マウスポインターの位置を確認するために 2 つのポインターが必要です。ポインターが 2 つ表示されていないと、マウスの操作中にネットワークのタイムラグによってサーバーのポインターがクライアントコンピューターのポインターの位置からずれる可能性があります。
マウスのポインターが混乱する。	ローカルとリモートの 2 つのマウスポインターが表示されて混乱する場合は、マウス表示の切替機能を使って片方のポインターを小さくすることができます。マウス表示の切替機能については p.103 を、また、マウスポインターの種類については p.121 をそれぞれご参照ください。

(表は次のページに続きます)

暫定版

問題	解決法
Windowsにログインすると、ローカル、リモートのマウスポインターが同期しない。	1. 「Mouse Sync Mode」(マウス同期モード)の設定状況を確認してください(p.122 参照)。「Automatic」(自動)に設定されている場合は、「Manual」(手動)に変更してください(マウス同期に関する詳細は p.123 を参照)。 2. 「Manual」(手動)モードの場合は、自動同期機能を使ってローカルとリモートのモニターを同期させてください(p.110 参照)。 3. 上記の方法でも解決しない場合は、マウス調整機能(p.104 参照)を使ってポインターを同期させてください。 4. 上記の方法でも解決しない場合は、p.263 を参照にしながら、これ以外のマウス同期の方法を試してみてください。
Mac にログインすると、ローカルとリモートのマウスポインターが同期しない。	自動でマウス同期を行うには、「default」(デフォルト)または「Mac2」に設定します。「default」(デフォルト)ではマウス同期がうまくいかない場合は、「Mac2」に設定してみてください(p.123 参照)。
Sun にログインすると、ローカル、リモートのマウスポインターが同期しない。	自動マウスダイナシンクによる同期は、Windows および Mac(G4 以降)の USB マウスにのみ対応しています。Sun をお使いの環境では、手動でポインターを同期させる必要があります。詳細については、p.122「マウスダイナシンクモード」、p.123「手動によるマウス同期」をご参照ください。 上記の方法で同期したら、p.263「その他のマウス同期方法」の「Sun/Linux」を参考にして、Sun 用の設定を行ってください。
Linux にログインすると、ローカル、リモートのマウスポインターが同期しない。	自動マウスダイナシンクによる同期は、Windows および Mac(G4 以降)の USB マウスにのみ対応しています。Linux をお使いの環境では、手動でポインターを同期させる必要があります。詳細については、p.122「マウスダイナシンクモード」、p. 123「手動によるマウス同期」をご参照ください。 上記の方法で同期したら、p.263「その他のマウス同期方法」の「Sun/Linux」を参考にして、Linux 用の設定を行ってください。

Web ブラウザに関するトラブルシューティング

問題	解決法
ファームウェアをアップグレードした後、Web ブラウザでログインすると、新しいファームウェアを適用する前のバージョン情報が表示される。	製品本体には実際に新しいバージョンのファームウェアが適用されていますが、Web ブラウザにはキャッシュされたページが表示されている可能性があります。以下の方法でキャッシュをクリアしてください。 ◆ IE をお使いの場合:[ツール]→[インターネットオプション]→[インターネット一時ファイル]→[ファイルの削除] ◆ Firefox をお使いの場合:[ツール]→[プライバシー情報の消去]
Firefox では Java クライアントビューワーしか開くことができず、Windows クライアント Active X ビューワーを開くことができない。	Windows クライアント Active X ビューワーの動作環境には Active X が必要です。Firefox では Active X がサポートされていないので、Java クライアントビューワーをお使いください。

Windows クライアントに関するトラブルシューティング

問題	解決法
Windows クライアントアプリケーションを起動すると、製品がサーバーリスト画面に表示されない。	「Device Management」(デバイス管理)タブの「Service Port」(サービスポート)セクションの「Program」(プログラム、p.169 参照)で設定されているポートと、このダイアログの「Server」(サーバー)欄にある「Port」(ポート)の項目の値が同じであるユニットだけが、サーバーリストに表示されます。この2つの項目の値を確認してください。
Windows クライアントの Active X ビューワーと Windows クライアントアプリケーションが製品に接続できない。	Direct X (8.0 以降のバージョン)がお使いのコンピューターにインストールされている必要があります。
ファームウェアのアップグレード後に、Windows クライアント Active X ビューワーや Windows クライアントアプリケーションが起動しない。	この現象は、.ocx ファイルの古いバージョンが削除されていないことに起因するため、古いファイルを削除する必要があります。ファイルを削除するには、以下の2種類の方法があります。 1. Active X ビューワーを使用している場合:IE を起動→[ツール]→[アドオンの管理]を選択し、Windows クライアントに一致するものをすべて無効にするか削除してください。 2. Windows クライアントアプリケーションを使用している場合:エクスプローラーを起動し、「WinClient.ocx」を検索し、一致するものをすべて削除してください。

(表は次のページに続きます)

問題	解決法
リモートウィンドウの一部がモニターに表示されない。	1. 自動同期を実行してください(p.99 参照)。 2. 「Keep Screen Size」(画面サイズを維持する)の項目にチェックが入っていない場合(p.125 参照)は、自動同期機能(p.99 参照)を使ってローカルとリモートのモニターを同期してください。 3. 「Keep Screen Size」(画面サイズを維持する)の項目にチェックが入っている場合は、画面からはみ出している部分もスクロールすることで表示できます。
リモート画面が 90° 回転している。	「Keep Screen Size」(画面サイズを維持する)の項目にチェックを入れてください(p.125 参照)。
Windows クライアントを起動していると、Net Meeting を起動できない。	「Keep Screen Size」(画面サイズを維持する)の項目にチェックを入れてください(p.125 参照)。
ログイン後に Windows クライアント ActiveX ビューワーを開くことができない。	1. Windows クライアントのアドオンをクライアントコンピューターにインストールする権限がないことが考えられます。このソフトウェアをインストールする場合は、クライアントコンピューターの管理者に初回だけ起動してもらうようにしてください。2 回目以降は自身でプログラムを起動できるようになります。 2. Vista をお使いの場合、この製品の URL アドレスを、信頼されたサイトのリストに追加してください。 Internet Explorer の場合は、[ツール]→[インターネットオプション]→[セキュリティ]→[信頼済みサイト]→[サイト]で追加することができます。

Java クライアントに関するトラブルシューティング

問題	解決法
製品に接続することができない。	1. お使いのクライアントコンピューターに最新バージョンの Java をインストールしてください。 2. アクセスに使用する IP アドレスとポート番号が正しいことを確認してください(詳細は p.88 参照)。 3. Java を再起動して、操作をもう一度やり直してください。
最新バージョンの Java JRE をインストールしたにもかかわらず、パフォーマンスと安定性の面に問題がある。	まれに最新のバージョンの Java の使用時に、製品の動作が安定しない場合がありますので、この場合はバージョンが 1 つ、ないし 2 つ古いものをインストールしてみてください。
ファームウェアをアップグレードしたにもかかわらず、Java クライアントビューワーや Java クライアントアプリケーションでログインすると、新しいファームウェアを適用する前のバージョン情報が表示される。	ログアウトしてから、以下の手順に従って Java のインターネット一時ファイルを削除してください。 1. コントロールパネルから「Java」メニューを開いてください。 2. 「インターネット一時ファイル」パネルから、「設定」ボタンをクリックしてください。 3. 「ファイルの削除」ボタンをクリックしてください。 4. 「一時ファイルの削除」ダイアログで、「了解」ボタンをクリックしてファイルを削除してください。
英語以外の言語を入力すると文字が表示されない。	お使いのコンピューターのキーボード言語を確認してください。
	本製品が提供しているオンスクリーンキーボード機能を使って、オンスクリーンキーボードの言語を他のシステムが使用している言語と同じになるように設定してください(p.119 参照)。
Java のパフォーマンスが悪い。	プログラムを一旦終了し、再起動してください。
Windows の「メニュー」ボタンを押しても反応しない。	Java では Windows のメニューキーはサポートされていません。

Sun に関するトラブルシューティング

問題	解決法
D-sub15 ピンのコネクタを使用すると、ビデオ表示の問題が発生する（例：Sun Blade 1000 Server）*。	ディスプレイの解像度は 1,024×768@60Hz に設定する必要があります。 テキストモードの場合： - OK プロンプトを起動し、以下のコマンドを実行します。 <pre>setenv output-device screen:r1024x768x60</pre> <pre>reset-all</pre> XWindow の場合： - コンソールを開き、以下のコマンドを実行します。 <pre>m64config -res 1024x768x60</pre> - ログアウトします。 - もう一度ログインします。
13W3のコネクタを使用すると、ビデオ表示の問題が発生する。（例：Sun Ultra Server）*	ディスプレイの解像度は 1,024×768@60Hz に設定する必要があります。 テキストモードの場合： - OK プロンプトを起動し、以下のコマンドを実行します。 <pre>setenv output-device screen:r1024x768x60</pre> <pre>reset-all</pre> XWindow の場合： - コンソールを開き、以下のコマンドを実行します。 <pre>fbconfig -res 1024x768x60</pre> - ログアウトします。 - もう一度ログインします。

* Sun VGA カードに関するトラブルの多くは、上記の方法で解決することが可能です。上記の手順で対応しても解決しない場合は Sun VGA カードのマニュアルを一度ご覧ください。

Mac に関するトラブルシューティング

問題	解決法
Safari を使って製品にログインした際に、スナップショット機能を使用するとブラウザが応答なしになる。	Safari を強制終了し、再起動してください。この場合、スナップショット機能は使用しないでください。
	Safari でスナップショット機能を使用する場合は、Mac OS 10.4.11、Safari3.0.4 にアップグレードしてください。

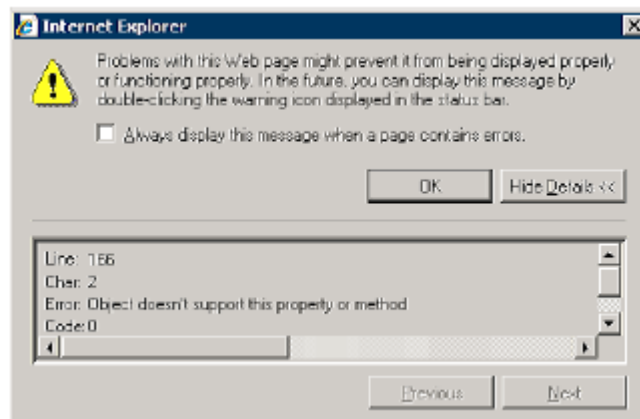
ログサーバーに関するトラブルシューティング

問題	解決法
ログサーバープログラムが起動しない。	ログサーバーはデータベースにアクセスするのに Microsoft Jet OLEDB 4.0 ドライバーが必要です。 このドライバは Windows ME、2000、XP には自動的にインストールされています。 Windows 98 または NT の場合、Microsoft のダウンロードサイト (http://www.microsoft.com) から「MDAC 2.7 RTM Refresh (2.70.9001.0)」ドライバファイルダウンロードしてください。 このドライバは Windows Office Suite に使用されるので、Windows Office Suite をインストールしてもこのドライバを手に入れることができます。ドライバファイルまたは Windows Office Suite がインストールされると、ログサーバーが動作するようになります。

パネルアレイモードに関するトラブルシューティング

問題	解決法
パネルアレイモードが低解像度で表示される。	この現象は、画面がパネルに合うように縮小されることに起因します。画面に表示されるパネル数を減らしてください。
複数のリモートユーザーが同時ログインした場合、一部のユーザーのモニターは画面の一部しか表示されない。	最初にパネルアレイモードを起動したユーザーは、画面表示の設定を最低でも 4 分割に変更してください。

Q1:ビューワーを開くと、Web ページが表示されなかったり、正常に動作しなかったりすることがあり、下図のようなエラーメッセージが表示される。



1. Internet Explorer のセキュリティ設定をリセットし、アクティブスクリプト、ActiveX コントロール、Java アプレットを有効にしてください。

デフォルトでは、Internet Explorer 6 や Internet Explorer 5.x は、制限付きサイトには「高」のセキュリティレベルが、また、Windows Server 2003 の場合は、制限付きサイトとインターネットゾーンに「高」のセキュリティレベルがそれぞれ設定されています。アクティブスクリプト、ActiveX コントロール、Java アプレットを有効にする場合は、下記の手順に従って操作してください。

1. Internet Explorer を起動してください。
2. 「ツール」メニューで「インターネットオプション」をクリックしてください。
3. 「インターネットオプション」ダイアログで、「セキュリティ」タブをクリックしてください。
4. デフォルトレベルをクリックしてください。
5. 「OK」ボタンをクリックしてください。

暫定版

2. アクティブスクリプト、ActiveX、Java がそれぞれブロックされていないことを確認してください。
一部のクライアントコンピューターではうまくいくものの、その他のコンピューターではうまくいかない場合は、クライアントコンピューターの Internet Explorer、またはウイルス対策プログラムやファイアーウォールのような別のプログラムが、スクリプトや ActiveX コントロール、または Java アプレットをブロックするように設定されていないことを確認してください。
3. お使いのウイルス対策プログラムが、インターネット一時ファイルや「Downloaded Program Files」フォルダーをスキャンするように設定されていないことを確認してください。
4. インターネット一時ファイルを削除してください。
お使いのクライアントコンピューターからインターネット一時ファイルを削除する場合は、下記の手順に従って操作してください。
 - a) Internet Explorer を起動してください。
 - b) 「ツール」メニューで、「インターネットオプション」をクリックしてください。
 - c) 「全般」タブをクリックしてください。
 - d) 「削除」をクリックしてください。
 - e) 「ファイルの削除」をクリックしてください。
 - f) 「OK」をクリックしてください。
 - g) 「Cookie」にチェックをつけ、「削除」をクリックしてください。
 - h) 「OK」をクリックしてください。

注意: 削除メニューは、お使いの IE のバージョンによって異なる場合があります。詳細は IE のヘルプとサポートを参照してください。

5. Microsoft DirectX の最新バージョンがインストールされていることを確認してください。これは Microsoft の Web サイトからダウンロードすることができますので、Microsoft 社の Web サイトをご確認ください。
<http://www.microsoft.com/windows/directx/default.aspx?url=/windows/directx/downloads/default.htm>
6. Java JRE の最新バージョンがインストールされていることを確認してください。これは Java の Web サイト(www.java.com)からダウンロードすることができます。

IP アドレスの設定

管理者として最初にログインした場合には、他のユーザーが TCP/IP ネットワーク経由でログインできるように CL5708I/CL5716I に IP アドレスを設定する必要があります。設定方法は全部で 3 種類ありますが、どの方法でも設定に使用するコンピューターは製品と同一のネットワークセグメントにセットアップされていなければなりません。製品に接続しログインすると、製品に固定 IP アドレスを設定する必要があります(p.168 参照)。

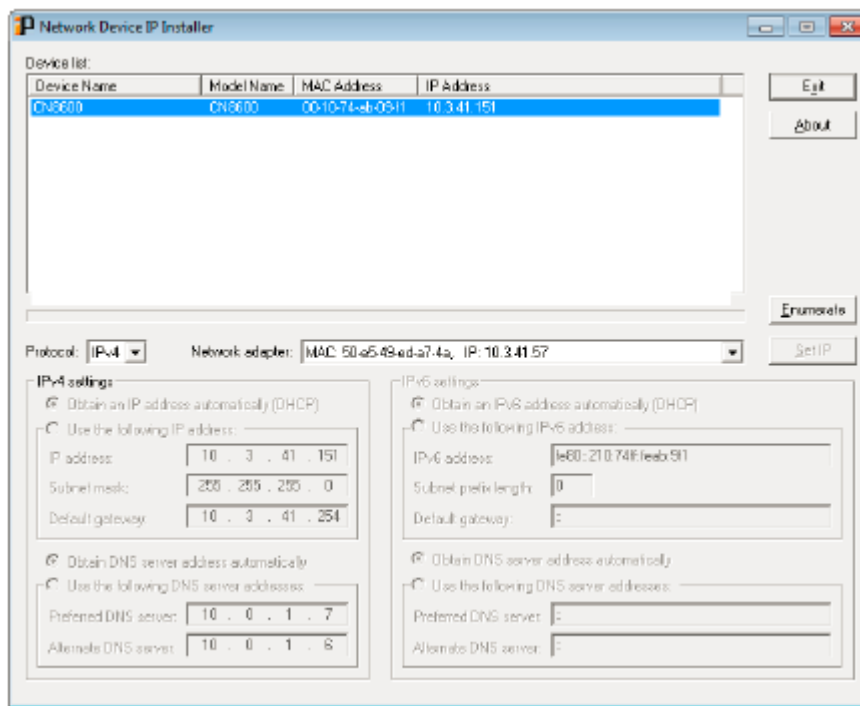
ローカルコンソール

最も簡単な IP アドレスの設定方法はローカルコンソールから設定する方法です。設定方法の詳細については p.61「F4:ADM」における「SET IP ADDRESS (IP アドレスの設定)」をご参照ください。

IP インストーラー

Windows がインストールされたコンピューターをお使いの場合は、IP インストーラーというツールを使用して製品に IP アドレスを設定することができます。IP インストーラーは弊社 Web サイトのダウンロードページからダウンロードすることができます。ダウンロードは、1) 製品ページ内の「サポートとダウンロード」メニューからアクセス、または、2) ホームページのトップページの右上に表示される（表示画面のサイズによっては画面左上に三本線のアイコンが表示されるので、それをクリックすると表示される）「サポートとダウンロード」→「ダウンロード」→「他の製品の資料をダウンロードする」に型番を入力して検索する方法で行えます。IP インストーラーをお使いのコンピューターにダウンロードしたら、以下の手順に従って製品に IP アドレスを設定してください。

1. ダウンロードしたファイル「IPInstaller.zip」をお使いのコンピューター上の適当なフォルダーに解凍してください。
2. 手順 1 で IP インストーラーを解凍したフォルダーに移動し、IP インストーラーの実行ファイル (IPInstaller.exe) を起動してください。以下のようなダイアログが表示されます。



3. 「Device List」(デバイスリスト)から IP アドレスを設定する製品を選択してください。

注意:

1. 一覧に何も表示されない、また、対象となる製品が表示されない場合は、「Enumerate」(一覧表示)をクリックして、「Device List」(デバイスリスト)を更新してください。
2. 一覧に複数のデバイスが表示されている場合は、製品に記載されている MAC アドレスを使って識別してください。製品の MAC アドレスは製品の底面に張られているラベルに記載されています。

4. 「Protocol」(プロトコル)の項目から、使用するプロトコル(IPv4 または IPv6)を選択し、その下にある IP アドレスの各種項目を設定してください。
5. DHCP を使って IP アドレスを自動的に取得する場合は「Obtain an IP address automatically (DHCP)」(IP アドレスを自動取得する (DHCP))を、固定 IP アドレスを設定する場合は「Use the following IP address」(次の IP アドレスを使用する)をそれぞれ選択してください。後者を選択した場合は、製品がセットアップされているネットワークで有効な IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイをそれぞれ該当欄に入力してください。
6. DNS サーバーの IP アドレスを自動的に取得する場合は「Obtain DNS server address automatically」(DNS サーバーのアドレスを自動取得する)を、固定 IP アドレスを設定する場合は「Use the following DNS server address」(次の DNS サーバーのアドレスを使用する)をそれ

暫定版

それぞれ選択してください。後者を選択した場合は、製品がセットアップされているネットワークで有効な優先 DNS サーバーの IP アドレスと代替 DNS サーバーの IP アドレスを、それぞれ該当欄に入力してください。

7. 「**Set IP**」(IP を設定する)ボタンをクリックしてください。
8. IP アドレスが「Device List」(デバイスリスト)に表示されたら、「**Exit**」(終了)ボタンをクリックしてください。IP インストーラーについての詳細は p.169 をご参照ください。

ブラウザ

1. お使いのコンピューターの IP アドレスを「192.168.0.XXX」に設定してください。
「XXX」の部分には、1～255 の範囲の任意の整数値を使用してください。ただし、60 は製品のデフォルトの IP アドレス(192.168.0.60)に使用されていますので、これ以外の値を使用してください。
2. Web ブラウザのアドレスバーに製品のデフォルト IP アドレス(192.168.0.60)を指定し、製品にアクセスしてください。
3. 製品がセットアップされているネットワークで有効な固定 IP アドレスを設定してください。
4. 必要であれば、手順 1 で設定を変更したコンピューターの IP アドレスをログアウト後に元の値に戻しておいてください。

IPv6

現在、本製品では、IPv6 の「リンクローカルアドレス」と「ステートレス自動設定」、「ステートフル自動設定(DHCPv6)」の 3 種類に対応しています。

リンクローカルアドレス

製品に電源を入れると、自動的に IPv6 のリンクローカルアドレスが設定されます(例: fe80::210:74ff:fe61:1ef)。このリンクローカルアドレスの内容を確認する場合は、製品に IPv4 のアドレスでログインし、「Device Management」(デバイス管理)→「Device Information」(デバイス情報)メニューを開いてください。アドレスが「General」(全般)リスト(p.167 参照)に表示されます。

製品の IPv6 アドレスの内容が確定すると、ブラウザや Windows、Java の各クライアントソフトウェアからログインする際にこのアドレスを使うことができます。

例えば、ブラウザからログインする場合には、URL バーにアドレスを次のように入力してください。

`http://[fe80::2001:74ff:fe6e:59%5]`

また、クライアントソフトウェアからログインする場合には、サーバーパネルの「IP」欄(p.83 参照)でアドレスを次のように入力してください。

`fe80::2001:74ff:fe6e:59%5`

-
- | | |
|------------|--|
| 注意: | <ol style="list-style-type: none">IPv6 リンクローカルアドレスを使ってログインする場合には、クライアントコンピューターが製品と同一のローカルネットワークセグメントにセットアップされている必要があります。「%5」の部分は、クライアントコンピューターによって使用される「%インターフェース」です。クライアントコンピューターの IPv6 アドレスを確認する場合は、コマンドラインから下記のコマンドを実行してください。
<pre>ipconfig /all</pre>「%」値は IPv6 アドレスの最後に現れます。 |
|------------|--|
-

ステートレス自動設定

製品がセットアップされているネットワーク環境で、IPv6 ステートレス自動設定機能に対応したデバイス(例:ルーター)を使用している場合、製品はIPv6 アドレスを生成するために、このデバイスからプレフィックス情報を取得することができます。例えば、「2001::74ff:fe6e:59」です。

先に述べたように、アドレスは「Device Management」(デバイス管理)→「Device Information」(デバイス情報)メニューの「General」(全般)リスト(p.167 参照)に表示されます。

製品のIPv6アドレスの内容が確定すると、ブラウザやWindows、Java の各クライアントソフトウェアからログインする際にこのアドレスを使うことができます。

例えば、ブラウザからログインする場合には、URL バーにアドレスを次のように入力してください。

`http://[2001::74ff:fe6e:59]`

また、クライアントソフトウェアからログインする場合には、「Server」(サーバー)パネルの「IP」欄(p.83「Windows クライアント接続画面」参照)にアドレスを次のように入力してください。

`2001::74ff:fe6e:59`

ポートの転送

製品がルーターの内側にセットアップされている場合、指定されたポートとデバイス宛に送信されたデータをルーターが転送できるように、ルーター側でポート転送の設定をする必要があります。ポート転送のパラメーターを設定することによって、特定のポートに送信されたデータをどのデバイスに転送すればよいのかを、ルーターに判別させることができます。

例えば、特定のルーターに接続された製品に「192.168.1.180」という IP アドレスが設定されている場合、ルーターの設定プログラムにログインした後、ポート転送(場合によってはバーチャルサーバー)の設定画面にアクセスし、先ほどの IP アドレス「192.168.1.180」および開放したいポート(例えばインターネットアクセスでは 9000 番を使用)を設定します。

ルーターの設定方法は、製品ごとに異なりますので、ポート転送の詳細についてはお使いのルーターのユーザーマニュアルをご参照ください。

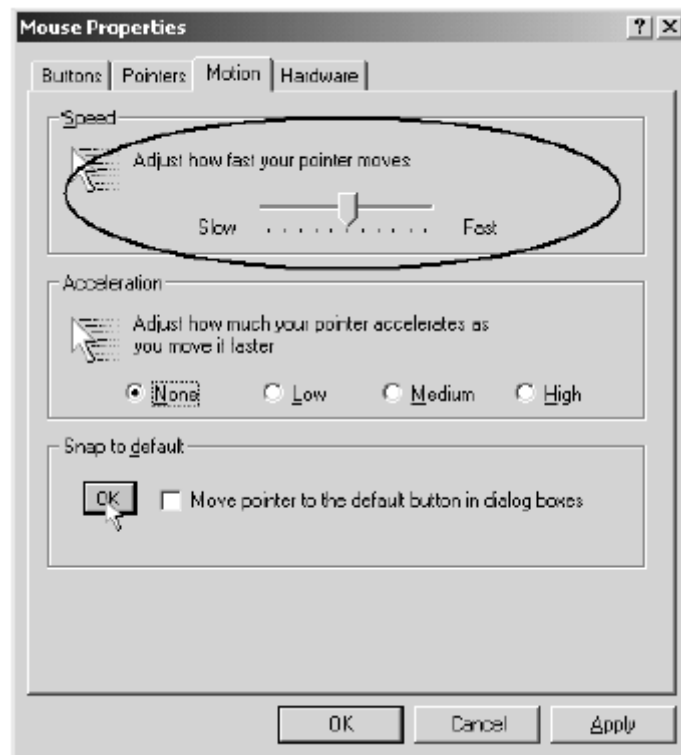
その他のマウス同期方法

手動でマウスを同期させる場合は、製品に接続されているリモートサーバーで以下の操作を実行する必要があります。

-
- | | |
|------------|---|
| 注意: | <ol style="list-style-type: none">1. 以下の操作は、製品のポートに接続されているコンピューター側で実行してください。このコンピューターは、製品へのアクセスに使っているコンピューターとは異なりますので、ご注意ください。2. ローカルおよびリモートのマウスを同期させる場合は、Microsoft の OS に付属されているマウスドライバーを使用する必要があります。したがって、マウスに付属されているドライバーなどのサードパーティーのドライバーを使用している場合は、これを削除しなければなりません。 |
|------------|---|
-

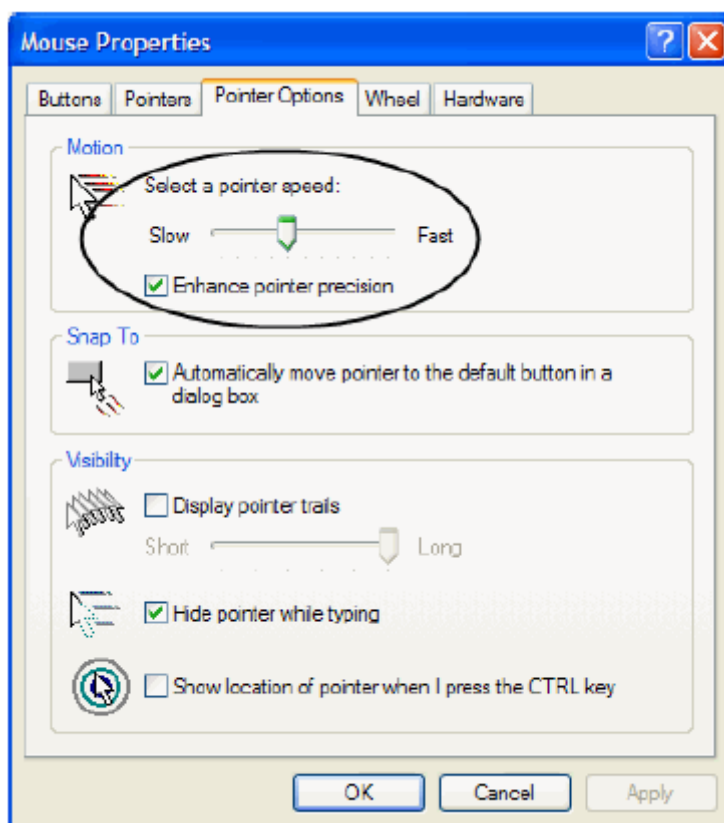
Windows

1. Windows2000 がインストールされているコンピューターをお使いの場合は、以下の手順で設定を行ってください。
 - a) 「マウスのプロパティ」ダイアログを表示してください([コントロールパネル]→[マウス]→[マウスのプロパティ])。
 - b) 「マウスのプロパティ」ダイアログから、「動作」タブを開いてください。
 - c) マウスの速度のスライダーを中間に移動させてください。
 - d) 「ポインターの加速」で、「いいえ」のラジオボタンを選択してください。



暫定版

2. Windows XP または Windows Server 2003 がインストールされているコンピューターをお使いの場合は、以下の手順で設定を行ってください。
 - a) 「マウスのプロパティ」ダイアログを表示してください([コントロールパネル]→[マウス])。
 - b) 「ポインターオプション」タブを開いてください。
 - c) マウスの速度のスライダーを中間に移動させてください。
 - d) 「ポインターの精度を高める」の項目のチェックを外してください。



3. Windows ME がインストールされているコンピューターをお使いの場合は、マウスの速度を中間に設定し、マウスの加速機能を無効にしてください(この設定を行う場合は、ダイアログから「詳細...」ボタンをクリックする必要があります)。
4. Windows NT、Windows 98 または Windows 95 がインストールされているコンピューターをお使いの場合は、マウスの速度を中間に設定してください。

Sun/Linux

ターミナルセッションを開き、以下のコマンドを実行してください。

Sun の場合: `xset m 1`

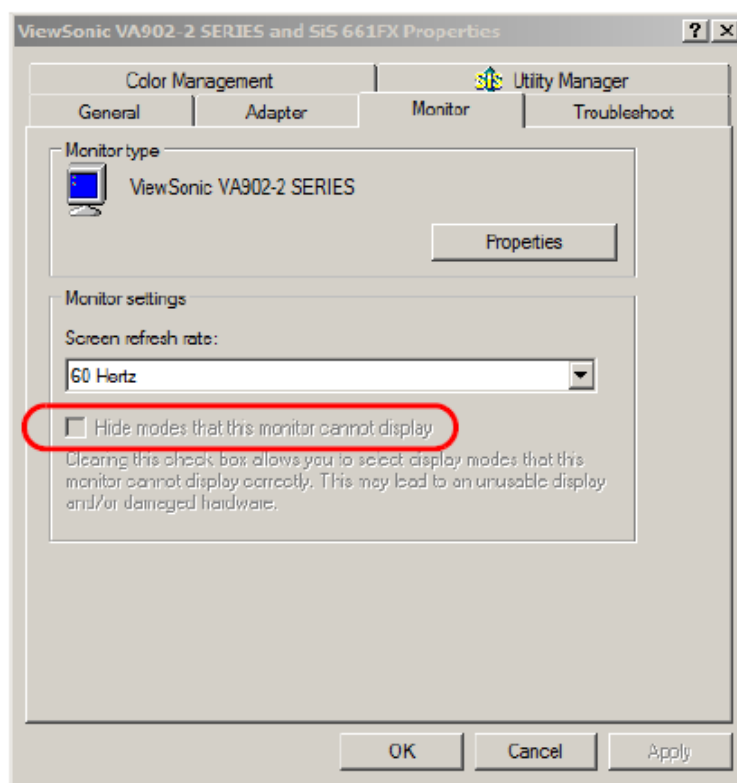
Linux の場合: `xset m 0` または `xset m 1` (どちらかを試してください。)

Linux (Red Hat AS3.0 マウスモードを使用) の場合: `xset m 1`

その他のビデオ解像度の設定

Windows がインストールされたコンピューターをお使いで、なおかつ、特殊なリフレッシュレートに設定してご利用になる場合は、以下の手順で設定を行ってください。

1. [コントロールパネル]→[画面]→[設定]→[詳細設定]→[モニター]を開いてください。
2. 表示されたダイアログで、「このモニターでは表示できないモードを隠す」のチェックボックスにチェックが入っていないことを確認してください。



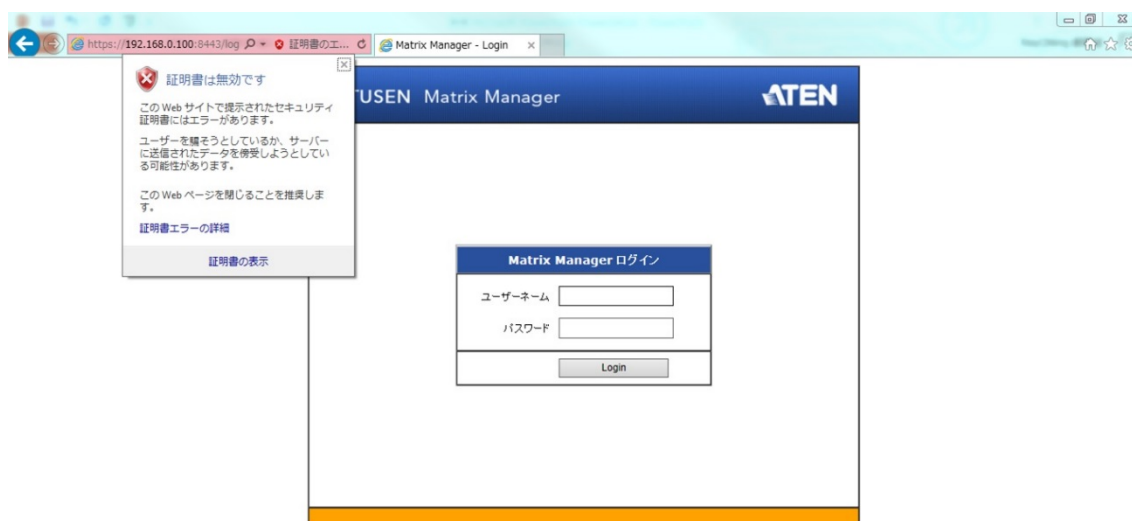
3. 「画面のリフレッシュレート」リストの右端の矢印ボタンをクリックして、お使いの環境で使用するリフレッシュレートをリストから選択してください。

注意: 選択されたリフレッシュレートがお使いのモニターで対応していることをご確認ください。サポート外の解像度を選択すると、お使いのモニターに深刻なダメージを与えることがあります。

信頼された証明書

概要

ブラウザ経由で製品にログインすると、以下のようなセキュリティ警告ダイアログが表示され、デバイスの証明書が信頼できるものではないため、操作を続行するかどうかを問うメッセージが表示されます。



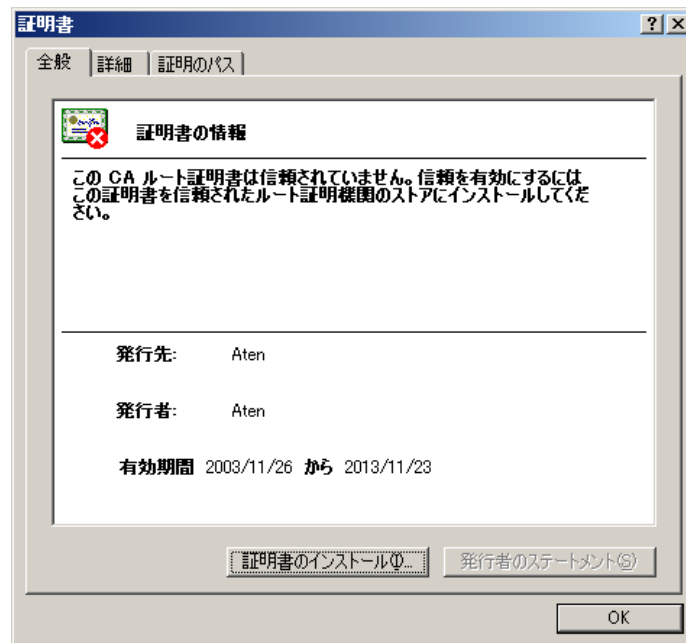
この証明書は信頼できるものですが、証明書の名前が Microsoft の信頼された認証局のリストに存在しないため、このようなダイアログが表示されます。このダイアログには以下のいずれかの方法で対応してください。

- 1) ダイアログの警告を受け入れず、「Yes」ボタンを押して、処理を続行する。
 - 2) 証明書をインストールし、信頼できるものと認識させる。
- ◆ 別のユーザーのコンピューターから操作している場合は「Yes」ボタンを押して、この証明書を現在のセッションでのみ受け入れてください。
 - ◆ ご自身のコンピューターから操作している場合は、証明書をお使いのコンピューターにインストールしてください。証明書がインストールされると、信頼できる証明書として認識されます。方法の詳細については後述しますので、そちらをご参照ください。

証明書のインストール

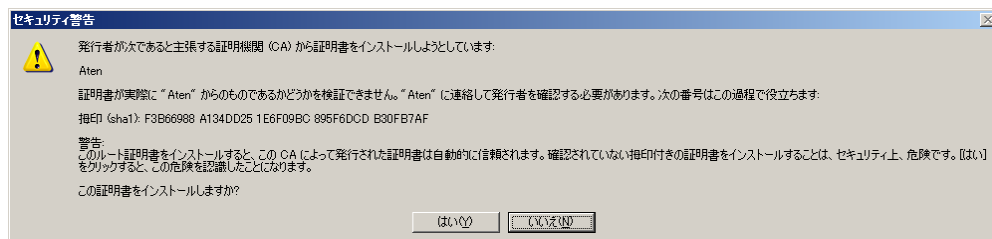
証明書のインストールは以下の手順で作業してください。

1. 「セキュリティの警告」ダイアログボックスで、「証明書の表示」ボタンをクリックします。これをクリックすると以下のような「証明書」ダイアログボックスが表示されます。



注意: 上図内の赤い枠で囲まれている「X」の印は、この証明書は信頼できないと認識されていることを表しています。

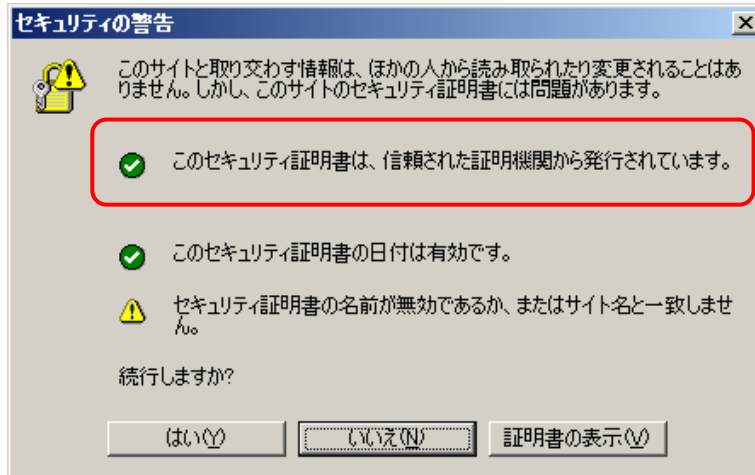
2. 「証明書のインストール」ボタンをクリックします。
3. インストールウィザードの指示にしたがって、インストールを進めていきます。特に不都合がない場合は、デフォルト値でインストールをしてください。
4. 以下のような警告ダイアログが表示されたら、「はい」ボタンを押してください。



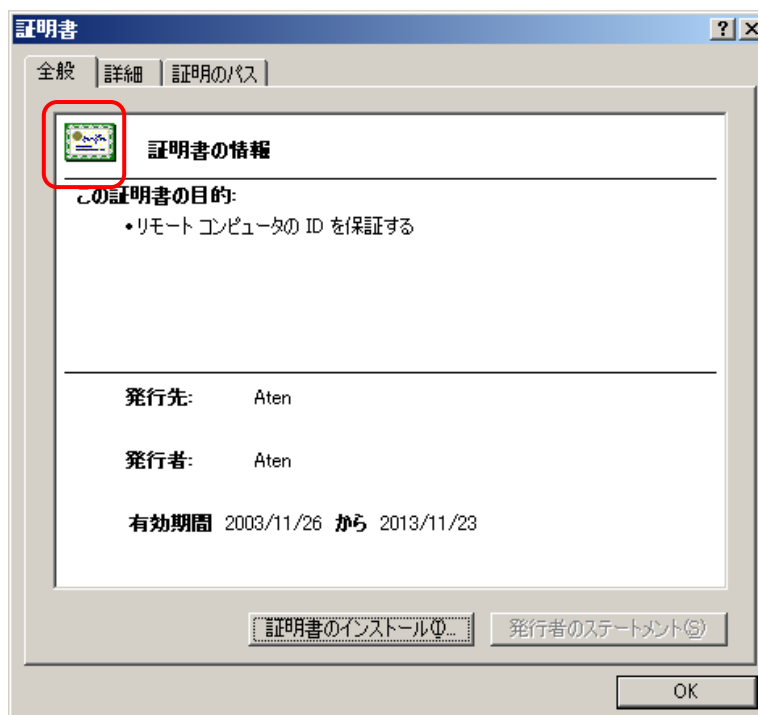
5. ダイアログから「完了」ボタンを押してインストール作業を完了させてください。「OK」ボタンを押すとダイアログが閉じられます。

証明書のインストール完了

この作業により、証明書は信頼できるものに変更されました。

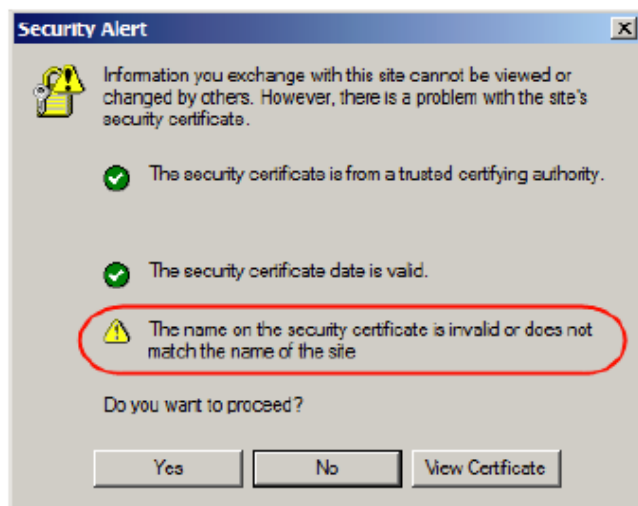


「証明書の表示」ボタンをクリックすると、インストール前に見られた「×」の印が消え、証明書が信頼できるものであるというメッセージが表示されます。



アドレス不整合に関する注意事項

証明書の作成に使用されたサイト名や IP アドレスが、製品に設定されているアドレスに一致しない場合、下図のような警告ダイアログが表示されます。

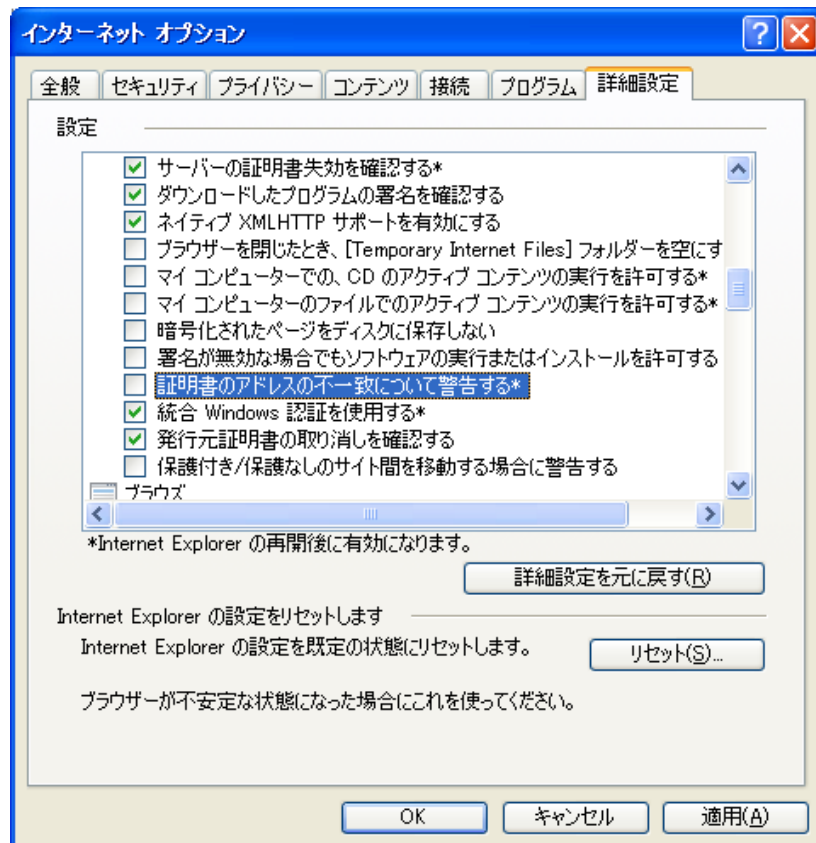


「Yes」ボタンをクリックして継続することもできますし、不整合のチェックを無効にすることもできます。

不整合のチェックを無効にする場合は、下記の手順に従って操作してください。

1. ログイン画面が表示されたら、Web ブラウザのメニューで、[ツール]→[インターネットオプション]→[詳細設定]タブを選択してください。
2. リストの下部にスクロールして、「証明書のアドレスの不一致について警告する」の項目についているチェックを外してください。

暫定版



3. 「OK」ボタンをクリックしてください。ここで変更された設定は、ブラウザの再開後に有効になります。

自己署名(プライベート)証明書

オリジナルの自己署名暗号鍵や証明書を作成したい場合は、フリーツール「openssl.exe」を Web サイト(www.openssl.org)からダウンロードすることができます。オリジナルのプライベートキーや証明書を作成する場合は、下記の手順にしたがって操作してください。

1. ダウンロードした openssl.exe を解凍したディレクトリに移動してください。
2. 以下のパラメーターを指定して openssl.exe を実行してください。

```
openssl req -new -newkey rsa:1024 -days 3653 -nodes -x509  
-keyout CA.key -out CA.cer -config openssl.cnf
```

注意:

1. 上記のコマンドは 1 行で入力してください。パラメーターの入力途中で [Enter] キーを押さないでください。
2. 入力値にスペースが含まれている場合は、その値をダブルクォートで囲んでください。(例: "ATEN International")

以下のパラメーターを使用して、作成時に入力するキーを少なくすることも可能です。

```
/C /ST /L /O /OU /CN /emailAddress.
```

例

```
openssl req -new -newkey rsa:1024 -days 3653 -nodes -x509 -keyout CA.key -out CA.cer  
-config openssl.cnf -subj "/C=yourcountry/ST=yourstateorprovince/L=yourlocationor  
city/O=yourorganization/OU=yourorganizationalunit/CN=yourcommonname/emailAddress=name@  
yourcompany.com"
```

入力例

```
openssl req -new -newkey rsa:1024 -days 3653 -nodes -x509 -keyout CA.key -out CA.cer  
-config openssl.cnf -subj "/C=CA/ST=BC/L=Richmond/O=ATEN  
International/OU=ATEN/CN=ATEN/emailAddress=eservice@aten.com.tw"
```

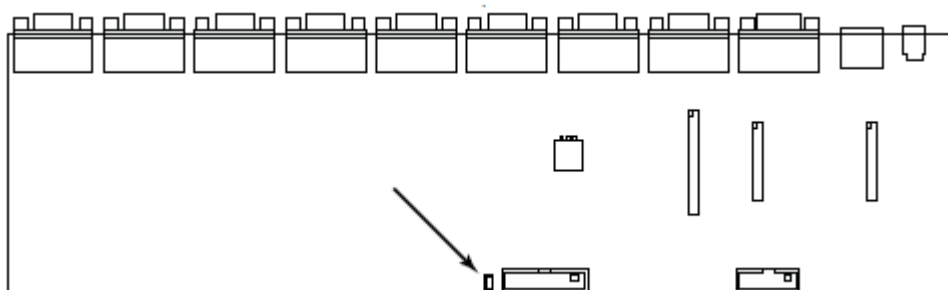
ファイルのインポート

openssl.exe のプログラムが終了すると、このプログラムを実行したディレクトリに「CA.key」(プライベートキー) と「CA.cer」(自己署名済 SSL 証明書)という2つのファイルが作成されます。これらのファイルは、「Security」(セキュリティ)メニュー(p.176 参照)の「Private Certificate」(プライベート認証)メニュー(p.185 参照)でアップロードします。

ログイン情報の消去

ユーザーネームやパスワードを忘れたなどの理由でアドミニストレーターとしてログインできなくなった場合は、以下の方法でログイン情報を消去することができます。

1. CL5708I/CL5716I の電源を切り、製品本体の上部カバーを取り外してください。
2. メインボード上で「Default Password」(デフォルトパスワード)と記載されたジャンパーをショートさせてください。



3. CL5708I/CL5716I に電源を入れてください。製品本体に電源が入ると、以下のようなメッセージが LCD ディスプレイに表示されます。

USERNAME AND PASSWORD INFORMATION HAS BEEN CLEARED.
PLEASE POWER OFF THE SWITCH, REMOVE THE JUMPER, CLOSE
THE CASE, THEN RESTART.

4. バックアップを開始すると、初回起動時と同様に OSD ログイン機能が作動します (p.54「OSD 概要」参照)。そうしたら、アドミニストレーターとユーザーのパスワードをリセットすることができます。

OSD の工場出荷時における初期設定一覧

CL5708I/CL5716I の工場出荷時における初期設定の内容は以下のとおりです。

設定	初期値
OSDホットキー	[Num Lock] + [-]
リモートホットキー	[Scroll Lock] [Scroll Lock]
ポートID表示位置	左上部
ポートID表示時間	3 秒
ポートID表示モード	ポートナンバーおよびポートネーム
スキャン時間	5 秒
スキャン/スキップモード	ALL (アクセスできるすべてのポート)
スクリーンブランカー機能	0 (無効)
ログアウトタイムアウト	0 (無効)
ビープ音	Y (有効)
アクセス可能ポート	F (全ポートに対し、全ユーザーがアクセス可能)

ホットキーモード/OSD 専用起動キー

ホットキーモードと OSD がそれぞれ簡単に起動できるように、以下のような 2 つの専用キーがキーボードパネル側に提供されています。



注意： これらの専用キーはトグルボタンですので、1回目に押すと、各メニューを起動し、2回目に押すとその機能を終了します。

SPHD コネクタについて



本製品は KVM ポート、またはコンソールポートに対して SPHD コネクタを使用しております。コネクタの形状に改良を加えておりますので、専用の KVM ケーブルのみを製品に接続することが可能です。